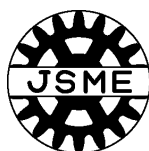


一般社団法人 日本機械学会

2025年度 (第103期) 定時社員総会

開催 2026年4月23日

会場 明治記念館およびオンライン



一般社団法人 日本機械学会

郵便番号：162-0814

東京都新宿区新小川町4番地1号
(KDX 飯田橋スクエア2階)

電話 (03) 4335-7610 (代表)

FAX (03) 4335-7618

URL <https://www.jsme.or.jp/>

8月7日は「機械の日」 8月1～7日は「機械週間」

20260423300

一般社団法人 日本機械学会

2025 年度（第 103 期）定時社員総会

議案 1. 2025 年度（第 103 期）事業報告の件	1
2. 2025 年度（第 103 期）会計報告の件	87
3. 外部監査人選任の件	103
4. 名誉員推薦の件	107
5. 2026 年度（第 104 期）事業計画の件	111
6. 2026 年度（第 104 期）事業予算の件	115
7. 2026 年度（第 104 期）理事、監事選出の件	119
表彰 1. 名誉員章の贈呈	
2. 日本機械学会賞，日本機械学会奨励賞，日本機械学会教育賞， 日本機械学会標準事業表彰の贈呈	125
報告 フェロー認定者一覧	153

2025年度（第103期）事業報告書

目 次

議案1. 2025年度（第103期）事業報告の件

1. 法人全般に係る事項

1・1	役員に関する事項	1
1・1・1	役員就任者	1
1・1・2	代表会員・監事・継続理事の選挙結果	6
1・2	職員に関する事項	6
1・3	役員会等に関する事項	8
1・3・1	理事会	8
1・3・2	代表会員会	8
1・3・3	定時社員総会	8
1・4	許可・認可・承認に関する事項	8
1・5	契約に関する事項	8
1・6	補助金・助成金等に関する事項	9
1・7	内閣府指示に関する事項	9
1・8	理事会処理事項	9
1・9	会員に関する事項	13
1・10	法人運営に関する事項	15
1・10・1	経営企画委員会	15
1・10・2	会員部会（学生会委員会、Ladies Association of JSME、 JSME Int. Union）	15
1・10・3	表彰部会	15
1・10・4	広報・情報部会	16
1・10・5	部門評価委員会	16
1・10・6	分野連携委員会	16
1・10・7	年次大会企画委員会	16
1・10・8	技術倫理委員会	16
1・10・9	フェロー選考委員会	16
1・10・10	若手の会	16
1・10・11	防災・減災委員会	16
1・10・12	事業アドバイザー委員会	16
1・10・13	人材育成・活躍支援委員会	17
1・10・14	技術ロードマップ委員会	17
1・10・15	ISO・JIS・学会基準委員会	17
1・10・16	DEI 推進委員会	19
1・10・17	臨時委員会（メカジョ未来フォーラム 2025 実行委員会、選挙制度検討委員会、 創立 130 周年記念事業委員会）	19
1・10・18	各種会議開催	20

2. 公益目的支出計画に係る事項

2・1	機械の日・機械週間（機械の日実行委員会）、機械遺産（機械遺産監修委員会、 機械遺産委員会）	21
2・2	2025年度 年次大会	21

2・3	機械工学振興事業資金「メカライフ振興事業」助成事業	21
2・4	国際連携委員会	23
2・5	定期刊行物〔日本機械学会学術誌／Bulletin of the JSME（電子版）〕	23
2・6	表彰事業	25
3. 本部特別事業に係る事項		
3・1	2024年度（第102期）定時社員総会・付随行事	26
4. 本部事業に係る事項		
4・1	JABEE 事業委員会	27
4・2	機械状態監視資格認証事業委員会	27
4・3	計算力学技術者資格認定事業委員会	28
4・4	産学連携事業委員会	29
4・5	発電用設備規格委員会	31
5. 会誌事業に係る事項		
5・1	定期刊行物（日本機械学会誌）	33
5・2	広報・情報部会（会誌関連）	33
6. 出版事業に係る事項		
6・1	学術誌編修部会	34
6・2	出版センター	34
6・2・1	出版事業	34
6・2・2	その他の出版物（委託販売など）	34
6・2・2	その他の出版物（委託出版など）	34
7. 部門事業に係る事項		
7・1	部門協議会（部門・研究会・分科会・専門会議・新分野推進会議）	36
7・1・1	部門事業報告	36
7・2	集会事業	47
7・2・1	研究発表講演会（本会主催国際会議を含む）	47
7・2・2	講習会	48
7・2・3	特別講演会・見学会・他	52
7・3	他団体との共催行事	55
8. 支部事業に係る事項		
8・1	支部総会および支部事業報告	57
8・1・1	支部協議会	57
8・1・2	支部総会	57
8・1・3	北海道支部	58
8・1・4	東北支部	60
8・1・5	北陸信越支部	64
8・1・6	関東支部	66
8・1・7	東海支部	72
8・1・8	関西支部	74
8・1・9	中国四国支部	78
8・1・10	九州支部	81

議案 2. 2025 年度（第 103 期）会計報告の件

1. 2025 年度（第 103 期）財務諸表	
1・1 貸借対照表	89
1・2 正味財産増減計算書	91
1・3 正味財産増減計算書内訳表	94
1・4 財務諸表に対する注記	96
2. 公益目的支出計画実施報告書	100
3. 監事による監査報告書	
3・1 監査報告書	101
3・2 附属明細書	102

議案 3. 外部監査人選任の件	103
-----------------	-----

議案 4. 名誉員推薦の件	107
---------------	-----

議案 5. 2026 年度（第 104 期）事業計画の件	111
------------------------------	-----

議案 6. 2026 年度（第 104 期）事業予算の件	115
------------------------------	-----

議案 7. 2026 年度（第 104 期）理事、監事選出の件	119
---------------------------------	-----

表彰	125
----	-----

日本機械学会賞
日本機械学会奨励賞
日本機械学会教育賞
日本機械学会標準事業表彰

フェロー	153
------	-----

日本機械学会フェロー認定者一覧

機械遺産	154
------	-----

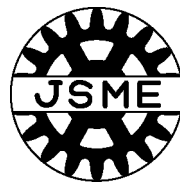
日本機械学会機械遺産一覧

1号議案

2025年度（第103期） 事業報告書

自 2025年3月 1日

至 2026年2月28日



一般社団法人 日本機械学会

1. 法人全般に係る事項

1・1 役員に関する事項

1・1・1 役員就任者

役名	氏名	就任年月日	理事別	手当	常勤・非常勤	現職	備考
代表理事	岩城 智香子	2024. 4. 18	会長	なし	非常勤	(株)東芝 首席技監	一般団法人移行登記に伴う代表理事設置による
〃	高木 周	〃	筆頭副会長	〃	〃	東京大学 教授	
理事	井上 裕嗣	〃	副会長	〃	〃	東京科学大学 教授	
〃	品川 一成	〃	〃	〃	〃	九州大学 教授	
〃	松本 章吾	〃	〃	〃	〃	(株)リコー ExecutiveExpert	
〃	大岩 孝彰	〃	庶務理事	〃	〃	静岡大学 名誉教授	
〃	田中 真美	2025. 4. 24	〃	〃	〃	東北大学 教授	
〃	廣畑 賢治	2024. 4. 18	〃	〃	〃	(株)東芝 技監	
〃	本家 浩一	2025. 4. 24	〃	〃	〃	(株)神戸製鋼所 研究首席	
〃	尾形 秀樹	2024. 4. 18	財務理事	〃	〃	(株)I H I 部長	
〃	河本 基一郎	〃	〃	〃	〃	コマツ産機(株) 本部長	
〃	藤村 皓太郎	2025. 4. 24	〃	〃	〃	三菱重工業(株) 主幹研究員	
〃	大橋 俊朗	2024. 4. 18	編修理事	〃	〃	北海道大学 教授	
〃	松原 厚	2025. 4. 24	〃	〃	〃	京都大学 教授	
〃	吉村 卓也	〃	〃	〃	〃	東京都立大学 教授	
〃	須藤 雅子	2024. 4. 18	企画理事	〃	〃	ファナック(株) 技監	
〃	高野 直樹	2025. 4. 24	〃	〃	〃	慶應義塾大学 教授	
〃	寺地 淳	2024. 4. 18	〃	〃	〃	日産自動車(株) 所長	
〃	中西 義孝	2025. 4. 24	〃	〃	〃	熊本大学 教授	
〃	小野 英一	〃	広報情報理事	〃	〃	(株)豊田中央研究所 理事	
〃	金子 暁子	〃	〃	〃	〃	筑波大学 教授	
〃	新藤 貴志	2024. 4. 18	〃	〃	〃	三浦工業(株) 部長	
〃	谷川 民生	〃	〃	〃	〃	(国研)産業技術総合研究所 研究センター長	
〃	風尾 幸彦	〃	常勤理事	あり	常勤	日本機械学会 常勤理事	
監事	大曾根 靖夫	2025. 4. 24	監事	なし	非常勤	(株)日立パワーソリューションズ 常務執行役員 CTO	
〃	松本 敏郎	2024. 4. 18	〃	〃	〃	東海職業能力開発大学校 校長	
代表役員	相澤 哲哉	2025. 4. 24	重要事項評議	〃	〃	明治大学 教授	
〃	相田 清	〃	〃	〃	〃	Primetals Technologies Japan(株) 首席技師	
〃	赤松 重則	〃	〃	〃	〃	高知工業高等専門学校 教授	
〃	曙 紘之	〃	〃	〃	〃	広島大学 教授	
〃	浅川 貴史	〃	〃	〃	〃	大島商船高等専門学校 教授	
〃	浅野 浩二	〃	〃	〃	〃	(株)総合車両製作所 取締役 技術本部長	
〃	安達 和彦	〃	〃	〃	〃	中部大学 教授	
〃	安部 元	〃	〃	〃	〃	三浦工業(株) 部長	
〃	安部 元幸	〃	〃	〃	〃	(株)日立インダストリアルプロダクツ 主幹技師	
〃	荒島 裕信	〃	〃	〃	〃	日本製鋼所M&E(株) グループマネージャー	
〃	安藤 克	〃	〃	〃	〃	ダイハツ工業(株) 主担当員	
〃	猪狩 精司	〃	〃	〃	〃	(株)東芝 シニアフェロー (技監)	
〃	池田 徹	〃	〃	〃	〃	鹿児島大学 教授	
〃	石井 英二	〃	〃	〃	〃	(株)日立製作所 主管研究員	
〃	泉 聡志	〃	〃	〃	〃	東京大学 教授	
〃	井田 民男	〃	〃	〃	〃	近畿大学 所長/教授	
〃	井田 徳昭	〃	〃	〃	〃	三菱重工業(株) 主席研究員	
〃	一条 恒	〃	〃	〃	〃	(株)豊田自動織機 経営役員	
〃	一柳 満久	〃	〃	〃	〃	上智大学 教授	
〃	糸魚川 文広	〃	〃	〃	〃	名古屋工業大学 教授	
〃	稲垣 伸吉	〃	〃	〃	〃	南山大学 教授	
〃	井上 裕嗣	〃	〃	〃	〃	東京科学大学 教授	
〃	猪亦 麻子	〃	〃	〃	〃	東芝エネルギーシステムズ(株)	
〃	今井 陽介	〃	〃	〃	〃	神戸大学 教授	
〃	岩城 智香子	〃	〃	〃	〃	(株)東芝 首席技監	
〃	岩佐 貴史	〃	〃	〃	〃	大阪公立大学 教授	
〃	岩崎 富生	〃	〃	〃	〃	(株)日立製作所 主管研究員	
〃	植木 洋輔	〃	〃	〃	〃	(株)日立製作所 部長	
〃	植松 美彦	〃	〃	〃	〃	岐阜大学 教授	
〃	浮田 芳昭	〃	〃	〃	〃	兵庫県立大学 教授	
〃	牛島 彰	〃	〃	〃	〃	(株)東芝 領域統括部長	
〃	白井 弘明	〃	〃	〃	〃	シナノケンシ(株) 執行役員 本部長	
〃	宇都宮 健児	〃	〃	〃	〃	三菱電機(株) 部長	

役名	氏名	就任年月日	理事別	手当	常勤・非常勤	現職	備考
代表会員	梅原 徳次	2025. 4. 24	重要事項評議	なし	非常勤	名古屋大学 教授	
"	大岩 孝彰	"	"	"	"	静岡大学 名誉教授	
"	大川 富雄	"	"	"	"	電気通信大学	
"	大川内 栄治	"	"	"	"	トヨタ自動車(株) 主幹	
"	大木 順司	"	"	"	"	山口大学 教授	
"	大島 成通	"	"	"	"	名城大学 教授	
"	大島 浩	"	"	"	"	日本車輛製造(株) 本部長	
"	太田 光浩	"	"	"	"	徳島大学 教授	
"	大津 雅亮	"	"	"	"	福井大学 教授	
"	大西 正	"	"	"	"	ダイキン工業(株) 専任部長	
"	大橋 俊朗	"	"	"	"	北海道大学 教授	
"	岡崎 泰英	"	"	"	"	カナデビア(株) グループ長	
"	岡田 晃	"	"	"	"	岡山大学 副学長	
"	岡田 学	"	"	"	"	長野工業高等専門学校 教授	
"	尾形 秀樹	"	"	"	"	(株) I H I 部長	
"	荻原 慎二	"	"	"	"	東京理科大学 教授	
"	奥村 大	"	"	"	"	名古屋大学 教授	
"	押川 渡	"	"	"	"	琉球大学 教授	
"	小野 英一	"	"	"	"	(株) 豊田中央研究所 理事	
"	小尾 晋之介	"	"	"	"	慶應義塾大学 教授	
"	角田 陽	"	"	"	"	東京工業高等専門学校 教授	
"	檜山 武士	"	"	"	"	スズキ(株) 主幹	
"	梶原 逸朗	"	"	"	"	北海道大学 教授	
"	加藤 義隆	"	"	"	"	大分大学 助教	
"	金森 義明	"	"	"	"	東北大学 教授	
"	金子 暁子	"	"	"	"	筑波大学 教授	
"	金子 貢	"	"	"	"	ヤンマーホールディングス(株)	
"	川口 大輔	"	"	"	"	(株) 日立製作所	
"	河南 治	"	"	"	"	兵庫県立大学 教授	
"	川野 聡恭	"	"	"	"	大阪大学 教授	
"	川原村 敏幸	"	"	"	"	高知工科大学 教授	
"	河村 庄造	"	"	"	"	豊橋技術科学大学 教授	
"	河村 隆介	"	"	"	"	宮崎大学 教授	
"	河本 基一郎	"	"	"	"	コマツ産機(株) 本部長	
"	神藤 建太	"	"	"	"	DMG森精機(株) 統括部長	
"	神原 信志	"	"	"	"	岐阜大学 教授	
"	菊植 亮	"	"	"	"	広島大学 教授	
"	北川 石英	"	"	"	"	京都工芸繊維大学	
"	北村 賢一	"	"	"	"	東日本旅客鉄道(株) 主幹研究員 (マネージャー)	
"	北村 耕作	"	"	"	"	キタムラ機械(株) 専務取締役	
"	北山 哲士	"	"	"	"	金沢大学 教授	
"	木村 康樹	"	"	"	"	三菱電機ビルソリューションズ(株) 主席技師長	
"	邱 建輝	"	"	"	"	秋田県立大学 教授	
"	釘宮 哲也	"	"	"	"	(株) 東芝 戦略企画担当	
"	工藤 奨	"	"	"	"	九州大学 教授	
"	久保 賢明	"	"	"	"	エイム(株) ダイレクター	
"	公文 誠	"	"	"	"	熊本大学 教授	
"	倉爪 亮	"	"	"	"	九州大学 教授	
"	黒河 周平	"	"	"	"	九州大学 教授	
"	桑田 巖	"	"	"	"	(株) I H I グループ長	
"	幸田 栄一	"	"	"	"	(一財) 電力中央研究所	
"	小金沢 新治	"	"	"	"	関西大学 教授	
"	小竹 茂夫	"	"	"	"	三重大学 教授	
"	小林 訓史	"	"	"	"	東京都立大学 教授	
"	小林 祐子	"	"	"	"	(株) 東芝	
"	小村 昭義	"	"	"	"	(株) 日立パワーソリューションズ 主管技師長	
"	榊 和彦	"	"	"	"	信州大学 教授	
"	坂田 誠一郎	"	"	"	"	近畿大学 教授	
"	坂元 康朗	"	"	"	"	三菱重工業(株) 部長	
"	笹川 圭右	"	"	"	"	新潟工科大学 教授	
"	佐々木 朋裕	"	"	"	"	新潟大学 准教授	
"	佐々木 直栄	"	"	"	"	日本大学 教授	
"	笹田 直伸	"	"	"	"	北海道電力(株) 部長	
"	佐藤 紘一	"	"	"	"	鹿児島大学 教授	
"	佐藤 智明	"	"	"	"	神奈川工科大学 教授	

役名	氏名	就任年月日	理事別	手当	常勤・非常勤	現職	備考
代表会員	佐藤 寿恭	2025. 4. 24	重要事項評議	なし	非常勤	川崎重工(株)	
〃	猿渡 俊也	〃	〃	〃	〃	九州電力(株) 国際協力担当部長	
〃	塩崎 弘隆	〃	〃	〃	〃	三菱自動車工業(株) 本部長補佐	
〃	鹿園 直毅	〃	〃	〃	〃	東京大学 教授	
〃	茂田 正哉	〃	〃	〃	〃	東北大学 教授	
〃	品川 一成	〃	〃	〃	〃	九州大学 教授	
〃	品川 幹	〃	〃	〃	〃	(株) I H I 部長	
〃	渋川 直紀	〃	〃	〃	〃	東芝エネルギーシステムズ(株) 技術顧問	
〃	島田 貴弘	〃	〃	〃	〃	(株) I H I 部長	
〃	清水 尚憲	〃	〃	〃	〃	(独) 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所 特任研究員	
〃	志茂 大輔	〃	〃	〃	〃	マツダ(株)	
〃	下川 智嗣	〃	〃	〃	〃	金沢大学 教授	
〃	下平 貴之	〃	〃	〃	〃	日立建機(株) 部員	
〃	白井 直樹	〃	〃	〃	〃	北海道ガス(株) マネージャー	
〃	新谷 篤彦	〃	〃	〃	〃	大阪公立大学 教授	
〃	新藤 貴志	〃	〃	〃	〃	三浦工業(株) 部長	
〃	菅野 公二	〃	〃	〃	〃	神戸大学 教授	
〃	鈴木 隆之	〃	〃	〃	〃	(株) 日立ハイテク	
〃	須藤 雅子	〃	〃	〃	〃	ファンック(株) 技監	
〃	清藤 宏樹	〃	〃	〃	〃	東北電力(株) 副調査役	
〃	瀬尾 和哉	〃	〃	〃	〃	工学院大学 教授	
〃	關 正憲	〃	〃	〃	〃	岡山理科大学 教授	
〃	高木 賢太郎	〃	〃	〃	〃	豊橋技術科学大学 教授	
〃	高木 周	〃	〃	〃	〃	東京大学 教授	
〃	高島 昭彦	〃	〃	〃	〃	北海道科学大学	
〃	高島 良胤	〃	〃	〃	〃	大阪ガス(株) 主任研究員	
〃	高梨 正祐	〃	〃	〃	〃	(株) I H I 主任研究員	
〃	高野 直樹	〃	〃	〃	〃	慶應義塾大学 教授	
〃	高橋 厚史	〃	〃	〃	〃	九州大学 教授	
〃	高橋 芳弘	〃	〃	〃	〃	千葉工業大学 教授	
〃	高谷 裕浩	〃	〃	〃	〃	大阪大学 教授	
〃	竹内 謙善	〃	〃	〃	〃	香川大学 講師	
〃	只野 裕一	〃	〃	〃	〃	佐賀大学 教授	
〃	田中 和人	〃	〃	〃	〃	同志社大学 教授	
〃	田中 茂雄	〃	〃	〃	〃	金沢大学 教授	
〃	田中 達也	〃	〃	〃	〃	同志社大学 教授	
〃	田中 宏明	〃	〃	〃	〃	防衛大学校 教授	
〃	田中 真美	〃	〃	〃	〃	東北大学 教授	
〃	田中 稔	〃	〃	〃	〃	(株) デンソー 担当部長	
〃	田中 豊	〃	〃	〃	〃	法政大学 教授	
〃	谷川 民生	〃	〃	〃	〃	(国研) 産業技術総合研究所 研究センター長	
〃	党 超鋌	〃	〃	〃	〃	福井大学	
〃	趙 昌熙	〃	〃	〃	〃	北九州市立大学 教授	
〃	津江 光洋	〃	〃	〃	〃	東京大学 教授	
〃	辻 英樹	〃	〃	〃	〃	(株) 小松製作所 室長	
〃	角田 博之	〃	〃	〃	〃	山梨大学 准教授	
〃	津乗 充良	〃	〃	〃	〃	(株) I H I 部長	
〃	坪倉 誠	〃	〃	〃	〃	神戸大学 教授	
〃	妻屋 彰	〃	〃	〃	〃	岡山県立大学 教授	
〃	鶴見 康昭	〃	〃	〃	〃	(株) 豊田中央研究所	
〃	寺地 淳	〃	〃	〃	〃	日産自動車(株) 所長	
〃	土居 隆宏	〃	〃	〃	〃	金沢工業大学 教授	
〃	富澤 泰	〃	〃	〃	〃	(株) 東芝 フェロー (研究主幹)	
〃	富松 重行	〃	〃	〃	〃	(株) 電業社機械製作所 所長	
〃	鳥飼 宏之	〃	〃	〃	〃	弘前大学 教授	
〃	永井 大樹	〃	〃	〃	〃	東北大学 教授	
〃	中垣 亮	〃	〃	〃	〃	(株) 日立ハイテク 本部長	
〃	中神 匡人	〃	〃	〃	〃	東日本旅客鉄道(株) マネージャー	
〃	中川 泰忠	〃	〃	〃	〃	(株) 東芝 エキスパート	
〃	中谷 安信	〃	〃	〃	〃	(株) クボタ ユニット長	
〃	中谷 祐二郎	〃	〃	〃	〃	(株) 東芝 センター長	
〃	中西 義孝	〃	〃	〃	〃	熊本大学 教授	
〃	中原 淳	〃	〃	〃	〃	本田技研工業(株) エキスパートエンジニア	
〃	中村 元	〃	〃	〃	〃	防衛大学校 教授	
〃	中村 陽一	〃	〃	〃	〃	(株) 荏原製作所	

役名	氏名	就任年月日	理事別	手当	常勤・非常勤	現職	備考
代表会員	名田 讓	2025. 4. 24	重要事項評議	なし	非常勤	徳島大学 教授	
"	成瀬 友博	"	"	"	"	㈱日立インダストリアルプロダクツ 主管技師	
"	西岡 琢治	"	"	"	"	東レ㈱ 主幹	
"	西田 正浩	"	"	"	"	(国研)産業技術総合研究所 総括研究主幹	
"	西原 淳夫	"	"	"	"	㈱日立製作所 主管研究員	
"	西村 浩一	"	"	"	"	大阪ガス㈱ エクゼクティブフェロー	
"	西村 征吾	"	"	"	"	㈱プロテリアル 技師	
"	野口 昭治	"	"	"	"	東京理科大学 教授	
"	則竹 茂年	"	"	"	"	鴻池運輸㈱ 部長 兼 センター長	
"	萩原 世也	"	"	"	"	佐賀大学 教授	
"	長谷川 雅信	"	"	"	"	㈱IHI 主任研究員	
"	長谷川 泰久	"	"	"	"	名古屋大学 教授	
"	秦 誠一	"	"	"	"	名古屋大学 教授	
"	服部 康男	"	"	"	"	(一財)電力中央研究所 研究参事・部門長	
"	濱島 京子	"	"	"	"	(独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所	
"	早川 邦夫	"	"	"	"	静岡大学 教授	
"	早坂 靖	"	"	"	"	㈱日立インダストリアルプロダクツ 主管技師	
"	早水 庸隆	"	"	"	"	米子工業高等専門学校 教授	
"	原田 孝	"	"	"	"	近畿大学 教授	
"	樋口 良太	"	"	"	"	日本製鉄㈱ 主幹研究員	
"	久森 紀之	"	"	"	"	上智大学 教授	
"	樋野 励	"	"	"	"	名古屋大学 教授	
"	日比野 良一	"	"	"	"	愛知工業大学 教授	
"	廣畑 賢治	"	"	"	"	㈱東芝 技監 (シニアフェロー)	
"	琵琶 哲志	"	"	"	"	東北大学 教授	
"	福島 千晴	"	"	"	"	広島工業大学 教授	
"	藤井 智晴	"	"	"	"	(一財)電力中央研究所 研究参事	
"	藤村 皓太郎	"	"	"	"	三菱重工業㈱ 主幹研究員	
"	藤森 俊郎	"	"	"	"	㈱IHI 技監	
"	星 暁生	"	"	"	"	日立建機㈱ 主任技師	
"	星野 洋平	"	"	"	"	北見工業大学 副学長・教授	
"	細井 厚志	"	"	"	"	早稲田大学 教授	
"	細川 茂雄	"	"	"	"	関西大学 教授	
"	堀井 克則	"	"	"	"	パナソニック㈱ 総括主幹技師	
"	堀内 章司	"	"	"	"	㈱神戸製鋼所 主任研究員	
"	本家 浩一	"	"	"	"	㈱神戸製鋼所 研究首席	
"	前田 大輔	"	"	"	"	㈱ジェイテクト プロジェクトマネージャー	
"	前田 剛典	"	"	"	"	三菱重工㈱	
"	榎原 幹十郎	"	"	"	"	東北大学 教授	
"	幕田 寿典	"	"	"	"	山形大学 教授	
"	町垣 孝重	"	"	"	"	日本製鉄㈱ 室長	
"	松田 健次	"	"	"	"	九州工業大学 教授	
"	松永 泰明	"	"	"	"	㈱デンソー 統括部長	
"	松原 厚	"	"	"	"	京都大学 教授	
"	松村 雄一	"	"	"	"	岐阜大学 教授	
"	松本 章吾	"	"	"	"	㈱リコー Executive Technical Expert	
"	松本 宏行	"	"	"	"	ものづくり大学 教授	
"	丸山 真一	"	"	"	"	群馬大学 教授	
"	三木 則尚	"	"	"	"	慶應義塾大学 教授	
"	光岡 大輔	"	"	"	"	㈱島津製作所 主任技師 (課長)	
"	皆川 佳祐	"	"	"	"	埼玉工業大学 教授	
"	南 和幸	"	"	"	"	山口大学 教授	
"	宮川 浩	"	"	"	"	㈱豊田中央研究所	
"	向笠 忍	"	"	"	"	愛媛大学 教授	
"	本村 文孝	"	"	"	"	長崎大学 助教	
"	森 圭史	"	"	"	"	㈱トクヤマ 主幹	
"	森下 達哉	"	"	"	"	東海大学 教授	
"	森田 聡	"	"	"	"	関西電力㈱ マネージャー	
"	森山 茂章	"	"	"	"	福岡大学 教授	
"	保田 俊行	"	"	"	"	富山大学 教授	
"	柳原 好孝	"	"	"	"	東急建設㈱ 専任部長	
"	矢野 貴浩	"	"	"	"	日本製鉄㈱	
"	山口 和幸	"	"	"	"	㈱日立インダストリアルプロダクツ 主管技師	
"	山口 昌保	"	"	"	"	㈱小松製作所	
"	山口 雄平	"	"	"	"	トヨタ自動車㈱	

役名	氏名	就任年月日	理事別	手当	常勤・非常勤	現職	備考
代表会員	山崎 友裕	2025. 4. 24	重要事項評議	なし	非常勤	大阪公立大学 教授	
"	山下 進	"	"	"	"	小山工業高等専門学校 教授	
"	山根 大輔	"	"	"	"	立命館大学 教授	
"	山根 正明	"	"	"	"	新潟トランスシス(株) グループ長	
"	山本 健次郎	"	"	"	"	(株)日立製作所 主任研究員	
"	山本 隆栄	"	"	"	"	大分大学 准教授	
"	湯浅 友典	"	"	"	"	室蘭工業大学 教授	
"	楊 家家	"	"	"	"	岡山大学 教授	
"	吉原 信人	"	"	"	"	岩手大学 教授	
"	吉村 卓也	"	"	"	"	東京都立大学 教授	
"	若井 隆純	"	"	"	"	(国研)日本原子力研究開発機構 研究主席	
"	鷺尾 利克	"	"	"	"	(国研)産業技術総合研究所 研究員	
"	渡邊 明	"	"	"	"	三菱重工業(株) 主席技師	
"	渡邊 健治	"	"	"	"	いすゞ自動車(株) VP	
"	渡部 正夫	"	"	"	"	北海道大学 教授	
"	渡邊 勝信	"	"	"	"	東芝エネルギーシステムズ(株) シニアマネジャー	

[理事24名(内代表理事2名),監事2名,代表会員244名]

1・1・2 代表会員・監事・継続理事の選挙結果

2026年度（第104期）代表会員・監事の選挙は2025年11月13日（木）で投票を締め切り、11月14日（金）に開票を行ない、集計を行った。投票数その他の結果は下記(a)～(c)のとおりである。

(a) 有効票数

地区別	期別	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
0区A(学界・官界等)		19,250	18,223	17,897	34,824	37,486
0区B(産業界等)		38,322	37,517	36,515	77,262	83,392
1区(東北)		2,266	2,123	2,221	2,655	2,650
2区(北海道)		714	588	644	788	846
3区(東海)		12,535	11,352	11,110	13,494	14,570
4区(関西)		18,352	17,453	17,670	24,886	25,809
5区(中国)		2,220	2,148	2,112	2,709	2,765
6区(四国)		808	840	744	814	808
7区(北陸信越)		2,856	2,508	2,640	3,046	3,113
8区(九州)		4,365	4,845	4,455	5,377	5,740
部門		66,258	62,383	60,727	237,827	249,507
監事		7,820	4,954	7,482	8,484	8,642
継続理事		34,153	52,730	32,153	49,056	46,828
計		209,919	217,664	196,370	461,222	482,156

(2016年度（第94期）選挙より電子投票を開始)

(2025年度（第103期）代表会員選挙より信任投票制度を導入)

(b), (c) は次ページに掲載

1・2 事務局に関する事項

職員 27名、嘱託職員2名、出向職員3名

管理職名簿

職名	氏名
事務局長 兼 総合企画グループ課長	熊谷 理香
事務局次長 兼 財務グループ課長	高橋 綾
事業企画グループ課長	田中 克
出版・販売グループ課長	小倉 辰徳
広報情報グループ課長	大黒 卓
総務グループ課長	大竹 英雄

1・3 役員会等に関する事項

理事会・所管理事会開催一覧

月別	理事会			所管理事会									
	回数	出席者	議案	庶務理事会		財務理事会		編修理事会		企画理事会		広報情報理事会	
				回数	出席者	回数	出席者	回数	出席者	回数	出席者	回数	出席者
2025.3	1	22(2)	5	2	6/6	1	5(2)	1	6	1	4	1	4
4	2	24(2)/24(1)	1/5	1	6	1	4(1)	1	4	1	3	1	5
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	1	6	1	6(2)	1	3	1	4	1	5
7	1	25(2)	9	1	6	1	5(1)	1	4	1	5	1	5
8	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	1	22(2)	8	1	6	1	5(2)	1	4	1	4	1	5
11	0	0	0	1	6	1	6(2)	1	4	1	5	1	5
12	1	22(2)	7	1	6	1	6(2)	1	4	1	4	1	5
2026.1	0	0	0	1	6	1	4(1)	1	4	1	5	1	4
2	1	25(2)	15	1	6	1	6(2)	1	3	1	4	1	5

* () 内は理事・監事出席者総数のうち監事出席者

1・3・1 理事会

1・3・2 代表委員会

1・3・3 定時社員総会

表一覧に拠る

開催日	会議事項	会議の結果	会場	出席者
2025. 4. 24	1. 2024年度(第102期)事業報告の件 2. 2024年度(第102期)会計報告の件 3. 名誉員推薦の件 4. 2025年度(第103期)事業計画の件 5. 2025年度(第103期)事業予算の件 6. 2025年度(第103期)理事・監事選出の件	いずれも原案 どおり可決	明治記念館 富士の間	73名 委任状提出者 123名

1・4 許可・認可・承認に関する事項

年月日	申請事項	許可等年月日	備考
2025. 4. 30	理事変更登記	2025. 4. 30	

1・5 契約に関する事項

年月日	相手方	契約の概要	() 内単位： 円<税込>
2025. 6. 3	(一財)日本規格協会 (経済産業省再委託)	令和7年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費 (戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動) (静圧気体軸受用語に関する国際標準化)	(4,479,000)
2026. 2. 2	(一社)日本技術者教育認定機構	2025年度技術者教育プログラム認定審査業務	(3,245,000)

1・6 補助金・助成金等に関する事項

補助金等の名称	交付者	金額	備考
機械工学振興事業資金寄付金	個人会員ほか 280名	1,496,600円	機械工学振興事業
フェロー寄付金	個人会員 273名	2,730,600円	法人会計
コンベンション誘致推進事業補助金	石川県	160,000円	25-13講演会
コンベンション誘致推進事業補助金	金沢市	80,000円	25-13講演会
MICE促進事業費補助金	金沢市	140,000円	25-13講演会
コンベンション開催等事業補助金	大津市	500,000円	25-201国際会議
開催補助金	(公社)姫路観光コンベンションビューロー	516,000円	25-202国際会議
コンベンション開催支援補助金	(一社)宇都宮観光コンベンション協会	745,250円	25-76講演会
子どもゆめ基金助成金	(独法)国立青少年教育振興機構	271,958円	25-71特別講演会
開催助成	(公財)中部電気利用基礎研究振興財団	150,000円	25-201国際会議
国際交流会議助成	(公財)三豊科学技術振興協会	500,000円	25-201国際会議
集会助成	(公財)NSKメカトロニクス技術高度化財団	500,000円	25-201国際会議
集会助成	(公財)NSKメカトロニクス技術高度化財団	500,000円	25-206国際会議
国際会議等準備及び開催助成	(公財)天田財団	1,000,000円	25-206国際会議
助成金	(公財)精密測定技術新興財団	1,000,000円	25-206国際会議
コンベンション開催助成金	(一社)宇都宮観光コンベンション協会	370,000円	25-6講演会
コンベンション開催助成金	(一社)宇都宮観光コンベンション協会	630,000円	25-7講演会
国際会議開催支援助成金	(公財)工作機械技術振興財団	500,000円	25-201国際会議
研究成果普及助成金	(公財)スズキ財団	400,000円	25-203国際会議
研究成果普及助成金	(公財)スズキ財団	400,000円	25-205国際会議
研究成果普及助成金	(公財)スズキ財団	400,000円	25-48講演会
国際会議助成	(公財)マザック財団	500,000円	25-206国際会議
Engaging Sports Engineering Grant	ISEA(国際スポーツ工学協会)	193,930円	スポーツ工学部門
国際交流助成	(公財)大澤科学技術振興財団	500,000円	25-206国際会議
コンベンション開催用貸切バス費用支援	(一財)山形コンベンションビューロー	200,000円	25-2講演会
滋賀県コンベンション開催助成金	(公社)びわこビジターズビューロー	500,000円	25-201国際会議
アトラクション費用支援	(一財)山形コンベンションビューロー	87,032円	25-12講演会
コンベンション開催助成金	(公財)ながの観光コンベンションビューロー	358,000円	25-50講演会
コンベンション開催助成金	(一財)山形コンベンションビューロー	1,010,000円	25-12講演会
島山賞助成金	(公財)荏原島山記念文化財団	2,000,000円	島山賞
コンベンション貸切バス等運行支援事業支援金	(一財)沖縄コンベンションビューロー	90,000円	25-49講演会
コンベンション貸切バス等運行支援事業支援金	(一財)沖縄コンベンションビューロー	210,000円	25-207国際会議
京都らしいMICE開催支援補助制度	(公財)京都文化交流コンベンションビューロー	80,000円	25-208国際会議
学会等開催助成	(公財)大幸財団	250,000円	25-48講演会
コンベンション開催助成金	(一財)熊本国際観光コンベンション協会	200,000円	25-14講演会
バス運行助成金	(一財)熊本国際観光コンベンション協会	30,000円	25-14講演会
ユニークベニュー利用促進助成金	(一財)熊本国際観光コンベンション協会	500,000円	25-14講演会
コンベンション開催助成	(公財)ちば国際コンベンションビューロー	210,000円	25-203国際会議
大規模MICE開催助成金	(公財)青森県観光国際交流機構	500,000円	25-54講演会
学術会議開催支援金	(一財)沖縄コンベンションビューロー	2,000,000円	25-206国際会議

1・7 内閣府指示に関する事項

指定年月日	指示事項	履行状況
	公益目的支出計画等変更届提出	2025. 5. 29
	公益目的支出計画実施報告書等提出	2025. 5. 29

1・8 理事会処理事項

項目	概要
1. 部門, 委員会, 分科会, 研究会の設置, 解散	設置分科会: 部門4, 産学連携事業関係3 設置研究会: 部門4 解散分科会: 部門1, 産学連携事業関係3 解散研究会: 部門2
2. 名誉員候補者選考会議	2025年10月14日
3. 集会事業	2025年度年次大会(2025.9.7~10), 機械の日, 機械週間の活動
4. 助成	機械工学振興事業資金(メカライフ振興事業)助成 53件
5. 表彰	2025年度日本機械学会賞〔技術功績4件, 論文16件, 技術6件〕 〃 日本機械学会奨励賞〔研究19件, 技術8件〕 〃 日本機械学会教育賞〔2件〕 〃 日本機械学会女性未来賞〔6件〕 〃 日本機械学会三浦賞〔221件〕 〃 日本機械学会イノベーション表彰〔3件〕 〃 日本機械学会優秀技術者表彰〔63件〕 〃 日本機械学会標準事業表彰〔貢献賞2件, 国際功績賞2件, コードエンジニア賞1件〕 〃 学生員増強功労表彰〔78件〕

項目	概要
6. 認証・認定	<p>〃 機械遺産認定〔6件〕 他機関各賞の受賞候補者推薦 2025年度機械状態監視資格認証試験合格300名</p>
7. 会員	<p>〃 計算力学技術者資格認定試験合格755名 永年会員 174名（2025年度末永年会員数4,318名） フェロー 53名（2025年度末フェロー会員数1,046名）</p>
8. 編修・出版	<p>学会誌の発行，学術誌の発行，出版物の発行</p>
9. 役員選挙	<p>代表会員・監事選挙及び筆頭副会長候補者選挙時の選挙管理委員委嘱</p>
10. 対外（国内）	<p>1 日本学術会議との関係 本会が関係する委員会・分科会等への委員推薦，行事への協賛対応などを行っている。 2016年度に発足した「防災学術連携体」に代表者を派遣し，参加している。</p>
	<p>2 日本学士院会員候補者の推薦 本会から1名の推薦をおこなった。</p>
	<p>3 日本工学会 第1回会長懇談会（2025年6月27日開催）に会長代理として筆頭副会長が出席した。</p>
	<p>第2回会長・フェロー懇談会（2025年12月10日開催）に会長代理として常勤理事が出席した。</p>
	<p>令和6年度フェローとして1名推薦した。</p>
	<p>4 日本技術者教育認定機構(JABEE) 本会からは，役員，主要委員会メンバーとして多くの会員が協力している。また，JABEEより</p>
	<p>大学等の技術者教育プログラム認定業務を受託しており，その審査員の養成などへの協力</p>
	<p>を行っている。フェローとして2名推薦した。</p>
	<p>5 電気学会 2004年度より学会共通の問題について，会長他による情報交換を年に一度行い，幹事を交互に</p>
	<p>務め協力関係を構築している。本年度は本会が幹事となり2025年10月9日に会長懇談会を行っ</p>
	<p>た。</p>
	<p>6 ロボット革命イニシアティブ協議会 経済産業省の呼び掛けにより，2015年5月に「ロボット革命イニシアティブ協議会」が創立さ</p>
	<p>れ継続して会長が評議員に就任し，協力をしている。</p>
	<p>7 日本技術士会 2009年より相互連携の覚書を交わし，行事などで合同企画をしている。</p>
	<p>2025年10月18日に本会の人材育成・活躍支援委員会との共同開催行事として，特別講演会を日</p>
	<p>本大学にて開催した。</p>
	<p>8 日本クレーン協会 2019年より協力・連携に係る覚書を交わし，クレーンなどの機械に関する産業・建設の安全確</p>
	<p>保，技術の向上を目的とした相互の協力・連携事業を推進するため，年次大会での合同企画を</p>
	<p>行っている。</p>
	<p>9 電子情報通信学会 2020年より相互協力に関する覚書を交わし，年次大会での合同企画や会誌の特集号等，で連携</p>
	<p>を続けている。学会横断テーマにおいても連携をしている。</p>
	<p>10 情報処理学会 2021年より相互協力に関する覚書を交わし，全国大会での合同企画等で連携を行っている。</p>
	<p>11 日本内燃機関連合会 学術団体会員として加盟し，同連合会役員の団体理事に会長が就任し，協力している。</p>
	<p>12 日本非破壊検査協会 2024年10月8日に協力・連携に係る覚書を交わし，今後の連携を検討中である。</p>
11. 事務局	採用4名，嘱託員（含む再雇用）3名，退職（含む再雇用）3名

2025年度（第103期）理事会・代表会員会議案一覧

理事会議案一覧

開催日	種別	件名	結果
2024年度 第7回 2025.3.25	議案	1. 会員入会及び資格変更の件	承認
	〃	2. 2024年度（第102期）事業報告の件	〃
	〃	3. 2024年度（第102期）会計報告の件	〃
	〃	4. 2025年度（第103期）理事・監事候補者の件	〃
	話題	1. 各理事からの審議案件提案等	—
	〃	2. 「電子情報サービス」閲覧プラットフォーム	—
	報告	1. 報告書「日本機械学会の現状と中長期的課題 2024年度（第102期）の取り組み」について	—
	〃	2. 会員向け報告書「2025年度（第103期）の取り組み方針」	—
	〃	3. 今期検討課題について	—
2025年度 第1回 2025.4.24	議案	1. 2025年度（第103期）会長ならびに副会長（筆頭副会長を含む）選出の件	議決
	議案	1. 会員入会及び資格変更の件	承認
第2回 2025.4.25	〃	2. 2025年度（第103期）第1回代表会員会開催の件	〃
	〃	3. 2026年度（第104期）代表会員定数、選挙実施方針の件	〃
	〃	4. 2025年度機械遺産の件	議決
	〃	5. 技術倫理規定改定案および改定に向けた手続きの件	〃
	話題	1. 各理事からの審議案件提案等	—
	報告	1. 2025年度日本機械学会賞等募集の件	—
	〃	2. 2025年度支部・部門等フェロー推薦依頼について	—
	〃	3. 2026年度機械工学振興事業資金助成事業募集の件	—
第3回 2025.7.15	〃	4. 今期の重点施策について	—
	議案	1. 会員入退会及び資格変更の件	承認
	議案	2. 2026年度（第104期）監事候補者選出の件	〃
	〃	3. 2026年度（第104期）選挙管理委員選出の件	〃
	〃	4. 名誉員候補者及び名誉員選考会議（開催・構成）の件	〃
	〃	5. 「ASME-JSME トカマク型核融合発電所建設のための国際規格の開発に関する協定」の件	継続審議
	〃	6. DEI推進委員会の設置の件	議決
	〃	7. 若手会員のための資格継続キャンペーンの継続の件	〃
	〃	8. 優秀技術者表彰規定変更の件	〃
	〃	9. 創立130周年記念事業委員会の設置について	〃
	話題	1. 各理事からの審議案件提案等	—
	報告	1. 機械の日・機械週間事業の実施と広報	—
	〃	2. 倫理規定改定の進捗報告	—
	〃	3. JSME-CMES-KSME 3国ジョイントセッションについて	—
〃	4. 事務局夏期手当支給について	—	
〃	グループ討議 グループ1) 本会におけるダイバーシティの推進 グループ2) 若手支援の取り組み グループ3) 情報発信力の強化	—	
第4回 2025.10.14	議案	1. 会員入会及び資格変更の件	承認
	〃	2. 2026年度（第104期）代表会員候補者の件	〃
	〃	3. 2026年1月からの永年会員該当者の件	〃
	〃	4. 2026年度予算編成方針・日程の件	〃
	〃	5. 日本機械学会女性未来賞候補者の件	〃
	〃	6. 選挙制度検討委員会設置期間延長の件	〃
	〃	7. ASME-JSME トカマク型核融合発電所建設のための国際規格の開発に関する協定の件	〃
	〃	8. 常勤理事再任の件	議決
	話題	1. 各理事からの審議案件提案等	—
	〃	2. DEI推進宣言案の件	—
	報告	1. 2025年度（第103期）中間決算・決算見込報告	—
	〃	2. 募金抛出者報告（フェロー寄付金、機械工学振興資金寄付金）	—
	〃	3. 2025年度年次大会報告	—
	〃	4. 創立130周年記念事業について	—
	〃	5. メカジョ未来フォーラム2025等準備状況	—
	〃	6. 7月理事会第2部の討議を経て	—
	〃	7. 会長・支部役員懇談会（支部訪問）報告	—
	〃	8. 今期の重点施策進捗状況	—
その他	1. 知財専門委員の推薦依頼について	—	

開催日	種別	件名	結果
第5回 2025.12.9	議案	1. 会員入会及び資格変更の件	承認
	〃	2. 2025年度(第103期)定時社員総会次第の件	〃
	〃	3. 若手会員のための資格継続キャンペーン利用申請による会費免除の件	〃
	〃	4. 日本機械学会賞(論文・技術)規定一部変更の件	〃
	〃	5. 日本機械学会教育賞に関する規定一部変更の件	〃
	〃	6. 日本機械学会貢献表彰の件	議決
	〃	7. 日本機械学会倫理規定改定の件	継続審議
	話題	1. 出版センターおよび広報情報部会の再編について	—
	〃	2. 各理事からの審議案件提案等	—
	報告	1. 選挙管理委員会からの報告	—
	〃	2. 名誉員候補者推薦について	—
	〃	3. 2025年度年次大会決算報告	—
	〃	4. A-TS 21-07 認証不正研究会報告書について	—
	〃	5. 理工系女子学生のためのキャリアフォーラム	—
	〃	6. 学会横断テーマ 新規設置について	—
	〃	7. 特別員退会申出一覧	—
	〃	8. 事務局関連事項(年末手当)	—
〃	9. DEI 宣言承認の件	—	
第6回 2026.2.17	議案	1. 会員入会及び資格変更の件	承認
	〃	2. 来期事業計画案	〃
	〃	3. 新規事業予算案	〃
	〃	4. 来期事業予算案	〃
	〃	5. 日本機械学会賞等の件	〃
	〃	6. 学生員増強功労者表彰の件	〃
	〃	7. 2025年度(第103期)日本機械学会フェロー認定の件	〃
	〃	8. 第2回代表会員の開催・議事の件	〃
	〃	9. 機械工学振興事業資金 若手育成支援事業新規設置の件	〃
	〃	10. 機械工学振興事業資金助成の件	〃
	〃	11. 日本学術会議会員候補者推薦の件	〃
	〃	12. 日本機械学会倫理規定改定の件	議決
	〃	13. 支部活動への支援について	〃
	〃	14. 出版センターおよび広報情報部会の再編について	〃
	〃	15. 外部監査人の選任について	〃
	話題	1. 学術誌における生成AI指針の意見交換	—
	〃	2. 各理事からの審議案件提案等	—
	報告	1. 事業アドバイザー委員会活動報告	—
	〃	2. 選挙管理委員会からの報告	—
	〃	3. 支部総会および総会講演会・卒研発表会一覧	—
	〃	4. A-TS 21-07 認証不正研究会報告書について	—
〃	5. 創立130周年記念事業について	—	
〃	6. 事務局人事の件	—	

代表会会議案一覧

開催日	種別	件名	結果
2024年度 第2回 2025.3.25	報告	1. 今期活動報告	—
	〃	2. 2024年度(第102期)定時社員総会開催について	—
	〃	3. 2024年度(第102期)会務・会計報告案について	—
	〃	4. 2025年度(第103期)事業計画・事業予算案について	—
	〃	5. 2025年度(第103期)理事・監事候補者選出案について	—
	〃	6. 名誉員候補者推薦について	—
	〃	7. 日本機械学会フェロー選出について	—
	〃	8. 2024年度日本機械学会賞受賞者選出について	—
2025年度 第1回 2025.6.17	報告	1. 2024年度(第102期)活動報告および2025年度(第103期)取り組み方針について	—
	〃	2. 代表会員意見交換	—

1・9 会員に関する事項

2025年度（第103期）における入退会・資格変更等

摘要		正員	学生員	会友	個人会員 小計	特別員	総合計
入会		851	4,243	1	5,095	20	5,115
退会		-1,974	-1,415	-1	-3,390	-26	-3,416
復活		83	24	0	107	1	108
死亡		-92	-1	0	-93		-93
資格 変更	学生員→正員	2,525	-2,525				
	正員→学生員	-192	192				
資格喪失（会費滞納）		-1,604	-296	0	-1,900	0	-1,900
前期末会員数		23,743	6,309	14	30,066	640	30,706
今期末会員数		23,340	6,531	14	29,885	635	30,520
増減		-403	222	0	-181	-5	-186

参考：女性会員等の登録数（今期末）

女性会員：1,357名 外国籍会員：937名 ジュニア会友：1,089名

2025年度（第103期）における月別入退会者数

	入会					退会				
	正員	学生員	会友	特別員	合計	正員	学生員	会友	特別員	合計
2025年3月	63	221	0	2	286	-81	-391	0	0	-472
4月	129	396	0	0	525	-104	-32	0	0	-136
5月	99	730	0	1	830	-80	-2	0	0	-82
6月	77	275	0	1	353	-45	0	0	0	-45
7月	83	187	1	1	272	-18	-4	0	0	-22
8月	89	243	0	3	335	-11	0	0	0	-11
9月	58	140	0	2	200	-17	-6	0	-1	-24
10月	56	190	0	3	249	-58	-16	0	-1	-75
11月	47	918	0	1	966	-116	-73	0	0	-189
12月	31	425	0	1	457	-1,344	-794	-1	-22	-2,161
2026年1月	55	304	0	4	363	-53	-46	0	-2	-101
2月	64	214	0	1	279	-47	-51	0	0	-98
合計	851	4,243	1	20	5,115	-1,974	-1,415	-1	-26	-3,416
月平均入退会	71	354	0	2	426	-165	-118	0	-2	-285

地区別・資格別会員数

	0区（関東）	1区（東北）	2区（北海道）	3区（東海）	4区（関西）	5区（中国）
正員	10,418	994	471	2,835	4,107	1,163
学生員	2,257	363	288	621	1,292	372
会友	5	0	2	3	3	0
個人計	12,680	1,357	761	3,459	5,402	1,535
特別員	332	12	5	75	117	20
総合計	13,012	1,369	766	3,534	5,519	1,555

	6区（四国）	7区（北信）	8区（九州）	在外会員		総合計
正員	512	1,186	1,575	79		23,340
学生員	158	532	645	3		6,531
会友	0	1	0	0		14
個人計	670	1,719	2,220	82		29,885
特別員	7	35	32	0		635
総合計	677	1,754	2,252	82		30,520

部門登録者数

部門名	第1位	第2位	第3位	第1-3位合計	第4位	第5位	第1-5位合計
計算力学	1,470	1,456	1,263	4,189	498	321	5,008
バイオエンジニアリング	711	436	439	1,586	294	226	2,106
材料力学	1,873	1,321	671	3,865	293	192	4,350
機械材料・材料加工	1,008	1,272	909	3,189	338	252	3,779
流体工学	2,539	1,449	967	4,955	389	221	5,565
熱工学	1,624	1,367	920	3,911	352	219	4,482
エンジンシステム	769	385	330	1,484	216	127	1,827
動力エネルギーシステム	819	1,014	919	2,752	420	255	3,427
環境工学	401	627	853	1,881	437	318	2,636
機械力学・計測制御	1,751	1,465	1,164	4,380	506	338	5,224
機素潤滑設計	790	531	380	1,701	197	140	2,038
設計工学・システム	674	769	975	2,418	498	448	3,364
生産加工・工作機械	833	595	477	1,905	254	194	2,353
生産システム	344	522	436	1,302	204	193	1,699
ロボティクス・メカトロニクス	1,725	1,096	991	3,812	427	278	4,517
情報・知能・精密機器	481	779	941	2,201	455	392	3,048
産業・化学機械と安全	255	252	348	855	207	191	1,253
交通・物流	795	483	570	1,848	250	223	2,321
宇宙工学	337	316	530	1,183	290	333	1,806
技術と社会	198	333	599	1,130	282	473	1,885
マイクロ・ナノ工学	266	263	246	775	208	203	1,186
スポーツ工学・ヒューマン・イテックス	192	136	148	476	160	151	787
合計	19,855	16,867	15,076	51,798	7,175	5,688	64,661

会員数（2026年2月末日）		
正員	23,340	名

第1位登録者数	19,855	名
第1位登録率	85.1	%

専門・推進会議登録者数

専門・推進会議名	登録者数
法工学専門会議	770
医工学テクノロジー推進会議	963
合計	1,733

1・10 法人運営に関する事項

1・10・1 経営企画委員会

委員長 部会長・委員長・主査名：委員長 高木周筆頭副会長 幹事 風尾幸彦常勤理事 他10名、開催6回

経営企画委員会では、今期は主に下記の3点について検討を行った。

- 1) 支部活動の支援強化に向けた施策
- 2) 本会の会計ルールの課題
- 3) 学会横断テーマの状況確認及びフォローアップ

1) については、これまで本部からの積極的な関わりがなされていなかった支部活動の活性化と連携強化のため、支部活動における課題の洗い出しと具体的な支援策について議論を行い、理事会に提案を行った。2) については、本会の学術活動の根幹である部門事業・支部事業について、事業としての持続可能性と資金有効活用の視点から、交付金のあり方、交付金と共通経費配賦とのバランス、正味財産(繰越金)のあり方に関する議論を行った。3) については、社会的課題に対応する分野横断的な「学会横断テーマ」について活動のフォローアップを行った。今期活動を行ったテーマは下記のとおりである。また新規テーマ1件を追加した。

学会横断テーマ②持続可能社会の実現に向けた技術開発と社会実装：テーマリーダー 津島将司 他7名、開催6回、年次大会特別企画1件

学会横断テーマ⑤循環経済の実現に向けた機械工学の役割：テーマリーダー 小野田弘士、他5名、開催2回、年次大会特別企画1件

学会横断テーマ⑦機械と情報通信の融合で実現する人間中心の未来社会：テーマリーダー 多田充徳、他8名、開催2回、年次大会特別企画1件

学会横断テーマ⑧医工学の深化融合による健康・医療技術のさらなる発展を目指して：テーマリーダー 葭仲潔、他7名、開催1回、年次大会特別企画1件

1・10・2 会員部会

会員部会：部会長 廣畑 賢治 他24名、開催3回

1. 学生間の交流及び企業の若手技術者から話を聞く場として、2010年度より開催している学生交流会を本年度は年次大会において開催し、135名(学生92名、技術者・委員等43名)が参加した。また、次年度も開催することを決定し、実行委員会を組織した。委員長 植村 豪 他5名。
2. 申請のあった学生員増強功労者表彰78件を理事会へ推薦した。
3. 産業界と学会が対話できる仕組みづくりとその実践について議論し、分野横断的に取り組むべきテーマを議論するための準備会の設置に関する提言をまとめ、理事会に提出した。

学生員委員会：委員長 浮田 芳昭 他9名、開催1回

1. 各支部の活動状況、活動計画、学生員増強策等の意見交換を実施した。
2. 年次大会においての学生交流会開催に協力した。
3. 委員長校会を開催し、各支部学生会委員長より学生会の活動報告や、就職後も会員継続してもらうための意見交換を実施した。
4. 次期の担当委員を確認し、委員長を北陸信越支部選出委員、幹事を関西支部選出委員とした。
5. 各学生会の機関紙を発行した。
6. 「メカライフの世界」展の開催に協力した。

Ladies' Association of JSME：委員長 菅 結実花 他21名、開催2回

1. 女性エンジニア交流会を、2025年3月6日中国四国地区(株)参加者10名)、3月27日合同交流会(参加者13名)の計2回開催した。
2. 年次大会にて、ランチミーティングを開催した(参加者12名)。
3. 学生交流会開催に協力した。
4. 学会誌2026年1月号にLAJ紹介記事およびメカジョフェイルの掲載に協力した。
5. 他からの依頼イベントとして、2025年11月21日に株式会社ニフコ様に、講師を派遣した。

JSME International Union：委員長 中村 弘毅 他11名、開催回数 1回

1. 2025年4月14日に、在外研究者による海外研究紹介をZoomによるオンライン形式で開催した。アメリカのスタンフォード大学で在外研究を行った寺島洋史先生(北海道大学)より、研究内容および在外研究の経緯について紹介があった。106名が参加した。
2. 2025年9月8日に第11回留学生シンポジウムを北海道大学およびZoomを利用したハイブリッド形式で開催した。第1部では、企業およびキャリア支援の専門家による2件の基調講演と、日本に留学し就職した技術者1名による事例紹介を行った。第2部では、留学生交流発表会として4件の発表が行われた。北海道大学で16名、Zoomで13名が参加した。

1・10・3 表彰部会

表彰部会：部会長 加藤 千幸 他18名、開催3回

1. 日本機械学会賞委員会委員を理事会に推薦した。
2. 日本機械学会賞(2025年度)の贈賞候補として日本機械学会賞委員会から推薦のあった日本機械学会賞(技術功績)4件、同(論文)16件、同(技術)6件、日本機械学会奨励賞(研究)19件、同(技術)8件、日本機械学会教育賞2件を理事会へ推薦した。
3. 日本機械学会島山賞(2025年度)受賞者として341名を理事会へ推薦した。
4. 日本機械学会三浦賞(2025年度)受賞者として226名を理事会へ推薦した。
5. 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞121件の報告を確認した。
6. 日本機械学会イノベーション表彰 第1回(2025年度)の贈賞候補として3件を理事会へ推薦した。
7. 日本機械学会女性未来賞 第9回(2025年度)の贈賞候補として6件を理事会へ推薦した。
8. 日本機械学会標準事業表彰第22回(2025年度)の贈賞候補として、貢献賞2件、国際功績賞2件、コードエンジニア賞1件を理事会へ推薦した。
9. 日本機械学会優秀技術者表彰第1回(2025年度)の贈賞候補として63件を理事会へ推薦した。
10. 日本機械学会賞(2026年度)募集要項を決定した。
11. 日本機械学会イノベーション表彰(2026年度)募集要項を決定した。
12. 日本機械学会女性未来賞(2026年度)募集要項を決定した。
13. 日本機械学会標準事業表彰(2026年度)募集要項を決定した。
14. 日本機械学会優秀技術者表彰(2025年度および2026

年度)募集要項を決定した。

15. 文部科学大臣表彰等他機関からの受賞候補推薦について選考を行った。

日本機械学会賞委員会：委員長 須田 義大 他81名，開催2回，グループ会議 9回

日本機械学会賞（2025年度）贈賞候補として技術功績4件，論文16件，技術6件，日本機械学会奨励賞（研究16件，技術8件），日本機械学会教育賞2件を表彰部に推薦した。

日本機械学会イノベーション表彰選考委員会（2025年度）：委員長 岸本 哲 他2名，開催1回。

日本機械学会イノベーション表彰の選定，審査を行い日本機械学会イノベーション表彰3件を選考して，表彰部に推薦した。

日本機械学会女性未来賞選考委員会（2025年度）：委員長 西 美奈 他4名，開催1回。

日本機械学会女性未来賞の選定，審査を行い日本機械学会女性未来賞6件を選考して，表彰部に推薦した。

日本機械学会標準事業表彰選考委員会（2025年度）：委員長 稲田文夫 他4名，開催1回。

日本機械学会標準事業表彰（2025年度）贈賞候補として貢献賞2件，国際功績賞2件，コードエンジニア賞1件を表彰部に推薦した。

1・10・4 広報・情報部会

部会長 谷川 民生（広報情報理事） 他6名，開催1回

1. 会誌を編修・出版した（「4. 会誌事業に係る事項」参照）。
2. 機械工学年鑑2025（電子版）をフリーアクセスとして一般公開した。
3. メルマガを月1回配信した。
4. 本会理事によるWebコラム欄—JSMET談話室「き・か・い」—計7件をWebに掲載した（No. 222～228，2026年2月末現在）。
5. 「機械の日・機械週間」や「年次大会」等，広報活動のバックアップを実施した。
6. 各種最新情報をWebサイトに掲載し，会員内外に情報発信した。

1・10・5 部門評価委員会

委員長 梅原徳次 他13名 開催2回

1. 評価の検討課題について議論し，評価方針に反映した。
2. 2023年度～2025年度評価の総括年度として，部門に重点活動報告および共催報告の提出を依頼した。
3. スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門のML部門への移行を決定した。

1・10・6 分野連携委員会

委員長 中西義孝 他9名 開催3回

1. 過去の分野連携企画について内容を確認し，採択基準や申請フォーマット等を検討した。
2. 2026年3月以降に実施される分野連携企画の募集を開始した。
3. 審査フォーマットと支援の基準額を検討した。
4. 申請のあった企画について採択可否と支援金配分額を決定し，企画者に通知した。
5. 分野連携分科会の延長申請を承認した。

1・10・7 年次大会企画委員会

委員長 梅川尚嗣 他9名 開催2回

1. 2025年度年次大会において参加者アンケートを実施，その結果を共有した。
2. 2026年度年次大会の準備状況を確認した。
3. 年次大会の抱える課題を共有し，改善策について議論した。

1・10・8 技術倫理委員会

委員長 金光 秀和 他13名 開催4回

1. 2025年度年次大会（北大）の年次大会市民フォーラム「機械技術・産業が直面する新たな課題」を実施した。
2. 2026年度年次大会市民フォーラムの企画を検討した。
3. 日本機械学会倫理規定の改定案を理事会に提出した。
4. 技術倫理協議会へ本委員会から代表委員が出席した。

1・10・9 フェロー選考委員会

委員長 高木 周 他11名，開催2回

フェロー候補者の公募，選定，審査を行い，53名の候補者を理事会に上申した。

1・10・10 若手の会

委員長 荒川 貴文 他26名，開催4回

1. 若手エンジニア・研究者のためのオンライン交流会を日本技術士会近畿本部と協力して，2025年3月27日，2026年1月19日に開催した。
2. 2025年度年次大会における学生交流会に委員を派遣し，若手の会を紹介するとともに参加学生と交流した。
3. 第2回技術講演・交流会を2026年1月27日に開催し，各WG委員から様々な分野の研究や開発の内容が発表された後，参加者同士で交流した。
4. 若手会員支援企画として，第4回コースドクター交流会を2025年6月12日に開催した。また第5回コースドクター交流会を関西支部の協力を得て大阪で2026年1月15日に開催した。

1・10・11 防災・減災委員会

委員長：藤田 聡 他7名，開催回数1回

1. 防災学術連携体へ連携委員を派遣した。
2. 2024年度定時社員総会特別企画において藤田委員長が「防災・減災と社会レジリエンス」と題する講演を行った。

1・10・12 事業アドバイザー委員会

委員長 光行 恵司 他5名，開催2回

1. 2019年4月設置
2. 事業アドバイザー委員会は年2回の開催とし，第1回目では，各事業委員会の前年度の総括，当該年度の運営方針を諮り，第2回目には，次年度の予算や計画，中長期計画の報告等を受け，各事業委員会の活動・運営のサポートをする。
3. 2025年7月14日に今期第1回をハイブリッドにて開催し，各事業委員会報告を受け，活動状況を確認し，意見交換を行った。
4. 2025年12月8日に今期第2回をオンラインにて開催し，各事業委員会の次年度の予算案と活動計画等を確認し，意見交換を行った。

各事業委員会には，将来の事業をどのようにしたいか意志を持った中期計画の作成および共通経費を含めた収支の記載を依頼した。

2019年からの委員会の活動により，それぞれの事業収支については，良化，安定してきている。

それぞれの事業の価値の再確認，運営の効率化，継続性などへと論点は変化。

産学連携事業委員会には，テーマ募集時期の前倒しなど新たなテーマ発掘の積極的な実践を依頼した。

1・10・13 人材育成・活躍支援委員会

委員長 川島 豪 他14名, 開催3回

- ①技術者教育の体系化・メリット向上, ②年次大会での啓発活動, ③特別員向けインターンシップ, ④子供たちの関心を引くキャリアパスや小中高校生向け企画, ⑤技術相談窓口の整備, ⑥テスト問題バンクの普及, ⑦ジョブキャリア認証制度等について検討を行った。
- 中長期のインターンシップ情報について特別員に対して募集を行った。
- ジュニア向け企画として全国版「エンジニア塾」を企画・実施した。
- 2025年度年次大会特別企画として、「創造性を育むための人材育成」をテーマとしたワークショップを企画・開催した。2026年度年次大会特別企画についても検討を行った。
- 委員会主催行事として日本技術士会と共催し、「成功する技術者のスキルアップ術」特別講演会をハイブリット開催し169名の参加があった。
- 技術相談のあった1件について対応を行った。

1・10・14 技術ロードマップ委員会

委員長 山崎 美稀 他35名, 開催2回

- 部門と連携した学会ロードマップの作成・維持・更新を行うとともに、機械工学全体としてのロードマップの作成を目的とした“将来社会を支える機械学会が作る技術ロードマップ:2050年の社会像を描いて”(2050RM)の検討を行った。
- 年次大会でワークショップ「JSME技術ロードマップが描く未来社会像 ~次世代機械工学で切り拓く2050年~」を開催した。
- 機械工学全体としてのロードマップとして、エネルギー&環境に着目、当該分野の種々の取組みに関するハイブリッドセミナーを1回開催、有益な意見をいただいた。

1・10・15 ISO・JIS・学会基準委員会

委員長 山本 浩 他 28名, 開催3回

- 経済産業省の産業標準化推進事業に係る次年度新規テーマ調査を実施した。
- 経済産業省の産業標準化推進事業に係る実績及び活動計画の調査を実施した。
- 経済産業省再委託事業「令和7年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費(戦略的国際標準化加速事業:産業基盤分野に係る国際標準開発活動)」を一般財団法人日本規格協会と契約し、実施した。
- 令和7年度経済産業省産業標準化事業表彰経済産業大臣表彰(個人)候補者を検討し、1名を推薦した。
- 本会所有のJISについて5年見直しを実施し、メンテナンス等について検討、審議した。
- 本会でのメンテナンス主体の無い本会保有のJIS(B1453:1988, 1454:1988)について、一般社団法人日本工作機器工業会への移管が完了した。
- 一般財団法人日本規格協会の2025年度JIS原案作成公募制度区分B(原案作成期間:2025年7月1日~2026年2月28日)にJIS B 0162-1 他4件の応募をし、採択された。
- 日本機械学会基準の新規テーマの募集を行った。
- 学会基準原案作成委員会〔バイオコックス性能規格原案作成委員会, ハーバート振子硬さ試験方法原案作成委員会, 熱エネルギー利用の観点における湿り蒸気流量の指示値の補正に関するガイドライン原案作成委員会〕より、進捗状況の報告がされた。
- 学会基準について5年見直しを実施し、メンテナンス等について検討、審議した。

- 各ISO国内委員会の現状と課題について、情報交換を行った。

〔所属委員会〕

ISO/TC5/SC10国内委員会

委員長 澤 俊行 他14名, 開催0回

- TC5/SC10の当該ASME関係者と意見交換し、国際規格案(JIS導入)の可能性およびTC5関連の米国の動向を探った。
- 2025年10月17日、中国成都市においてISO/TC5全体定例会議が開催され、澤委員長および辻村委員(TC5事務局)がリモート参加。SC10の活動停滞に対して、2026年6月までに計画書の提出を求める旨がResolutionに記載された。
- 上記を受け、同会議に欠席であった米国 Ms. Appleton SC10議長およびMr. Rossi に連絡。Appleton 議長からは、SC10のISO-7005に関するWGの再活性化を行う予定との返答があった。今後も米国と協調し、国際規格へのJISフランジ規格導入の可能性を追求する。
- Systematic Review 1件を実施(ISO 6708 配管呼び径)。投票期日 2025年12月2日。ISO 7005-1に整合させるべく、日本は見直し投票を行ったが、結果は確認となった。
- 本年度のJIS見直し調査については、当委員会所管の3規格(B 2205 管フランジの計算基準, B 2240 銅合金製管フランジ および B 2241 アルミニウム合金製管フランジ)が対象であった。関係団体に意見聴取を行い、いずれも確認とした。ただし、計算基準については、最新の研究動向に注視すべしとのコメントがあった。

ISO/TC30国内対策委員会

委員長 船木 達也 他18名, 開催0回

- 審議案件に対して投票(賛成・反対・棄権)対応を行った。(計11件)
- ISO 5168:2005改定にかかるISO/TC30/WG22が2023年12月に立ち上がり、活動を継続している。第5回会合を2025年1月23日(木)、第6回会合を2025年12月2日(火)に開催され、各オンライン会合へ参加した。(参加者 各1名)
- ISO 9951:1988改定にかかるISO/TC30/WG23は、2024年3月27日の初回会合(オンライン)にはじまり、活動を継続している。その後、第6回会合を2025年3月6日(木)、第7回会合を2025年5月15日(木)、第9回会合を2025年6月9日(月)、第10回会合を2025年7月3日(木)、第11回会合を2025年8月12日(火)、第12回会合を2025年9月30日(火)、第13回会合を2025年10月30日(木)、第14回会合を2025年11月25日(火)、第15回会合を2026年1月6日(火)に開催され、各オンライン会合へ参加した。(参加者 各1名)
- 秤量法および体積法にかかるISO 4185, ISO 8316, ISO 9368-1を統合整理する方針が投票で承認され、これらを包括的に改定するISO/TC30/AHG1が立ち上がり、第1回のオンライン会合を2025年10月9日(木)に開催された。(参加者 1名)また、第2回のオンライン会合を2025年12月2日(火)に開催され、改定にかかる議論を進めている。(参加者 1名)

ISO/TC108国内委員会

委員長 山本 浩 他18名(2026年1月17日現在), 開催0回(メール審議のみ実施)

- 国際規格案を審議し投票(Systematic Review確認1)を行った。
- TC108/SC4の幹事国候補募集に対し、立候補せずと回答した。

ISO/TC108/WG33, 34国内委員会

委員長 大田 明博 他16名, 開催0回

1. 国際規格案を審議し投票(賛成・反対・棄権)の実施(メール審議)
2. WG34国際委員会(2025/11/25) オンライン開催
 - ・ISO 16063-1/PWI, -11/PWI, -21/PWIの進捗が報告された
 - ・ISO 16063-41/PWIはPL欠席により進捗報告なし
 - ・ISO 16063-18/NP
提案承認のための専門家に日本から野里英明氏を推薦
 - ・ISO 16063-46/NP
提案承認のための専門家再募集があったが日本から推薦者なし
3. JIS B 0908見直しを検討中
 2. の会議にて当該規格に対応する国際規格ISO 5347-0の後継となるISO 16063-1:1998の全面改訂計画案の進捗が示されたため、今後国内委員会に諮り改正要否を検討する予定。

ISO/TC108/SC2国内委員会

委員長 平野 俊夫 他12名, 開催0回

1. 国際規格案を審議し投票(すべて賛成または確認)を行った。
FDIS: 1件 (ISO/FDIS 20816-21)
DIS: 5件 (ISO/DIS 13373-7, ISO/DIS 13373-9, ISO/DIS 20816-1, ISO/DIS 20816-3, ISO/DIS 21940-14)
NP: 1件 (ISO/NP 14839-6)
SR: 10件 (ISO 10816-6, ISO 10816-7, ISO 13373-3, ISO 13373-5, ISO 14837-1, ISO/TS 14837-32, ISO 14963, ISO 18649, ISO 20283-3, ISO 20816-9)

ISO/TC108/SC2/WG7国内委員会

委員長 藤原 浩幸 他11名, 開催1回

1. 国内委員会を開催(2026年2月)した。
2. ISO14839-6 新規投票に向けた議論を進める予定である。
3. 国際規格案ISO14839-1の改訂に伴い対応JIS規格の見直しを行う予定である。

ISO/TC108/SC4国内委員会

委員長 柴田 延幸 他10名, 随時メールによる審議

1. 国際規格案を審議し投票(賛成・反対・棄権)を行った。
2. 国際会議(9/22-9/26: 現地+webのハイブリッド開催)に4名がweb参加した。

ISO/TC108/SC5国内委員会

委員長 井上 剛志 他35名, 開催2回

1. 国際規格案を審議し投票(賛成・反対・棄権)を行った。
2. 2025年3月27日に、東京工業高等専門学校での2024年度第2回国内委員会を対面及びオンラインによるハイブリッド方式で開催した。
3. 2025年4月7日から4月11日にかけて、ISO/TC108/SC5国際会議(対面及びリモートのハイブリッド方式で英国ロンドンBSIにて開催)で国内委員会より5名が対面出席、また多数オンライン参加し審議を行った。その際、「電流徴候診断」技術に関して三菱電機・今城委員より同社技術の紹介を実施した。
4. 2025年7月30日に、日本機械学会第3会議室での2025年度第1回国内委員会を対面及びオンラインによるハイブリッド方式で開催した。(対面出席者12名、オンライン参加者8名)。
5. 2025年11月に、元東芝・榊田委員を中心にISO13372:2012

「用語の定義」に関してオンラインにて討議を行った。

6. 2026年3月に、2025年度第2回国内委員会を対面及びオンラインによるハイブリッド方式で開催予定。

ISO/TC123国内委員会

委員長 片桐 武司 他32名, 開催28回

1. 「静圧気体軸受用語」に関する新規ISO規格提案のための内容検討を行った。
2. 国際規格に関する投票内容を審議し、投票(賛成・反対・棄権)を行った。
3. 標準化テーマ調査(国際標準開発推進事業)の回答を行った。
4. 5年見直しの対象であるJIS5件の改正の検討を行った。
5. 2025年4月22日に対面&webにて2025年度第1回ISO/TC123国内本委員会を実施した。(出席者21名)
6. 2025年5月19日に対面&webにて2025年度第1回ISO/TC123国内小委員会を実施した。(出席者16名)
7. 2025年6月16日に対面&webにて2025年度第2回ISO/TC123国内小委員会を実施した。(出席者16名)
8. 2025年7月16日に対面&webにて2025年度第1回JIS原案作業委員会を実施した。(出席者12名)
9. 2025年7月23日に対面&webにて2025年度第3回ISO/TC123国内小委員会を実施した。(出席者15名)
10. 2025年8月22日に対面&webにて2025年度第1回JIS原案作業分科会を実施した。(出席者13名)
11. 2025年8月26日に対面&webにて2025年度第2回ISO/TC123国内本委員会を実施した。(出席者23名)
12. 2025年9月18日に対面&webにて2025年度第4回ISO/TC123国内小委員会を実施した。(出席者15名)
13. 2025年9月19日に対面&webにて2025年度第2回JIS原案作業分科会を実施した。(出席者13名)
14. 2025年10月1日に対面&webにて2025年度第5回ISO/TC123国内小委員会を実施した。(出席者14名)
15. 2025年10月22日にwebにて2025年度第3回JIS原案作業分科会を実施した。(出席者11名)
16. 2025年10月24日に対面&webにて2025年度第6回ISO/TC123国内小委員会を実施した。(出席者16名)
17. 2025年10月29日に対面にてISO/TC123国際会議(SC2)に代表者が参加した。(出席者10名)
18. 2025年10月29日に対面にてISO/TC123国際会議(SC3)に代表者が参加した。(出席者10名)
19. 2025年10月29日に対面にてISO/TC123国際会議(SC5)に代表者が参加した。(出席者10名)
20. 2025年10月30日に対面にてISO/TC123国際会議(SC6)に代表者が参加した。(出席者10名)
21. 2025年10月30日に対面にてISO/TC123国際会議(SC7)に代表者が参加した。(出席者10名)
22. 2025年10月31日に対面にてISO/TC123国際会議(SC8)に代表者が参加した。(出席者10名)
23. 2025年10月31日に対面にてISO/TC123国際会議(TC123)に代表者が参加した。(出席者10名)
24. 2025年11月19日に対面&webにて2025年度第4回JIS原案作業分科会を実施した。(出席者13名)
25. 2025年11月25日に対面&webにて2025年度第7回ISO/TC123国内小委員会を実施した。(出席者14名)
26. 2025年12月3日にwebにて2025年度中間JIS原案作業分科会を実施した。(出席者9名)
27. 2025年12月15日に対面&webにて2025年度第5回JIS原案作業分科会を実施した。(出席者11名)
28. 2025年12月15日に対面&webにて2025年度第3回ISO/TC123国内本委員会を実施した。(出席者20名)

29. 2026年1月7日にwebにて2025年度中間JIS原案作業分科会を実施した。(出席者9名)
30. 2026年1月16日に対面&webにて2025年度第8回ISO/TC123国内小委員会を実施予定。(出席者14名程度)
31. 2025年1月19日に対面&webにて2025年度第2回JIS原案作業委員会を実施予定。(出席者11名程度)
32. 2026年2月16日に対面&webにて2025年度第4回ISO/TC123国内本委員会を実施予定。(出席者20名程度)

1・10・16 DEI推進委員会

委員長 大島 まり 他7名、開催1回

1. 2025年8月、常設委員会として理事会下に設置。
2. DEI推進に係る本会の姿勢を内外に発信するため、DEI宣言案を検討し、理事会に提出した。DEI宣言は2025年11月17日付で制定された。

1・10・17 臨時委員会

1) メカジョ未来フォーラム2025実行委員会

実行委員長 菅 結実花 他2名 開催1回(メール審議)

1. 2025年7月設置。
2. 2025年11月5日(水)に情報処理学会との合同で「理工系女子学生のためのキャリアフォーラム」(出展16社)をオンラインにて開催し、同フォーラムの冒頭に機械系の

女子学生を対象とした「メカジョ未来フォーラム2025」を開催した。メカジョ未来フォーラムでは日本機械学会女性未来賞の贈呈式と女性技術者による特別講演を実施した。

2) 選挙制度検討委員会

委員長 佐々木直哉 他10名 開催0回

1. 2024年10月設置。
2. 2025年10月設置期間延長。
3. 代表会員定数の最適化および支部・部門間の代表会員定数の調整を検討するための議論を始めた。

3) 創立130周年記念事業委員会

委員長 山本 誠 他6名 開催4回

1. 2027年に創立130周年を迎えることから、事業の企画・実施を行うため2025年7月に設置した。
2. 委員会の下に4つの小委員会を設置し、企画について検討を開始した。
「式典と表彰」小委員会
「未来へのロードマップ」
「技術史と機械遺産」
「10年のあゆみ編纂」
3. 130周年ロゴマークの検討を行った。
4. 学会ロゴマークを新たに制定することとし、その案を検討した。

1・10・18 各種会議開催

(協議会・部会・部門・専門会議・センター・委員会・分科会・研究会)

種別	設置数	開催回数
経営企画委員会	1	6
支部協議会	1	3
部門協議会	1	3
部門	22	73
専門会議・新分野推進会議	2	3
分科会	8	14
研究会	99	157
事業アドバイザー委員会	1	2
人材育成・活躍支援委員会	1	3
技術ロードマップ委員会	1	2
ISO・JIS・学会基準委員会	1	3
ISO国内委員会	9	32
JABEE事業委員会	1	2
機械状態監視資格認証事業委員会	1	2
計算力学技術者資格認定事業委員会	1	3
産学連携事業委員会	1	3
産学連携事業委員会所属産学連携分科会 (RC)	7	47
発電用設備規格委員会	1	4
専門委員会	4	16
広報・情報部会	1	1
学術誌編修部会	1	1
出版センター	1	2
分科会	1	2
会員部会	1	3
学生員委員会	1	1
Ladies' Association of JSME	1	2
JSME International Union	1	1
表彰部会	1	3
日本機械学会賞委員会	1	2
イノベーション表彰選考委員会	1	1
優秀技術者表彰選考委員会	1	1
女性未来賞選考委員会	1	1
標準事業表彰選考委員会	1	1
部門評価委員会	1	2
分野連携委員会	1	3
年次大会企画委員会	1	2
技術倫理委員会	1	5
フェロー選考委員会	1	2
若手の会	1	4
防災・減災委員会	1	1
国際連携委員会	1	2
機械遺産監修委員会	1	1
臨時委員会 (理事会所属)・WG		
メカジョ未来フォーラム2025実行委員会	1	1
選挙制度検討委員会	1	0
創立130周年記念事業委員会	1	4

計 189 組織 計 427 回

2. 公益目的支出計画に係る事項

2・1 機械の日・機械週間、機械遺産

- 1) 1. 広報情報理事が実行委員を兼任し、企画・運営を行った。
2. 2025年8月23日（土）に科学技術館において、機械遺産認定式を行った。また、同会場で開催されたモノづくり体感スタジアムに、エンジニア塾出張授業を出展した。

機械遺産	6件認定表彰 報告者：神谷 和秀（富山県立大学）
実行委員会組織、支出額	広報情報理事会、約180万円
機械週間行事数	主催14件、協賛等37件
マスコミ報道数	約39件
記念講演	実施なし
絵画コンテスト	実施なし

- 2) ジュニア会友向けニュース配信を開始し、サイエンスライターによるロボット・サイエンスの記事を毎月掲載した。
- 3) 機械遺産監修委員会
委員長 佐々木直哉 他5名 開催1回
機械遺産委員会より上申のあった2025年度認定候補（別掲）を監修、承認した。
- 4) 機械遺産委員会
委員長 神谷和秀 他11名 開催5回
機械遺産候補を評価選定し、機械遺産監修委員会に上申した。
- 5) 機械技術史調査委員会
委員長 小澤守 他 7名 開催3回
年次大会フォーラム「機械技術史のあり方を考える」を企画実施した。

2・2 2025年度 年次大会

行事	開催日	会場	参加者数
研究発表（1227題）	2025.9.7～10	北海道大学札幌キャンパス	2560名
付随行事	2025.9.8～10		
特別講演（2件）土屋 努，金子 純一	2025.9.9		
先端技術フォーラム（18件）	2025.9.7～10		
ワークショップ（13件）	2025.9.7～10		
基調講演（16件）	2025.9.8～9		
理事会企画（6件）	2025.9.7～9		
企業セミナー（33社）	2025.9.8～10		
市民フォーラム（12件）	2025.9.7～8		
その他（4件）	2025.9.7～9		
技術展示（11社）	2025.9.8～10		
広告掲載（10社）			
ビジネス交流会	2025.9.7		
同好会	2025.9.8		
懇親会	2025.9.9		

2・3 機械工学振興事業資金「メカライフ振興事業助成事業」助成事業

（2025年度 機械工学振興事業資金 「メカライフ振興事業」助成行事）

申請組織	開催日	行事名	会場	参加人数
北海道支部	2025.6.28	「メカライフの世界」展 2025	北見工業大学・工学部地球環境工学科	151名
	2025.12.20	「高専の先輩たちと見て話して操作してわかるロボットコンテストの裏側」	北海道函館市	16名
東北支部	2025.8.29, 8.30, 10.25, 10.26	キカイを知る、キカイ	一関工業高等専門学校	300名
北陸信越支部	2025.12.13	第5回とやまドローン学生交流競技大会	富山県立大学体育館	60名
	2025.6.15, 10.18, 10.19, 11.2, 11.16, 2026.1.23, 2.1, 2.21, 3.7	2025年度メカトロニクス佐久軽井沢教室	長野県望月少年自然の家、軽井沢中央公民館、上田市西部まちづくりの会、他	422名
	2025.8.9, 8.10	長岡高専オープンキャンパス2025	長岡工業高等専門学校	1,000名
	2025.8.2	ダ・ヴィンチ祭で体験する未来の機械工学	富山県立大学	570名

申請組織	開催日	行事名	会場	参加人数
関東支部	2025. 7. 21	第14回一日体験理工学教室 機械の学校2025 ～電子・機械・材料・知能制御編～	群馬大学理工学部桐生キャンパス・太田キャンパス	147名
	2025. 8. 19, 8. 21, 8. 22	機械の学校 in 高専	群馬工業高等専門学校	43名
	2025. 10. 18, 10. 19	「メカライフの世界」展 わくわくどきどき、メカニカル！2025	群馬大学理工学部桐生キャンパス	180名
東海支部	2025. 5. 18	小・中学生のためのものづくり体験教室 「AICHI TECH DAY」でのブース出展	愛・地球博記念公園 地球市民交流センター	918名
	2025. 11. 1, 11. 2	メカライフの世界展 「学内の” 困った ” をメカの力で解決」	鈴鹿工業高等専門学校第二体育館	5,000名
	2025. 10. 11, 10. 12	人の生活や娯楽を支える機械システムの展示・実演	豊田工業高等専門学校	1,365名
	2025. 8. 2, 8. 3	岐阜高専オープンキャンパス2025 機械工学科テーマ「機械工学で創る未来」	岐阜工業高等専門学校	1,341名
関西支部	2025. 3. 1～ 2026. 3. 28	親と子の理科工作教室	自治体公民館、小学校教室など、一般教室17会場	400名
	2025. 11. 15, 11. 16	メカライフの世界展2025	バンドー神戸青少年科学館	829名
中国四国支部	2025. 10. 11, 10. 12	海洋・水産に関わる機械工学	水産大学校	249名
	2025. 11. 1, 11. 2	呉高専・文化祭におけるロボコン・ロボットの展示と実演	呉工業高等専門学校	300名
	2025. 12. 14	呉高専・クリスマスサイエンスショーにおけるミニ四駆の制作と競技体験	呉工業高等専門学校	100名
	2025. 7. 26, 7. 30, 12. 20	連射のできるゴム鉄砲を作ろう！ ～いろいろな工作機械とレーザー加工体験～	松江工業高等専門学校・ふくやま産業交流館	103名
九州支部	2025. 11. 3	メカトピア2025	久留米工業高等専門学校	150名
	2025. 7. 20, 7. 21	体験！ロボットプログラミング& レーザーカット加工&フォーミュラカー	北九州市立大学ひびきのキャンパス	400名
	2025. 11. 1, 11. 2	サイエンスワールド2025	九州大学伊都キャンパス	1,000名
	2025. 7. 31	北九州工学体験工房	九州工業大学 戸畑キャンパス	32名
	2025. 8. 8	メカライフの世界展・ ようこそメカニカルワールド2025へ	佐賀大学本庄キャンパス	121名
	2025. 11. 2	作って学ぼう “飛ぶ” 仕組み	佐世保工業高等専門学校	140名
	2025. 11. 1, 11. 2	造大祭2025 メカライフ振興事業	長崎総合科学大学	150名
	2025. 8. 2	熊本高等専門学校オープンキャンパス 「メカライフの世界展」	熊本高等専門学校八代キャンパス	580名
	2025. 11. 3	大分大学開放イベント 29 家でできそうな工作とお湯で動く機械「低温度差スターリングエンジン」の紹介	大分大学 旦野原キャンパス	156名
	2025. 10. 25, 10. 26	地方発 親子で体験メカワールド 2025	日本文理大学一木キャンパス	1,000名
	2025. 8. 2	2025 メカワールド in Kagoshima University	鹿児島大学・工学部	350名
	2025. 8. 5, 8. 6	流れの不思議を解き明かそう！～空気の流れを用いてボールを回収するロボット～	宮崎大学工学部	11名
	2025. 10. 25	メカライフの世界展 「メカワールドを体験しよう」	鹿児島工業高等専門学校	45名
	2025. 9. 21	「メカライフの世界」展 ようこそメカワールドへ	都城工業高等専門学校	200名
	2025. 8. 2, 8. 21, 10. 25, 11. 1, 11. 2	おもしろメカニカルワールド	熊本県八代市, 熊本県熊本市, 長崎県長崎市, 福岡県大牟田市	369名
	動力エネルギーシステム部門	2025. 8. 7	親子見学会 ～川崎重工業 明石工場・カワサキワールド～	川崎重工工業株式会社 明石工場
環境工学部門	2025. 8. 2	夏休み親子イベント「熱を体験してみよう」	オンライン開催	23名
	2025. 8. 20	手作りで音を楽しもう ～環境にやさしい夏休み親子向けイベント～	中央大学 後楽園キャンパス	25名
宇宙工学部門	2025. 7. 26	夏のこども宇宙塾 「ロケットのふしぎを考えよう！」	熊本大学	36名
	2025. 7. 28	実践セミナー「人工衛星開発の基礎講座」	熊本大学	89名
技術と社会部門	2025. 7. 27	モデルロケット教室	製作会場: 東海大学湘南キャン	30名

申請組織	開催日	行事名	会場	参加人数
			バス 打上げ会場:芝生広場Palette	
	2025. 12. 14	No. 25-106第12回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会	大分県大分市	12名
IIP部門	2025. 8. 4, 8. 5	情報・知能・精密機器部門学生サマースクール	三菱ケミカル株式会社 茨城事業所	45名
生産加工・工作機械部門	2025. 9. 15	25-110 学生向けセミナー『ものづくり最前線』	神奈川県藤沢市	31名
一般	2025. 3. 2, 3. 8 3. 23, 6. 7, 6. 8, 10. 25, 10. 26, 11. 1, 11. 2, 12. 6, 12. 7	5インチ鉄道模型の運転体験とものづくりワークショップ開催事業	八王子子ども科学館他	2,100名
	2025. 6. 14, 6. 15	知能ロボットコンテスト・フェスティバル2025	HOKUSHU仙台市科学館	780名
	2025. 8. 25	夏休み科学技術セミナー(メタバース空間を利用したVR仮想避難訓練)	星槎もみじ中学校	92名
	2025. 5. 11	機械工学×謎解き体験学習プログラム2025 「機械のからくりを学んで、ふっかちゃんを探せ! in 大宮」	レイボックスホール・市民会館おみや	25名
	2025. 11. 20, 12. 1, 12. 3	埼玉県松伏町科学教室	松伏町立 金杉小学校、松伏小学校、松伏第二小学校	213名
	2025. 9. 7	子ども博士育成プロジェクト	北海道大学 工学部	80名
合計 53件				21,812名

2・4 国際連携委員会

委員長 中曽根 祐司 他4名 開催2回

1. 本会が幹事団体となり、2025年度年次大会(北海道大学にて、”Developing and Supporting the Future Generation of Mechanical Engineering”をテーマに掲げ、中国机械工程学会(CMES)および大韓機械学会(KSME)と3カ国合同セッションを実施した。一般の参加者に公開されたシンポジウム形式で行ない、その後は別会場で非公開による懇親会形式の合同会議を開催して、今後の連携について議論し、親睦を深めた。また、JSME IU(International Union)による留学生シンポジウム/留学生交流発表会が同時開催され、有機的連携を図った。
2. フィリピン機械学会(PSME)日本支部主催の1st Asia Pacific Regional Conferenceに井上裕副会長(東京科学大学)を派遣し、挨拶のスピーチを行った。
3. タイ機械学会(TSME)主催のThe 15th TSME International Conference on Mechanical Engineering(TSME-ICoME 2025)に岩城智香子会長を派遣し、開会式で挨拶のスピーチを行った。
4. 大韓機械学会(KSME)がホスト国となるThe 3rd International Conference on Emerging Technologies in

Mechanical Engineering(ETME2025)において、高木周筆頭副会長(東京大学)よりプレナリー講演を、浅野等教授(神戸大学)より基調講演を、いずれもオンラインで行った。また、General Chairに高木筆頭副会長、Program Chairに井上副会長、Publication Chairに品川一成副会長(九州大学)を推薦した。

5. 大韓機械学会(KSME)主催のThe 80th Anniversary Conference of KSMEにおいて、岩城会長がビデオメッセージにて祝辞を述べた。
6. 英国機械技術者協会(IMechE)関係者[アジア地域代表団および日本支部代表者]が本会に表敬訪問し、今後の連携の可能性について意見交換を行った。
7. 本会が米国機械学会(ASME)、中国原子力学会(CNS)と共催する国際会議The 32nd International Conference on Nuclear Engineering(ICONE32、中国・威海)に岩城智香子会長を派遣し、開会挨拶を行った。
8. 本会における今後の国際連携活動について議論を行なった。

2・5 定期刊行物〔日本機械学会学術誌／Bulletin of the JSME(電子版)〕

(1) 日本機械学会論文集/Transactions of the JSME (in Japanese)

今期は、Vol. 91, No. 943~Vol. 92, No. 954の計12号を発行した。

本公開前に可決になった論文から早期公開を行った。

次のテーマの特集号を発行した。

Vol. 91(2025), No. 943: 動力・エネルギーシステムの最前線2025

企画カテゴリ: 熱工学, 内燃機関, 動力エネルギーシステム

企画部門: 動力エネルギーシステム部門

Vol. 91(2025), No. 950: 機械力学・計測制御分野特集号2025

企画カテゴリ: 機械力学, 計測, 自動制御, ロボティクス, メカトロニクス

企画部門: 機械力学・計測制御部門

Vol. 91(2025), No. 951: TRANSLOG2024 & J-RAIL2024

企画カテゴリ: 交通・物流

企画部門: 交通・物流部門

Vol. 91(2025), No. 952: 生産加工・工作機械の規範2024

企画カテゴリ：設計，機素・潤滑，情報・知能，製造，システム

企画部門：生産加工・工作機械部門

Vol. 92 (2026)，No. 953：設計工学とシステム工学のフロンティア2025

企画カテゴリ：設計，機素・潤滑，情報・知能，製造，システム

企画部門：設計工学・システム部門

(2) Mechanical Engineering Journal

今期は，Vol. 12, No. 2～Vol. 13, No. 1の計6号を発行した。

本公開前に可決になった論文から早期公開を行った。

次のテーマの特集号を発行した。

Vol. 12 (2025)，No. 3：Special Issue on Advances in Dynamics, Vibration Engineering and Control Systems

企画カテゴリ：Dynamics & Control, Robotics & Mechatronics

企画部門：機械力学・計測制御部門

Vol. 12 (2025)，No. 4：24/7 Clean Nuclear Energy - Solution for Global Warming

企画カテゴリ：Thermal, Engine and Power Engineering

企画部門：動力エネルギーシステム部門

Vol. 12 (2025)，No. 4：Special Issue on Recent Advances in Micro-Nano Science and Technology on Micromachines

企画カテゴリ：Micro / Nano Science and Technology

企画部門：マイクロ・ナノ工学部門

(3) Mechanical Engineering Letters

今期は，Vol. 10, 11を発行した。

(4) Journal of Fluid Science and Technology

今期は，Vol. 20, No. 1～Vol. 21, No. 1の計3号を発行した。

企画部門：流体工学部門

(5) Journal of Thermal Science and Technology

今期は，Vol. 20, No. 1～Vol. 21, No. 2の計4号を発行した。

企画部門：熱工学部門

次のテーマの特集号を発行した。

Vol. 21 (2026)，No. 1：Special Issue of the Third Pacific Rim Thermal Engineering Conference (PRTEC2024)

(6) Journal of Biomechanical Science and Engineering

今期は，Vol. 20, No. 3～Vol. 21, No. 1の計3号を発行した。企画部門：バイオエンジニアリング部門

企画部門：バイオエンジニアリング部門

本公開前に可決になった論文から早期公開を行った。

(7) Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing

今期は，Vol. 19, No. 1～Vol. 20, No. 1の計5号を発行した。

企画部門：機素潤滑設計部門，設計工学・システム部門，生産加工・工作機械部門，生産システム部門，情報・知能・精密機器部門

なお，これら学術誌は，科学技術振興機構 (JST) のホームページ (J-STAGE) 上に登載し，オープンアクセスで公開している。詳細は表 1 参照。

学術誌HP：<http://www.jsme.or.jp/bulletin/index.html>

表 1 日本機械学会学術誌/Bulletin of the JSME (電子版)

Journal名・搭載アドレス	巻 Vol.	号 No.	搭載日	Preface他 掲載数	Papers 掲載数	総掲載数
日本機械学会論文集/ Transactions of the JSME (in Japanese) https://www.jstage.jst.go.jp/browse/transjsme	91	943	2025/3/25 一斉公開	1	16	17
	91	944	2025/4/25 一斉公開	0	11	11
	91	945	2025/5/25 一斉公開	0	7	7
	91	946	2025/6/25 一斉公開	0	14	14
	91	947	2025/7/25 一斉公開	0	6	6
	91	948	2025/8/25 一斉公開	0	10	10
	91	949	2025/9/25 一斉公開	0	16	16
	91	950	2025/10/25 一斉公開	1	15	16
	91	951	2025/11/25 一斉公開	1	20	21
	91	952	2025/12/25 一斉公開	0	10	10
	92	953	2026/1/25 一斉公開	1	21	22
92	954	2026/2/25 一斉公開	0	6	6	
			小計	4	152	156
Mechanical Engineering Journal https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mej	12	2	2025/4/15 一斉公開	0	8	8
	12	3	2025/6/15 一斉公開	1	22	23
	12	4	2025/8/15 一斉公開	2	38	40
	12	5	2025/10/15 一斉公開	0	10	10
	12	6	2025/12/15 一斉公開	0	7	7
	13	1	2026/2/15 一斉公開	0	7	7
			小計	3	92	95
Mechanical Engineering Letters https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mel	11	0		0	4	4
	12	0		0	1	1
			小計	0	5	5
Journal of Fluid Science and Technology https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jfst	20	1	2025/3/11 - 随時公開	0	11	11
	20	2	2025/8/8 - 随時公開	0	6	6
	21	1	2026/1/22 - 随時公開	0	3	3
			小計	0	20	20
Journal of Thermal Science and Technology https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jtst	20	1	2025/3/19 - 随時公開	0	12	12
	20	2	2025/7/4 - 随時公開	0	14	14
	21	1	2026/1/6 一斉公開	1	15	16
	21	2	2026/2/9 - 随時公開	0	4	4
			小計	1	45	46
Journal of Biomechanical Science and Engineering http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jbse	20	2	2025/3/11 一斉公開	0	5	5
	20	3	2025/7/24 一斉公開	0	5	5
	20	4	2025/12/22 一斉公開	0	5	5
	21	1	2026/2/17 一斉公開	0	5	5
			小計	0	20	20
Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jamdsm	19	1	2025/3/11 - 随時公開	0	6	6
	19	2	2025/4/2 - 随時公開	0	11	11
	19	3	2025/7/1 - 随時公開	0	5	5
	19	4	2025/10/1 - 随時公開	0	18	18
	20	1	2026/1/15 - 随時公開	0	3	3
			小計	0	43	43
			総合計	8	377	385

2・6 表彰事業

1. 日本機械学会賞(技術功績)4件, 同(論文)16件, 同(技術)6件, 日本機械学会奨励賞(研究)19件, 同(技術)8件, 日本機械学会教育賞2件を決定した。(別掲)
2. 日本機械学会イノベーション表彰3件を決定した。(別掲)
3. 日本機械学会畠山賞(2025年度)受賞者として341名を決定した。
4. 日本機械学会三浦賞(2025年度)受賞者として226名を決定した。
5. 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞121件を決定した。
6. 日本機械学会標準事業表彰(2025年度)受賞者として5名を決定した。
7. 日本機械学会女性未来賞(2025年度)受賞者として6名を決定した。
8. 日本機械学会優秀技術者表彰63件を決定した。
9. 文部科学大臣表彰若手科学者賞候補11件、FA財団論文賞候補3件、油空圧機器技術振興財団論文賞候補1件、工作機械技術振興財団論文賞候補4件等を推薦した。

3. 本部特別事業に係る事項

3・1 2024年度（第102期）定時社員総会・付随行事

行事	開催日	会場	参加者数
定時社員総会 付随行事「サステナビリティ・トランスフォーメーションに貢献する機械工学」	2025. 4. 24	明治記念館 (オンライン併用)	253 253

2025年3月7日

正員諸君

東京都新宿区新小川町4番1号
一般社団法人日本機械学会
会長 山本 誠

一般社団法人日本機械学会 2024年度（第102期）定時社員総会招集ご通知

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、本会2024年度（第102期）定時社員総会を下記により開催致しますので、お繰り合わせご出席願いたく、この段ご通知申し上げます。

敬具

記

◇ 定時社員総会
日 時 2025年4月24日（木）15時30分～17時50分
会 場 明治記念館（〒107-8507 東京都港区元赤坂2丁目2-23）

議 案

1. 2024年度(第102期)事業報告の件	5. 2025年度(第103期)事業予算の件
2. 2024年度(第102期)会計報告の件	6. 常勤理事報酬の件
3. 名誉員推薦の件	7. 2025年度(第103期)理事、監事選出の件
4. 2025年度(第103期)事業計画の件	

挨拶 新旧会長
表彰 1. 名誉員推薦状および名誉員章の贈呈
2. 日本機械学会賞、優秀製品賞の贈呈

●会員パーティ
日時 2025年4月24日（木）18時00分～19時30分
会場 明治記念館（〒107-8507 東京都港区元赤坂2丁目2-23）
会費 6,000円（税込）
●申込方法
定時社員総会および会員パーティは下記ウェブサイトからお申し込み下さい。
<https://www.jsme.or.jp/event/sokai2025/>

◇ 定時社員総会特別企画
「サステナビリティ・トランスフォーメーションに貢献する機械工学」
日 時 2025年4月24日（木） 12:30～15:30 総会同一会場、オンライン（YouTubeによるライブ配信）
定 員 対面：200名、オンライン：定員制限なし

●趣旨
今後30年間は、SDGsはもとより環境問題に対するカーボンニュートラルやグリーン・トランスフォーメーション、インフラの老朽化や防災・減災といったレジリエンス向上のためのデジタルツインの活用によるデジタルトランスフォーメーションなど、日本社会の一層の変革が求められています。機械工学は社会の基盤を支えるとともに社会を豊かにするための学問です。本特別企画では、「サステナビリティ・トランスフォーメーションに貢献する機械工学」をテーマに、機械工学が駆動するトランスフォーメーションに関わる取り組みを紹介し、日本の環境・技術・経済の変革を促進するための具体的なアプローチについて議論します。参加者がこれからの変革に対応するための知見を深める場とします。

●司会：大岩 孝彰（庶務理事）
●挨拶：山本 誠（日本機械学会 会長）
●プログラム

講演① 12:35～13:00
「防災・減災と社会レジリエンス」藤田 聡（東京電機大学 工学部 機械工学科 教授）

講演② 13:00～13:25
「エネルギーを取り巻く状況とカーボンニュートラルの実現」落合 誠（(株)東芝 総合研究所 所長）

講演③ 13:25～13:50
「サーキュラーエコノミーが変革するものづくり」梅田 靖（東京大学 大学院 工学系研究科人工物工学研究センター 教授）

講演④ 13:50～14:15
「プラスチック資源循環 DXソリューション「RaaS」(Recycle as a Service)」橋川 知彦（三菱電機(株) サステナビリティ事業推進部 リサイクル共創センター 技術営業統括）

総合質疑 14:20～15:00 モデレータ 小木曾 望（大阪公立大学 大学院 工学研究科 航空宇宙工学分野 教授）

●申込方法
下記ウェブサイトからお申し込み下さい。
<https://www.jsme.or.jp/event/sokai-sp2025/>

4. 本部事業に係る事項

4・1 JABEE事業委員会

委員長 山田 貴博 他31名, 開催2回

- JABEEより認定・審査事業を受託した。・機械及び関連の工学分野／機械および機械関連分野：継続・中間審査・工学（融合複合・新領域）関連分野：中間審査
- JABEE機械関連分野分野別委員会（機械及び関連の工学分野のJABEE認定・審査活動全般について討議する）および分野別審査委員会（当該年度に行われる機械及び関連の工学分野の審査について討議する）を組織した。
- JABEE機械関連分野 分野別審査委員会の運営、工学（融合複合・新領域）関連分野への委員派遣を通じ、技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
- JABEE理事会、認定事業委員会、基準総合調整委員会、認定・審査調整委員会、広報・啓発委員会、国際委員会、変更通知対応WG、研修部会、拡大運営会議、審査事務連絡会に委員を派遣して、JABEEの運営や改善に協力した。
- JABEEより、フェロー候補者の推薦依頼があり、JABEE事業委員会から2名を推薦した。
- 年次大会にて「2025年度JABEE新人審査委員研修フォーラム」（オンライン開催）と題して、審査員研修会を開催した。

4・2 機械状態監視資格認証事業委員会

委員長 藤原 浩幸 他15名, 開催2回

- 2025年度、振動2回およびトライボロジー分野1回の資格認証試験を実施した。

【振動】

《第1回（通計第43回）》2025年6月21日カテゴリⅠ、Ⅱ、Ⅲ 択一試験

カテゴリⅠ：申込者17名 受験者17名 合格者17名 合格率100.0%

カテゴリⅡ：申込者127名 受験者125名 合格者107名 合格率85.6%

カテゴリⅢ：申込者40名 受験者40名 合格者31名 合格率77.5%

《第2回（通計第44回）》2025年11月15日カテゴリⅠ、Ⅱ、Ⅳ 択一試験／2025年12月6日（カテゴリⅣ記述・面接試験）

カテゴリⅠ：申込者12名 受験者12名 合格者12名 合格率100.0%

カテゴリⅡ：申込者102名 受験者100名 合格者85名 合格率85.0%

カテゴリⅣ：申込者6名 受験者6名 合格者2名 合格率33.3%

事業開始からの累計は受験者数8,274名、合格者6,748名となった。

【トライボロジー】

《第1回（通計第28回）》2025年12月6日カテゴリⅠ、Ⅱ

カテゴリⅠ：申込者41名 受験者40名 合格者38名 合格率95.0%

カテゴリⅡ：申込者10名 受験者9名 合格者8名 合格率88.8%

事業開始からの累計は受験者数1,845名、合格者1,626名となった。

- 2025年度、資格認証更新手続きを行った。

【振動】

《2005年度第1回試験対象（内、3回目の更新を行った認証者を対象とする）》

カテゴリⅠ：対象者1名 申請者0名 認証者0名 更新率0.0%

カテゴリⅡ：対象者72名 申請者49名 認証者49名 更新率68.1%

カテゴリⅢ：対象者2名 申請者1名 認証者1名 更新率50.0%

《2005年度第2回試験対象（内、3回目の更新を行った認証者を対象とする）》

カテゴリⅡ：対象者51名 申請者23名 認証者23名 更新率45.1%

カテゴリⅢ：対象者6名 申請者4名 認証者4名 更新率66.7%

《2010年度第1回試験対象（内、2回目の更新を行った認証者を対象とする）》

カテゴリⅠ：対象者18名 申請者7名 認証者7名 更新率38.9%

カテゴリⅡ：対象者64名 申請者36名 認証者36名 更新率56.3%

カテゴリⅢ：対象者15名 申請者9名 認証者9名 更新率60.0%

《2010年度第2回試験対象（内、2回目の更新を行った認証者を対象とする）》

カテゴリⅠ：対象者23名 申請者10名 認証者10名 更新率43.5%

カテゴリⅡ：対象者36名 申請者20名 認証者20名 更新率55.6%

カテゴリⅢ：対象者1名 申請者0名 認証者0名 更新率0.0%

カテゴリⅣ：対象者4名 申請者3名 認証者3名 更新率75.0%

《2015年度第1回試験対象（内、1回目の更新を行った認証者を対象とする）》

カテゴリⅠ：対象者9名 申請者5名 認証者5名 更新率55.6%

カテゴリⅡ：対象者37名 申請者31名 認証者31名 更新率83.8%

カテゴリⅢ：対象者20名 申請者13名 認証者13名 更新率65.0%

《2015年度第2回試験対象（内、1回目の更新を行った認証者を対象とする）》

カテゴリⅠ：対象者7名 申請者1名 認証者1名 更新率14.3%

カテゴリⅡ：対象者81名 申請者36名 認証者36名 更新率44.4%

カテゴリⅣ：対象者4名 申請者3名 認証者3名 更新率75.0%

《2020年度第1回試験対象》

カテゴリⅢ：対象者1名 申請者0名 認証者0名 更新率0.0%

《2020年度第2回試験対象》

カテゴリⅠ：対象者2名 申請者2名 認証者2名 更新率100.0%

カテゴリⅡ：対象者84名 申請者38名 認証者38名 更新率45.2%

カテゴリⅢ：対象者19名 申請者11名 認証者11名 更新率57.9%

【トライボロジー】

《2010年度第1回試験対象》

カテゴリⅠ：対象者16名 申請者6名 認証者6名 更新率

37.5%

《2010年度第2回試験対象》

カテゴリⅠ：対象者26名 申請者8名 認証者8名 更新率30.8%

カテゴリⅡ：対象者17名 申請者11名 認証者11名 更新率64.7%

《2015年度第1回試験対象》

カテゴリⅠ：対象者15名 申請者6名 認証者6名 更新率40.0%

《2015年度第2回試験対象》

カテゴリⅠ：対象者25名 申請者8名 認証者8名 更新率32.0%

カテゴリⅡ：対象者9名 申請者5名 認証者5名 更新率55.6%

カテゴリⅢ：対象者2名 申請者2名 認証者2名 更新率100.0%

《2020年度第1回試験対象》

カテゴリⅠ：対象者15名 申請者6名 認証者6名 更新率40.0%

カテゴリⅡ：対象者6名 申請者4名 認証者4名 更新率66.7%

3. 韓国騒音振動工学会 (The Korean Society for Noise and Vibration Engineering=KSNVE) およびJSMEの資格認証についての状況報告の資料交換を行い、情報の共有がなされた。2026年度対面でのミーティングを調整中である。

4. 米国VI (Vibration Institute) の訪問は中止とした。

5. 「メンテナンス・レジリエンス2025」(於 東京ビッグサイト) に状態監視技術プラザを出展し、資格認証試験のPRやトライボロジーの啓発・普及などを行った。

6. 資格認証者の技術交流と技術力向上のためのフォローアップを目的とした「状態監視振動診断技術者コミュニティ第15回ミーティング」をウインクあいち(愛知県産業労働センター)で開催した。

4・3 計算力学技術者資格認定事業委員会

委員長 店橋 護(熱流体力学分野小委員会 委員), 副委員長 神谷恵輔(振動分野小委員会 委員長), 他19名, 開催3回

1. 1・2級認定試験を2025年11月28日(固体1級・熱流体1級・振動1級), 12月4日(熱流体2級・振動2級), 12月5日(固体2級)にCBT方式で実施した。受験者数, 認定者(合格者)数は以下のとおり。申込者総数は前年度比97.1%となった。

・固体1級(第21回): 申込者170名 受験者141名 合格者90名 合格率63.8%

・固体2級(第22回): 申込者616名 受験者538名 合格者161名 合格率29.9%

・熱流体1級(第18回): 申込者182名 受験者138名 合格者70名 合格率50.7%

・熱流体2級(第20回): 申込者368名 受験者330名 合格者195名 合格率59.1%

・振動1級(第12回): 申込者99名 受験者91名 合格30名 合格率33.0%

・振動2級(第13回): 申込者205名 受験者181名 合格者92名 合格率

50.8%

2. 初級認定(書類審査)を5月と11月に実施した。申込者数, 認定者数は以下のとおり。

・固体初級(第20回): 申込者99名 認定者66名 合格率66.7%

・熱流体初級(第20回): 申込者65名 認定者30名 合格率46.2%

・振動初級(第13回): 申込者20名 認定者8名 合格率40.0%

3. 最上位資格である上級アナリスト認定試験(一次試験:書類審査, 二次試験:面接審査)を実施した。申込者数, 認定者数は下記のとおり。

・固体上級(第17回): 申込者8名 一次合格者4名 二次合格者(認定者)4名 合格率50.0%

・熱流体上級(第17回): 申込者9名 一次合格者8名 二次合格者(認定者)8名 合格率88.9%

・振動上級(第11回): 申込者1名 一次合格者1名 二次合格者(認定者)1名 合格率100.0%

4. 事業開始からの累計は, 受験者数27,822名, 合格者数14,147名, 合格率50.8%となった。

5. 下記の標準問題集の刊行を行った。

・計算力学技術者1級(固体力学分野)標準問題集(第11版3刷)

・同 2級(固体力学分野)標準問題集(第10版6刷)

・同 1級(熱流体力学分野)標準問題集(第5版4刷)

・同 2級(熱流体力学分野)標準問題集(第7版)

・同 1級(振動分野)標準問題集(第8版)

・同 2級(振動分野)標準問題集(第5版)

6. 第17回の資格更新審査(2025年3月末にて資格の有効期限を迎える認定者を対象)を行った。認定者数は以下のとおり。また, 第18回の資格更新審査に向け, 対象者に通知を行った。

・固体上級: 対象2名 申込者2名 合格者2名 更新率100.0%

・固体1級: 対象者118名 申込者75名 合格者74名 更新率62.7%

・固体2級: 対象者114名 申込者46名 合格者46名 更新率40.4%

・固体初級: 対象者57名 申込者11名 合格者11名 更新率19.3%

・固体上級(2回目): 対象者6名 申込者6名 合格者6名 更新率100.0%

・固体1級(2回目): 対象者60名 申込者47名 合格者47名 更新率78.3%

・固体2級(2回目): 対象者37名 申込者25名 合格者25名 更新率67.6%

・固体初級(2回目): 対象者7名 申込者5名 合格者5名 更新率71.4%

・固体上級(3回目): 対象者5名 申込者5名 合格者5名 更新率100.0%

・固体1級(3回目): 対象者40名 申込者30名 合格者30名 更新率75.0%

・固体2級(3回目): 対象者15名 申込者7名 合格者7名 更新率46.7%

・固体初級(3回目): 対象者なし

- ・固体1級（4回目）： 対象者29名 申込者18名
合格者18名 更新率62.1%
 - ・固体2級（4回目）： 対象者4名 申込者2名
合格者2名 更新率50.0%
 - ・熱流体上級： 対象者7名 申込者6名 合格者6名
更新率85.7%
 - ・熱流体1級： 対象者83名 申込者57名 合格者57名
更新率68.7%
 - ・熱流体2級： 対象者122名 申込者56名 合格者56名
更新率45.9%
 - ・熱流体初級： 対象者34名 申込者8名 合格者8名
更新率23.5%
 - ・熱流体上級（2回目）： 対象者1名 申込者1名
合格者1名 更新率100.0%
 - ・熱流体1級（2回目）： 対象者20名 申込者11名
合格者11名 更新率55.0%
 - ・熱流体2級（2回目）： 対象者38名 申込者20名
合格者20名 更新率52.6%
 - ・熱流体初級（2回目）： 対象者4名 申込者4名
合格者4名 更新率100.0%
 - ・熱流体上級（3回目）： 対象者2名 申込者2名
合格者2名 更新率100.0%
 - ・熱流体1級（3回目）： 対象者13名 申込者7名
合格者7名 更新率53.8%
 - ・熱流体2級（3回目）： 対象者16名 申込者9名
合格者9名 更新率56.3%
 - ・熱流体初級（3回目）： 対象者なし
 - ・振動上級： 対象者1名 申込者1名 合格者1名
更新率100.0%
 - ・振動1級 対象者39名 申込者25名 合格者24名
更新率61.5%
 - ・振動2級 対象者82名 申込者37名 合格者37名
更新率45.1%
 - ・振動初級： 対象者6名 申込者0名 合格者0名
更新率0%
 - ・振動1級（2回目）： 対象者14名 申込者10名
合格者10名 更新率71.4%
 - ・振動2級（2回目）： 対象者28名 申込者23名
合格者23名 更新率82.1%
 - ・振動初級（2回目）： 対象者3名 申込者3名
合格者3名 更新率100.0%
7. NAFEMSのCAE技術者認定資格PSE認定取得者は5名，再認定取得者は4名となった。

4・4 産学連携事業委員会

委員長 是永 敦 他9名，開催3回

1. 現在進行中のRC分科会（RC300～306）の活動状況・内容を確認した。
2. 分科会の活動を活発化するための新規分科会の掘り起こしの検討を行った。
3. 2025年度設置申請のあった応募研究テーマ4件（継続）について審議（審査）し，4件を採択した。
4. RC297～299分科会終了に伴う取得備品寄贈処理を行った。

〔所属分科会〕

RC300 電動化時代の小形軽量歯車装置の先進技術調査研究分科会～カーボンニュートラル社会へ向けた日本の歯車産業競争力強化を目指して～
主査：藤井 正浩，幹事：田中 英一郎，成田 幸仁 他79

名，開催16回

1. 2024年4月設置
2. 以下の3つのワーキンググループ（WG）を設置し調査研究活動を実施している。
 - ・歯車装置の高回転速度化に関する調査研究：実績歯車装置の評価，設計高度化に向けた調査と動的設計解析技術の提案など（WG1）
 - ・小形軽量大減速歯車装置に関する調査研究：ピニオンの最小可能歯数とその採用時の問題点の究明，小形軽量高減速歯車機構の設計実例と運転試験の調査など（WG2）
 - ・最新技術情報の収集と分析：国際会議論文抄録集作成，最新歯車研究論文調査，最新歯車加工・計測機器の調査など（WG3）
3. 全体分科会を下記により開催
 - ・2025年4月18日（於：横浜）第4回分科会「研究活動中間報告および技術講演『歯車装置に適用可能なサステナブル技術の最新情報』」（研究活動中間報告，技術講演2件）
 - ・2025年7月18日（於：横浜）第5回分科会「技術講演『高精度歯車の高効率生産を支える最新技術動向』」（技術講演4件）
 - ・2025年10月17日（於：安城）第6回分科会「見学会」（榊アイン 安城地区，技術講演2件）
 - ・2026年1月23日（於：横浜）第7回分科会「技術講演『AI・機械学習・モデルベース推定の最新技術動向』」（基調講演1件，技術講演4件）
4. 研究者側委員会の開催
 - ・月1回の割合で開催。WGの調査研究活動状況の報告と意見交換および全体分科会の企画などについて議論。2025年3月（第12回）から2026年2月（第23回）の計12回開催。

RC301 日本の電子実装産業の復活を目指す，電子実装の信頼性と熱制御に関する研究分科会

主査：池田 徹 研究者委員22名，参加企業13社，開催10回（2025年3月～2026年1月までに，10回）

1. 2024年4月設置
2. 2025年3，4，5，6，7，9，10，11，12月，2026年1月に第10～19回分科会を開催（2025年7月と12月が対面・Webハイブリッド方式，他はWeb会議形式で開催）し，熱制御小委員会および実験・計測技術小委員会それぞれの研究を遂行するとともに，研究者の研究成果報告や外部講師による話題提供を行った。

RC302 人間の感性を活用したDX時代の生産技術に関する研究分科会

主査：井原 之敏（大阪工業大学），副主査：笹原 弘之（東京農工大学），幹事：河野 大輔（京都大学），委員42名（研究者側委員27名，企業側委員15社15名）他，研究協力委員23名，特別顧問9名，開催10回（2026年1月16日現在）

1. 分科会設置期間：2024年4月～2026年3月
2. 技術調査・交流事業および技術情報提供事業
 - (1) 第6回研究分科会（2025年3月24日）：大和歯車製作株式会社 和歌山工場において，見学会および技術講演会を開催した。大和歯車製作の津井社長より，同社の沿革，多品種少量生産を支える受注生産体制，および設備投資と需要変動を見据えた経営方針について概要説明があった。その後，株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズの城越様より，「ノンバックラッシュ減速機の技術と用途」と題した話題提供があり，歯車構造と精度設計，評価技術について紹介があった。続いて，大和歯車製作の松廣様より，「歯車の種類と製法，製造機械について」と題した話題提供が行われた。話題提供後，技術内容に関する質疑討論を実施した。その後，技術調査・交

流事業として歯車製造現場の見学を行い、加工工程、精度評価工程、および関連設備について理解を深めた。

- (2) 第7回研究分科会（2025年5月30日）：スズキ株式会社相良工場において、見学会および技術講演会を開催した。スズキ相良工場の齋藤様より、相良工場における四輪車エンジンおよび車体生産の概要、国内外の生産体制について説明があった。続いて、本郷様より「機械加工部品外観検査の自動化について」、江頭様より「鋳鉄鋳造 溶解工程ノロ取りの自動化について」と題した話題提供があり、画像計測、レーザ変位計、産業用ロボットを用いた自動化技術について紹介があった。話題提供後、外観検査の精度と検査時間のトレードオフ、鋳造工程の安全性向上などについて質疑討論を行った。その後、車体工場およびエンジン工場の見学を実施し、自動化ラインおよび検査工程について理解を深めた。
- (3) 第8回研究分科会（2025年7月30日）：シチズンマシナリー株式会社 軽井沢本社において、見学会および技術講演会を開催した。シチズンマシナリーの西村様より、同社の事業概要、主軸台移動形および固定形旋盤の製品ラインナップについて説明があった。続いて、中谷様より「自動旋盤の課題解決～LFV（低周波振動切削技術）と摩擦接合技術～」、小林様より「工作機械スピンドル研削加工自動化システム」と題した話題提供が行われ、自動化・省人化技術の開発事例が紹介された。話題提供後、生産性向上と熟練度に依存しないモノづくりに関する質疑討論を行い、その後、自律走行ロボットを活用した自動化加工工程を含む工場見学を実施した。
- (4) RC302シンポジウムおよび見学会（2025年10月2日～3日）：京都府織物・機械金属振興センターにおいて、「人間の感性を活用した先端生産技術に関するシンポジウム」を開催した。切削加工、アディティブ・マニファクチャリング、工作機械のデジタルツイン、ロボット加工・計測などに関する9件の研究発表が行われ、研究者および技術者による活発な討論がなされた。翌日には、日進製作所グループの見学会を実施し、自動化された生産ラインおよび工程間物流の自動化事例について理解を深めた。
- (5) 第9回研究分科会（2025年11月13日）：株式会社日立製作所 笠戸事業所において、見学会および技術講演会を開催した。事業所紹介の後、「日立笠戸の生産技術とDXの取り組みについて」と題した話題提供があり、鉄道車両製造における材料技術、構造設計の変遷、およびDXによる業務効率化の事例が紹介された。その後、車体加工・組立工程および歴史記念館の見学を実施し、新幹線車両を含む製造技術について理解を深めた。
- (6) 第10回研究分科会（2026年1月21日）：株式会社西島製作所において、見学会および技術講演会を開催予定。

RC303 光学計測と数値解析によるカーボンニュートラルに資する燃焼技術の高度化に関する国際協力研究分科会

主査：田中 光太郎（茨城大学）、他26名

1. 分科会設置期間 2024年4月～2026年3月

2. 研究分科会開催実績

- 2025年3月7日に第4回分科会（中間報告会）をオンラインにて開催した。研究者委員からRC303における研究の中間報告が行われ、質疑と意見交換がなされた。
- 2025年7月18日に第5回分科会をオンラインにて開催した。岡山大学の河原教授、千葉大学の森吉教授、北海道大学の大島教授、寺島准教授、下山様から、水素に関連するエンジン実験やシミュレーションに関する最新の研究成果について紹介があり、質疑と意見交換がなされた。
- 2025年10月20日に第6回分科会をオンラインにて開催した。6月にイタリアで開催された国際エネルギー機関の燃焼技術協力タスクリーダーズミーティング（IEA-TLM）の報告を行い、意見交換を行った。

- 2025年12月10日に第7回分科会を大島商船高等専門学校にてハイブリッド開催した。大島商船高等専門学校の鶴准教授からアンモニア燃焼、茨城大学の田中教授から二酸化炭素回収に関する研究成果について紹介があり、質疑と意見交換がなされた。講演会後には鶴研究室の実験設備の見学会も実施された。

RC304 熱流体工学におけるデジタルツインのための先端的計測・シミュレーション・データ科学とその産業応用に関する研究分科会

主査：長谷川 洋介 他69名、開催3回

（＋1回（2026年3月26～27日に予定））

- 2025年7月30日に第1回分科会を対面形式（東京大学・生産技術研究所、東京都）及びオンライン形式（Webexを使用）によりハイブリッド開催し、研究者委員26名による研究紹介のフラッシュトークを実施し、その後、企業参加者との個別マッチングを実施した。
- 2025年9月29～30日に第2回分科会を対面形式及びオンライン形式（Webexを使用）により岡山大学にてハイブリッド開催し、5つのテーマ（CFD、乱流制御・機械学習、流体計測、混相流、複雑流体/マイクロ・ナノ流体）に分かれて24名の研究者委員によるシーズ技術の紹介を行い、その後、研究者委員と企業参加者が上記の5つの分野に分かれて産学連携の可能性を議論した。2日目は、岡山大学の実験装置の見学を行った後、研究者委員と企業参加者による個別の技術マッチングを実施した。
- 2025年11月11～12日に第3回分科会を対面形式とオンライン形式（Webexを使用）のハイブリッド形式で神戸大学にて行った。1日目は、3つのセッションにおいて合計18名の研究者委員による共同研究の可能性のあるシーズ技術紹介を行い、各セッションではパネルディスカッションを設けることで、研究者委員と企業参加者の議論の場を提供した。2日目は、同大学大学院システム情報学研究科の教員5名による研究科紹介、および研究紹介を行った後、パネルディスカッションにおいて、各研究者が考えるデジタルツイン、およびその意義について議論した。その後、研究者委員と企業参加者との間の個別議論を行った。
- 2026年3月26～27日において、第4回分科会を対面形式とオンライン形式（Webexを使用）で九州大学にて開催予定である。1日目は、九州大学の研究設備の見学と同大学の研究者による講演を予定しており、2日目には研究者委員によるプレゼン、その後の企業参加者との討論を予定している。

RC305 カーボンニュートラルに貢献するパワートレインのトライボロジー研究分科会

主査：三田 修三、委員：40名（うち企業側委員19名、研究者側委員21名）、開催2回

2025年3月1日～2026年2月28日までに下記の研究分科会を開催した。

・第1回研究分科会：東京都市大学およびオンラインのハイブリッド開催

2025年6月26日木曜

4件の研究計画報告および研究連携に関するディスカッション

参加者：18人（オンラインを除く）

・第2回研究分科会：東京都市大学およびオンラインのハイブリッド開催

2025年8月6日水曜

4件の研究計画報告および研究連携に関するディスカッション

参加者：18人（オンラインを除く）

RC306 燃料多様化に対応するディーゼル噴霧燃焼の基礎的解析に関する研究分科会

・主査、幹事および参加委員について

主査：川那辺 洋（京都大学）
幹事：駒田 佳介（福岡工業大学）、尾形 陽一（広島大学）
委員：29名（研究者側委員12名、企業側委員13社17名）
他、研究協力者8名、学生協力者3名、顧問10名

- ・分科会について
分科会設置期間：2025年4月～2027年3月
分科会開催数：2回（2026年1月7日現在）
- ・これまでに開催された会議等と今後の開催予定
 1. 主査と研究者による会合（2025年5月1日および2日、オンライン開催）
 - ・研究委員より2年間の研究実施予定内容について報告があり、意見交換を行った。
 2. 第1回運営委員会（2025年5月7日、オンライン開催）
 - ・RC306の設置概要、応募状況および研究課題について説明があった。
 - ・2025～2026年度に関する予算案が示され、意見交換がなされた。
 - ・5月に実施された、主査と研究者による会合の内容について説明があり、分科会の実施内容について意見交換がなされた。
 - ・RC306においても基準となる共通軽油をENEOS様からご提供頂くこととなった。
 3. 1班班会議（2025年6月11日、オンライン開催）
 - ・1班の進捗状況を共有するとともに今後の方針等について意見交換を行った。
 4. 2班班会議（2025年7月2日、オンライン開催）
 - ・2班の進捗状況を共有するとともに今後の方針等について意見交換を行った。
 5. 第1回分科会（2025年7月8日、オンライン開催）
 - ・1班と2班の研究計画について説明があった。
 6. 1班班会議（2025年8月28日、オンライン開催）
 - ・1班の進捗状況を共有するとともに今後の方針等について意見交換を行った。
 7. 2班班会議（2025年9月5日、オンライン開催）
 - ・2班の進捗状況を共有するとともに今後の方針等について意見交換を行った。
 8. 第2回分科会（2025年10月2日および3日、対面（京都大学 東京オフィス）とオンラインのハイブリッド開催）
 - ・1班と2班の研究計画および各研究者委員の研究進捗状況について報告があった。
 - ・以下の話題提供を行った。
話題提供：ディーゼル燃焼を描く～非定常・不均一現象のモデリング～
川那辺 洋 先生（京都大学）
 9. 第2回運営委員会（2025年10月3日、対面（京都大学 東京オフィス）とオンラインのハイブリッド開催）
 - ・参加される企業が1社増え、またRC299からの繰越金が確定したため、2025～2026年度に関する予算修正案が示された。
 - ・第3回分科会の開催会場および話題提供について意見交換があった。
 10. 第3回分科会を2026年3月24日および25日に対面（京都大学 東京オフィス）およびオンラインのハイブリッドにて開催予定。

4・5 発電用設備規格委員会

委員長 委員長 笠原 直人（2026年1月迄）、松永 圭司（2026年2月から）他27名、開催4回

1. 「発電用原子力設備規格 加圧水型原子力発電所 配管減肉管理に関する技術規格」2025年版について公衆審査を終了し、原案の審議を終了した。
2. 「発電用原子力設備規格 沸騰水型原子力発電所 配管減

肉管理に関する技術規格」2025年版について公衆審査を終了し、原案の審議を終了した。

3. 「発電用原子力設備規格 維持規格 事例規格 NA-CC-017 オーステナイト系ステンレス鋼のPWR一次系水質環境中のSCC亀裂進展速度」改定0について公衆審査を終了し、原案の審議を終了した。
4. 「発電用設備規格 金属材料各種推奨試験方法」2025年版について書面投票及び公衆審査を終了し、原案の審議を終了した。
5. 「発電用原子力設備規格 高速炉溶接規格」2025年版について書面投票及び公衆審査を終了し、原案の審議を終了した。
6. 「発電用原子力設備規格 竜巻飛来物の衝撃荷重による構造物の構造健全性評価手法ガイドライン」について書面投票を実施し、公衆審査を開始した。
7. 「発電用火力設備規格 基本規定」について書面投票を実施し、公衆審査を開始した。
8. 「発電用火力設備規格 詳細規定<材料、ボイラ、圧力容器、配管><非破壊検査、溶接施工法、溶接技量>及び事例規格 発電用火力設備における熱交換器用継目無ニッケル基耐熱合金管 J CC141TB」について書面投票を実施し、公衆審査を開始した。
9. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格<第II編 高速炉規格>」について書面投票を実施し、公衆審査を開始した。
10. 「発電用原子力設備規格 液体貯蔵タンク動的弾塑性座屈解析手法ガイドライン」について書面投票及び原案の審議を行い、公衆審査準備中である。
11. 「発電用原子力設備規格 維持規格」2026年版について改定案審議を継続中である。
12. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格<第I編 軽水炉規格>」2026年版について改定案審議を継続中である。
13. 「発電用原子力設備規格 溶接規格」2026年版について改定案審議を継続中である。
14. 「発電用原子力設備規格 材料規格」2026年版について改定案審議を継続中である。
15. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格<第II編 高速炉規格>事例規格 緩和クリープ損傷係数D*及びD**の算定に関する代替規定及び長期一次応力が低い場合の規定」2026年版について改定案審議を継続中である。
16. 「核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格」2026年版について改定案審議を継続中である。
17. 日本原子力学会、日本電気協会と構成する原子力関連学協会規格類協議会に参画し、ステートメント改定、原子力規制庁技術評価への希望対象等に関して意見交換、問題点の共有に努めている。
18. 設計・建設規格、材料規格、溶接規格の各2020年版及び事例規格「応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮（NC-CC-002-2）」の4規格を対象とした原子力規制庁による技術評価に対し、原子力規制庁によるパブコメへの意見提出を行った。その後原子力規制庁による技術評価書公開並びに技術基準規則解釈への取り込み（エンドース）が完了したことを受け、今後各規格への反映等を実施予定である。
19. 笠原委員長長の任期満了に伴って、次期委員長長の選任投票を実施し、松永副委員長が新委員長に選任された。

[原子力専門委員会：委員長 高屋 茂 他24名、開催4回]

1. 「発電用原子力設備規格 維持規格」2026年版について立案・審議を行い、発電用設備規格委員会の審議に対応した。
2. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格<第I編 軽水炉規格>」2026年版について立案・審議を行い、発電用設備規格委員会の審議に対応した。
3. 「発電用原子力設備規格 溶接規格」2026年版について立案・審議を行い、発電用設備規格委員会の審議に対応した。
4. 「発電用原子力設備規格 材料規格」2026年版について立案・審議を行い、発電用設備規格委員会の審議に対応した。
5. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格<第II編 高速炉規格>事例規格 緩和クリープ損傷係数D*及びD**の算定に関する代替規定及び長期一次応力が低い場合の規定」

2026年版について立案・審議を行い、発電用設備規格委員会の審議に対応した。

6. 設計・建設規格、溶接規格、材料規格の各2020年版及び事例規格「応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮（NC-CC-002-2）」の4規格を対象とした原子力規制庁による技術評価に対し、原子力規制庁によるパブコメへの意見提出を行った。その後原子力規制庁による技術評価書公開並びに技術基準規則解釈への取り込み（エンドース）が完了したことを受け、今後各規格への反映等を実施予定である。
7. 高屋委員長の任期満了に伴って、次期委員長専任投票を実施し、高屋委員長が次期委員長に再任された。

[火力専門委員会：委員長 飯田 英男 他 15 名、開催 4 回]

1. 発電用火力設備規格 基本規定及び詳細規定（新材料JCC141TBの事例規格含む）の改定案について、発電用設備規格委員会の審議及び公衆審査への対応を実施した。
2. 飯田委員長の任期満了に伴って、次期委員長専任投票を実施し、飯田委員長が次期委員長に再任された。

[核融合専門委員会：委員長 中平 昌隆 他 15 名、開催 4 回]

1. 「核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格」の改定案について、材料専門委員会への意見伺い、発電用設備規格

委員会の審議への対応を実施した。

2. トカマク型核融合原型炉の設計・建設・運転における構造健全性を確保するシステムの確立を目指し、核融合炉構造規格（トカマク規格）の策定を進めるため、金属構造物分科会に「トカマク規格作業会」を設置して検討を進めている。
3. ASMEとのトカマク規格開発の協力を推進するため、理事会承認を経て、ASMEとの協定を締結した。

[材料専門委員会：委員長 西井 俊明 他 18 名、開催 4 回]

1. 火力専門委員会から依頼された「発電ボイラー用ステンレス鋼管のクリープ強度評価」について検討を行い、回答案について書面投票後、回答を実施した。
2. 火力専門委員会から依頼された「Alloy263の材料仕様と許容応力値の策定」について検討を行い、回答案について書面投票後、回答を実施した。
3. 核融合専門委員会から依頼された「超伝導マグネット構造規格改定案の材料に関わる事項」について検討を行い、回答案について書面投票後、回答を実施した。
4. 火力専門委員会から依頼された「火SCMV28系鋼の許容値等の見直し結果に関する技術的妥当性」について検討を行い、回答案について書面投票後、回答を実施した。

5. 会誌事業に係る事項

5・1 定期刊行物（日本機械学会誌）

5・1 定期刊行物（日本機械学会誌）

今期に発行した日本機械学会誌は第1276号～第1287号の12冊で、次のテーマで編集した。

- 2025年3月号 特集 応用広がるモーションキャプチャ
- 4月号 特集 マテリアル分野におけるデータ駆動研究の進展
- 5月号 特集 日本の標準化対応はなぜ遅れるのかー課題と取り組み
- 6月号 特集 母国語で学術論文を書く意義
- 7月号 特集 Additive Manufacturing 技術の動向と技術者の意識
- 8月号 特集 チタンを中心とするhcp金属の機能と性能の発現と向上
- 9月号 特集 逆問題解析研究を振り返る
- 10月号 特集 次世代デジタルインフラの構築
- 11月号 特集 非破壊検査の最近の動向ー日本非破壊検査協会との協議締結に際してー
- 12月号 特集 World Robot Summit 2025過酷環境 F-REIチャレンジ
- 2026年1月号 特集 DEI宣言
- 2月号 特集 水素社会の光と影

本文449ページ、会告71ページ、広告21ページ、総ページ630ページである詳細は表1参照。

5・2 広報・情報部会（会誌関連）

部会長 谷川民生（広報情報理事）、開催1回

編集会議 Editor 小澤 守 ほか2名、開催12回

1. 日本機械学会誌を発行した（詳細5・1参照）。
2. 2026年3月号～2026年8月号の企画テーマを決定した。

表1 日本機械学会誌

(数値はページ数)

号	項目	記事 〔()内は編数〕		会報	その他	小計	会告	広告	総ページ数
No. 1276	3月号	46	(18)	6	2	54	4	2	60
No. 1277	4月号	40	(13)	4	2	46	9	1	56
No. 1278	5月号	28	(11)	19	2	49	5	2	56
No. 1279	6月号	35	(15)	3	2	40	6	2	48
No. 1280	7月号	33	(14)	3	2	38	7	3	48
No. 1281	8月号	38	(13)	9	2	49	6	1	56
No. 1282	9月号	45	(12)	2	2	49	6	1	56
No. 1283	10月号	38	(15)	3	2	43	5	2	50
No. 1284	11月号	42	(15)	2	2	46	6	4	56
No. 1285	12月号	32	(12)	4	2	38	9	1	48
No. 1286	1月号	28	(11)	5	2	35	4	1	40
No. 1287	2月号	44	(13)	5	2	51	4	1	56
計		449	(162)	65	24	538	71	21	630
前年度合計		453	(158)	30	24	507	77	30	614

6. 出版事業に係る事項

6・1 学術誌編修部会

学術誌編修部会：部会長 大橋俊朗（編修理事），他25名，開催1回

1. 日本機械学会学術誌／Bulletin of JSME の7誌を科学技術振興機構（JST）が運営するWebサイト「J-STAGE」にて電子版としてオープンアクセスにて公開した。（詳細2・5参照）

2. 日本機械学会論文集／Transactions of the JSME (in Japanese)：編修委員長 増田 新

毎月25日に公開。「材料力学，機械材料，材料加工」、「流体力学，流体機械」、「熱工学，内燃機関，動力エネルギーシステム」、「機械力学，計測，自動制御，ロボティクス，メカトロニクス」、「マイクロ・ナノ工学」、「計算力学」、「設計，機素・潤滑，情報・知能，製造，システム」、「生体工学，医工学，スポーツ工学，人間工学」、「環境工学，産業・化学機械，システム安全」、「交通・物流」、「宇宙工学」、「法工学，技術史，工学教育，経営工学など」の12カテゴリにて編修作業を行った。今期の投稿数は258件，掲載数は156編であった。

3. Mechanical Engineering Journal (MEJ)：編修委員長 浅野等

偶数月（隔月）15日に公開。Solid Mechanics and Materials Engineering; Fluids Engineering; Thermal, Engine and Power Engineering; Dynamics & Control, Robotics & Mechatronics; Micro/Nano Science and Technology; Computational Mechanics; Design, Machine Element & Tribology, Information & Intelligent Technology, Manufacturing, and Systems; Bio, Medical, Sports and Human Engineering; Environmental and Process Engineering, Safety; Transportation and Logistics; Space Engineering; and Law, History, Education and Management Engineeringの12カテゴリにて編修作業を行った。今期の投稿数は171件，掲載数は95編であった。

4. Mechanical Engineering Letters (MEL)：編修委員長 牛田多加志

随時公開。今期の投稿数は10件，掲載数は5編であった。

5. Journal of Fluid Science and Technology (JFST)：編修委員長 坪倉誠

随時公開。今期の投稿数は28件，掲載数は20編であった。

6. Journal of Thermal Science and Technology (JTST)：編修委員長 小宮 敦樹

随時公開。今期の投稿数は59件，掲載数は46編であった。

7. Journal of Biomechanical Science and Engineering (JBSE)：編修委員長 石川拓司

今期の投稿数は40件，掲載数は20編であった。

8. Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing (JAMDSM)：

Machine Design and Tribology Division編修委員長 佐々木大輔

Design and Systems Division編修委員長 木下 裕介

Manufacturing and Machine Tool Division編修委員長 中本圭一

Manufacturing Systems Division編修委員長 伊藤照明
Information, Intelligence and Precision Equipments

Division編修委員長 五十嵐 洋

随時公開。今期の投稿数は206件，掲載数は43編であった。

6・2 出版センター

6・2・1 出版事業

出版センター：センター長 熊野寛之 他21名，開催2回

1. 直営出版物「JSMEやさしいテキストシリーズ 基礎からの制御工学」等計15点を発行した。詳細は，(a) 新刊の一覧を参照。

2. 既刊出版物6点を重版した。詳細は，(b) 重版の一覧を参照。

3. 新たな出版企画を承認した。

i) 新規直営出版関係

なし

ii) 発電用規格関係

・発電用原子力設備規格 維持規格（2024年版）

・発電用原子力設備規格 沸騰水型原子力発電所配管減肉管理に関する技術規格（2025年版）

・発電用原子力設備規格 加圧水型原子力発電所配管減肉管理に関する技術規格（2025年版）

・発電用原子力設備規格 環境疲労評価手法（2022年版）

・発電用原子力設備規格 材料規格（2024年版）

・発電用原子力設備規格 設計・建設規格<第I編軽水炉規格>2024年版

・発電用原子力設備規格 溶接規格（2024年版）

4. 検討事項

i) 情報の事業化委員会で電子出版等を含めた今後の発行形態について検討した。

ii) 既刊出版物における物価上昇等を考慮した販売価格変更について検討した。

6・2・2 その他の出版物（委託販売など）

・鉄道車両のダイナミクスとモデリング（増補改訂）出版分科会：主査 宮本岳史 他6名

1. 2023年11月設置。

2. 2025年7月第7回出版分科会を開催した。

・JSMEやさしいテキストシリーズ出版分科会：主査 荒井政大 他5名

1. 2021年1月設置。

・磁気浮上と磁気軸受の制御学：主査 小森望充 他7名

1. 2024年4月設置。

2. 2026年9月発行

6・2・3 その他の出版物（委託出版など）

委託出版等の発刊はなかった。

(a) 新刊

書籍名	判型・ページ・印刷部数	発行年月
磁気浮上と磁気軸受の基礎と応用	A5判/254頁/電子版	2025年9月
JSMEやさしいテキストシリーズ 基礎からの制御工学	A5判/256頁/2,000部	2026年1月
JSMEやさしいテキストシリーズ 基礎からの熱力学	A5判/254頁/2,000部	2026年1月
発電用原子力設備規格 高速炉機器の信頼性評価ガイドライン (2022年版)	A4判/約130頁/	2025年3月
発電用原子力設備規格 コンクリート製原子炉格納容器規格 (2022年版)	A4判/バインダー綴じ/約370頁/30部	2025年3月
発電用設備規格関連の材料事象に関する解説 (2024年版)	A4判/並製/94頁/20部/10部	2025年3月
使用済燃料貯蔵施設規格 金属キャスク構造規格 (2023年版)	A4判/バインダー綴じ/約570頁/30部	2025年9月
発電用原子力設備規格 材料規格 (2024年版)	A4判/バインダー綴じ/336頁/50部	2025年9月
発電用原子力設備規格 維持規格 (2024年版)	A4判/バインダー綴じ/約1535頁/20部	2025年10月
発電用原子力設備規格 環境疲労評価手法 (2022年版)	A4判/並製/英語版付/約260頁/20部	2025年10月
発電用原子力設備規格 加圧水型原子力発電所 配管減肉管理に関する技術規格 (2025年版)	A4判/並製/約105頁/20部	2025年10月
発電用原子力設備規格 沸騰水型原子力発電所 配管減肉管理に関する技術規格 (2025年版)	A4判/並製/約220頁/20部	2025年10月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (2024年版) <第I編軽水炉規格>	A4判/バインダー綴じ/約1,650頁/50部	2025年11月
発電用原子力設備規格 溶接規格 (2024年版)	A4判/バインダー綴じ/約700頁/50部	2025年12月
発電用原子力設備規格 静的機器に対する目標信頼性設定と適合性評価のためのガイドライン (2023年版)	A4判/並製/約90頁/20部	2026年1月

(b) 重版

書籍名	刷数	印刷部数	発行年月
JSMEテキストシリーズ 機械工学のための数学	第2版2刷	1,500	2025年3月
発電用原子力設備規格 溶接規格 (2012年版) 【携帯版】	3	50	2025年3月
1999蒸気表 (CD-ROM, 3線図付き)	5	100	2025年7月
転位歯車 JIS記号による新版	6	100	2025年8月
機械工学便覧 DVD-ROM版	5	2500	2025年10月
流体の熱物性値集	13	50	2025年12月

7. 部門事業に係る事項

7・1 部門協議会

(部門・研究会・分科会・専門会議・新分野推進会議)

部門協議会：議長 中西義孝（企画理事）他28名，開催3回
今期，審議・協議・報告を行った主な事項は以下の通りである。

1. 今期の取り組み方針について説明を行った。
2. 意見発表の取り扱いについて，組織長の責任のもと理事会報告後に組織長名で発表できるように変更を行い，積極的な発信の依頼がなされた。
3. イベントにおける熱中症対策の義務化に伴い，対応協力が呼びかけられた。
4. 部門評価総括年度につき，重点活動報告および共催報告の提出依頼がされた。
5. 部門長および部門運営委員の任期について規定の変更を行ったことが報告された。
6. 2025年度予算書案及び事業計画案作成について依頼がされた。
7. 2025年度の予算書案と事業計画書案の提出依頼がされた。
8. 機械工学振興事業資金「若手会員育成事業」の新設があり，積極的な応募が呼びかけられた。

7・1・1 部門事業報告

各部門で実施された集会事業は別ページに記載のとおりであるが，集会事業以外で各部門の活動特記事項は次の通りである。

1. 計算力学部門：

部門長 和田義孝 他49名，運営委員会開催 2回

1. 総務委員会，広報委員会，表彰委員会，新学術誌編修担当委員会，計算力学講演会実行委員会（2025年度および2026年度），年次大会担当委員会（2025年度および2026年度），若手シンポジウム担当委員会，日韓シンポジウム担当委員会，最適化シンポジウム委員会，部門間交流担当委員会，固体2級対策講習会担当委員会，産官学連携推進委員会，計算力学教育技術委員会を構成し部門運営にあたった。
2. 部門賞として功績賞1名および業績賞3名の表彰を行った。第38回計算力学講演会の講演者から優秀講演表彰6名，優秀技術講演表彰3名，若手優秀講演フェロー賞7名を表彰した。また，部門より日本機械学会賞（論文）2編，学会奨励賞（研究）に1名を推薦した。
3. フェロー候補者を2名推薦した。
4. ニュースレターNo. 73，No. 74を発行した。
5. 研究会7件の活動を継続した。
6. 部門間交流事業として，材料力学部門，機械材料・材料加工部門と合同で「人工知能・機械学習と信頼性工学への応用最前線」～機械材料・材料加工のシミュレーション・計測と力学 第5回～を開催した。
7. 国際交流事業として，韓国機械学会（KSME）と共同で「日韓合同シンポジウム」（KSME-JSME Joint Symposium on Computational Mechanics & CAE 2025）を開催した。
8. 2025年度年次大会において，他部門と合同で7件のオーガナイズドセッションを企画した。
9. 「第68回理論応用力学講演会」の企画に協力した。
10. 技術者資格の認定事業として，「計算力学技術者2級（固体力学分野の有限要素法解析技術者）認定試験対策講習会」を1回，さらに流体工学部門・熱工学部門と合同で「計算力学技術者2級（熱流体力学分野の解析技術者）認定試験対

策講習会」を平日コースと休日コースの2回，それぞれ開催した。

11. 新学術誌事業への積極的な協力を行い，2025年3月～12月の期間に計算力学カテゴリに投稿された論文に対し，MEJ 6件（内6件掲載），MEL 1件（内1件掲載），和文誌 6件（内4件掲載）の審査を行った。

[所属研究会]

A-TS 01-09 逆問題解析手法研究会

主査：天谷賢治 開催：0回

A-TS 01-15 マルチスケール計算固体力学研究会

主査：下川智嗣 開催：5回

A-TS 01-19 電磁流体解析関連技術研究会

主査：田上大助 開催：5回

A-TS 01-25 設計情報駆動研究会

主査：千葉一永 開催：0回

A-TS 01-28 設計と運用に活かすデータ同化研究会

主査：大林 茂 開催：0回

A-TS 01-29 数理から知的活動に繋げる代替モデリング研究会

主査：下山幸治 開催：2回

A-TS 01-30 ものづくりデジタルツイン研究会

主査：松尾裕一 開催：3回

2. バイオエンジニアリング部門：

部門長 中村匡徳 他31名，運営委員会開催 3回，拡大幹事会開催 1回

1. ジャーナル編集委員会を廃止し，総務，企画，広報，渉外，若手による次世代戦略委員会，各講演会組織の各委員会を設置し，部門運営にあたった。
2. 英文ジャーナル“Journal of Biomechanical Science and Engineering (JBSE)”，Volume 20, Issue 1~4を発行し，20編の論文を掲載した。
3. 英文ジャーナルのJBSE Papers of the Yearを3件，およびGraphics of the Yearを3件，審査により決定した。
4. 部門ニュースレターNo. 54を電子発行した。
5. 副部門長選挙を，昨年同様，電子的な方法（オンライン投票システム）にて行った。
6. 2025年度年次大会に関して，部門単独で2件，部門合同でオーガナイズドセッション6件（マイクロ・ナノ工学，流体工学，機械力学・計測制御，ロボティクス・メカトロニクス，スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス，材料力学，機械材料・材料加工，熱工学），市民フォーラム1件（ロボティクス・メカトロニクス，基礎潤滑設計，機械力学，計測制御と合同企画），ワークショップ1件（医工学テクノロジー推進会議，日本循環器学会他と共催），先端技術フォーラム3件（材料力学，マイクロ・ナノ工学，スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス，国際スポーツ工学協会と共催）を企画，実施した。
7. 日本臨床バイオメカニクス学会，日本循環器学会とのジョイントシンポジウムを企画，実施した。
8. 若手研究者の活躍の場が広がるよう，下記の活動を行った。
 - ・バイオエンジニアリングに携わる若手の研究者と技術者，学生間の交流を促進するため，部門独自の若手の会「出藍会」を運営した。
 - ・計4回のオンラインセミナー（他学会の講師による講演など）を企画して最新の研究に触れる機会をつくった。
9. 部門賞として，功績賞，業績賞，瀬口賞，フェロー賞の受賞者を選考し，来年度の第38回バイオエンジニアリング講

演会にて表彰する予定。

〔所属研究会〕

A-TS 02-04 制御と情報—生体への応用—研究会

主査：太田信 開催：1回

A-TS 02-07 生体機能の解明とその応用に関する研究会

主査：中村匡徳 開催：3回

A-TS 02-09 生物機械システム研究会

主査：出口真次 開催：1回

A-TS 02-13 傷害バイオメカニクス研究会

主査：松井靖浩 開催：1回

A-TS 02-15 頭部外傷症例解析研究会

主査：中橋浩康 開催：2回

A-TS 02-16 脳神経血管内治療に関する医工学連携研究会

主査：太田信 開催：2回

3. 材料力学部門

部門長 植松美彦 他51名、運営委員会開催4回（2025年3月開催分を含む）

1. 運営委員会幹事会、総務委員会、広報委員会、表彰委員会、講習会委員会、カンファレンス実行委員会、シンポジウム実行委員会、国際交流委員会（ATEM）、破壊と強度に関する環太平洋国際会議（APCFS）委員会、年次大会対応委員会、論文編修委員会を設置し、部門運営にあたった。
2. M&M2025材料力学カンファレンスを熊本城ホールにて開催した。
3. M&M2025材料カンファレンスのオーガナイズドセッションのうち1件と特別講演を、宇宙工学部門との学会分野連携企画として開催した。
4. 機械材料・材料加工部門と部門連携検討ワーキンググループを設置し、M&M2026材料力学カンファレンスのコロケーション開催に向けた準備に着手した。
5. M&M2027についても機械材料・材料加工部門とのコロケーション開催をする準備に着手し、運営委員会の委員長を選出した。
6. M&M・CMD若手シンポジウム2025を計算力学部門と合同開催した。
7. 年次大会にて、部門横断オーガナイズドセッション8件、ワークショップ1件を企画、実施した。
8. 年次大会にて、連携分科会の一般公開イベントであるパネルディスカッションに部門として参加した。
9. 材料力学に関する講習会5件を企画、実施した。
10. 2件の部門所属研究分科会活動を行った。
 - ・P-SCD420 hcp金属の機能・性能の発現と向上に関する研究分科会（継続）
 - ・P-SCD423 材料力学が拓く形状記憶特性とその応用分野に関する分科会（新規）
11. 4件の部門所属研究会活動を行った。
 - ・A-TS 03-14 実験力学先端技術研究会（継続）
 - ・A-TS 03-28 材料力学における異分野融合に関する研究会（継続）
 - ・A-TS 03-29 ゴムの材料力学に関する研究会（継続）
 - ・A-TS 03-31 機能材料と構造の力学研究会（継続）
12. 日本機械学会学術誌カテゴリ「材料力学、機械材料、材料加工」を機械材料・材料加工部門と合同で運営した。
13. ニュースレターNo. 69, 70, 71, 72, 73を発行した（73は2月発行）。2か月に一度の発行を基本とし、部門登録会員へタイムリーに情報を発信した。
14. 令和8年度文部科学大臣表彰「若手科学者賞」候補1件を推薦した。

15. 2025年度の日本機械学会賞（論文）5件、日本機械学会賞奨励賞（技術）4件を推薦した。
16. 2025年度の部門賞として、功績賞1名、業績賞2名、貢献賞1名を審査の結果、表彰した。
17. 2025年度の部門一般表彰として、優秀技術表彰1件、国際交流1名を審査の結果、表彰した。
18. 代表会員候補適任者を4名推薦した。
19. 次期副部門長選挙要領における年齢制限の改訂を行った。
20. 2025年度のフェロー候補者2名を部門推薦した。
21. 部門HPの情報を更新し、充実を図った。

〔所属研究会〕

A-TS 03-14 実験力学先端技術研究会

主査：足立忠晴 開催：4回

A-TS 03-28 材料力学における異分野融合に関する研究会

主査：渡辺圭子 開催：0回

A-TS 03-29 ゴムの材料力学に関する研究会

主査：井上裕嗣 開催：3回

A-TS 03-31 機能材料と構造の力学研究会

主査：成田史生 開催：2回

4. 機械材料・材料加工部門

部門長 赤坂大樹 他31名、運営委員会開催6回

1. 総務委員会、広報委員会、第1～8技術委員会を構成し部門運営・行事・学術誌対応等にあたった。
2. 2024年度部門賞、部門一般表彰、若手優秀講演フェロー賞の贈賞をした。年次大会にて贈賞式を行い、表彰状および記念品を贈呈した。
3. 2025年度部門賞、部門一般表彰、若手優秀講演フェロー賞の受賞者の選出を行った。
4. ニュースレターNo. 69, No. 70を発行した。
5. フェロー候補者を2名推薦した。
6. 研究会2件が活動中である。高エネルギービーム加工・改質技術研究会を本部門で新たに立ち上げた。更に部門内でのニーズ・シーズ調査を行い、今後社会に求められる研究会の立ち上げを検討している。
7. 国際会議「2nd JSME International Conference on Materials & Processing, ICM&P2025」を、Hilton HOTELS & RESORTS Guam（米領、グアム島）にて開催した。200名以上の日本から参加した。
8. 2025年度年次大会では部門が関連した11件のオーガナイズドセッションのうち8件は他部門とのジョイントセッションにて行い、先端技術フォーラム2件、基調講演1件を企画・実施した。
9. 講習会7件のうち2件をオンライン開催にて、5件をハイブリッド開催にて企画・実施した。講習会の内、1件は材料力学部門主催で計算力学部門との合同開催、1件は機素潤滑設計部門主催で合同開催した。2026年度も引き続き合同で開催予定である。
10. 交流を目的としたM&Pサロン（第51-55回）5件をオンラインもしくはハイブリッド開催にて企画・実施した。
11. 2026年度の部門講演会を材料力学（M&M）部門主催の材料力学カンファレンスとコロケーション開催（同会期、同会場開催）とし、準備を進めた。2027年度も引き続き合同で開催予定で、M&M部門と協議を進めている。

〔所属研究会〕

A-TS 04-13 高分子基複合材料の成形加工に関する研究会

主査：小林訓史 開催：4回

A-TS 04-15 ナノカーボン複合材料の高性能化に関する研究会

主査：川田宏之 開催：0回

A-TS 04-16 高エネルギービーム加工・改質技術応用研究会

主査：青野祐子 開催：1回

5. 流体工学部門

部門長 深淵康二 他32名, 運営委員会開催, 委員長・幹事会開催6回

1. 委員長・幹事会(6回)を対面とオンラインのハイブリッドで開催した。また、総務、広報、技術委員会(講演会、講習会、学術表彰WG、企業連携活性化WG)の各委員会を設置し、部門運営にあたった。
2. 部門賞5名, 一般表彰8名を表彰した。
3. ニュースレター2025年3月号, 2025年12月号を発行した。
4. 部門HP「楽しい流れの実験教室」に新たな動画コンテンツを29件掲載した。
5. 分科会1件を新たに設置した。研究会は9件が活動中である。

〔所属研究会〕

A-TS 05-02 流力騒音研究会

主査：梶昭次郎 開催：1回

A-TS 05-09 北海道地区流体工学研究会

主査：寺島洋史 開催：2回

A-TS 05-13 九州地区流体工学研究会

主査：梶脇正樹 開催：0回

A-TS 05-19 格子ボルツマン法の基礎と応用に関する研究会

主査：吉野 正人 開催：2回

A-TS 05-20 北陸地区流体工学研究会

主査：木綿隆弘 開催：2回

A-TS 05-22 複雑流体研究会

主査：玉野真司 開催：1回

A-TS 05-23 噴流, 後流, 及びはく離流れ研究会

主査：梶脇正樹 開催：一回

A-TS 05-24 プラズマアクチュエータ研究会

主査：西田浩之 開催：1回

A-TS 05-25 機能的流体工学研究会

主査：高奈秀匡 開催：3回

6. 熱工学部門

部門長 伏信一慶 他41名, 運営委員会開催 2回

1. 総務委員会(5回+臨時1回), 部門所属委員会(11委員会)を構成し部門運営にあたった。
2. 部門賞4名(永年功績賞1名, 研究功績賞2名, 業績賞1名), 一般表彰6名(貢献賞, 躍進研究者表彰)を表彰した。
3. ニュースレターNo. 105, No. 106, No. 107を発行した。
4. 委員会活動を円滑に遂行するために必要な経費を使用するための枠組みを継続した。
5. 部門Web ページを最新情報にすることを心掛け, 部門Webに活動状況を適宜アップロードした。
6. 部門講演会として, 熱工学コンファレンスを開催した。
7. 部門講習会として, 熱工学ワークショップを熱工学カンファレンスにおいて併催した。
8. 部門主催(流体工学部門と共催)の国際会議として, 第11回日韓熱流体工学会議(J-K TFEC11)を開催した。
9. オンラインの部門講習会として, 『伝熱工学資料(改訂第5版)』の内容を教材にした熱設計の基礎と応用を開催した。
10. 分野連携企画として, 計算力学部門, 流体工学部門と連携して, 計算力学技術者認定試験熱流体力学分野2級試験

対策講習会を計2回(休日コース, 平日コース)実施した。

11. 分野連携企画として, 計算力学部門, 流体工学部門と連携して, 機械学習×熱・流体工学の最先端講習会を実施した。

〔所属研究会〕

A-TS 06-20 相変化界面研究会

主査：永井二郎 開催：5回

7. エンジンシステム部門

部門長 川那辺 洋 他30名, 運営委員会開催 2回

1. 総務委員会, 広報委員会, 技術委員会, 学会表彰・年鑑委員会, 部門賞委員会, 講習会企画委員会, 基礎教育講習会委員会, 内燃機関シンポジウム委員会, 年次大会企画委員会, スターリングサイクル委員会, エンジンリサーチ誌編集委員会, 国際企画委員会, ロードマップ委員会, 部門将来検討委員会を設置し, 部門運営にあたった。
2. 部門賞3名(功績賞, 研究業績賞, 技術業績賞), ベストプレゼンテーション賞6名(年次大会, 内燃機関シンポジウム, スターリングサイクルシンポジウム)を表彰した。
3. ニュースレターNo. 73, No. 74(Web掲載)を発行した。
4. 技術委員会により10の研究会を組織し, 研究・調査活動を展開した。
5. International Journal of Engine Research誌を発行した。
6. 基礎教育講習会, 講習会を開催した。
7. 第11回先進エンジンシステムのモデリングと計測に関する国際会議(COMODIA2025)およびスターリングサイクルシンポジウムを開催した。

〔所属研究会〕

A-TS 07-21 エンジン先進技術の基礎と応用研究会

主査：川那辺洋 開催：2回

A-TS 07-32 西日本エンジンシステム研究会

主査：河原伸幸 開催：1回

A-TS 07-43 九州先進エンジンテクノロジー研究会

主査：北川敏明 開催：3回

A-TS 07-47 先進内燃機関セミナー研究会

主査：水嶋教文 開催：2回

A-TS 07-58 広域融合による次世代エンジンシステム研究分野の創生研究会

主査：山田浩之 開催：1回

A-TS 07-59 高効率エンジン燃焼技術の高度化研究会

主査：飯島晃良 開催：1回

A-TS 07-60 ゼロCO²エンジン研究会

主査：澤田大作 開催：2回

A-TS 07-61 次世代2ストロークエンジン技術研究会

主査：畑村耕一 開催：6回

A-TS 07-62 カーボンニュートラル達成に向けた内燃機関の高熱効率化技術を議論する研究会

主査：芹澤毅 開催：1回

A-TS 07-63 スターリングサイクル機器の性能向上・用途拡大に関する調査研究会

主査：原村嘉彦 開催：1回

8. 動力エネルギーシステム部門

部門長 梅沢 修一 副部門長 中垣 隆雄, 運営委員 33名, 部門所属委員会委員長 11名 運営委員会開催 2回

1. 総務, 広報, 部門企画, 学会企画, シンポジウム企画, 国際企画, 研究企画, 出版企画, 学会賞, 部門賞及び震災・エネルギー・インフラ臨時委員会の各委員会を設置し, 部門運営にあたった。
2. ニュースレター第79号, 第80号, 第81号を発行した。
3. 年次大会において, 基調講演2件, オーガナイズドセッション3件, 先端フォーラム1件, 及び部門同好会を実施した。特別企画, 機械・インフラの保守・保全, 信頼性強化に関する連携 分科会, パネルディスカッション『保守・保全のためのネットワーク構築を 目指して』にパネリストとして参加した。
4. 第35回セミナー&サロンと併催した部門賞贈呈式において, 部門賞(功績賞4名), 部門一般表彰(貢献表彰3件, 優秀講演表彰22名), 若手優秀講演フェロー賞(3名)を表彰した。
5. 下記, 部門所属研究会の活動を継続した。
 - ・A-TS 08-14 より高い安全を目指した最適な原子力規制に関する研究会
 また, 新規研究会・分科会の申請があり, 承認された。
 - ・部門所属研究会「SMR/MMR・革新炉研究会」: 2025年4月～活動開始。
 - ・部門所属分科会「再生可能エネルギー主力電源化を支える火力発電に関する分科会 -カーボンニュートラルトランジション期の安定供給の役割と火力発電の低炭素化-」: 2025年11月～活動開始。
6. 部門所属学会基準作成委員会「熱エネルギー利用の観点における湿り蒸気流量の指示値の補正に関するガイドライン」作成の学会基準標準原案を機械学会ホームページにて公開審査を実施し, 制定となった。
7. 分野連携分科会『機械・インフラの保守・保全, 信頼性強化に関する連携分科会』(井上主査(東京科学大))に梅沢部門長が参加し, 部門間連携を強化した。

〔所属研究会〕

- A-TS 08-14 より高い安全を目指した最適な原子力規制に関する研究会
主査: 岡本孝司 開催: 0回
- A-TS 08-16 SMR/MMR・革新炉研究会
主査: 奈良林直 開催: 0回

9. 環境工学部門

部門長 田中勝之 他32名, 運営委員会開催1回, 総務委員会開催5回

1. 総務委員会, 第1～第4技術委員会, 広報委員会, シンポジウム実行委員会, 表彰委員会, 部門組織・企画委員会, 先進サステナブル都市・ロードマップ委員会, 年鑑委員WGを構成し部門運営にあたった。先進サステナブル都市・ロードマップ委員会は環境工学ロードマップ委員会に名称を改めることとした。
2. 2024年度の表彰委員会の審査結果に基づき, 環境工学国際ワークショップ2025 (IWEE2025) / 第35回環境工学総合シンポジウム2025 (2025SEE) において部門賞4名(功績賞1名, 国際交流賞1名, 研究業績賞2名), 一般表彰4名(優秀講演論文表彰4名), 若手優秀講演フェロー賞1名を表彰した。
3. ニュースレターNo. 36を発行した。
4. 年次大会において他部門との合同オーガナイズドセッション2件を企画・実施した。また技術と社会部門と合同で市民フォーラム「新☆エネルギーコンテストって何だ?」を企画・実施した。
5. 環境工学国際ワークショップ2025 (IWEE2025) / 第35回環境工学総合シンポジウム2025 (2025SEE) を北見工業大学で開催し, 一般講演以外にPlenary Lecture1件, 招待講演3件, 広告掲載企業2社を集めた。
6. 法工学専門会議との分野連携企画「法工学・環境工学連携

セミナー」を企画, 実施した。また次年度の連携セミナーを企画し, 分野連携企画に申請した。

7. 動力エネルギーシステム部門と連携した講習会「カーボンニュートラル実現に向けた最新技術 - CO2排出ゼロの燃焼技術 -」を企画, 実施した。
8. 日本冷凍空調学会(幹事), 空気調和・衛生工学会と共催する空気調和・冷凍連合講演会を実施した。また次年度幹事学会として委員を選出し準備を進めた。
9. 日本学術会議が主催する環境工学連合講演会の幹事学会(幹事部門)を務め, 講演会を準備, 実施した。

〔所属研究会〕

- A-TS 09-02 N E E研究会
主査: 添田晴生 開催: 1回
- A-TS 09-04 「音・振動最適化技術と新しい評価法」研究会
主査: 川島豪 開催: 3回
- A-TS 09-08 サーモインフォマティクス研究会
主査: 榎木光治 開催: 1回

10. 機械力学・計測制御部門

部門長 松村雄一 他31名, 運営委員会開催 4回

1. 総務委員会, 企画委員会, 広報委員会, 表彰委員会, 国際交流委員会, 資格認定委員会, 部門技術ロードマップ委員会を構成し部門運営にあたった。
2. 出版センター委員, 会員部会委員, ロードマップ委員, 機械工学辞典電子版編集委員, 年次大会担当委員, 標準事業委員会委員を選出し, 部門の対応を検討した。
3. 部門賞および一般表彰の受賞者を決定した。
4. ニュースレターNo. 76, No. 77を発行した。
5. 8月25日～28日に琉球大学において, 部門講演会(D&D2025)を開催した。
6. 研究会1件を新たに設置した。

〔所属研究会〕

- A-TS 10-03 非線形振動研究会
主査: 黒田雅治 開催: 0回
- A-TS 10-04 ロータ・ダイナミクス・セミナー研究会
主査: 井上剛志 開催: 1回
- A-TS 10-05 F I V研究会
主査: 米澤宏一 開催: 2回
- A-TS 10-07 モード解析研究会
主査: 吉村卓也 開催: 0回
- A-TS 10-08 回転体力学研究会
主査: 安達 和彦 開催: 2回
- A-TS 10-09 運動と振動の制御研究会
主査: 渡辺亨 開催: 1回
- A-TS 10-11 北海道ダイナミクス研究会
主査: 松本大樹 開催: 0回
- A-TS 10-12 振動基礎研究会
主査: 中野寛 開催: 1回
- A-TS 10-13 振動工学データベース研究会
主査: 姉川憲永 開催: 1回
- A-TS 10-16 北陸信越動的解析・設計研究会
主査: 横山誠 開催: 0回
- A-TS 10-18 九州ダイナミクス&コントロール研究会
主査: 佐々木卓実 開催: 1回
- A-TS 10-19 減衰(ダンピング)研究会
主査: 松岡太一 開催: 0回
- A-TS 10-22 東海ダイナミクス・制御研究会

主査：松村雄一 開催：1回
 A-TS 10-25 磁気軸受標準化研究会
 主査：藤原浩幸 開催：1回
 A-TS 10-26 磁気軸受のダイナミクスと制御研究会
 主査：上野哲 開催：2回
 A-TS 10-27 シェルの振動と座屈研究会
 主査：本田真也 開催：1回
 A-TS 10-33 機械工学における力学系理論の応用に関する研究会
 主査：藪野浩司 開催：0回
 A-TS 10-34 機械工学における先端計測研究会
 主査：中野公彦 開催：0回
 A-TS 10-38 マルチボディダイナミクス研究会
 主査：椎葉太一 開催：2回
 A-TS 10-39 診断・メンテナンス技術に関する研究会
 主査：川合忠雄 開催：0回
 A-TS 10-41 耐震問題研究会
 主査：古屋治 開催：3回
 A-TS 10-42 1Dモデリング研究会
 主査：田尻明子 開催：0回
 A-TS 10-43 機械システムの状態監視マネジメント研究会
 主査：井上剛志 開催：1回
 A-TS 10-44 身体ダイナミクスの評価とモデル化に関する研究会
 主査：高橋正樹 開催：2回
 A-TS 10-45 音響信号処理研究会
 主査：貝塚勉 開催：1回

1 1. 機素潤滑設計部門

部門長 吉田和弘 他63名、運営委員会開催 3回、委員長会議 2回

1. 総務委員会、広報委員会、部門賞・学会賞推薦委員会、機械要素技術企画委員会、トライボロジー技術企画委員会、機械設計技術企画委員会、アクチュエータ・センサシステム技術企画委員会、部門講演会実行委員会を設置し、部門運営にあたった。また、年次大会部門委員会、英文ジャーナル編修委員会、新学術誌部門委員会、出版センター部門委員会、技術ロードマップ委員会、ISO・JIS・学会基準委員会、医工学テクノロジー推進会議、福祉工学協議会に担当委員を送り、学会全体の活動に協力した。
2. 第10回日韓機素潤滑設計生産国際会議 (ICMDT2025) 兼 第24回機素潤滑設計部門講演会 (兵庫県姫路市、韓国機械学会と共同開催) で以下の表彰を行った。
 - ・第102期部門賞：功績賞2名、業績賞1名
 - ・部門一般表彰 (2024年度年次大会での講演)：優秀講演3名、若手優秀講演フェロー賞2名
 - ・部門一般表彰 (第23回機素潤滑設計部門講演会での講演)：優秀講演2名、奨励講演2名、若手優秀講演フェロー賞2名
 2025年度年次大会で部門同好会を開催し、以下の表彰を行った。
 - ・卒業研究コンテスト表彰：最優秀賞6名、優秀賞9名
3. 2025年度年次大会 (北海道大学) のセッション企画、特別行事等の企画を行い、以下の①～⑦を実施した。

①卒業研究コンテスト

【S113】 第31回卒業研究コンテスト (部門単独企画、通算第31回)

セッション数：6、講演数：32件

②基調講演 (部門単独企画1件、部門幹事企画1件)

【K111】 企業と大学における研究に関する相違点と共通点について (部門単独企画)

【K112】 機械要素・ロボティクス・アクチュエータ・センシング技術の最前線 (幹事：機素潤滑設計部門)

③先端技術フォーラム (部門単独企画2件、部門幹事企画1件)

【F111】 先端技術を担う技術者育成のための機械要素技術教育 (部門単独企画)

【F112】 ロボット機構・設計の新機軸 (部門単独企画)

【F113】 QRコード発明者による開発秘話と今後の展開 (幹事：機素潤滑設計部門)

④オーガナイズセッション (3件)

【S111】 機械要素の設計・製造・応用技術

【S112】 伝動装置の基礎と応用

【S114】 機械システムにおける機構の設計と要素技術

⑤ジョイントセッション (部門幹事企画2件、合同企画8件)

【J111】 トライボロジーの基礎・応用と表面設計 (幹事：機素潤滑設計部門)

【J112】 次世代アクチュエータ・センサシステム (幹事：機素潤滑設計部門)

【J071】 持続可能な未来を支えるエンジン (幹事：エンジンシステム部門)

【J101】 耐震・免振・制振 (幹事：機械力学・計測制御部門)

【J102】 ライフサポート (幹事：機械力学・計測制御部門)

【J161】 情報・精密システムとその応用技術 (幹事：情報・知能・精密機器部門)

【J162】 マイクロナノ理工学：nmからmmまでの表面制御とその応用 (幹事：情報・知能・精密機器部門)

【J164】 人とかかわる知能機械システム (幹事：情報・知能・精密機器部門)

【J221】 マイクロ・ナノ材料創成とそのデバイス応用 (幹事：マイクロ・ナノ工学部門)

【J241】 医工学テクノロジーによる医療福祉機器開発 (幹事：医工学テクノロジー推進会議)

⑥ワークショップ (合同企画1件)

【W241】 循環器疾患の治療デバイス・治療法の進展と工学への期待 (幹事：医工学テクノロジー推進会議)

⑦市民フォーラム (合同企画1件)

【C101】 ライフサポート：身体のダイナミクスの評価とモデル化 (幹事：福祉工学協議会)

4. 第25回部門講演会 (2026年4月23日～24日、滋賀県大津市で開催予定) の実施細目を確定し、HPの公開と発表論文募集、参加登録の募集およびインフォメーションメールの発信等を行った。

5. 2026年度年次大会 (2026年9月6日～9日、東海大学で開催予定) のセッション企画、特別行事等の企画を行い、準備を進めた。

6. 2027年度開催予定の日韓機素潤滑設計生産国際会議 兼 部門講演会の準備を開始した。

7. 部門ニュースレターNo. 44を発行し、HPに掲載した。

 【所属研究会】

A-TS 11-03 中国四国機素潤滑設計技術研究会

主査：藤井正浩 開催：2回

1 2. 設計工学・システム部門

部門長 小木曾 望 他29名、運営委員会開催 2回

1. 総務委員会、技術委員会、表彰委員会、広報委員会、講演会活性化委員会、企画活動活性化委員会、学術誌編修委員

会，アドバイザーボードを継続して設置し，部門運営した。また，他部門との連携について議論した。

2. 設計工学・システム部門講演会において，部門賞2名，一般表彰9名，若手優秀講演フェロー賞3名を表彰した。
3. 部門のウェブページ上において，電子版ニューズレター No. 8, No. 69, No. 70を発行した。
4. 以下に示す4つの研究会および分科会を設置し，設計工学の普及活動と体系化に努めた。
 1. 設計研究会 (A-TS 12-05)
 2. デザイン科学研究会 (A-TS 12-12)
 3. 様々な角度からデザインを考える 研究会 (A-TS 12-15)
 4. 設計工学フロンティア研究会 (A-TS 12-17)
 5. 2025年度年次大会で，ワークショップ1件，基調講演1件，先端技術フォーラム1件，オーガナイズドセッション (他部門との合同企画を含む)を4件企画し，72件の講演が行われた。
6. 5部門合同英文ジャーナルJAMDSMにおいて英文論文を査読，編修し，公開した。日本機械学会論文集では特集号「設計工学とシステム工学のフロンティア2025」を公開し，本会における学術の発展並びに学術論文数の増加に努めた。

〔所属研究会〕

A-TS 12-05 設計研究会

主査：大富浩一 開催：4回

A-TS 12-12 デザイン科学研究会

主査：松岡由幸 開催：9回

A-TS 12-15 様々な角度からデザインを考える研究会

主査：福田収一 開催：オンラインで必要に応じて情報共有、意見交換

A-TS 12-17 設計工学フロンティア研究会

主査：藤田喜久雄 開催：2回

1.3. 生産加工・工作機械部門

部門長 高野和雅 他32名，運営委員会開催 3回

1. 部門運営委員会に，所属委員会として技術，総務，広報・出版，第1企画，第2企画，ならびに第3企画委員会を設置すると共に，運営委員会3回，委員長・幹事会4回を開催し，本部門の産学連携組織としての特徴を活かした部門の運営にあたった。
2. 2025年12月に沖縄県のくくる糸満で第11回JSME先端生産技術に関する国際会議LEM21を行った。
3. 同会議において，優秀な論文に対して一般表彰 (優秀講演論文表彰) 3件，若手優秀講演フェロー賞3件を贈賞した。
4. ニュースレター [No. 68] を発行し，活動内容の広報に努めた。
5. 2025年度年次大会において，他部門と合同でオーガナイズドセッションを5件実施した。
6. 運営委員会において厳正な審査を行い，様々な賞に対して積極的に推薦を行った。文部科学大臣表彰若手科学者賞1件，FA財団論文賞1件，日本機械学会賞 (論文) 4件，日本機械学会奨励賞 (研究) 3件，工作機械技術振興財団論文賞4件，油空圧機器技術振興財団論文賞1件を推薦した。
7. 部門賞各賞について，功績賞1件，研究業績賞1件，技術業績賞1件を贈賞した。
8. 部門ホームページを改訂した。
9. 会員企業において学生向けセミナー「ものづくり最前線」を2回開催した。
10. 部門主催の講習会を4回開催した。
11. 代表会員候補として2名の候補者を承認した。
12. 日本機械学会フェロー選考委員会に対して，2名の候補者

を推薦した。

1.4. 生産システム部門

部門長 松永泰明 他34名，運営委員会開催 3回

1. 総務委員会，表彰委員会，広報委員会，技術企画第1委員会，技術企画第2委員会，技術企画第3委員会，事業企画第1委員会，事業企画第2委員会，事業企画第3委員会を構成し，部門運営にあたった。
2. 部門賞2名，一般表彰8名，情報・知能・精密機器部門 (IIP) との連携表彰1名を表彰した。
3. 日本機械学会賞，FA財団論文賞を始め，数多くの賞に対し論文の推薦を行った。
4. 情報・知能・精密機器部門 (IIP) とのコロケーションによる部門講演会を開催した。本講演会は次期も2026年3月に企画した。加えて2026年3月の講演会には産業・化学機械と安全部門 (ICMS) との合同セッションを企画したと共に，本件を分野連携企画として申請した。
5. 部門活性化のために実施した部門活動に関するアンケート調査結果を元に講演会等でのコーヒープレークの設置を検討した。
6. 「AMの社会実装に向けた生産システムの研究分科会」を開催した。
7. 2025年度年次大会において，1つのOS，生産加工・工作機械部門および交通・物流部門との合同OSを企画・開催した。また，スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門と合同で先端技術フォーラムを企画・実施した。
8. 工場見学会 (株日立ビルシステム水戸事業所) を開催した。
9. 講習会 (競争力を高める製造業のDX化) を開催した。
10. 生産加工・工作機械部門と国際会議 (LEM21)，スケジューリング学会とスケジューリング国際シンポジウム (ISS2025)，International Federation for Information Processing (IFIP) と国際会議 (APMS2025) の共催を企画・開催した。各会議・シンポジウムでの講演を基にした学会論文誌特集を企画した。
11. 部門での学術誌編修組織を再確認し，部門HPで公開した。

1.5. ロボティクス・メカトロニクス部門

部門長 田中孝之 他32名，運営委員会開催 4回

1. 企画委員会，技術委員会，広報委員会，出版委員会，欧文誌委員会，表彰委員会，ノミネーション委員会，ロードマップ委員会，部門間連携委員会，ロボットグランプリ組織運営委員会を構成し部門運営にあたった。
2. 部門賞 (功績賞1名，学術業績賞2名，技術業績賞1名)，部門一般表彰 (ROBOMECH表彰 (学術研究分野) 7講演，ROBOMECH表彰 (産業・実用分野) 3講演，ベストプレゼンテーション表彰4名，ベストデモンストレーション表彰6名，部門貢献表彰3名，部門先端技術表彰1件，部門優秀製品表彰1件，部門優秀論文表彰7件，部門教育表彰2名，部門欧文誌表彰1件，分野融合研究優秀表彰18件)，若手優秀講演フェロー賞43名を表彰した。
3. 2025年度年次大会では，特別行事として前部門長 吉見卓氏による基調講演を実施し，7つのジョイントセッションの企画に協力した。また，部門同好会を実施し，交流を深めた。
4. 分野連携・部門間交流について，2023年度に設けられた分野融合研究優秀表彰として，部門講演会ROBOMECH2024の部門間連携OSで発表された講演に対する審査を5部門に依頼し，表彰委員会での審議を経て運営委員会承認し，18件の表彰を行った。また，ROBOMECH2025でも部門間連携OSを5部門と企画，実施し，分野連携に秀でた講演を表彰委員会へ推薦した。日本生活支援工学会，ライフサポート学会との3学会共催講演会LIFE2025での分野連携に秀でた講演を表彰委員会へ推薦した。
5. 日本機械学会分野連携企画「分野連携研究のすすめ」を企

画し、部門講演会ROBOMECH2025併催ワークショップとして実施した。分野融合研究優秀表彰受賞者による異分野連携研究の進め方に関する講演、他部門長を交えたパネルディスカッションを行い、分野連携と部門間連携の更なる強化を図った。

6. 部門講演会の新たな取り組みとして、特に非会員や産業界に対する部門活動の周知を目的とした「ロボメカ・ファンミーティング」を開催した。「ロボメカの今を知り、未来を望む」と題して、部門講演会と関連国際会議に見られる研究動向に関するパネルディスカッション、および部門講演会出展企業を交えた交流会を実施し、部門の魅力発信に努めた。
7. 部門企画国際会議International Conference on Advanced Mechatronics (ICAM) の2027年度からの定期開催を決定し、国際連携強化に向けて準備を進めた。
8. 日本生活支援工学会、ライフサポート学会との共催講演会LIFE2025へ幹事学会・部門として企画、運営を行った。また、日本ロボット学会、計測自動制御学会との共催講演会第31回ロボティクスシンポジアの運営に協力し、他学会との連携強化を図った。
9. 部門HPをリニューアルして、充実化を図った。ロードマップ委員会がまとめた部門研究動向データベースを公開した。
10. ニュースレターNo. 59を発行した。

〔所属研究会〕

A-TS 15-17 ロボットメカトロニクスによる国際コミュニケーション教育研究会

主査：石原秀則 開催：0回

A-TS 15-18 安心安全ロボット・メカトロニクス研究会

主査：谷川民生 開催：一回

A-TS 15-20 エコメカトロニクス研究会

主査：高橋良彦 開催：0回

A-TS 15-21 防災ロボット研究会

主査：田所諭 開催：0回

A-TS 15-23 農業と林業のメカトロニクスを考える研究会

主査：芦澤怜史 開催：0回

A-TS 15-24 ロボティクス・メカトロニクス分野の30年後を考える研究会

主査：鈴木智 開催：0回

A-TS 15-25 セキュリティロボティクス研究会

主査：辻田哲平 開催：3回

16. 情報・知能・精密機器部門

部門長 伊藤伸太郎 他34名、運営委員会開催 4回

1. 総務、学術、事業、広報、表彰、編修、ロードマップ、サマースクール、MIPEの9委員会を設置し、部門運営にあたった。
2. 2025年部門講演会を、生産システム部門とのコロケーションによりハイブリッドで開催した。同講演会にて合同セッションを実施し、合同表彰を実施した。日本画像学会との連携合同セッション、機械力学・計測制御部門、マイクロ・ナノ工学部門との連携セッションを企画、実施した。非破壊検査協会との連携セッションを昨年引き続き継続、実施した。
3. マイクロ・ナノ工学部門との分野連携企画として、部門講演会の開催大学である山口大学において、ラボツアーを企画・実施した。
4. ロボメカ部門主催のRobomech2025において分野連携WSを実施した。分野連携に関する事例を共有するとともに、今後の発展性を議論した。

5. マイクロ・ナノ工学部門主催のマイクロ・ナノ工学シンポジウムにおいて、プリンタブル・ウェアラブルデバイスに関する部門連携シンポジウムを企画、実施した。

6. 部門のホームページをタイムリーに更新（部門紹介、ポリシーステートメント、分科会情報、イベントカレンダーなど）した。部門講演会Webサイトを一新し、部門講演会のサイトとの統合や、タイムリーな情報発信ができるようなプラットフォームを整備した。ホームページの更新については、広報員が担当できるようになったため、次年度以降はこれまでの管理分の予算削減が見込まれる。インフォメーションメールをタイムリーに配信した。

7. 昨年度と同様に「AI講習会 ～機械制御におけるAI活用の最前線～」 「柔軟媒体ハンドリング技術の理論と応用」を開催した。後者の講習会では、書籍付きの講習会を例年実施してきたが、再受講を促進する目的で書籍なしでの参加枠を設け、出席者の増加につなげることができた。「COMSOL基礎セミナー」を新しく企画、開催した。

8. 日本機械学会賞の部門推薦者、ならびに若手優秀講演フェロー賞および部門賞受賞者など、表彰に関連する審議・選定を行い、表彰を実施した。

9. 学生サマースクールを三菱ケミカル株式会社茨木事業所にて開催した。

10. ASME EEP部門との連携として、国際会議InterPACK2025 (Anaheim, USA) での合同セッションを3つ企画し、MIPE2025として実施した。今後もInterPACKにおいてASME・EPP部門との連携を継続することを確認した。

11. ASME EPP部門との合同企画として、国際会議MIPE2028の開催に向けた準備を開始した。

〔所属研究会〕

A-TS 16-2 フレキシブル体を基材とした高機能製品とその応用に関する研究会

主査：砂見雄太 開催：0回

17. 産業・化学機械と安全部門

部門長 今枝幸博 他17名、運営委員会開催 4回

1. 広報委員会、食の安全委員会、及び機械遺産委員会を構成し部門運営にあたった。
2. 部門一般表彰賞(論文)1名を表彰した。若手優秀講演フェロー賞1名を表彰した。
3. ニュースレターNo. 40を発行した。
4. 日本学術会議主催の安全工学シンポジウム2026準備委員会を構成し開催準備を行った。
5. 技術と社会部門、産業・化学機械と安全部門、交通・物流部門との合同講演会「技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる」を開催した。機素潤滑設計部門と産業・化学機械と安全部門は合同で特別講演会「産業界と学術界の共創—ニーズとシーズをつなぐ会」を開催した。
6. 部門HPのタイムリーな更新での情報発信を図った。国際的な活動として、昨年度に引き続き欧州での労働安全の最新の研究の把握及び日本との比較検討のため、ドイツでの研究事例の適用事業所を訪問して調査を行った。また、研究者が来日し国際ワークショップを開催した。

〔所属研究会〕

A-TS 17-06 産業安全行動分析学研究会

主査：北條理恵子 開催：3回

A-TS 17-7 理工系学生向け安全衛生教育研究会

主査：濱島京子 開催：1回

18. 交通・物流部門

部門長 中野公彦 他24名, 運営委員会開催 4回

1. 運営委員会, 広報・出版委員会, 技術委員会, 部門学術誌編集委員会, 部門活性化ワーキンググループ, 交通・物流部門大会実行委員会を構成し部門運営にあたった。
2. 「高安全度交通システム専門委員会」, 「先端シミュレータ研究会」, 「昇降機システム安全・安心問題研究会」, 「ブレーキの摩擦振動研究会」, 「モーフィング技術研究会」, 「自動運転に関する分野横断型研究会」を設置し, 研究活動を行った。
3. 部門賞(功績賞1名, 業績賞2名)の記念講演および表彰を行った。(2025年11月26日, 27日)
4. ニュースレターNo. 68 (2025年3月), 増刊号(2025年9月)を発行した。
5. フェロー賞, 一般表彰(部門大会賞表彰, 優秀論文講演表彰, ポスターセッション優秀発表賞表彰, エディタ特選論文表彰, 分野融合研究優秀表彰)を選考・表彰予定。

〔所属研究会〕

- A-TS 18-04 先端シミュレータ研究会
主査: 鈴木桂輔 開催: 0回
- A-TS 18-05 昇降機システム安全・安心問題研究会
主査: 皆川佳祐 開催: 4回
- A-TS 18-06 ブレーキの摩擦振動研究会
主査: 中江貴志 開催: 1回
- A-TS 18-07 モーフィング技術研究会
主査: 池田忠繁 開催: 2回
- A-TS 18-08 自動運転に関する分野横断型研究会
主査: 高田博 開催: 3回

19. 宇宙工学部門

部門長 波多英寛 他32名, 運営委員会開催 5回

1. 総務委員会, 広報委員会, 第1企画委員会, 第2企画委員会, 第3企画委員会, 第4企画委員会, 第5企画委員会, 学術誌(宇宙工学)編集委員会を設置し, 部門を運営した。
2. 宇宙工学部門ホームページにおいて, 部門活動のほか, 関連情報の公開を行った。
3. ニュースレターNo. 40を宇宙工学部門ホームページに掲載した。
4. 先進軽量構造システム研究会(A-TS 19-01)を部門研究会として継続し, 第34回スペース・エンジニアリング・コンファレンス[SEC'25]において学生ポスターセッションを開催した。
5. 展開アンテナ研究会(A-TS 19-02)を部門研究会として継続し, 2025年3月14日(金)および2025年12月3日(水)に講演を含む研究会を開催した。
6. 宇宙機構潤滑研究会(A-TS 19-03)を部門研究会として継続し, スペーストライボロジー研究会と共催して2025年7月22日(火)に第31回スペーストライボロジー研究会, 7月23日(水)に第一回宇宙機構潤滑セミナーを開催した。
7. 2025年度年次大会において, 部門横断セッション3件, 先端技術フォーラム1件, 市民フォーラム1件を企画し実施した。
8. 分野連携企画を通じ, 材料力学部門, 社会と技術部門との連携を行った。
9. 分野連携企画, 機械工学振興事業資金「メカライフ振興事業」の内部助成金や, 子どもゆめ基金の外部資金に応募・各種行事に活用した。
10. 第33回衛星設計コンテストを実施し, 最終審査会において各受賞者の表彰を行った。日本機械学会宇宙工学部門一般表彰スペースフロンティアを「月面掘削・整地ローバ「Beetron-1」(同志社大学)に贈賞した。

1. 部門賞の審査を実施し, 部門賞1件および部門一般表彰4件を選定した。

〔所属研究会〕

- A-TS 19-01 先進軽量構造システム研究会
主査: 仙場淳彦 開催: 1回
- A-TS 19-02 展開アンテナ研究会
主査: 田中宏明 開催: 2回
- A-TS 19-03 宇宙機構潤滑研究会
主査: 剣持伸朗 開催: 1回

20. 技術と社会部門

部門長 関根康史 他25名, 運営委員会開催 2回

1. 総務委員会, 表彰委員会, 広報委員会, HP 管理運営委員会, 技術倫理委員会, 部門講演会実行委員会, 国際会議企画実行委員会, 工学・技術教育委員会, 環境・エネルギー教育委員会, 技術と社会の連関セミナー企画実行委員会, 低温度差スターリングエンジン競技会発表会実行委員会を構成し部門運営にあたった。(技術倫理委員会は2026年度から技術倫理セミナー実行委員会に改称することが12月13日の第2回運営委員会で承認された)
2. ロードマップ委員, 年次大会, 出版委員, ISO・JIS・学会基準委員会委員, 学術誌編修委員『法工学, 技術史, 工学教育, 経営工学』合同カテゴリ, 「機械・インフラの保守・保全, 信頼性強化に関する連携分科会委員」, 学術誌特集号企画WGメンバーを推薦した。
3. 広報委員会は, 部門ニュースレターNo. 51とNo. 52を部門ホームページ上で発行した。No. 53を2026年5月頃に発行する予定で作業を開始している。
4. 部門賞(功績賞)1名, 部門一般表彰(優秀展示表彰)1件を表彰した。
5. 年次大会時に, 技術と社会部門, 産業・化学と安全部門, 交通・物流部門の3部門合同で部門同好会を開催した。
6. 技術と社会部門, 産業・化学と安全部門, 交通・物流部門の同講演会にて3部門合同の情報交換会を2025年12月13日に実施した。
7. 部門連携について産業・化学と安全部門および交通・物流部門と相談し来年度も継続することとなった。
8. JABEE事業委員会と技術と社会部門で検討した結果, 2026年度年次大会のJABEE新人審査員研修フォーラムにて連携することが決まった。
9. HP管理運営委員会は, 部門の情報を逐次更新・掲載し, リンク切れなどのページの修正など, HPの充実を図った。
10. HP管理運営委員会は, 1月14日に, 今後の円滑な運営の為の話し合いを行い, 軽微な修正を行うと共に, これまでの運営方法やSNS利用などを話し合った。
11. 技術倫理委員会は, 前年度委員長が機械工学年鑑2025の「22.5 技術者倫理」の執筆を担当した。
12. 工学・技術教育委員会は, 年次大会のOS「工学・技術教育」の運営に携わった。
13. 工学・技術教育委員会は, 年次大会にて「第2回拡大工学・技術教育委員会」として委員会外にも開放して委員会を実施した。
14. 宇宙工学部門と日本機械学会分野連携企画No. 25-71「モデルロケット教室」を実施した。
15. 学・技術教育委員会は, 前年度委員長が機械工学年鑑2025の「22.2 工学・技術教育」の執筆を担当した。
16. 低温度差スターリングエンジン競技会発表会実行委員会は, エンジンシステム部門スターリングサイクル委員会と協力し, 年次大会市民フォーラム お湯で動く機械「低温度差スターリングエンジン」を開催した。
17. 年次大会市民フォーラム「新☆エネルギーコンテストって何だ?」を環境工学部門との日本機械学会分野連携企画

として催した。

18. 教育に利用する機械研究会は9月7日に研究会を開催した。
19. 部門内の各委員会が担当する事業の効率化を図るため、運営委員会や総務委員会の実施回数は、昨年度と同じ回数とし、その分、各委員会の活動に時間を取れるようにした。
20. 環境エネルギー部門及び新☆エネルギーコンテスト実行委員会は、第18回新☆エネルギーコンテストを開催した。
21. 第18回新☆エネルギーコンテストにて、部門一般表彰(優秀展示表彰) 4名を表彰した。

〔所属研究会〕

A-TS 20-20 教育に利用する機械研究会

主査：加藤義隆 開催：1回

21. 法工学専門会議

委員長 平井省三 他12名、運営委員会開催 2回

1. 運営委員会を構成し、2回の委員会を開催して運営にあたった。
2. 環境工学部門との分野連携企画「法工学連携セミナー」を企画、実施した(2025. 07. 19(土))。
3. 2025年度年次大会において市民フォーラム「産学共同研究の勘所」を企画、実施した(2025. 09. 02(日))。
4. 2026年度の年次大会の特別行事として市民フォーラム参加を検討した。
5. 2026年度の環境部門との連携セミナー開催について検討した。
6. 「業務上過失事件裁判例研究会」を開催し、該当する裁判例につき技術者と法律家の見解をまとめた。
7. 6. でまとめた見解を2026年度前半で書籍として出版予定である。
8. 「認証不正研究会」を通算4回開催し検討結果を報告書としてまとめた。
9. 8. でまとめた報告書を日本機械学会誌の3月号に掲載予定である。

〔所属研究会〕

A-TS 21-06 業務上過失事件裁判例研究会

主査：近藤恵嗣 開催：3回

A-TS 21-07 認証不正研究会

主査：近藤恵嗣 開催：3回

22. マイクロ・ナノ工学部門

部門長 宮崎康次 他29名、運営委員会開催 3回

1. 将来問題検討委員会、総務委員会、表彰委員会、マイクロ・ナノ工学シンポジウム実行委員会、広報委員会、講習会委員会、機械工学事典編集委員会、分野連携委員会を構成し部門運営にあたった。
2. 部門賞3件、貢献表彰1件、新分野開拓表彰2件を表彰した。
3. 2025年度年次大会と第16回マイクロ・ナノ工学シンポジウムの優秀研究発表に対し、若手優秀講演フェロー賞10件、若手優秀講演表彰12件、優秀講演論文表彰5件を表彰した。
4. ニュースレターNo. 15を発行した。
5. 部門HPに「分野連携」ページを新設した。
6. マイクロ・ナノ工学シンポジウムでの他部門・他学会連携を強化し、情報・知能・精密機器部門、バイオエンジニアリング部門、ロボティクス・メカトロニクス部門、日本生理学会と連携セッションを開催した。さらにロボット・メカトロニクス講演会にて、ロボット・メカトロニクス部門、バイオエンジニアリング部門、情報・知能・精密機器部門と合同セッションを開催した。加えて化学とマイクロ・ナノシステム学会の研究会 第51回研究会 (CHEMINAS 51) に協賛した。
7. 産学連携ワークショップセミナー「医工連携が切り拓くへ

ルスケアの未来」を開催し、産学の研究者・技術者、学生員との交流を図った。

〔所属研究会〕

A-TS 22-05 未来のセンサシステムに関する研究会

主査：土肥徹次 開催：0回

23. スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門

部門長 瀬尾和哉 他13名、運営委員会開催 4回

1. 常設委員会として総務委員会、企画委員会、表彰委員会、広報委員会、出版・編集委員会、国際交流委員会、研究・技術委員会、財務委員会を構成し、部門運営にあたった。また、臨時委員会として産学連携委員会、高専連携委員会、女性・若手研究者育成委員会、スポーツ情報委員会、事業委員会、体育系学部連携委員会を構成し、部門運営にあたった。
2. 本会年次大会において分野連携企画をa)～c)の3件実施。
 - a) バイオエンジニアリング部門、韓国機械学会と共同でKSME・JSMEジョイントシンポジウム、
 - b) 国際スポーツ工学協会と共同でISEA・JSMEジョイントシンポジウム、
 - c) 生産システム部門との合同企画「アディティブマニュファクチャリング (3Dプリンター) で拓くスポーツ工学」。
3. ロボティクス・メカトロニクス部門講演会において、分野連携表彰を1件行った。
4. ニュースレター第10号を発行した。
5. 部門賞3名(部門功労賞、技術功績賞、バイオニア賞各1名)、若手優秀講演フェロー賞2名、優秀講演オーディエンス表彰1名、部門学生優秀講演表彰4名を表彰した。
6. 研究会2件を支援した。
7. ミズノスポーツ振興財団のミズノスポーツロジック研究助成に対し、本会より2件推薦した(研究期間1年×1件, 2年×1件)。
8. Sports Informatics and Technology 2025 (SIT2025)を本部門主催で初開催。室伏スポーツ庁長官の基調講演。

〔所属研究会〕

A-TS 23-02 体操競技のダイナミクス解析および指導方法に関する研究会

主査：西脇一字 開催：11回

A-TS 23-05 障がい者スポーツ研究会

主査：塩野谷明 開催：1回

24. 医工学テクノロジー推進会議

委員長 葭仲 潔 他13名、運営委員会開催 1回

1. 日本医工ものづくりコモンズの医工マッチングをはじめ、本推進会議に関連するインフォメーションメールを本推進会議登録者に転送配信した。
2. 日本医工ものづくりコモンズから発行された「コモンズ会誌 Commons Journal」に寄稿を行った。
3. 日本機械学会年次大会および日本循環器学会学術集会における日本循環器学会・日本機械学会ジョイントセッションを企画・実施した。
4. 日本循環器学会連携小委員会、ならびに福祉工学協議会小委員会を本推進会議下に設置し、機械学会にオーソライズされた組織として活動できるよう体制を構築した。
5. 理事会主導の学会横断テーマ「医療と工学の深化融合による健康・医療技術のさらなる発展を目指して」について上記小委員会と同様に本推進会議との年次大会での連携を行えるよう体制を整えた。
6. MEDTEC Japan2025(2025/04/9-11, 東京ビッグサイト, 来

場者数17,261名、企業参加数478社）ならびにJapan Health2025（2025/06/25-27、インテックス大阪、参加企業400+、参加国45+）において日本医工ものづくりコンセンサスが企画した「医工連携出会いの広場」に出展し、日本機械学会および本推進会議の広報活動を行い、運営委員等の研究を一例として紹介した。

〔分野連携分科会〕

CP-1 機械・インフラの保守・保全、信頼性強化に関する連携分科会

主査：井上裕嗣 他18名、開催2回

1. 2024年4月設置

2. 今年度は分科会を2回開催し、以下の項目を話題として取り上げ意見交換を行った。

3. 第4回（オンライン開催）2025年6月20日 部門間連携を明らかにするため、2025年度年次大会のワークショップについて委員関連部門での機械インフラの保守保全に関わる活動について具体的に紹介してもらうことを決定し講師推薦等のアンケートを実施した。

4. 2025年9月8日 北海道大学にて開催された2025年年度年次大会にてワークショップ『保守・保全のためのネットワーク構築を目指して』を開催

4. 第5回（オンライン開催）2025年12月17日 2025年度年次大会の振り返りを行い、2026年度年次大会でのワークショップを実施することを決定し、テーマとして共通の課題についてのアンケートを実施した。

〔部門所属分科会〕

P-SCD419 せん断流の多様な機能の探究と先端科学技術への応用に関する研究分科会（4）

主査：淵脇正樹 他83名、開催3回

1. 2022年10月設置

2. 今年度は分科会を3回開催し、以下の項目を話題として取り上げ、せん断流の多様な機能の探究と先端科学技術への応用に関する調査研究を行った。

3. 第6回 2025年6月13日（金）（於 ふれあい広場サザンクロス）

難波江佑介委員（東京理科大学）による「高レイノルズ数乱流における進行波状壁面変形の制御効果」、杉山和輝氏（東洋大学）による「翅脈ネットワークにみる流体回路形状の最適化」、宮城徳誠委員（日本大学）による「噴流拡散制御に関する研究」、近藤亜寿香氏（九州工業大学）による「リードフレームめっき装置の噴流特性」の話題提供が行われ、活発な意見交換があった。

4. 第7回 2025年9月7日（日）（於 牧志駅前ほしぞら公民館）

深淵康二委員（慶應義塾大学）による「機械学習と制御理論を用いたせん断流制御の試み」、赤木富士雄委員（福岡大学）による「燃料膜の拡散火炎特性におよぼす周囲圧力および酸素濃度の影響」、朴炫珍委員（北海道大学）による「船底の気液乱流境界層で現れるポイド波」の話題提供が行われ、活発な意見交換があった。続いて北海道大学流れ制御研究室の実験設備等の見学が行われ、活発な意見交換があった。

5. 第8回 2025年10月21日（火）（於 北海道大学）

稲垣歩委員（大分工業高等専門学校）による「円形配列された複数噴流の流れ構造」、飯尾昭一郎委員（信州大学）による「はく離制御による水車性能の改善」、藤本教寛委員（沖縄工業高等専門学校）による「Dynamics VS Kinematics」の話題提供が行われ、活発な意見交換があった。

P-SCD420 hcp金属の機能・性能の発現と向上に関する研究分科会

主査：多田直哉 他33名、開催3回

1. 2023年4月設置

2. 今年度は分科会を3回開催し、以下の項目を話題として取り上げ、hcp金属の機能・性能の発現と向上に関する調査研究を行った。

3. 第1回 2025年6月23日（月）（於 日本チタン協会会議室）

「機械工学年鑑2025 -チタン系金属に関する産業界と学術界の動向-」に掲載された内容について、多田直哉委員（岡山大学）、木村欽一委員（チタン協会）、清水憲一委員（名城大学）より紹介があった。また日本チタン協会での産学連携活動について木村欽一委員より、奥出裕亮委員（東京都立産業技術センター）より「Ti-6Al-4V合金板の温・冷間プレス成形技術の開発」に関する話題提供があった。

4. 第2回 2025年10月31日（金）（於 日本製鉄株式会社社会議室）

「機械工学年鑑2025 -チタン系金属に関する産業界と学術界の動向-」に掲載された内容について、上森 武委員（岡山大学）より紹介があった。また、日本機械学会誌特集「チタンを中心とするhcp金属の機能と性能の発現と向上」に掲載された内容について、多田直哉委員より「hcp分科会の紹介」、木村欽一委員より「日本チタン産業と産学連携活動」、岳辺秀徳委員（日本製鉄（株））より「純チタン薄板の引張特性に及ぼす結晶粒径と引張方向の影響」、田村圭太郎委員（（株）神戸製鋼）より、「高伝熱チタン板のプレート式熱交換器への適用」、小柳禎彦委員（大同特殊鋼（株））より「耐熱チタン合金の特徴と開発経緯」の題目で講演があった。

5. 第3回 2026年2月17日（火）（於 日本チタン協会会議室）

柳下福蔵様（静岡県立工科短期大学）より「Ti6Al4V合金の高精度穴あけ加工技術 -深さ方向の穴径決定過程の実験的解明- α 相から β 相への相変態が穴径に影響している？」および盛田勇気様（東海部品工業（株））より「会社紹介およびチタン合金鍛造研究」の2件の話題提供があり、活発な意見交換が行われた。

P-SCD421 先端アクチュエータシステムと情報技術に関する研究分科会

主査：大岡昌博 他28名、開催2回

1. 2024年4月設置

2. 今年度は分科会を2回開催し、以下の項目を話題として取り上げ、先端センサ・アクチュエータに関する調査研究を行った。

3. 第1回 2025年9月26日（金）（於 横浜国立大学 機械・材料・海洋系学科 機械工学EP、佐藤研究室、淵脇研究室、参加者：6名）

佐藤恭一研究室の見学会では、耐圧薄肉金属ベローズアクチュエータやMR流体を用いたトラクションドライブ動力伝達などが紹介され活発な意見交換がなされた。次に、淵脇大海研究室の見学会では、交互三脚歩行式移動機構や微小化石を回転させることに成功した事例などのデモンストレーションがなされ活発な意見交換があった。

4. 第2回 2025年11月20日（金）（於 株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ 穂高工場、有明工場、参加者：4名）

ハーモニックドライブはバックラッシュがほぼ0であることから高精度な駆動を必要とする分野、半導体清浄装置や先進医療機器に適用が拡大され、部品点数の少なから軽量化が可能となりロボティクスに広く用いられている。穂高工場と有明工場では、組み立て時の勘合調整の実演など、および自動車エンジン向けのハーモニックドライブの全自動生産などがそれぞれ紹介され活発な意見交換がなされた。

P-SCD422 AMの社会実装に向けた生産システムの研究分科会

主査：館野寿丈 他34名，開催0回

1. 2025年4月設置

2. 今年度は日本機械学会誌の特集号への寄稿と年次大会の特別行事をそれぞれ1回ずつ行い，それぞれ以下のとおり Additive Manufacturing を活用した生産システムに関するディスプレイセッションなどを行った。

3. 日本機械学会誌特集企画

学会誌 (Vol. 128, No. 1280(2025)) の特集「Additive Manufacturing 技術の動向と技術者の意識」にむけて7編の記事を寄稿し，AMの最新技術動向の紹介に加え，AM技術活用に向けた技術者意識に関する現状の問題についても解説を行った。

4. 年次大会特別行事 2025年9月9日 (火)

北海道大学で開催された年次大会の特別行事である先端技術フォーラム「アディティブマニュファクチャリング (3Dプリンタ) で拓くスポーツ工学」をスポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門との合同企画として開催した。両部門からそれぞれ3つずつの話題提供を行い，スポーツ工学へのAMの活用について活発な議論を行った。

P-SCD423 材料力学が拓く形状記憶特性とその応用分野に関する分科会

主査：岩本 剛 他47名，開催2回

1. 2025年5月設置。

2. 今年度は分科会を2回開催し，材料力学が拓く形状記憶特性とその応用分野に関する調査研究を行った。

3. 第1回 2025年11月10日 (月) (於 熊本城ホール)

2025年度M&M2025 材料力学カンファレンスでオーガナイズドセッション“OS17 形状記憶材料の力学と実用化に資する特性向上”を企画運営した。熊本大学の松田委員に依頼講演をお願いし，その他加藤 博之委員 (北大) による発表を含めて計14件あった。

4. 第2回 2025年11月13日 (木)，14日 (金) (於 仙台・秋保温泉 『緑水亭 コンベンションホール』)

(一社)形状記憶合金協会が主催する，第15回 SMA シンポジウム2025 in 仙台・秋保「先進機能材料・先進生体材料としての形状記憶合金の新しい用途開発」を共催した。以下，岩手大学の戸部 裕史委員，石巻専修大学の三木 寛之委員による発表を含めて8件の講演があった。

P-SCD424 せん断流の多様な機能の探究と先端科学技術への応用に関する研究分科会 (5)

主査：窪田佳寛 他83名，開催1回

1. 2025年10月設置。

2. SCD419からの発展を目指し設置し，今年度は分科会をSCD419として2回，SCD424として1回開催し，以下の項目を話題として取り上げ，せん断流の多様な機能の探究と先端科学技術

への応用に関する調査研究を行った。

3. SCD419第6回 2025年6月13日 (金) (於 ふれあい広場サザンクロス)

難波江佑介委員 (東京理科大学) による「高レイノルズ数乱流における進行波状壁面変形の制御効果」，杉山和輝氏 (東洋大学) による「翅脈ネットワークにみる流体回路形状の最適化」，宮城徳誠委員 (日本大学) による「噴流拡散制御に関する研究」，近藤亜寿香氏 (九州工業大学) による「リードフレームめっき装置の噴流特性」の話題提供が行われ，活発な意見交換があった。

4. SCD419第7回 2025年9月7日 (日) (於 北海道大学)

深淵康二委員 (慶應義塾大学) による「機械学習と制御理論を用いたせん断流制御の試み」，赤木富士雄委員 (福岡大学) による「燃料膜の拡散火炎特性におよぼす周囲圧力および酸素濃度の影響」，朴炫珍委員 (北海道大学) による「船底の気液乱流境界層で現れるポイド波」の話題提供が行われ，活発な意見交換があった。続いて北海道大学流れ制御研究室の実験設備等の見学が行われた。

5. SCD424第1回 2025年10月21日 (火) (於 牧志駅前ほしぞら公民館)

稲垣歩委員 (大分工業高等専門学校) による「円形配列された複数噴流の流れ構造」，飯尾昭一郎委員 (信州大学) による「はく離制御による水車性能の改善」，藤本教寛委員 (沖縄工業高等専門学校) による「Dynamics VS Kinematics」の話題提供が行われ，活発な意見交換があった。

P-SCD425 再生可能エネルギー主力電源化を支える火力発電に関する分科会—カーボンニュートラルトランジション期の安定供給の役割と火力発電の低炭素化—

主査：中垣隆雄 他11名，開催1回

1. 2025年11月設置。

2. 今年度は分科会を1回開催し，以下の項目を話題として取り上げ，カーボンニュートラルトランジション期の電力安定供給における，火力発電の役割に関する調査研究を行った。

3. 第1回 2025年12月26日 (金) (於 日本機械学会会議室)

中垣主査の進行のもと幹事団より，分科会の概要と系統慣性の説明，英国における慣性などの確保状況，についての話題が提供され活発な意見交換が行われた。蓄電池やグリッドフォーミングインバータの急激な価格低下という社会情勢を鑑み，火力発電に偏らず，技術中立の立場で，トランジション期の安定供給に必要な技術選択肢を備えていくことが重要であることを共有した。また，第8次エネルギー基本計画において，トランジション期に火力発電や蓄電池をどのように利用していくことが我が国にとって重要になるか，という視点が反映されることを，本分科会の目標に掲げることとした。

7・2 集会事業

《行事別集計表》

行事種別	開催回数	研究発表 題数	依頼 講演数	参加数
講演会(本会主催 国際会議含む)	33	6,129	112	10,704
講習会	78			2,779
特別講演会・見 学会・他	60			5,545
合計	171	6,129	112	19,028

7・2・1 研究発表講演会（本会主催国際会議を含む）

企画部門	開催年／月／日	行事 No.	講演会名	講演 題数	依頼 講演	参加 数	有料 参加	開催場所
計算力学部門	2025/8/27 ~8/29	25-51	M&M・CMD若手シンポジウム2025	36	1	49	48	KKRホテル名古屋
計算力学部門	2025/9/24 ~9/26	25-50	第38回計算力学講演会（CMD2025）	338	1	576	576	信州大学
バイオエンジニアリ ング部門	2025/5/24 ~5/25	25-11	第37回バイオエンジニアリング講演 会	165	10	268	257	慶應義塾大学日 吉キャンパス
バイオエンジニアリ ング部門	2025/12/6 ~12/7	25-54	第36回バイオフロンティア講演会	163	0	243	242	弘前大学文京町 地区キャンパス
材料力学部門	2025/11/10 ~11/13	25-14	日本機械学会 M&M2025 材料力学カ ンファレンス	414	16	635	616	熊本城ホール
機械材料・材料加工 部門	2025/11/3 ~11/6	25-205	第2回JSME機械材料・材料加工国際 会議2025(2nd JSME International Conference on Materials & Processing, ICM&P2025)	180	4	226	222	Guam, USA (Hilton HOTELS & RESORTS)
熱工学部門	2025/10/4 ~10/5	25-12	熱工学コンファレンス 2025	238	1	443	443	山形テルサ・や まぎん県民ホー ル(山形県山形 市)
熱工学部門	2025/10/22 ~10/25	25-207	第11回日韓機械学会合同・熱流体国 際会議	422	4	608	604	沖縄コンベンシ ョンセンター
エンジンシステム部 門	2025/12/13	25-87	第27回スターリングサイクルシンポ ジウム	15	0	37	37	明治大学駿河台 キャンパス
エンジンシステム部 門	2025/12/15 ~12/18	25-203	第11回先進エンジンシステムのモデ リングと計測に関する国際会議 / The 11th International Conference on Modeling and Diagnostics for Advanced Engine Systems (COMODIA2025)	154	8	365	332	幕張メッセ
動力エネルギーシ ステム部門	2025/6/5 ~6/6	25-13	第29回動力・エネルギー技術シンポ ジウム	130	6	243	237	金沢大学角間キ ャンパス
環境工学部門	2025/7/18 ~7/21	25-204	International Workshop on Environmental Engineering 2025 (IWEE2025)	76	3	98	95	北見工業大学
環境工学部門	2025/7/18 ~7/21	25-3	第35回環境工学総合シンポジウム	29	13	98	65	北見工業大学
機械力学・計測制御 部門	2025/5/21 ~5/23	25-23	第37回「電磁力関連のダイナミク ス」シンポジウム (SEAD37)	91	2	145	143	埼玉県大宮市 (ソニックシテ ィ)
機械力学・計測制御 部門	2025/8/19 ~8/22	25-201	19th International Symposium on Magnetic Bearings (ISMB19)	83	3	143	143	琵琶湖ホテル
機械力学・計測制御 部門	2025/8/25 ~8/28	25-49	D&D2025	306	2	522	500	琉球大学千原キ ャンパス

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	講演題数	依頼講演	参加数	有料参加	開催場所
機械力学・計測制御部門	2025/11/1 ～11/2	25-48	第68回自動制御連合講演会	364	2	618	616	名古屋大学東山キャンパス
機素潤滑設計部門	2025/4/23 ～4/25	25-202	ICMDT2025 兼 第24回機素潤滑設計部門講演会	240	4	369	357	アクリエひめじ
機素潤滑設計部門	2025/12/4 ～12/5	25-131	第23回 評価・診断に関するシンポジウム	24	1	48	47	福井大学
設計工学・システム部門	2025/9/3 ～9/5	25-10	第35回設計工学・システム部門講演会	138	1	276	237	明治大学
設計工学・システム部門	2025/9/16 ～9/17	25-208	Design and Concurrent Engineering & Manufacturing Systems Conference 2025)	26	1	59	59	同志社大学 今出川キャンパス
設計工学・システム部門	2025/11/6 ～11/7	25-17	IDCAE・MBDシンポジウム2025	12	0	125	96	東京大学 山上会館
生産加工・工作機械部門	2026/12/1 ～12/4	25-206	第11回JSME先端生産技術に関する国際会議 (LEM21)	239	4	329	325	シャボン玉石けん くくる糸満
生産システム部門	2025/3/3 ～3/4	25-6	生産システム部門研究発表講演会2025	57	3	125	124	ハイブリッド (山口大学工学部常盤キャンパス)
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/6/4 ～6/7	25-2	ROBOMECH2025	1540	1	2318	2311	山形ビッグウィング, やまぎん県民ホール
情報・知能・精密機器部門	2025/3/3 ～3/4	25-7	IIP2025情報・知能・精密機器部門講演会	136	3	212	211	ハイブリッド (山口大学工学部常盤キャンパス)
交通・物流部門	2025/11/25 ～11/27	25-59	第34回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2025)	69	3	249	231	東京大学生産技術研究所+Zoom
交通・物流部門	2026/2/6	25-114	技術講演会 昇降機・遊戯施設等の最近の技術と進歩	12	0	45	45	ハイブリッド開催 (日本大学理工学部駿河台キャンパス タワースコラ S505教室 (5階) & Zoom)
宇宙工学部門	2025/12/19	25-104	第34回スペース・エンジニアリング・コンファレンス [SEC' 25]	46	2	464	75	福岡県柳川市水都やながわ (柳川市民文化会館)
技術と社会部門	2025/12/13	25-105	技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる	29	3	50	47	大分大学且野原キャンパス
マイクロ・ナノ工学部門	2025/11/10 ～11/13	25-76	第16回マイクロ・ナノ工学シンポジウム	194	6	263	256	ライトキューブ宇都宮
スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門	2025/7/31 ～8/1	25-15	Sports Informatics and Technology 2025 (SIT2025)	95	2	276	237	東京ビッグサイト 会議棟6F
スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門	2025/11/28 ～11/30	25-60	日本機械学会スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門講演会2025 (SHD2025)	67	2	179	177	同志社大学 新町キャンパス 今出川校地

7・2・2 講習会

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
計算力学部門	2025/10/18	25-98	計算力学技術者2級 (固体力学分野の有限要素法解析技術者) 認定試験対策講習会	61	55	東京理科大学、ZOOM
材料力学部門	2025/6/16	25-24	「人工知能・機械学習と信頼性工学への応用最前線」～ 機械材料・材料加工のシミュレーション・計測と力学 第5回～	73	63	ハイブリッド (日本機械学会/Zoom)

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
材料力学部門	2025/8/5	25-77	よくわかる材料力学	31	31	オンライン
材料力学部門	2025/9/2 ~9/3	25-82	機械設計のための非線形有限要素法入門 (幾何学的非線形, 超弾性, 粘弾性, 弾塑性, 接触摩擦, 動的解析の基礎をMarc, LS-DYNAの例題で学ぶ)	34	34	ハイブリッド (日本機械学会/Zoom)
材料力学部門	2025/12/10	25-118	DX時代の設計者のあるべき姿	18	18	ハイブリッド (日本機械学会/Zoom)
材料力学部門	2026/1/27 ~1/28	25-132	ひずみ測定 of 基礎と応用	20	20	オンライン
機械材料・材料加工部門	2025/8/29	25-90	硬質炭素系薄膜の成膜, トライボロジー基礎, Raman分析の基礎から指向性表面増強ラマン分析まで	12	12	オンライン
機械材料・材料加工部門	2025/10/17	25-112	炭素繊維強化複合材料の疲労破壊特性の基礎と寿命評価技術	18	18	ハイブリッド (早稲田大学西早稲田キャンパス55N号館 1階 第二会議室)
機械材料・材料加工部門	2025/10/31	25-134	第53回M&Pサロン「FRTPを用いた二次成形可能な曲面太陽電池モジュールの製作」	3	3	ハイブリッド (芝浦工業大学豊洲キャンパス 本部棟5Fオーブンラボ (05F02))
機械材料・材料加工部門	2025/12/9	25-117	もう一度学ぶ機械材料学 (金属材料の基礎)	10	10	オンライン
機械材料・材料加工部門	2026/1/13	25-165	AI, リモート時代の資料作成, プレゼン技術	27	27	ハイブリッド (名古屋大学)
機械材料・材料加工部門	2026/1/24	25-167	CAEとAMが融合する未来の設計アプローチ	15	15	ハイブリッド (東京理科大 森戸記念館)
流体工学部門	2025/4/22	25-53	流体とインフォマティクス	74	66	オンライン
流体工学部門	2025/6/19 ~6/20	25-61	流体力学基礎講座 - 基礎学理から数値流体力学・流体計測の基礎と実例まで -	67	61	オンライン
流体工学部門	2025/6/26	25-67	CFDの基礎とノウハウ	79	73	オンライン
流体工学部門	2025/8/28	25-85	実験流体力学 流体計測の基礎	38	32	オンライン
流体工学部門	2025/11/7	25-115	プラントの熱流体力学-混相流・配管流れ・安全設計-	25	19	オンライン
流体工学部門	2025/12/8	25-159	空力騒音の基礎講座 騒音計測・数値解析と鉄道/自動車の応用事例	36	30	オンライン
熱工学部門	2025/2/28	25-16	機械学習×熱・流体工学の最先端	85	85	オンライン
熱工学部門	2025/9/17 ~9/18	25-102	『伝熱工学資料 (改訂第5版)』の内容を教材にした熱設計の基礎と応用	26	26	オンライン
熱工学部門	2025/10/11 ~10/12	25-88	計算力学技術者2級 (熱流体力学分野の解析技術者) 認定試験対策講習会 (休日コース)	26	26	オンライン
熱工学部門	2025/11/18 ~11/19	25-89	計算力学技術者2級 (熱流体力学分野の解析技術者) 認定試験対策講習会 (平日コース)	41	41	オンライン
エンジンシステム部門	2025/1/29	25-169	往復動内燃機関の研究開発に関わる計測と数値解析技術に関する講習会	49	49	オンライン
エンジンシステム部門	2025/11/21	25-144	基礎教育講習会 - エンジン技術の基礎と応用 (その38)	64	64	掘場製作所 びわこ工場およびオンライン

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
動力エネルギーシステム部門	2025/10/10	25-121	見学会付き講習会 第7次エネルギー基本計画の複眼的考察 ～水素・再エネ・原子力のボトルネックと突破口～	79	79	一般財団法人電力中央研究所 横須賀地区
環境工学部門	2025/5/29	25-63	講習会「プログラミングで学ぶ熱物性推算－スタートアップ編－」	32	32	オンライン
環境工学部門	2025/6/13	25-57	静粛設計のための防音・防振技術	36	36	中央大学後楽園キャンパス
環境工学部門	2025/8/27	25-64	講習会「プログラミングで学ぶ熱物性推算－ベーシック編－」	40	40	オンライン
環境工学部門	2025/10/22	25-113	機械音の制御と活用技術の最前線	38	38	中央大学後楽園キャンパス
環境工学部門	2025/11/26	25-65	プログラミングで学ぶ熱物性推算－アドバンス編－	13	13	オンライン
環境工学部門	2025/12/8	25-151	カーボンニュートラル実現に向けた最新技術－CO2排出ゼロの燃焼技術－	27	27	オンライン
機械力学・計測制御部門	2025/4/11	25-44	Pythonによる機械システムの振動解析の基本	61	61	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
機械力学・計測制御部門	2025/7/1	25-45	モータ駆動およびその電動システムの騒音・振動低減化技術	35	35	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
機械力学・計測制御部門	2025/9/29 ～9/30	25-94	回転機械（ターボ+モータ）の振動：基礎および事例研究ならびにデモ実習	16	16	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
機械力学・計測制御部門	2025/10/18	25-78	振動分野の有限要素解析講習会（計算力学技術者2級認定試験対策講習会）（オンライン開催）	22	22	オンライン
機械力学・計測制御部門	2025/12/1	25-139	マルチボディダイナミクス入門	24	24	オンライン
機械力学・計測制御部門	2025/12/23	25-154	納得のロータ振動解析：講義+HIL実験	11	11	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
機械力学・計測制御部門	2026/1/13 ～1/14	25-155	振動モード解析実用入門－実習付き－	17	17	日本機械学会
機械力学・計測制御部門	2026/1/26 ～1/27	25-124	回転機械の振動	27	27	日本機械学会
機素潤滑設計部門	2025/6/27	25-62	転がり軸受技術基礎講座	33	31	オンライン
機素潤滑設計部門	2025/10/20 ～10/21	25-130	ねじ締結基礎・実用講座	27	27	東京科学大学 大岡山キャンパス
機素潤滑設計部門	2025/11/27 ～11/28	25-129	歯車技術基礎講座	54	47	公立学校共済組合岡山宿泊所 ピュアリティまきび
機素潤滑設計部門	2025/12/16	25-136	アクチュエータ・センサシステム構築 入門講座 ～非円形歯車機構の基礎～	11	8	オンライン
機素潤滑設計部門	2026/1/23	25-149	やってみよう表面改質－レーザーによるテクスチャリングと組織構造制御－	11	7	名城大学天白キャンパス新研究実験棟IV
設計工学・システム部門	2025/4/24	25-27	1DCAEスクール（2025年度）第1回：1DCAEの目指すところと方法	28	26	オンライン
設計工学・システム部門	2025/5/28	25-28	1DCAEスクール（2025年度）第2回：材料と構造 ～材料設計と静力学～	28	24	オンライン
設計工学・システム部門	2025/6/20	25-37	1DCAEスクール：Modelica超入門セミナー（2025年度）第1回：Modelica超入門（1）	21	19	オンライン
設計工学・システム部門	2025/6/24	25-39	1DCAEスクール：Modelica道場（2025年度）第1回：Modelica入門	19	16	オンライン

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
設計工学・システム部門	2025/6/27	25-29	1DCAEスクール（2025年度）第3回：熱と流れ ～複雑な現象を回路網表現～	48	46	オンライン
設計工学・システム部門	2025/7/18	25-40	1DCAEスクール：Modelica道場（2025年度）第2回：Modelica応用（1）	19	17	オンライン
設計工学・システム部門	2025/7/25	25-30	1DCAEスクール（2025年度）第4回：音と振動 ～音振動を様々な視点から～	40	38	オンライン
設計工学・システム部門	2025/8/22	25-31	1DCAEスクール（2025年度）第5回：機構と制御 ～運動学・動力学、制御～	40	32	オンライン
設計工学・システム部門	2025/8/25	25-38	1DCAEスクール：Modelica超入門セミナー（2025年度）第2回：Modelica超入門（2）	21	19	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
設計工学・システム部門	2025/9/22	25-41	1DCAEスクール：Modelica道場（2025年度）第3回：Modelica応用（2）	18	16	オンライン
設計工学・システム部門	2025/11/28	25-42	1DCAEスクール：Modelica道場（2025年度）第4回：Modelica活用	22	20	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
設計工学・システム部門	2026/1/16	25-142	VE/VRを用いた設計・開発・ものづくりの新しい検討手法の紹介	12	7	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
生産加工・工作機械部門	2025/3/13 ～3/14	25-21	ー生産加工基礎講座ー 実習で学ぼう「切削加工，びびり振動の基礎知識」	10	10	名古屋大学 オークマ工作機械工学館 会議室（工作機械）
生産加工・工作機械部門	2025/6/13	25-56	生産現場の自動化を支える工作機械とその周辺技術	49	49	ハイブリッド（名古屋大学東山キャンパス/Webex）
生産加工・工作機械部門	2025/10/3	25-119	歯車の加工・熱処理・計測技術の基礎と最新動向	55	55	ハイブリッド（慶応義塾大学/Webex）
生産加工・工作機械部門	2026/1/16	25-162	金属AM技術の動向と今後の展望	18	18	ハイブリッド（三菱電機(株)名古屋製作所・産業メカトロニクス製作所/Webex）
生産システム部門	2025/5/9	25-58	競争力を高める製造業のDX化	60	52	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
情報・知能・精密機器部門	2025/7/30	25-75	AI講習会 ～機械制御におけるAI活用の最前線～	49	44	オンライン
情報・知能・精密機器部門	2025/12/8	25-150	柔軟媒体ハンドリング技術の理論と応用	10	10	YouTube による講義動画の配信、及び、Zoomによるオンライン講習
情報・知能・精密機器部門	2025/12/11	25-156	COMSOL基礎セミナー ～これからマルチフィジックス解析を始める方への導入講座～	20	20	オンライン
産業・化学機械と安全部門	2025/10/24	25-80	産業用ロボット規格ISO 10218-1/-2改訂版 情報提供セミナー	53	53	ハイブリッド（UL Japan本社会議室/Zoom）
交通・物流部門	2025/3/18	25-5	講習会「MBDの新潮流 ―制御設計の事例集」	15	15	日本機械学会
交通・物流部門	2025/5/17	25-55	基礎セミナー「自動車の運動力学」	121	116	日本大学理工学部 駿河台キャンパス
交通・物流部門	2025/6/11 ～12/21	25-86	オンデマンドセミナー「ヒトとクルマの運動制御」	188	188	ビデオオグ(オンデマンドセミナー)
交通・物流部門	2025/9/5	25-84	講習会 セミナー「ブレーキ鳴き解析技術の進展」	19	19	日本機械学会
交通・物流部門	2025/10/1 ～12/25	25-143	オンデマンド基礎セミナー「自動車の運動力学」	108	108	ビデオオグ(オンデマンドセミナー)

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
交通・物流部門	2025/10/10	25-91	講習会「MBDの新潮流 ― 機械の事例集」	6	6	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
交通・物流部門	2025/11/14	25-92	講習会「MBDの新潮流 ― 電気の事例集」	5	5	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
交通・物流部門	2025/12/12	25-93	講習会「MBDの新潮流 ― 熱・流体の事例集」	6	6	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
交通・物流部門	2026/1/6	25-127	講習会「交通・物流機械の自動運転の動向と課題」	14	14	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
交通・物流部門	2026/1/29	25-161	とことんわかる自動車のモデリングと制御2025	38	38	ハイブリッド（日本機械学会/Zoom）
マイクロ・ナノ工学部門	2025/10/6	25-109	COMSOLによるマルチフィジクス解析～基礎からの実習と最新の活用事例紹介～	21	14	オンライン
スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門	2025/8/30	25-72	スポーツ・ヒューマンダイナミクスにおけるCAEシミュレーション講習会	22	22	BETA CAE Systems Japan
スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門	2025/12/11 ～12/12	25-160	講習会「筋骨格モデルによるバイオメカニクス解析～入門から最新事例まで」	30	30	オンライン

7・2・3 特別講演会・見学会・他

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
バイオエンジニアリング部門	2025/8/19 ～8/20	25-81	第1回BE若手研究者の学校（出藍会企画）	24	0	パナソニックリゾート大阪
バイオエンジニアリング部門	2025/12/4	25-147	メカノバイオロジーとAIによる細胞工学の革新	11	0	東京科学大学 生体材料工学研究所
バイオエンジニアリング部門	2025/12/5	25-146	バイオメカニクスセミナー	19	0	京都大学 医生物学研究所
バイオエンジニアリング部門	2025/12/6	25-231	バイオフロンティア・シンポジウム2025	246	0	弘前大学 文京町地区キャンパス
バイオエンジニアリング部門	2025/12/8	25-148	医工連携研究センター国際ミニシンポジウム2025	39	0	東京都立大学 南大沢キャンパス 11号館106室
機械材料・材料加工部門	2025/3/4	25-19	第51回M&Pサロン「CAD/CAM/CAEシステムとDXとAI関連機能の紹介 ～DX/AI時代におけるAIプロジェクトの進め方～」	18	18	オンライン
機械材料・材料加工部門	2025/9/17	25-111	第52回M&Pサロン「高耐久性摩擦発電機の開発とすべり軸受の駆動状況モニタリングセンサーとしての応用」	8	8	ハイブリッド（東京都立大学/オンライン）
機械材料・材料加工部門	2025/12/8	25-152	第54回M&Pサロン「レーザの基礎と高性能化へ向けた取り組み」（高エネルギービーム加工・改質技術研究会合同企画）	16	9	ハイブリッド（東京科学大学/オンライン）
機械材料・材料加工部門	2025/12/17	25-133	第55回M&Pサロン「フレキシブルカーボンワイヤーの開発ー軟質CFRPの可能性についてー」	11	11	ハイブリッド（東京科学大学/オンライン）
流体工学部門	2025/8/23 ～8/25	25-122	第30回流れのふしぎ展	2000	0	日本科学未来館
熱工学部門	2025/10/4	25-135	熱工学コンファレンス 2025「熱工学ワークショップ」	443	443	山形テルサ M室メインホール
動力エネルギーシステム部門	2025/5/22 ～5/23	25-26	見学会 種子島のロケットとエネルギー	19	19	新光糖業株式会社、九州電力送配電株式会社 新種子島発電所、JAXA種子島宇宙センター

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
動力エネルギーシステム部門	2025/8/7	25-68	親子見学会 ～川崎重工業 明石工場・カワサキワールド 見学会～（機械工学振興事業資金助成企画）	33	0	川崎重工業株式会社 明石工場、カワサキワールド
動力エネルギーシステム部門	2025/8/23	25-74	センシングバイオメカニクスによるゴルフスイング計測体験	11	0	筑波大学 体育系 体育総合実験棟1階
動力エネルギーシステム部門	2025/8/29	25-69	「動力エネルギー技術セミナー2025」 ― 発電技術の最前線に携わる面白さややりがい―	25	0	株式会社JERA 川崎火力発電所、東芝スマートコミュニティセンター
動力エネルギーシステム部門	2025/10/31	25-123	第35回セミナー&サロン 「持続可能なエネルギーシステムへのトランジション」	82	24	株式会社日立製作所 日立オリジンパーク、ホテル テラスザスタジアム
環境工学部門	2025/3/25	25-52	鹿児島南部清掃工場の見学会	18	18	鹿児島南部清掃工場
環境工学部門	2025/8/2	25-101	夏休み親子向けイベント（熱を体験してみよう）	20組	0	オンライン
環境工学部門	2025/8/20	25-108	手作りで音を楽しもう～環境にやさしい夏休み親子向けイベント	13組	0	中央大学後楽園キャンパス
環境工学部門	2025/10/14	25-120	見学会「株式会社ササクラ会社見学会ーエネルギー効率の向上とCO2削減に向けた取り組みー」	21	0	株式会社ササクラ テクノプラザ及び同社 竹島工場
環境工学部門	2025/11/6	25-158	平塚環境事業センター 見学会	19	0	平塚環境事業センター
生産加工・工作機械部門	2025/3/21	25-46	理工系大学生・大学院生・高専生を対象としたセミナー 『ものづくり最前線』	12	0	株式会社アマダ 本社
生産加工・工作機械部門	2025/6/13 ～9/15	25-110	理工系大学生・大学院生・高専生を対象としたセミナー 『ものづくり最前線』	30	0	いすゞ自動車株式会社 藤沢工場
生産加工・工作機械部門	2026/2/24	25-170	理工系大学生・大学院生・高専生を対象としたセミナー 『ものづくり最前線』	24	0	株式会社ナガセインテグレーション（岐阜県関市）
生産システム部門	2025/11/14	25-157	見学会「日立ビルシステム水戸事業所」～人とデジタルが共創するスマートマニュファクチャリング～	9	9	(株)日立ビルシステム水戸事業所
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/3/2	25-4	pico-EV・エコチャレンジ2025	33	0	西日本工業大学体育館
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/3/29 ～3/30	25-9	「ロボットグランプリ ロボットランサー競技会」	17	0	東京都立産業技術高等専門学校
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/3/30	25-8	「ロボットグランプリ ロボットスカベンジャー競技会」	12	0	東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/6/4	25-70	東北地区特別講演会「移動ロボットの未来を拓く：メカニズムとコントロールのフロンティア」	59	0	やまぎん県民ホール
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/6/4	25-83	ワークショップ「武力紛争とロボット・AI技術について考える」	46	0	ハイブリッド（やまぎん県民ホール/オンライン）
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/6/14	25-66	北海道地区 メカトロ教室「走れ！ロボットカー」	11	11	札幌市青少年科学館
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/8/2 ～8/3	25-100	「第28回 科学体験フェスティバル in 徳島 「プログラムでドローンを飛ばそう」」	89	0	徳島大学理工学部
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/8/2	25-79	ロボットプログラミング教室「Pepperを動かしてみよう」	17	0	富山県立大学
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/8/7	25-107	高校生実験教室「マイコン・ボードを用いた車型ロボットの制御実験」	15	0	岐阜大学工学部

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/11/3	25-145	おしゃべり☆ロボットランド	53	0	吹田市立千里山コミュニティセンタ
ロボティクス・メカトロニクス部門	2025/12/13	25-125	フューチャーDream! ロボメカ・デザインコンペ2025	57	0	福岡市科学館
ロボティクス・メカトロニクス部門	2026/1/19	25-168	ワークショップ：ロボット・AI技術を活用した紛争地帯における人道支援を考える	25	0	早稲田大学 西早稲田キャンパス
情報・知能・精密機器部門	2025/8/4 ~8/5	25-99	情報・知能・精密機器部門学生サマースクール	45	45	三菱ケミカル茨城事業所
産業・化学機械と安全部門	2025/3/8	25-22	市民フォーラム 食品加工・製造工程に用いるロボットの衛生的危害要因の分析等に関する考察	77	0	オンライン
産業・化学機械と安全部門	2025/3/21	25-43	多彩な作業現場で活用するBBS - Well-being定量化に関する特別講演会	26	24	ハイブリッド(長岡技術科学大学東京サテライトキャンパス/Zoom)
産業・化学機械と安全部門	2025/4/2	25-47	第60回トワイライトセミナー 技術士第二次試験 - 機械部門の受験対策講座	36	34	ハイブリッド(長岡技術科学大学東京サテライトキャンパス/Zoom)
産業・化学機械と安全部門	2025/8/5	25-103	第61回トワイライトセミナー 「動力プレス機械の求められる安全」とサーボプレスの安全技術 ～法令と技術規格で求められる技術的要求について考える～	24	24	ハイブリッド(長岡技術科学大学東京サテライトキャンパス/Zoom)
産業・化学機械と安全部門	2025/11/1	25-138	産業界と学術界の共創ーニーズとシーズをつなぐ会	21	21	オンライン
産業・化学機械と安全部門	2025/11/7	25-137	第62回トワイライトセミナー Human Factor を考える ～ five Human Performance Principles に於ける取り組み～	43	43	ハイブリッド(長岡技術科学大学東京サテライトキャンパス/Zoom)
産業・化学機械と安全部門	2026/1/27	25-166	第63回トワイライトセミナー ドローンの安全性 ～ 国際競争力と安全の課題、今後必要な取組とは?～	30	30	ハイブリッド開催：Zoom, 対面：長岡技術科学大学東京サテライトキャンパス
宇宙工学部門	2025/2/27	25-18	日本電気株式会社 府中事業場（宇宙棟）見学会	27	0	日本電気株式会社 府中事業所
宇宙工学部門	2025/3/21	25-25	実践セミナー「宇宙工学部門 2024年度部門賞・一般表彰 記念講演会」	44	0	東京都市大学 世田谷キャンパス
宇宙工学部門	2025/7/26	25-96	夏のこども宇宙塾「ロケットのふしぎを考えよう！」	36	0	久留米市城島ふれあいセンター
宇宙工学部門	2025/7/28	25-97	実践セミナー「人工衛星開発の基礎講座」	88	0	熊本大学 黒髪南地区
宇宙工学部門	2025/10/18	25-126	宇宙工学講座～宇宙機システムと熱制御の最前線～	35	35	東京科学大学 大岡山キャンパス
宇宙工学部門	2025/11/11	25-95	宇宙工学講座「宇宙工学における材料力学の役割」	639	0	熊本城ホール
宇宙工学部門	2026/1/16	25-163	JAXA調布航空宇宙センター見学会	18	0	JAXA 調布航空宇宙センター
技術と社会部門	2025/3/1	25-20	機械系専門科目の授業に関する検討会 - 機械系の力学教育-	65	63	ハイブリッド(工学院大学 新宿キャンパス/Zoom)
技術と社会部門	2025/7/27	25-71	モデルロケット教室	63	30	東海大学 湘南キャンパス
技術と社会部門	2025/9/27	25-128	「機械の日」 J-TREC見学会	32	32	株式会社 総合車両製作所(J-TREC) 横浜事業所

企画部門	開催年／月／日	行事No.	講演会名	参加数	有料参加	開催場所
技術と社会部門	2025/10/25	25-140	第18回新☆エネルギーコンテスト	85	0	ハイブリッド(日本大学工学部/Zoom)
技術と社会部門	2025/12/14	25-106	第12回低温差スターリングエンジン競技会・発表会	12	12	大分大学旦野原キャンパス理工学部
技術と社会部門	2025/11/15	25-141	第30回リーダーのあるべき姿を考える技術者倫理セミナー「ポジティブな倫理の観点から若手への倫理教育を考える」	8	7	オンライン
マイクロ・ナノ工学部門	2025/12/5	25-153	産学連携ワークショップセミナー「医工連携が切り拓くヘルスケアの未来」	20	16	日立ハイテクヘルスケアイノベーションセンター東京
日本学術会議(幹事:環境工学部門)	2025/5/27	25-251	第37回環境工学連合講演会	499	0	日本学術会議講堂

7・3 他団体との共催行事

開催年／月／日	行事名	題数	参加数	主催, 幹事団体
2025. 1. 28～ 2025. 12. 31	第33回衛星設計コンテスト	33	90	一般財団法人日本宇宙フォーラム
2025. 3. 18～ 2025. 3. 19	第30回 ロボティクスシンポジウム	81	218	一般社団法人日本ロボット学会
2025. 4. 1～ 2025. 8. 25	第21回全国物理コンテスト物理チャレンジ2025	2	1,547	公益社団法人物理オリンピック日本委員会
2025. 4. 1～ 2026. 3. 31	つくばチャレンジ2025	1	2,764	つくばチャレンジ実行委員会
2025. 4. 17～ 2025. 4. 18	第58回空気調和・冷凍連合講演会	31	94	公益社団法人日本冷凍空調学会
2025. 4. 22～ 2025. 4. 25	The 8th Korea-Japan Joint Symposium on Dynamics and Control (K-J Symposium 2025)	38	200	韓国機械学会 (KSME)
2025. 5. 14～ 2025. 5. 16	2025年度塑性加工春季講演会	146	479	一般社団法人日本塑性加工学会
2025. 5. 23～ 2025. 5. 23	第92回ターボ機械協会 総会講演会	32	122	一般社団法人ターボ機械協会
2025. 6. 11～ 2025. 6. 11	2025年度 若手・新人設計者, 機械設計を学ぶ学生のための 形状設計ノウハウ講習会 ～熟練設計者の頭の中にある, 知恵と工夫を教えます～	4	16	慶應義塾大学
2025. 6. 18～ 2025. 6. 18	感動と創造 ～心を動かすモノ・コトづくりのために～	5	13	慶應義塾大学
2025. 6. 19～ 2025. 6. 20	2025年春季フルードパワーシステム講演会・併設セミナー	45	119	一般社団法人日本フルードパワーシステム学会
2025. 6. 28～ 2025. 6. 30	スケジューリング国際シンポジウム2025 (International Symposium on Scheduling 2025)	36	78	スケジューリング学会
2025. 7. 16～ 2025. 7. 16	新価値創造をもたらす「デザインと設計のあいだ」～両者のいいところ取りするモノづくり～	5	17	慶應義塾大学
2025. 7. 30～ 2025. 7. 30	「不確かさ」に対して頑強な設計の知恵 “高機能化・多機能化” と “安心” のはざままで, 設計にできること	6	27	慶應義塾大学
2025. 8. 9～ 2025. 8. 10	レスキューロボットコンテスト2025	1	19	レスキューロボットコンテスト実行委員会
2025. 8. 27～ 2025. 8. 29	LIFE2025	154	281	日本生活支援工学会
2025. 8. 31～ 2025. 9. 4	International Conference on Advances in Production Management Systems 2025 (APMS2025)	233	272	International Federation for Information Processing (IFIP), Working Group (WG) 5.7
2025. 9. 13～ 2025. 9. 14	小・中学生を対象としたロボット工作教室「レスキューロボット工作&防災教室2025」	1	19	愛知工業大学
2025. 9. 16～ 2025. 9. 18	化学工学会第56回秋季大会 [部会横断型シンポジウム] プラズマプロセスの新展開	8	25	公益社団法人化学工学会熱工学部会
2025. 9. 24～ 2025. 9. 25	第76回塑性加工連合講演会	-	-	一般社団法人日本塑性加工学会

開催年／月／日	行事名	題数	参加数	主催、幹事団体
2025. 9. 25～ 2025. 9. 26	第33回インテリジェント・システム・シンポジウム (FAN2025)	93	144	一般社団法人電気学会 システム技術委員会
2025. 10. 8～ 2025. 10. 10	第46回日本熱物性シンポジウム	89	162	日本熱物性学会
2025. 10. 28～ 2025. 10. 30	MIPE in InterPACK 2025	206	237	日本機械学会IIP部 門・米国機械学会EPP 部門
2025. 11. 2～ 2025. 11. 2	ヒト型レスキューロボットコンテスト2025	15	100	ヒト型レスキューロボ ットコンテスト実行委 員会
2025. 11. 12～ 2025. 11. 14	EcoDesign2025 (第14回 環境調和型設計とインバースマ ニュファクチャリングに関する国際シンポジウム)	293	465	エコデザイン学会連合
2025. 11. 21～ 2025. 11. 21	CMF デザインサイエンス ～模倣からの脱却から、質感の タイムアクシスデザインまで	1	19	慶應義塾大学
2025. 11. 23～ 2025. 11. 25	36th 2025 International Symposium on Micro- NanoMechatronics and Human Science (From Micro & Nano Scale Systems to Robotics & Mechatronics Systems)	102	140	MHS2025実行委員会
2025. 12. 1～ 2025. 12. 2	第93回ターボ機械協会 松江講演会	64	140	一般社団法人ターボ機 械協会
2025. 12. 2～ 2025. 12. 3	Designシンポジウム2025	42	75	一般社団法人人工知能 学会
2025. 12. 4～ 2025. 12. 5	2025年秋季フルードパワーシステム講演会	52	119	一般社団法人日本フル ードパワーシステム学 会
2025. 12. 19～ 2025. 12. 19	M メソッド講習会 ～今のAI には難しい「意味づけ」か ら、新たな価値を創り出す	2	15	慶應義塾大学
2026. 1. 9～ 2026. 1. 9	2025 年度「デザイン科学」セミナー ～3つの新理論が、 革新的開発力の”体幹”を創り出す！	8	16	慶應義塾大学

8. 支部事業に係る事業

8・1 支部総会および支部事業報告

8・1・1 支部協議会

支部協議会：議長 大岩 孝彰（庶務理事）他13名、開催3回（2025.5.27, 2025.10.21, 2026.1.23）

ハイブリッド開催した。今期、審議・協議・報告を行った事項は以下のとおりである。

第1回

1. 会長挨拶・今期取り組み方針について
2. 若手会員のための資格継続キャンペーン
3. 各部門・支部企画の講習会について情報提供のお願い
4. 代表会員選挙候補者の推薦について
5. 意見発表の取り扱いについて
6. 本会の財政について
7. イベントにおける熱中症対策について
8. 出席者自己紹介
9. 支部の現状報告〔意見交換〕
10. 学生員増強功労者表彰の制度変更について〔意見交換〕
11. 依頼事項
 - (1) 部門代議員推薦について
 - (2) 年次大会開催地一覧
 - (3) 会長支部訪問
 - (4) 每期依頼事項

第2回

1. 2025年度年次大会報告, 2026年度年次大会OS, 特別企画募集
2. 2026年度（第104期）予算編成について
3. 代表会員選挙候補者推薦状況
4. 創立130周年記念事業について
5. 支部運営の課題と必要なサポート
6. 学生員増強功労者表彰の制度変更について

第3回

1. 2025年度年次大会決算報告
2. 2026年度予算に関するご協力御礼と報告
3. DEI宣言の制定
4. 機械工学振興事業資金「若手会員育成事業」について
5. 創立130周年記念事業について
6. 講習会活性化のための諸施策実施について
7. 支部活動への支援強化についての意見交換
8. 企業・学生交流誌の全国展開についての意見交換
9. フェロー候補者推薦についての意見交換
10. 支部からの報告事項
11. その他

8・1・2 支部総会（付随行事は8・1・3～8・1・10参照）

支部総会	開催日	会場	会議事項	出席数他
北海道支部 第65期支部総会	2025. 3. 21	北海道大学	第65期事業・収支決算報告, 第66期商議員当選者ならびに役員の確認, 第66期事業計画及び予算案の承認, 各賞授賞式	23名 委任状15通
東北支部 第60期支部総会	2025. 3. 17	東北大学工学部青葉記念会館	第60期事業報告・会計報告, 第61期商議員当選者発表, 第61期支部長および幹事の任命, 第61期事業計画・予算承認, 東北支部賞受賞者表彰, 学生員増強功労者報告	36名 委任状19通 (上記出席者の 内60期商議員: 出席17名)
北陸信越支部 第62期支部総会	2025. 3. 8	新潟大学	第62期事業・収支決算報告, 第63期商議員選挙結果報告, 第63期事業計画案及び予算案審議, 支部賞贈呈, その他	39名 委任状17通
関東支部 第31期支部総会	2025. 3. 3	埼玉大学	第31期事業・会計報告, 第32期商議員当選者発表, 第32期支部長および役員の任命, 第32期事業計画・予算承認, 関東支部賞受賞者表彰, 学生員増強功労者報告	120名 委任状86通 (上記出席者の 内31期商議員: 出席34名)
東海支部 第74期支部総会	2025. 3. 13	中部大学 939講義室	第73期事業報告並びに会計報告, 会計監査報告, 第74期支部役員当選者報告, 第74期事業計画並びに収支予算案, その他	17名 委任状74通
関西支部 第100期定時総会	2025. 3. 19	大阪公立大学	第100期事業報告, 第101期商議員当選者発表, 第101期幹事互選, 第101期事業計画ならびに予算, 関西支部賞表彰, 学生員増強功労者表彰	59名 委任状53通
中国四国支部 第63期支部総会	2025. 3. 7	徳島大学教養教育院 4号館201教室	第63期事業報告および会計報告, 第64期支部長, 副支部長, 幹事の選出, 新旧支部長挨拶, 第64期事業計画および予算, 支部賞受賞者の報告, 学生員増強功労者の報告	70名 (商議員45名, 内、委任状17通)
九州支部 第78期支部総会	2025. 3. 10	大分大学理工学部	第77期事業・会計報告, 第77期会員状況報告, 第78期商議員当選者発表, 第78期支部役員互選結果発表, 第78期事業計画, その他	30名 委任状29通

8・1・3 北海道支部第66期（2025年度）事業報告書

北海道支部長 佐々木 克彦 [北海道大学], 商議員 25名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 3. 21	第65期第10回幹事会	北海道大学	総会準備（第65期事業・収支決算報告、第66期商議員当選者発表、第66期事業計画及び予算案の承認、次年度への引継ぎ事項確認、他）	9名 委任状3通
2025. 4. 15	第66期第1回幹事会	メール審議	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞ならびに支部優秀講演賞受賞者審議	11名
2025. 4. 30	第66期第2回幹事会	メール審議	懇話会設置申請審議	9名
2025. 5. 9	第66期第3回幹事会	メール審議	懇話会設置申請審議	7名
2025. 6. 3	第66期第4回幹事会	メール審議	「機械の日・機械週間」事業協賛審議	11名
2025. 6. 27	第66期第5回幹事会	メール審議	「機械の日・機械週間」事業協賛審議	9名
2025. 7. 4	第66期第6回幹事会	北海道大学とオンラインによるハイブリッド開催	前期からの申し送り事項対応、今期事業報告、事業計画案審議、フェロー支部推薦候補者審議、次年度代表会員・商議員候補者の選出について確認	幹事12名 オブザーバー2名
2025. 9. 19	第66期第7回幹事会	メール審議	フェロー支部推薦候補者承認	12名
2026. 2. 5	第66期第8回幹事会	メール審議	共催事業申請審議、支部賞受賞者審議	11名
2026. 2. 6	第66期第9回幹事会	メール審議	協賛事業申請審議	11名
2025. 3. 21	第65期第2回・第66期第1回合同商議員会	北海道大学	第65期事業・収支決算報告、第66期商議員当選者発表、第66期事業計画及び予算案の承認、他	第65・66期合 わせ18名 委任状15通
2025. 3. 1	第62回講演会	室蘭工業大学	講演件数20件	53名
2026. 2. 28	第63回講演会	北海道科学大学	講演件数25件	47名
2025. 3. 1	北海道熱工学懇話会	登別温泉石水亭	特別講演「CO2を考える」平井秀一郎氏（東京科学大学）	19名
2025. 3. 10	北海道熱工学懇話会	北海道大学とオンラインによるハイブリッド開催	学生によるプレゼンテーション10件 特別講演会「微小重力環境を利用した燃焼研究」藤田修氏（北海道大学）	36名
2025. 4. 30	バイオメカニクス懇話会	北海道大学	第52回講演会 「Role and perspectives of magnetic Nanoparticles in Nanomedicine」 Prof. M. Ricardo Ibarra (Institute of Nanoscience and Materials of Aragon, CSIC-University of Zaragoza, Spain Advanced Microscopies Laboratory (LMA)University of Zaragoza, Spain Condensed Matter Physics Department, University of Zaragoza, Spain)	20名
2025. 6. 20	バイオメカニクス懇話会	北海道大学	第53回講演会 「Engineered systems for understanding the mechanobiology in tissue homeostasis and development」 Assoc.Prof. Yubing Sun (Mechanical and Biomedical Engineering, College of Engineering, University of Massachusetts Amherst, USA)	19名
2025. 7. 16	北海道熱工学懇話会	北海道大学とオンラインによるハイブリッド開催	特別講演会「Research Collaboration and Entrepreneurship with ECMS」 Prof. Masud Khan (Auckland University of Technology, New Zealand)	25名
2025. 7. 18	バイオメカニクス懇話会	北海道大学	第54回講演会「Bioreactors : technological platforms for biomimetic dynamic culture and controlled investigation of functional in vitro tissue models」 Prof. Diana Massai (Department of Mechanical and Aerospace Engineering, Politecnico di Torino, Italy)	27名
2026. 2. 28	北海道熱工学懇話会	朝里クラッセホテル	学生プレゼンテーション12件 特別講演 テーマ「エンジンと機械学習」 長沼要氏（金沢工業大学）	22名
2025. 3. 1	第62回講演会付帯特別講演会	室蘭工業大学	特別講演「北の海に生きる ～ 北海道および噴火湾のクジラたち～」 笹森琴絵氏（日本クジライルカウォッチング協議会会長 酪農学園大学客員教授）	71名
2025. 3. 21	第65期支部総会付帯特別講演会	北海道大学	特別講演「製造業の技術伝承の観点からのAIの台頭に対する懸念とメカニズム展開の意義」 伊藤朋之氏（北海道科学大学客員教授）	16名

8・1・4 東北支部第61期（2025年度）事業報告書

東北支部長 川田 達也〔東北大学〕、商議員40名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 4. 23	第61期第1回幹事会	Web会議室	新支部長挨拶, 支部幹事自己紹介, 前回幹事会議事録確認, 支部幹事役割分担の確認, 第61期事業計画・予算確認, 他	14名
2025. 7. 8 2025. 7. 31	第61期庶務幹事会 第61期第2回幹事会	Web会議室 Web会議室	東北支部運営に関する意見交換 第1回支部協議会報告, 第61期活動計画(各幹事より), 第61期秋季講演着準備状況について, 他	5名 14名
2026. 2. 6	第61期第3回幹事会	Web会議室	第3回支部協議会報告, 第60期秋季講演会報告開催報告, 第60期活動報告(各幹事より), シニア会活動報告, 第61期事業計画案・予算案, 他	14名
2025. 3. 17	第60期第2回商議員会	東北大学工学部中央棟大講義室	第60期事業報告・会計報告, 第61期商議員当選者発表, 東北支部賞受賞者報告, 学生員増強功労者報告, 他	38名 委任状19通
2025. 3. 17	第61期第1回商議員会	東北大学工学部中央棟大講義室	第61期支部長および幹事の選出, 第61期事業計画案・予算案審議, 他	40名 委任状19通
2025. 3. 17	第60期支部総会・講演会	東北大学工学部青葉記念	学術講演47件, 特別講演1件「超音速複葉翼理論の展望」, 研究交流会	95名
2025. 6. 5	支部ニュースNo. 28発行	Web公開	第61期支部長挨拶, 2024年度東北支部事業報告, 2024年度東北支部贈賞報告	-
2025. 7. 20	【後援】学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025(第19回)	東北大学川内北キャンパス講義棟	出展プログラム数: 合計117プログラム, サイエンスデイAWARDで東北支部長賞1件贈賞(主催: 特定非営利活動法人 natural science)	来場者 10,638名
2025. 8. 6～7	【共催】第23回夏休み子ども科学キャンパス(機械の日登録イベント)	東北大学大学院工学研究科創造工学センターサイエンスキャンパスホール、他	仙台市内の小学校6年生が東北大学で科学実験を体験(主催: 東北大学, 仙台市教育委員会)	小学生 157名, サポートスタッフ 53名 300名
2025. 8. 29～10. 25(4日間)	【共催】2025年度機械工学振興事業資金採択行事(メカライフ振興事業)	一関工業高等専門学校	「キカイを知る, キカイ」オープンキャンパス, 学園祭にて機械・知能系で展開している教育・研究の体験と展示	
2025. 8. 31	【後援】第5回高校生3Dデザイン&3Dプリントコンテスト	秋田県立大学本庄キャンパス	「木質が合うデザインで考えるスマホスタンド」(主催: 秋田県立大学システム科学技術学部機械工学科)	53作品参加
2025. 10. 4	【共催】第4回社会人向けオープンテックカフェ	Web会議室	講演1件「お手本のない開発ー世界初の量産ハイブリッド車初代プリウス開発において挑戦した心, 得られたこと, そして伝えたいことー」(主催: 東北大学機械系同窓会)	40名
2025. 10. 14～15	【共催】第18回秋休み子ども科学キャンパス	東北大学大学院工学研究科創造工学センターサイエンスキャンパスホール、他	仙台市内の小学校6年生が東北大学で科学実験を体験(主催: 東北大学, 仙台市教育委員会)	小学生 151名, サポートスタッフ 58名 35名
2025. 10. 17～23	AMSE-2025(第61期支部秋季講演会と同時開催)	秋田県立大学本庄キャンパス	2025 International Symposium on Advanced Materials Science and Engineering (AMSE-2025), 学術講演25件, 懇親会	
2025. 10. 18	第61期支部秋季講演会	秋田県立大学本庄キャンパス/Web会議室(ハイブリッド)	学術講演35件, 特別講演2件「JAXA's Rocket Testing Technology Contributing to Hydrogen Energy Research and Development」 「Magnesium of lightweight and hydrogen - Cultivation of innovation and invention」	74名
2025. 10. 25	支部特別講演会	日本大学工学部70号館3階7034教室(福島県郡山市)	講演1件「『エネルギー×地域』から見る地中熱利用の可能性と事業展開」	43名
2025. 10. 25	【後援】第18回新☆エネルギーコンテスト	日本大学工学部70号館7階北側スペース	ショートプレゼン, ポスター発表, 作品実演	43名
2025. 10. 29	支部および支部シニア会2025年度施設見学会	東北電力株式会社新仙台火力発電所	新仙台火力発電所施設設備視察, 技術開発プレゼン, 意見交換会, 懇親会	見学会14名, 懇親会6名
2025. 11. 27	ロボット競技会(支部メカライフ振興事業)	一関工業高等専門学校	ロボット20台による競技会(トーナメント戦)	300名
2025. 12. 14	3Dプリンタ教室(支部メカライフ振興事業)	一関市民センター	テーマ: 「オリジナル印鑑の設計製作」小学生向けの3D-CaD, 3Dプリンタ教室の実施	100名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2026. 1. 14	【共催】第14回電力エネルギー未来技術シンポジウム	東北大学工学部サイエンスキャンパスホール/Web会議室 (ハイブリッド)	テーマ: 「新たなエネルギーポートフォリオ実現に向けた技術開発」, 講演4件 (主催: 東北大学大学院工学研究科・附属先端材料強度科学研究センター・電力エネルギー未来技術 (東北電力) 共同研究部門)	200名
2026. 1. 17	【協賛】第5回社会人向けオープンテックカフェ	Web会議室	講演1件「回り道で学んだ「越境」の価値ー微生物学を軸とした医農工連携による技術開発ー」 (主催: 東北大学機械系同窓会)	40名

日本機械学会東北支部シニア会

2025年度 事業実施状況

シニア会会長: 小沢 喜仁(福島大学)、登録会員 49名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 3. 7	東北学生会第55回卒業研究発表会	八戸工業高等専門学校	学術講演60件, 独創研究学生賞審査	1名
2025. 3. 17	第60期支部総会・講演会	東北大学工学部青葉記念	学術講演47件, 若手優秀講演フェロー賞・独創研究学生賞審査	4名
2025. 7. 20	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025 (第19回)	東北大学川内北キャンパス講義棟	サイエンスデイAWARDで東北支部長賞審査	1名
2025. 8. 11	サイエンス屋台村	福島市こむこむ・福島大学	支部シニア会として「ものづくりの秘密」出店	80名(入場者860名)
2025. 10. 18	第61期支部秋季講演会	秋田県立大学本荘キャンパス/Web会議室 (ハイブリッド)	学術講演35件, 若手優秀講演フェロー賞・独創研究学生賞審査	2名
2025. 10. 18	AMSE-2025 (第61期支部秋季講演会と同時開催)	秋田県立大学本荘キャンパス	特別講演2件	2名
2025. 10. 29	支部および支部シニア会2025年度施設見学会見学会	東北電力株式会社新仙台火力発電所	新仙台火力発電所施設設備視察, 技術開発プレゼン, 意見交換会, 懇親会	見学会14, 懇親会6

東北学生会 (会員校 16校)

学生会担当幹事
委員長 校
総 会
野田 幸矢 (福島高専), 幕田 寿典 (山形大)
福島高専 (連絡顧問教員: 山口 直也)
日本機械学会東北学生会 令和6年度 (第55期) 定期総会
議 題: 1) 令和5年度事業報告
2) 令和5年度会計報告
3) 次期委員長校選出 (福島高専)
4) その他

会 員 校 名
八戸工業大学, 八戸工業高等専門学校, 弘前大学, 岩手大学, 一関工業高等専門学校, 秋田大学, 秋田県立大学, 秋田工業高等専門学校, 東北大学, 東北学院大学, 仙台高等専門学校, 山形大学, 鶴岡工業高等専門学校, 福島工業高等専門学校, 福島大学, 日本大学

会 員 校 会
日本機械学会東北学生会 令和7年度 (第56期) 会員校会議
日 時: 2025年8月8日(金)~8月18日(月)
議 題: 1. 令和7年度 事業計画について
1.1 東北学生会事業計画
1.2 地区事業計画
1.3 「メカライフの世界」展について
1.3.1 今年度の「メカライフの世界」展について
一関工高専が採択。
一関工高専に機械振興費25,000円及び支部補助金50,000円を支給。
1.3.2 来年度の「メカライフの世界」展の補助について
一関工高専が申請済み
1.4 学生会委員長選出と委員長校会・学生交流会への派遣
・学生会委員長: 角掛 優心 (福島高専 専攻科2年)
・委員長校会議: 2025.9.9 13:00~15:00 北海道大学 工学部
・学生交流会: 同日17:40~19:30

- 1.5 「電子コンパス」について 後日執筆依頼 (2025. 10. 21依頼済)
- 1.6 「地区事業報告」について (次頁を参照)
- 1.7 総会・卒業研究発表講演会について
 東北学生会 第56回学生員卒業研究発表講演会および定期総会
 U R L <https://www.jsme.or.jp/conference/tohoku-gakusei56/>
 講演会開催日 2026年3月10日 (火)
 講演会会場 福島工業高等専門学校
 (福島県いわき市平上荒川字長尾30)
 定期総会 同日開催
2. 本年度予算について
 - 2.1 地区事業費配分案について
 均等配分額 (7,000円) + 学生員数配分額 (1,200円×人数)
 - 2.2 旅費について 学生員に支給予定.
3. その他 (特になし)

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 4. 3	新入生ガイダンス	東北学院大学五橋キャンパス	新入生への機械学会の紹介	116名
2025. 4. 8～9	学生会紹介	八戸工業大学	1年～4年生に対して、学生会の紹介	123名
2025. 4. 8～09	ガイダンス	秋田県立大学	各学年のガイダンス時に機械学会の紹介	240名
2025. 5. 11	オープンキャンパス2025	日本大学工学部	高校生を対象とした大学説明会と施設見学	780名
2025. 5. 11～12	オープンキャンパス・春	福島工業高等専門学校	中学生への学校案内	700名
2025. 6. 4, 2025. 8. 6, 2025. 11. 12, 2026. 2. 6	機械女子会	弘前大学	機械系女子による女子会	総計59名
2025. 6. 12	出張オープンキャンパス in中通り	ビッグバレット ふくしま	中学生への学校案内	200名
2025. 6. 26	オープンキャンパス	東北学院大学五橋キャンパス	高校生・市民への機械学会の紹介	150名
2025. 6. 28	キャンパスカミングデー	一関工業高等専門学校	オープンキャンパスでの機械・知能系の紹介	160名
2025. 7. 12	オープンキャンパス・夏	福島工業高等専門学校	中学生への学校案内	200名
2025. 7. 13	オープンキャンパス (共生システム理工学類・食農学類, 来場型開催)	福島大学	研究室公開	136名
2025. 7. 17	工場見学	秋田県立大学	見学先: 秋田県内企業様, 1年生対象で県内の機械系企業を見学	61名
2025. 7. 19	オープンキャンパス	秋田大学	研究室紹介, 実験体験など	500名
2025. 7. 19～20	中学生一日体験入学	八戸工業高等専門学校	中学生一日体験入学における機械・医工学コース公開	300名
2025. 7. 20	オープンキャンパス2025	秋田県立大学	研究室紹介+機械の日PR	369名
2025. 7. 26	オープンキャンパス	東北学院大学五橋キャンパス	高校生・市民への機械学会の紹介	150名
2025. 7. 26～27	オープンキャンパス	仙台高等専門学校	オープンキャンパス	30名
2025. 7. 30～31	オープンキャンパス	東北大学	オープン講義、研究室紹介等	4,991名
2025. 8. 2	オープンキャンパス (機械の日PR活動)	山形大学	機構模型の展示など	1000名
2025. 8. 2～3	オープンキャンパス2025	日本大学工学部	高校生を対象とした大学説明会と施設見学	2500名
2025. 8. 5	オープンキャンパス	岩手大学	研究室公開	150名
2025. 8. 5	オープンキャンパス	秋田工業高等専門学校	中学生1, 2, 3年生対象のオープンキャンパス	339名
2025. 8. 6	夏休み自由研究道場	秋田工業高等専門学校	小学3年生から6年生向けの公開講座	5名
2025. 8. 6	秋田高専公開講座シャボン玉の科学	秋田工業高等専門学校	小学3年生から6年生向けの公開講座	5名
2025. 8. 6～7	第23回夏休みこども科学 キャンパス	東北大学	小学6年生対象、本格的な実験を体験する	157名
2025. 8. 8	オープンキャンパス (機械の日PR)	弘前大学	中・高生向けの学科紹介と研究室公開と 機械科学科の学生を対象とした研究室紹介	745名
2025. 8. 30～31	オープンキャンパス	一関工業高等専門学校	中学生向けオープンキャンパスでの模擬授業	300名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 9. 7	第5回高校生3Dデザイン &3Dプリントコンテスト	秋田大学	東北地域の高校生(3D-CADの経験者, 学習者)	53名
2025. 9. 20~21	オープンキャンパス・秋	福島工業高等専門 学校	中学生への学校案内	200名
2025. 9. 25~26	工場見学	関東地区の企業	4年生の工場見学	40名
2025. 10. 11~12	学園祭での展示	八戸工業大学	研究室の展示, 自動車工学センターの施設公開	200名
2025. 10. 13	オープンキャンパス(大 学祭併催)	東北学院大学五 橋キャンパス	高校生・市民への機械学会の紹介	150名
2025. 10. 14~15	第18回秋休み子ども科学 キャンパス	東北大学	小学6年生対象、本格的な実験を体験する	151名
2025. 10. 18	メカnoワールド体験塾A コース	八戸工業高等専門 学校	中学生を対象とした機械・医工学コース公開講 座	18名
2025. 10. 19	楽しい科学・サイエンス への招待(総合文化祭企 画)	弘前大学	一般向けの研究室公開	300名
2025. 10. 20	研究室見学および工場見 学	弘前大学	見学先:青森県(東北電力 八戸火力発電所, エプソンアトミクス), 岩手県(TDKエレクト ロニクスファクトリーズ(隼北工場, オプ トル花巻事業所)	80名
2025. 10. 25~26	高専祭	仙台高等専門学 校	学校説明会	80名
2025. 10. 25~26	ミニオープンキャンパス	日本大学工学部	受験生を対象とした大学説明会と入試説明会	500名
2025. 10. 25~26	八戸高専 高専祭 コース 展示	八戸工業高等専門 学校	高専祭における機械・医工学コース研究室公開	300名
2025. 10. 25~26	キカイを知る、キカイ	一関工業高等専門 学校	高専祭での機械・知能系の紹介	300名
2025. 10. 27	体験入学(進学ガイド ンス)	秋田工業高等専門 学校	中学生の一日体験入学	135名
2025. 11. 1	メカnoワールド体験塾B コース	八戸工業高等専門 学校	中学生を対象とした機械・医工学コース公開講 座	24名
2025. 11. 4	オープンキャンパス・冬	福島工業高等専門 学校	実験室公開, 工作体験	200名
2025. 12. 6	日本大学工学部学術研究 報告会	日本大学工学部	研究発表会	80名
2025. 12. 19	機械系分野の他大学連携 講演会	山形大学	講師を招いての講演会	20名
2026. 1. 31	専攻科特別研究発表会	秋田工業高等専門 学校	専攻科2年の特別研究発表会	40名
2026. 2. 3	卒業研究発表会	鶴岡工業高等専門 学校	卒業研究発表会	220名
2026. 2. 4	卒業研究発表会	鶴岡工業高等専門 学校	卒業研究発表会	220名
2026. 2. 5	卒業研究発表会, 修士論 文発表会	東北学院大学五 橋キャンパス	市民への機械学会の紹介	130名
2026. 2. 5~ 6, 2.12~13	卒業研究発表会・修士論 文発表会	秋田大学	学部・修士学生の発表	150名
2026. 2. 7	卒業研究発表会	日本大学工学部	卒業研究の発表会	185名
2026. 2. 9~ 10, 2.12~13	卒業研究発表会 修士論文発表会	弘前大学	卒業研究発表会, 修士論文発表会	150名
2026. 2. 10	修士論文公聴会	岩手大学	修士論文公聴会	80名
2025. 2. 12	卒業研究発表会	秋田県立大学	卒業研究の成果報告	60名
2026. 2. 12	卒業研究発表会	秋田工業高等専門 学校	本科5年生の卒業研究発表会	40名
2026. 2. 12~ 17	修士論文公聴会, 卒業研 究発表会	山形大学	修士論文審査会, 卒業研究発表会	200名
2026. 2. 13	修士学位論文審査会およ び謝恩会	日本大学工学部	修士研究の発表会	87名
2026. 2. 16	卒業研究発表会	福島大学	卒業研究内容の発表	50名
2026. 2. 16	卒業研究発表会	岩手大学	卒業研究発表会	100名
2026. 2. 16~ 9	自作スターリングエンジ ン走行会	仙台高等専門学 校	自作したスターリングエンジンの走行会	48名
2026. 2. 17	卒業研究発表会	福島工業高等専門 学校	卒業研究発表会	130名
2025. 2. 17~18	修士論文審査会	秋田県立大学	修士論文の発表と審査	18名

8・1・5 北陸信越支部第63期（2025年度）事業報告書

北陸信越支部長 坂村 芳孝〔富山県立大学〕, 商議員38名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 4. 22	総会幹事会	書面付議	前期引継事項, 事業計画, 予算, 支部への手続き, その他	14名
2025. 6. 9	第1回幹事会	オンライン	会務報告, 支部協議会報告, 事業計画進行状況, 行事計画, 支部賞について, その他	12名
2025. 8. 6	第2回幹事会	相鉄フレッサン長野 善光寺口会議室	会務報告, 事業経過報告, 行事計画, 次期役員候補者の選出, 支部ニューズレター発行 計画, その他	12名
2025. 12. 16	第3回幹事会	書面付議	懇親会 支部賞決定	14名
2025. 12. 16	第4回幹事会	オンライン	第63期事業・収支決算案報告, 第63期事業計画・ 予算案立案, 第63期支部役員の互選について, その他	12名
2025. 3. 8	第64回商議員会	新潟大学	第62期事業・収支決算報告, 第63期商議員選挙結果報告, 第63期事業計画案及び 予算案審議, 支部賞受賞者報告, その他	41名 委任状17通
2025. 12. 3	第1回支部賞選考委員会	書面付議	2025年度支部賞受賞候補者の選考	5名
2025. 12. 11	第2回支部賞選考委員会	オンライン	2025年度支部賞受賞候補者の選考	4名
2025. 3. 7- 8	2025年合同講演会 (総会・講演会&卒業研 究発表講演会)	新潟大学	学術講演229件	431名 交流会27名
2025. 3. 6- 7	特別講演会・見学会・パ ネルディスカッション	ミズホ(株)五泉工 場・新潟大学	北陸信越バイオエンジニアリング研究会 講演1件	17名
2025. 3. 7	意見交換会	新潟地場もん越たん たん	意見交換会	7名
2025. 5. 7	特別講演会	石川県産業展示館・ オンライン	MEX金沢2026開催記念セミナー 「AI×トライボロジー」が切り開く近未来の潤 滑油状態監視法」 講演1件	55名
2025. 7. 26	特別講演会	金沢工業大学	第75回北陸流体工学研究会 講演6件	116名
2025. 8. 9	特別講演会・ワークショ ップ	金沢大学	「硬い金属の謎を柔らかな発想で解き明かす～不 思議!面白そう!を追いかけて研究者の道へ～」 講演1件	20名
2025. 12. 12	特別講演会	(株)ゾディック加賀 事業所	「ものづくりのためのトライボロジー」 講演1件・見学会1件	21名
2025. 12. 13	協議大会	富山県立大学	とやまドローン学生交流競技大会 競技会1件	60名
2025. 12. 21	特別講演会	福井大学	「多脚および索状ロボットの柔らかさを活用した 運動制御」 講演1件	33名
2026. 1. 9	特別講演会・意見交換会	新潟大学駅南キャン パスときめいと	「日本機械学会北陸信越支部技術講演会」 講演4件	45名
2025. 1. 23	特別講演会・見学会	富山大学	「工具への機能付与による高精度化と長寿命化の 考え方」 講演3件・見学会1件	27名
2025. 7. 4	県運営委員会	オンライン	福井県運営委員会 次期役員の選出, 県行事計画, フェロー推薦, 支部賞推薦, その他	6名
2025. 7. 10	県運営委員会	オンライン	新潟県運営委員会 次期役員の選出, 県行事計画, フェロー推薦, 支部賞推薦, その他	13名
2025. 7. 14	県運営委員会	金沢大学	石川県運営委員会 次期役員の選出, 県行事計画, フェロー推薦, 支部賞推薦, その他	9名
2025. 7. 17	県運営委員会	オンライン	長野県運営委員会 次期役員の選出, 県行事計画, フェロー推薦, 支部賞推薦, その他	8名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 8. 29	県運営委員会	オンライン	富山県運営委員会 次期役員の選出, 県行事計画, フェロー推薦, 支部賞推薦, その他	6名

**日本機械学会北陸信越支部シニア会
2025年度 事業実施状況**

シニア会 運営委員長・長野県幹事：戸井 順 シニア会 運営副委員長・新潟県幹事：永澤 茂
シニア会 富山県幹事：小熊 規泰 シニア会 石川県幹事：木綿 隆弘
シニア会 福井県幹事：羽木 秀樹 シニア会 担当幹事：寺岡 喜和

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025. 3. 7- 8	2025年合同講演会 シニアアドバイザー活動	新潟大学	優秀講演賞選考	9名
2025. 3. 30	会員募集案内	メール送付	55歳以上の支部所属機械学会員へ入会案内送付	60名
2026. 1. 29	第1回運営委員会	オンライン	2025年度活動報告, 2026年度活動計画, 予算, 次年度役員候補者確認, その他	7名
2025. 4. 8	第22回テクノサロン	上田温泉吉祥園・寿久庵 (長野県)	会員の相互理解・会員の活動発表	7名
2025. 6. 15 - 2026. 3. 21	小中学生を対象としたロボット製作教室とロボット競技会の支援	佐久市、軽井沢町、御代田町 (長野県)	ロボットの製作と改善・改良についての指導と補助 ジュニア会友募集	344名
2025. 11. 30	第23回テクノサロン	ホテル信濃路 (長野県)	会員の相互理解・会員の活動発表	7名
2025. 3. 21	セミナー	ミライエ長岡 (新潟県)	複合材型加工研究セミナー	57名
2026. 1. 5	新潟県県会員懇談会	海宝丸 (新潟県)	会員の相互理解・会員の活動発表, 事業報告、事業計画、意見交換	5名
2026. 2. 8	富山県県会員懇談会	書面付議	各県活動報告, 事業計画, 役員に関する報告	8名
2025. 9. 30	第20回テクノサロン石川	金沢大学駅前サテライト・オンライン (石川県)	講演会, 意見交換、懇親会	10名
2025. 2. 27	石川県県会員懇談会	書面付議	各県活動報告, 事業計画, 役員に関する報告	23名
2025. 12. 12	令和7年度ふくいテクノ懇話会兼福井県会員懇談会	ナカッテック本社 (福井県)	講演会, 事業報告、事業計画、意見交換	7名

北陸信越学生会 (会員校 17校)

学生会担当幹事 宮下 大輔 (長野工業高等専門学校)
学生会担当副幹事 史 金星 (公立小松大学)
委員長校 長野工業高等専門学校
幹事校 長野県：長野工業高等専門学校 (委員長校), 新潟県：新潟工科大学, 富山県：富山県立大学, 石川県：金沢工業大学, 福井県：福井大学
講演会 2025年合同講演会 卒業セッション
総会 2024年度北陸信越支部学生会総会
幹事校会 2024年度第2回幹事校会 (2025年3月7日) 会場：新潟大学,
2025年度第1回幹事校会 (2025年7月12日) 会場：長野工業高等専門学校
メカライフの世界展 長岡工業高等専門学校 (2025年8月12日), 富山県立大学 (2025年8月2日)
会員校名 長野県：信州大学工学部, 信州大学繊維学部, 長野工業高等専門学校
新潟県：新潟大学, 長岡技術科学大学, 新潟工科大学, 長野工業高等専門学校
富山県：富山大学, 富山県立大学, 富山高等専門学校
石川県：金沢大学, 金沢工業大学, 公立小松大学, 石川工業高等専門学校
福井県：福井大学, 福井工業大学, 福井工業高等専門学校

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025. 3. 7	2025年合同講演会卒業研究セッション	新潟大学	講演件数：96件	—

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025. 3. 7	2024年度第2回幹事校会	新潟大学	事業・決算報告等	21名
2025. 3. 7	学生会総会	新潟大学	事業・決算報告等	21名 委任状 (12)
2025. 3. 7	2025年度第1回幹事校会	長野工業高等専門学校	事業・決算報告, 事業計画等	38名

8・1・6 関東支部第32期（2025年度）事業報告書

関東支部長 山崎 美稀 [(株)日立ハイテク], 商議員143名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 3. 3	新旧合同支部運営会	埼玉大学	新支部長挨拶, 支部役員自己紹介, 前回支部運営会議事録確認, 2025年度本部諸委員推薦の件, 第32期(2025年度)各ブロック担当者(会計担当・HP担当・機械の日担当委員)ご連絡のお願い, 第32期(2025年度)ブロック委員・オブザーバーの件, 第32期(2025年度)支部総会・講演会・第65回学生員卒業研究発表講演会の件, 関東支部総会・講演会・卒業研究発表会・年次大会会場校ブロックローテーションの件, 次期への申し送り・引継ぎ事項, 他	29名
2025. 4. 15	第1回支部運営会	日本機械学会会議室/Web会議室(ハイブリッド)	第32期支部運営会名簿の件, 各種会議開催報告, 第32期ブロック交付金及び学生会交付金の件, 3月末会員数報告, 第31期総会・総会講演会・第64回卒業研究発表講演会開催報告, 2024年度(第31期)年間スケジュール, 事務処理マニュアル(WEBへの会告掲載, ブロック会計処理方法, 共催, 協賛, 後援, 他)の件, オブザーバーの件, 前回支部運営会議事録確認, 第31期総会議事録確認, 第32期方針検討について, 若手優秀講演フェロー賞, 若手優秀講演賞選考の件, 第32期総会・講演会・卒研について, 「機械の日」イベント企画委員会の件, 「機械の日」トートバックの件, 関東支部総会・講演会・卒業研究発表会・年次大会会場校ブロックローテーションの件, 他	22名
2025. 6. 10 2025. 7. 11	臨時関東支部運営会 第2回支部運営会	Web会議室 日本機械学会会議室/Web会議室(ハイブリッド)	代表会員の選出方法, 選出手続きの変更について各種会議開催報告, 6月末会員数報告, 科学研究費補助金公募の件, 2024年度関東支部賞募集の件, ブロックオブザーバーの件, 2025年度「機械の日・機械週間」事業の件, 第32期総会・講演会, 第65回学生員卒業研究発表会の開催検討について, 次期代表会員・商議員選挙の件, ブロックの活動状況について, 前回議事録確認, 関東支部共催事業に関する件, 日本機械学会賞, 奨励賞, 教育賞, イノベーション表彰, 標準事業表彰, 推薦依頼の件, フェロー候補者推薦の件, 商議員の退会の件, ブロック委員の件, 2025年度部門代議員推薦の件, 中間決算(8月次)における支部決算書類作成のお願い, 他	11名 20名
2025. 10. 14	第3回支部運営会	Web会議室	各種会議開催報告, 2025年度フェロー候補者推薦の報告, 関東支部賞募集について, 9月末会員数報告, 各ブロック事業活動報告, インフォメーションメールの配信方法の変更について, 前回議事録確認, 2026年度代表会員, 商議員候補者の件, 各ブロック・支部第31期(2025年度)中間事業・会計報告, 第32期(2025年度)暫定予算・事業計画について, 関東支部第32期総会・講演会の件, 第65回学生員卒業研究発表講演会の件, 幹事の役割分担について, 他	15名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025.12. 8	第4回支部運営会	日本機械学会会議室/Web会議室 (ハイブリッド)	各種会議開催報告、支部大会の進捗およびお願い第32期総会・講演会準備状況、第65回学生員卒業研究発表講演会準備状況、各ブロック事業活動報告、前回議事録確認、2025年度(第32期)関東支部賞の件、2026年度(第33期)予算概要・ブロック事業計画概要の件、2026年度(第33期)ブロック交付金の件、事業報告書原稿作成のお願い、2026年度(第33期)ニューズレター編集委員会(広報委員会)の件、2026年度(第33期)事業企画委員会の件、他	14名
2026. 2.20	第5回支部運営会	日本機械学会会議室/Web会議室 (ハイブリッド)	各種会議等報告、1月末会員数報告、2025年度フェロー選考経過報告、第32期シニア会総会開催報告、2026年度機械工学振興事業資金助成の件、第32期総会・講演会関連進捗状況報告、第65回学生員卒業研究発表講演会関連進捗状況報告、各ブロック活動報告、2026年度支部学生会交付金の件、2025年度(第32期)事業報告・2026年度(第33期)予算(案)の件、関東支部総会提出 2025年度(第32期)事業報告書・2026年度(第33期)事業計画(案)の件、次期商議員の件、2026年度(第33期)広報委員会の件、2026年度(第33期)事業企画委員の件、2026年度(第33期)関東支部支部シニア会感謝状贈賞の件、支部大会の件、支部役員申し送り、引継ぎの件、他	18名
2025. 3. 1～ 2026. 2.28	支部幹事会、委員会 (10回開催)	Web会議室等	支部運営に関する諸事項の審議	102名
2025. 3. 3～ 4	第31期総会・講演会	埼玉大学	特別講演1件、学術講演：155件(OS3テーマ、一般セッション、特別セッション)	400名

1. 東京ブロック ブロック長 元祐 昌廣 [東京理科大学 教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 4. 9	第1回幹事会	Web会議	名簿確認、役割分担	7名
2025. 7. 3	第1回運営委員会	メール審議	第33期商議員候補者の推薦について	39名
2025. 8. 9	機械の日記念行事	中央大学	小中学生のための夏休みメカ教室 「水で動くロボットアームを作ろう」	18名
2025.10.31	第1回ラウンドイブニングセミナー(通算91回イブニングセミナー)	オンライン	「発熱の局在化によるマイクロ・ナノ流体工学の展開」	50名
2025.11.19	第2回ラウンドイブニングセミナー(通算92回イブニングセミナー)	オンライン	「ソフトロボティクマター-材料力学に基づくソフトロボットのモデル研究-」	66名

2. 神奈川ブロック ブロック長 森下 達哉 [東海大学 教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 4.18	第1回幹事会	Web会議	前年度事業報告、名簿確認、役割分担、神奈川フォーラム等の意見交換	23名
2025. 6.27	第2回幹事会	Web会議	関東支部運営委員会の報告、神川フォーラム等の行事についての進捗報告	16名
2025. 7.26	第1回小中学生工作教室	神奈川県立 産業技術総合研究所	スターリングエンジンの製作	33名
2025. 8. 3	第2回小中学生工作教室	三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド	スターリングエンジンの製作	17名
2025. 8. 7	第3回幹事会	神奈川県立 産業技術総合研究所	各担当の企画事業の進捗報告など	13名
2025. 8. 7	第29回神奈川フォーラム	神奈川県立 産業技術総合研究所	「農業イノベーションを支える機械工学の最前線」講演数：7件	21名
2025. 8. 7	意見交換会	神奈川県立 産業技術総合研究所	神奈川フォーラム参加者と講演者の意見交換	15名
2025. 8.23	第3回小中学生工作教室	川崎市産業振興会館	スターリングエンジンの製作	39名
2025.11. 8	第4回幹事会	Web会議	各担当の企画事業の進捗報告など	28名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 12. 10	総会および産学官交流会	株式会社IHI 横 浜事業所ゲストハ ウス	「自然災害に向けた企業・自治体・教育機関の 取り組み」講演数：5件	26名
2025. 12. 10	神奈川ブロック表彰 式・懇親会	株式会社IHI 横 浜事業所ゲストハ ウス	技術賞、功績賞、感謝状の贈賞	26名
2026. 1. 16	企業見学会	いすゞ自動車藤沢 工場	いすゞ自動車藤沢工場、いすゞプラザの見学	28名
2026. 2. 6	テクニカルショウヨコ ハマ 2026 セミナーブ ログラム	パシフィコ横浜	「農業イノベーションを支える機械工学の最前 線」講演数：5件	68名

3. 埼玉ブロック ブロック長 牧山 高大 [ものづくり大学 准教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 8. 4	工学・科学技術と親し む会	埼玉工業大学	★摩擦の科学×謎解き★ 「トライボロジーアドベンチャー ～でこぼこ大 魔王を倒して世界を救え！～」	約50名
2025. 8. 24	「若田名誉館長杯ロー バーロボット大会」	さいたま市宇宙青 少年会館	小学生、中学生対象のロボットコンテスト	約80名
2025. 11. 6	山車ロボットコンテス ト メール会議など必要に 応じて実施	ウエスタ川越	高校生対象の山車ロボットコンテスト 埼玉ブロックより審査員派遣	約100名 —

4. 千葉ブロック ブロック長 荻原 慎二 [東京理科大学 教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 6. 13	千葉ブロック第1回運営 会	東京理科大学	今期の活動計画、担当役員、 関東支部運営会報告など	34名 (委任状提 出20名含 む)
2025. 8. 7	千葉ブロック第2回運営 会	千葉工業大学	関東支部運営会報告、行事進捗状況、次期商議 員の確認など	41名 (委任状提 出19名含 む)
2025. 9. 22	産学官シンポジウム	京成ホテルミラマ ーレ	基調講演	60名
2025. 10. 30	見学会	麒麟ホールディ ングス産業技術総 合研究所	千葉県加工技術研究会、 千葉県発明協会との共催による見学会	17名
2025. 11. 2	第18回風力発電コンペ WINCOM2025	日本大学	風力発電装置の競技会	23チーム
2025. 11. 12	千葉ブロック第3回運営 会	千葉大学	関東支部運営会報告、 行事進捗状況確認、次期役員など	35名 (委任状提 出14名含 む)
2025. 12. 16	千葉ブロック第4回運営 会	日本大学	関東支部運営会報告、 行事進捗状況確認、次期役員など	35名 (委任状提 出22名含 む)
2025. 12. 17	機械工学冬季セミナー	WEB	転がり軸受の音・振動・振れと電食	22名
2026. 1. 29	第40回先端技術フォー ラムちば	ホテルプラザ菜の 花	講演会（講演件数：3件）	19名
2026. 2. 12 ～13	日本伝熱学会 伝熱技術の鉄鋼業への 産業応用	木更津市中央公民 館 日本製鉄(株)東日本 製鉄所	講演会（講演件数：5件） 見学会（日本製鉄(株)東日本製鉄所）	12名

5. 茨城ブロック ブロック長 道辻 洋平 [茨城大学 教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 5. 16	第1回ブロック運営委員 会	Web会議	前年度事業報告、名簿確認、役割分担	20名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 7. 29	第2回ブロック運営委員会	Web会議	前年度事業報告, 名簿確認, 役割分担	20名
2025. 8. 22	「機械の日」第20回ものづくり体験・理科工作教室	茨城大学工学部	小学生向け工作教室	20名
2025. 8. 23	「機械の日」おもしろ科学セミナー2025	茨城工業高等専門学校	小学生向け科学セミナー	140名
2025. 8. 29	2025年度茨城講演会	茨城大学工学部	茨城ブロック主催の学術講演会(講演数:65件)	140名
2025. 12. 1 2025. 12. 10	なるほど技術者講演会 日立建機株式会社 土浦工場+Value Creation Hub見学会	茨城大学工学部 日立建機土浦工場	大学生向け企業見学会 大学生向け企業見学会	130名 4名
2026. 2. 12	第3回ブロック運営委員会	Web会議	前年度事業報告, 名簿確認, 役割分担	20名

6. 栃木ブロック ブロック長 今泉 文伸 [小山工業高等専門学校 教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 5. 8	第1回栃木ブロック運営会議	Web会議	自己紹介、栃木ブロック運営会議の開催方法について、事業内容の確認、第1回支部運営会報告、連絡事項の伝達	10名
2025. 7. 15	第2回栃木ブロック運営会議	メール審議	第2回支部運営会報告、来期商議員候補の推薦、連絡事項の伝達	11名
2025. 10. 19	第3回栃木ブロック運営会議	ライトキューブ宇都宮	第3回支部運営会報告、後期イベントの確認	9名
2025. 12. 23	第4回栃木ブロック運営会議	メール審議	第4回支部運営会報告	11名
2025. 7. 12	「機械の日」関連行事	足利大学大前キャンパス	「波から電気をつくろう」講座	17名
2025. 8. 3	「機械の日」関連行事	小山高専	光合成の原理を模倣した光電池の作製	20名
2025. 8. 10	「機械の日」関連行事	小山高専	障害物を乗り越えるロボットカーを作ろう	18名
2025. 9. 20	「機械の日」関連行事	宇都宮大学陽東キャンパス	アイデアカー・フェスタ2025	100名
2025. 10. 19	栃木ブロック研究交流会2025	ライトキューブ宇都宮	研究発表(ポスター形式)	55名
2025. 10. 19	栃木ブロックフェア	ライトキューブ宇都宮	講演2件	55名
2025. 12. 10	企業見学会	ギガフォトン株式会社	工場見学	15名
2026. 1. 22	栃木産業人クラブとの交流会	ニューミヤコホテル足利	講演2件、懇親会	20名

7. 群馬ブロック ブロック長 鈴木 孝明 [群馬大学 教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 5. 9	群馬ブロック第1回運営会	ハイブリッド(群馬大学桐生キャンパス)	第31期事業・収支決算報告, 第32期事業計画・予算・年間計画など	13名
2025. 7. 21	機械の日事業 第14回一日体験理工学教室機械の学校	群馬大学桐生・太田キャンパス・オンライン	理工学の魅力を高校生に伝えることによって、彼らが技術者・研究者を志望するきっかけを作る。	147名
2025. 8. 19, 21, 22	機械の日事業 第11回機械の学校in高専	群馬工業高等専門学校	小中学生を対象に、群馬高専のロボットや加工機械を使った体験実習	25名
2025. 9. 19	群馬ブロック第2回運営会	オンライン	第32期中間報告, ブロック総会企画など	15名
2025. 10. 18 ~19	「メカライフの世界」展 わくわくどきどき, メカニカル	群馬大学桐生キャンパス	未就学児~高校生を対象として、楽しく学べる科学体験イベントを提供する。	180名
2025. 12. 17	群馬ブロック研究・技術交流会	群馬大学桐生キャンパス	研究交流会・講演数27件, ショートプレゼンテーション6件	63名
2025. 12. 17	群馬ブロック第3回運営会	群馬大学桐生キャンパス	ブロック賞選考, 各行事報告など	11名
2025. 12. 17	群馬ブロック総会	群馬大学桐生キャンパス	各種報告, ブロック賞表彰	41名

8. 山梨ブロック ブロック長 角田 博之 [山梨大学 准教授]

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 5. 7	第1回山梨ブロック運営会議	オンライン会議	第1回支部運営会報告, 新旧委員情報交換, ブロック行事進捗状況確認など	16名
2025. 8. 8	第2回山梨ブロック運営会議	メール会議	第2回支部運営会報告, 中間事業報告, ブロック行事進捗状況確認など	18名
2025. 11. 25	第3回山梨ブロック運営会議	オンライン会議	第3回支部運営会報告, 第33期事業計画・予算案報告, ブロック行事実施報告・進捗状況報告など	10名
2025. 11. 8	ロボコンやまなし2025	山梨県流通センター	ロボット競技 (中学の部, 高校の部, 大学・一般の部), 参加団体22校, 参加チーム86チーム, 参加者242名	650名 (来場者)
2025. 10. 25	山梨講演会2025	山梨大学 (対面)	講演件数56, 特別講演1件 事前登録80名, 当日登録13名 精密工学会・山梨大学共催	93名
2025. 12. 7	ものづくり工作教室	山梨大学	小・中学生向けのロボット工作体験教室	7名
2025. 11. 15	山梨大学ものづくり出張授業	県立吉田高校	出張授業	42名
2025. 12. 16	メカパイロット	富士河口湖高校	出張授業 (教育用レゴを用いたロボット作製)	26名
2025. 12. 11	工場見学	牧野フライス製作所	機械学会主催工場見学会	14名

日本機械学会関東支部シニア会
2025年度 事業実施状況

シニア会 会長：野口 昭治(東京理科大学) シニア会 幹事：四阿 佳昭 (日鉄物流(株))
シニア会 顧問：鳥毛 明 シニア会 顧問：中山 良一

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 6. 26	シニア会との合同運営会議・交流会	Web会議室		37名
2025. 7. 3	第1回メンバー交流会	森戸記念館	講演1件	17名
2025. 11. 13	第2回メンバー交流会	森戸記念館	講演1件	16名
2025. 6. 5	見学会	日産自動車(株) 横浜工場・エンジンミュージアム(横浜)		12名
2025. 3. 1 ～ 2026. 2. 28	シニア会子供向けイベント「エンジニア塾」	Web会議室・TEPIA等	8回開催	修了13名
2026. 1. 16	シニア会第32期総会・特別講演会	森戸記念館	第32期活動報告・第33期活動計画案, 講演1件	42名

関東学生会 (会員校 45校)

学生会担当幹事 岩崎 篤 (群馬大学), 大川 一也 (千葉大学)
学生会委員長 熊本 海人 (日本大学)
学生会幹事 西村 翼 (日本大学)
学生会ブロック長 東京ブロック：姉川 健祐 (東京理科大学) 神奈川ブロック：藤巻 あや (横浜国立大学)
埼玉ブロック：今村 海咲 (埼玉大学) 千葉ブロック：若宮 秀介 (千葉大学)
茨城ブロック：渡邊 瑠 (筑波大学) 栃木ブロック：稲葉 琉斗 (宇都宮大学)
群馬ブロック：森下 浩多 (群馬大学) 山梨ブロック：山田 真希 (山梨大学)

委員長校 日本大学
幹事校 東京理科大学, 横浜国立大学, 埼玉大学, 千葉大学, 筑波大学, 宇都宮大学, 群馬大学, 山梨大学, 以上8校

総会 2025年3月24日(月) 会場：Web会議
会合 会員校会1回 (2025年6月26日(木) / Web会議), 2024年度総会1回
主要審議事項
1) 予算・事業計画の立案, 検討
2) 役員選出

- 3) 会員増強の件
 4) 関東学生会広報誌「JSME-dia」No131～132号編集発行の件
 5) その他

会 員 校 名 青山学院大学, 足利大学, 茨城大学, 茨城工業高等専門学校, 宇都宮大学, 小山工業高等専門学校, 神奈川大学, 神奈川工科大学, 関東学院大学, 木更津工業高等専門学校, 群馬大学, 慶應義塾大学, 工学院大学, 埼玉大学, 芝浦工業大学(東京), 芝浦工業大学(埼玉), 上智大学, 湘南工科大学, 成蹊大学, 玉川大学, 千葉大学, 千葉工業大学, 中央大学, 筑波大学, 電気通信大学, 東海大学, 東京大学, 東京科学大学, 東京工業高等専門学校, 東京電機大学(東京), 東京電機大学(埼玉), 東京都市大学, 東京都立大学, 東京農工大学, 東京理科大学(東京), 東京理科大学(千葉), 日本大学(東京), 日本大学(千葉), 日本工業大学, 法政大学, 明治大学, 明星大学, 山梨大学, 横浜国立大学, 早稲田大学

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 3. 3	第64回学生員卒業研究 発表講演会	埼玉大学	発表件数：224件	416名
2025. 6. 26	会員校会	Web会議	上記記載	44名
2025. 6. 26	第1回幹事校会	Web会議	自己紹介, 今年度のイベント活動について, 他	12名
2025. 7. 28	第2回幹事校会	Web会議	全体交流会企画, 他	11名
2025. 8. 27	第3回幹事校会	Web会議	全体交流会企画, 他	11名
2025. 9. 24	第4回幹事校会	Web会議	全体交流会企画, 他	10名
2025. 10. 28	第5回幹事校会	Web会議	全体交流会企画, メカトップ記事検討	12名
2025. 11. 19	第6回幹事校会	Web会議	全体交流会開催報告	8名
2025. 12. 23	第7回幹事校会	Web会議	全体交流会開催報告	10名
2025. 11. 7	全体交流会	日本自動車研究所 (JARI) つくば研 究所	ガイドツアー	15名
2025. 12. 8	全体交流会	IHI 横浜工場	工場見学	27名
2025. 10. 7	JSME-dia No. 131発行	担当：工学院大学	原稿の作成及び編集	900部
2026. 2. 10	JSME-dia No. 132発行	担当：湘南工科大学	原稿の作成及び編集	900部

1. 東京ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
—	—	—	—	—

2. 神奈川ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 7. 31	学生会企画 見学会	日産自動車 横浜 工場	「日産自動車横浜工場見学会 および技術講演会」	17名
2025. 7. 31	学生会企画 意見交換 会	横浜駅付近	若手技術者と学生の意見交換	13名

3. 埼玉ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
—	—	—	—	—

4. 千葉ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 7. 28	機械の日イベント「中 高生のための機械工学 講座」	千葉工業大学	機械を動かす仕組みについて学ぼう ハンドスピナー製作	23名
2025. 8. 1	オープンラボ「明日の 機械技術は大学から」	千葉大学	機械工学の紹介	14名
2025. 8. 3	機械の日関連行事	日本大学	機械工学の紹介	約550名 (延べ数)
2025. 8. 9	機械の日関連行事	東京理科大学	機械工学の紹介	約300名 (延べ数)
2025. 8. 18	機械工学科一日体験入 学	木更津高専	機械工学科の研究室にて 機械の仕組みなどについて体験する	111名
2025. 9. 28	機械工学科一日体験入 学	木更津高専	機械工学科の研究室にて 機械の仕組みなどについて体験する	100名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025.11.20	学生向け企業見学会	京葉バンド	企業説明会, 企業見学会	9名

5. 茨城ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
—	—	—	—	—

6. 栃木ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
—	—	—	—	—

7. 群馬ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025.11.5	学生工場見学会	サンデン株式会社	機械工学分野の学生が, 企業見学を通じて最先端の研究開発の実態に触れるとともに, 企業のエンジニアとの交流を図る.	13名

8. 山梨ブロック

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
—	—	—	—	—

8・1・7 東海支部第74期(2025年度)事業報告書

東海支部長 梅原 徳次 [名古屋大学], 商議員63名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025.3.7	新旧合同幹事会	ハイブリッド会議	第73期事業報告, 会計報告並びに第74期総会の件, 第74期事業計画, 収支予算案の件, 第73期からの申し送り事項, その他	33名
2025.4.4	第1回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, その他	23名
2025.5.16	第2回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, その他	22名
2025.6.20	第3回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, その他	20名
2025.7.18	第4回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, 次期役員候補者推薦, その他	22名
2025.9.19	第5回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, その他	20名
2025.10.17	第6回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, その他	20名
2025.12.5	第7回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, その他	19名
2026.1.16	第8回幹事会	ハイブリッド会議	事業企画, 役員選挙結果の件, その他	21名
2026.2.21	第9回幹事会	ハイブリッド会議	第74期事業報告並びに会計報告の件, その他	24名
2026.2.21	新旧合同商議員会	ハイブリッド会議	第75期役員選出の件, 第74期事業報告並びに会計報告の件, 第75期総会の件, その他	59名
2025.3.12	第56回学生員卒業研究発表講演会	中部大学	講演件数100件	186名
2025.3.13~14	第74期総会・講演会	中部大学	学術講演会 94件 特別企画 講演1: 支部賞 受賞者講演 6件 講演2: 特別講演 1件 「身体運動を補助する筋膜の弾性特性とその役割」愛知医科大学 医学部 解剖学講座 講師 大塚 俊 氏	160名
2025.6.26-27, 7.2-4, 7月中旬~9月上旬	演習講座(化学工学会東海支部と共催)	Zoomによるライブ配信を併用したオンライン方式	第49回 基礎化学工学演習講座(第1クール~第3クール)	157名
2025.8.26, 9.5, 11-12, 16-18	講習会(精密工学会東海支部主催と共催)	愛知工業大学, 豊田工業大学, 名古屋工業大学, 名古屋大学, オンライン	「ものづくり実践講座シリーズ」全7講座	27名
2025.9.3	演習講座(化学工学会東海支部と共催)	名古屋工業大学	第49回 基礎化学工学演習講座(実験クール)	12名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 10. 28, 29	第14回機械工学基礎講座	名古屋大学 EI創発工学館とオンライン	「機械設計」講座 6件	20名
2025. 11. 7-12. 5	演習講座 (化学工学会東海支部と共催)	オンデマンド配信	第12回 初歩からの化学工学数学演習講座～時系列データを活用する解析技術の基礎～	9名
2025. 11. 4	第155回講習会 (東海学生会, 名古屋大学大学院工学研究科と共催)	名古屋大学 東山キャンパス 野依記念学術交流館	「機械工学の最新講習会と学生交流会」講演 2件, 企業技術紹介, ポスター発表	115名
2025. 11. 14	第11回講演会	オンライン	「製造業におけるデータサイエンス, シミュレーション技術の役割とその活用」講演 2件	179名
2025. 11. 21	第154回講習会	オンライン	「科学英語の書き方とプレゼンテーション」講演 3件	80名
2025. 5. 14	見学会 (精密工学会東海支部と共催)	旭サナック株式会社	旭サナック株式会社 見学会・特別講演会	16名
2025. 6. 13	第175回見学会	ヤマハ株式会社	ヤマハ株式会社 掛川工場 講演&見学会	38名
2025. 11. 26	第176回見学会	三菱電機ビルソリューションズ株式会社	三菱電機ビルソリューションズ株式会社 稲沢ビルシステム製作所 技術講演&工場見学	38名
2025. 11. 28	見学会 (精密工学会東海支部と共催)	株式会社キラ・コーポレーション	株式会社キラ・コーポレーション 見学会・特別講演会	12名
2025. 5. 18	小・中学生のためのものづくり体験教室 (AICHI TECH DAYと共催)	愛・地球博記念公園内、地球市民交流センター	「AICHI TECH DAY」ブース展示, 体験, 工作, デモ	918名
2025. 8. 3	支部ニュースレターNO. 35		支部HPに掲載 学生会ニュースレターNO. 31と合併	—

**日本機械学会東海支部シニア会
2025年度 事業実施状況**

シニア会 会長：湯川 晃宏
シニア会 庶務幹事：谷 泰臣

シニア会 副会長：北村 憲彦
シニア会 担当幹事：小川 悟

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 5	会員の継続・退会調査	—		—
2025. 5. 18	「AICHI TECH DAY」指導員派遣	モリコロパーク	指導員2名派遣	—
2025. 6. 21	第1回運営委員会・交流会・懇親会	刈谷市総合文化センター		26名
2025. 10	新規会員募集	案内発送	対象70 新規加入19	—
2025. 10. 28, 29	「機械工学基礎講座」講師派遣	名古屋大学	講師3名派遣	—
2025. 10. 18	第2回運営委員会・見学会 (技能五輪全国大会他)・懇親会	愛知県国際展示場		19名
2026. 1. 24	通常総会・講演会・懇親会	刈谷市総合文化センター		26名
2026. 2. 24	全国シニア会連絡会議	オンライン		1名
随時	名古屋国際工科専門職大学へのテーマ提供	名古屋国際工科専門職大学		3名
随時	愛知工業大学非常勤講師選出	—	6名選出	—

東海学生会 (会員校 17校)

学生会担当幹事 阿部 己和 (愛知工科大学)
 委員長 校 愛知工科大学 (委員長：村上 翔太朗, 幹事：山本 花凜)
 幹事 校 岐阜工業高等専門学校, 静岡大学, 鈴鹿工業高等専門学校, 中部大学, 名城大学
 顧問 会 2025年8月1日, 2026年2月20日
 主要議題
 1) 2024年度事業実施報告および収支決算

- 2) 2025年度事業計画案および収支予算の立案・審議
- 3) 2024年度メカライフ振興事業の実施報告
- 4) 2025年度メカライフ振興事業の実施計画
- 5) 2025年度東海学生会ニュースレターの内容審議
- 6) 第57回卒業研究発表講演会について
- 7) その他

会 員 校 名

愛知工科大学, 愛知工業大学, 岐阜工業高等専門学校, 岐阜大学, 静岡大学, 静岡理科大学,
鈴鹿工業高等専門学校, 大同大学, 中部大学, 豊田工業高等専門学校, 豊田工業大学, 豊橋技術科学大学,
名古屋工業大学, 名古屋大学, 沼津工業高等専門学校, 三重大学, 名城大学

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025. 3. 12	第56回 卒業研究発表講演会	実行委員会 (中部大学)	講演件数 100 件	186名
2025. 7. 15	第1回幹事校会・第 1回学生会会員校運営委員総会	愛知工科大学 (Web/メール)	前年度事業実施報告および収支決算, 本年度委員長・幹事校および事業計画・予算案などの確認等	34名
2025. 8. 1	第1回顧問会	愛知工科大学(Web)	前年度事業実施報告および収支決算, 本年度委員長・幹事校および事業計画・予算案などの確認等	19名
2026. 2. 20	第2回幹事校会・第2回学生会会員校運営委員総会	愛知工科大学(メール)	第57回卒業研究発表講演会実施案, 次年度事業計画・日程(案), 本年度事業報告(暫定), 今期収支決算報告(暫定), 卒業研究発表会の案内等	34名
2026. 2. 20	第2回顧問会	愛知工科大学(メール)	第57回卒業研究発表講演会実施案, 次年度事業計画・日程(案), 本年度事業報告(暫定), 今期収支決算報告(暫定), 卒業研究発表会の案内等	19名
2025. 11. 17	第1回卒業研究発表会実行委員会	実行委員会 (Web)	第57回学生員卒業研究発表講演会開催準備担当の確認, ホームページ等への掲載内容の確認等	4名
2026. 2. 12	第2回卒業研究発表会実行委員会	実行委員会 (メール)	第57回学生員卒業研究発表講演会開催要項, 運営担当, ホームページ等への掲載	4名
2025. 8. 24	第1回見学会	愛知工科大学 (鈴鹿サーキット)	鈴鹿サーキットバックヤード見学, レース観戦	12名
2025. 9. 19	第1回研究交流会	名古屋工業大学	東海バイオメカニクス研究学生交流会	48名
2025. 11. 4	第2回研究交流会	名古屋大学	工作機械の最新講習会と学生交流会	85名
2025. 12. 22	第3回研究交流会	愛知工業大学 (幹事校)	第2回東海学生研究交流会	8名
2025. 8. 2-3	メカライフ振興事業	岐阜工業高等専門学校	機械工学で創る未来	1341名
2025. 10. 11-12	メカライフ振興事業	豊田工業高等専門学校	人々の生活や娯楽に関連する機械システム展示・実演	1365名
2025. 11. 1-2	メカライフ振興事業	鈴鹿工業高等専門学校	メカライフの世界展—学内の” 困ったをメカで解決—	約5000名
2025. 8	東海学生会 ニュースレターNo. 31発行	編集: 愛知工科大学	学生会担当幹事・委員長挨拶, 講演会・見学会報告, 行事計画, メカライフの世界展案内, 運営委員・顧問名簿等	Web配信

8・1・8 関西支部 第101期 (2025年度) 事業報告書

関西支部長 川崎 卓巳(川崎重工業) 商議員 115名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 3. 19	旧新幹事会	大阪公立大学	会務引継ぎ, 講習会・見学会等企画, メカボケーション, 関西学生会, シニア会, その他	31名
2025. 3. 19	新幹事会	大阪公立大学	本部, 支部関連委員の件, 役員会日程の件, 第101期会務運営方針・事業計画案審議の件, 予算案の件	21名
2025. 4. 4	第1回企画幹事会	大阪科学技術センター	企画幹事会の役割確認, 第101期行事企画の検討, 第100期定時総会講演会フェロー賞受賞者の選考	15名
2025. 4. 11	第1回幹事会	大阪科学技術センター	講習会・見学会・機械の日記念行事等企画, メカボケーション, 関西学生会, シニア会, 支部広報, 予算案, 商議員会に提出する議案, その他	18名
2025. 5. 9	第2回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会・見学会・特別フォーラム等企画, 第26回秋季技術交流フォーラム企画募集, メカボケーション, 関西学生会, シニア会, 支部広報, その他	22名
2025. 6. 20	第3回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会・見学会・ステップアップセミナー等企画, 第101期定時総会講演会講演募集, メカボケーション, 関西学生会, シニア会, 支部広報, 関西支部賞募集, 次期代表会員・商議員候補者推薦依頼の件, その他	22名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 7. 11	第4回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会・見学会・ステップアップセミナー等企画、定時総会関連行事、メカボケーション、関西学生会、シニア会、支部広報、来期フェロー推薦の件、次期代表会員・商議員候補者推薦依頼の件、その他	22名
2025. 9. 11	第5回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会企画、定時総会関連行事、メカボケーション、関西学生会、シニア会、支部広報、商議員会に提出する議案、その他	20名
2025.10.10	第6回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	来期事業計画、定時総会関連行事、メカボケーション、関西学生会、シニア会、支部広報、来期部門代議員推薦依頼の件、その他	21名
2025.11.14	第7回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会・見学会等企画、定時総会関連行事、メカボケーション、関西学生会、シニア会、支部広報、来期予算書提出の件、その他	20名
2025.12.12	第8回幹事会 (企画幹事会含む)	川崎重工工業㈱神戸本社	講習会・見学会等企画、定時総会関連行事、関西学生会、シニア会、関西支部賞選考、支部広報、その他	19名
2026. 1. 8	第9回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会・見学会等企画、定時総会関連行事、メカボケーション、関西学生会、シニア会、支部広報、支部長特別表彰の選考、その他	23名
2026. 2. 6	第10回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会・見学会・特別フォーラム等企画、総会関連行事、メカボケーション、関西学生会、シニア会、懇話会設置延長申請、支部広報、その他	17名
2026. 2. 20	第11回幹事会 (企画幹事会含む)	大阪科学技術センター	講習会・見学会・特別フォーラム等企画、総会関連行事、メカボケーション、関西学生会、シニア会、商議員会・定時総会に提出する議案の件、その他	21名
2025. 4. 11	第1回商議員会	大阪科学技術センター	第101期行事予定の件、第101期予算の件、関西学生会の件、シニア会の件、その他	62名 (委任状41通)
2025. 9. 11	第2回商議員会	大阪科学技術センター	第101期上半期行事報告の件、関西学生会、シニア会上半期行事報告の件、その他	47名 (委任状35通)
2026. 2. 20	旧新商議員会	大阪科学技術センター	会務報告承認の件、次期役員予選の件、関西支部賞承認の件、その他	84名 (委任状57通)
2025. 4. 11	第1回専門部会	大阪科学技術センター	部会行事企画、話題提供(講演)	60名
2025. 9. 11	サロン de 関西支部	大阪科学技術センター	hinotori TM の開発経緯とこれまでの歩み、これからの展望	57名
2026. 2. 20	第2回専門部会	大阪科学技術センター	部会行事企画、話題提供(講演)	73名
2025. 3. 19-20	第100期定時総会講演会	大阪公立大学	特別講演2件、基調講演5件、招待講演2件、関西支部賞受賞記念講演2件、研究発表講演178件 計189件	348名
2025.10.25	第26回秋季技術交流フォーラム	京都先端科学大学	特別講演1件、基調講演15件、依頼講演3件、合計19件	104名
2025. 5. 26-27	第397回講習会	オンライン	構造・強度設計における数値シミュレーションの基礎と応用	80名
2025. 7. 3- 4	第398回講習会	オンライン	事例に学ぶ流体関連振動	52名
2025.10.20-21	第399回講習会	大阪科学技術センター	応力計測の基礎とその応用(デモンストレーション付き)	29名
2025.11.19-20	第400回講習会	大阪科学技術センター	実務者のための流体解析技術の基礎と応用(各種シミュレーション事例紹介、個別相談会付き)	38名
2025.12. 9-10	第401回講習会	オンライン	機械加工技術の基礎と最新の技術動向～基礎理論から現場技術の事例紹介までわかりやすく解説します～	19名
2026. 1. 19-20	第402回講習会	大阪科学技術センター	実務者のための騒音防止技術(展示、簡易実習付き)	28名
2025. 8. 1	「機械の日・機械週間」 記念行事	兵庫県揖保郡	西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) 網干総合車両所	18名
2025. 9. 16	2025年度特別フォーラム	オンライン	未来社会を創る次世代技術の舞台裏 ～大阪・関西万博出展企業による挑戦と未来ビジョン～	421名
2025.11.28	ステップアップ・セミナー2025	大阪科学技術センター、オンライン	サーキュラーエコノミー社会実装と機械工学に求められること	46名
2025. 3. 19	メカボケーション活動	大阪公立大学	メカボケーション学生研究発表会(ポスター発表69件)、企業技術ポスター発表(12件)	—
2025. 6. 14	メカボケーション活動	関西大学	協賛企業と学生会の意見交換会	176名
2025.11.17	メカボケーション活動		技術情報誌「MECHAVOCATION 2026」発刊(冊子およびインターネット版)	—
2025.11.29	メカボケーション活動	近畿大学	学生のための企業技術発表会	793名
2026. 1. 8	メカボケーション活動	大阪科学技術センター	就職に関する企業と学校の交流会	220名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025.10.29	第15回研修キャラバン	SPring-8 (大型放射光施設) 他	バスツアー	17名
2025.12.9	第53回情報交流サロン	神戸大学大阪クラブ	1. 力学を通じて垣間見た身体の機能 (田中氏) 2. 国産ロケットエンジン開発史 LE-7、LE-7A、LE-9 (松山氏)	48名 (リモート18名の内、関東7名、中国2名)
2026.2.24	シニア会連絡会議 大学・高専への非常勤講師紹介 親と子の理工工作教室 技術伝承資料の公開	オンライン 17会場20教室	全国支部シニア会委員長による連絡会	1大学から紹介要請 402名 1件掲載

関西学生会 (会員校25校, オブザーバー校: 2校)

学生会担当幹事	宅間 正則 (関西大学), 谷垣 健一 (大阪電気通信大学), 田中 展 (兵庫県立大学), 東森 充 (大阪大学 工)
学生会役員校	委員長校: 関西大学 委員長 田中 颯彪 副委員長校: 同志社大学, 大阪工業大学 書記校: 兵庫県立大学, 会計校: 京都工芸繊維大学
幹事校	大阪大学(工), 大阪大学(基礎工), 大阪工業大学, 大阪産業大学, 大阪公立大学, 関西大学, 京都大学, 京都工芸繊維大学, 近畿大学, 神戸大学(工), 同志社大学, 兵庫県立大学, 龍谷大学
総会	上半期総会 (4月26日) 関西大学 千里山キャンパス 18校出席 下半期総会 (10月11日) 関西大学 千里山キャンパス 22校出席
運営委員会	

○主要議題

- (1) 関西学生会の運営体制, 担当校の調整
- (2) 「メカライフの世界」展企画
- (3) 講演会・見学会企画
- (4) 卒業研究発表講演会の運営, 特別講演の依頼
- (5) 機関誌「春秋」第57号編集, 発行
- (6) 2025年度年次大会における「学生会委員長校会」への委員長出席
- (7) 関西支部シニア会との協力
学生会とシニア会の交流会, 親と子の理工工作教室 (シニア会主催) に派遣
- (8) 支部主催行事への協力
メカボケーション「協賛企業と学生の意見交換会」「学生のための企業技術発表会」等
 - ・メカボケーション協賛企業と学生員の意見交換会
開催日: 6月14日会場: 関西大学企業59社94名, 学生86名参加
 - ・講演会 (運営委員会と同時開催)
第183回 (7月26日) オンライン開催 講師: 山川勝史教授 (京都工芸繊維大学)
第184回 (9月13日) オンライン開催 講師: 比嘉昌准教授 (兵庫県立大学)
 - ・見学会 開催日: 6月14日~10月13日見学先: EXP02025大阪国際万博16名参加
 - ・シニア会と学生会との交流会~機械系技術者の生き甲斐~
開催日: 10月11日会場: 関西大学
32名参加 (シニア会8名, 学生会22名, 教員2名)
 - ・「メカライフの世界」展
開催期間: 11月15, 16日
バンドー神戸青少年科学館 2日間で829名来場
 - ・メカボケーション「学生のための企業技術発表会」
開催日: 11月29日会場: 近畿大学
出展企業130社 (250名), 学生509名 (22校) 参加
 - ・卒業研究発表講演会
開催日: 2026年3月15日会場: 大阪電気通信大学 (学生会担当幹事校)
発表件数: 335件
特別講演: 「ガスタービン燃焼技術の研究開発~熱流体現象を捉える~」
堀川敦史氏 (川崎重工(株)技術研究所)

会員校名

幹事校・委員校 25校: 大阪大学(工), 大阪大学(基礎工), 大阪工業大学, 大阪産業大学, 大阪公立大学, 関西大学, 京都大学, 近畿大学, 神戸大学(工), 同志社大学, 兵庫県立大学, 龍谷大学, 京都工芸繊維大学, 大阪電気通信大学, 神戸大学(海事), 滋賀県立大学, 摂南大学, 立命館大学, 和歌山大学, 明石工業高等専門学校, 大阪公立大学工業高等専門学校, 神戸市立工業高等専門学校, 奈良工業高等専門学校, 舞鶴工業高等専門学校, 和歌山工業高等専門学校

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 3. 17 2025. 3. 18	第8回運営委員会 2024年度卒業研究発表 講演会	大阪公立大学 大阪公立大学	卒業研究発表講演会前日準備 卒業研究発表講演， 特別講演「フィールドロボットに関する研究開 発」大阪公立大学助教藤永拓矢氏， 懇親会	— 講演338件
2025. 3. 18	学生会顧問と支部幹事 の意見交換会	大阪公立大学		関西学生会 から3名
2025. 4. 26 2025. 4. 26	第1回運営委員会 2025年度上半期総会	関西大学 関西大学	事業報告，事業計画，上半期総会議案確認等 2024年度下半期事業報告，2025年度上半期事業 計画，幹事承認，懇親会	51名 —
2025. 6. 14 2025. 6. 14	第2回運営委員会 メカボケーション協賛 企業と関西学生会との 交流会	関西大学 関西大学	「メカライフの世界」展企画，担当検討等 関西学生会の活動紹介，メカボケーション企業 によるインターンシップ説明会，懇談会(支部開 催行事に協力)	52名 学生86名 企業59社94 名
2025. 7. 19 2025. 7. 26	親と子の理科工作教室 第3回運営委員会	大津市科学館 京都工芸繊維大学 (オンライン)	シニア会行事に運営協力 「メカライフの世界」展企画，担当決定，スケ ジュール作成等	派遣学生1名 52名
2025. 7. 26	第183回講演会	京都工芸繊維大学 (オンライン)	デジタルフライングカーによる空クル動的シミ ュレーション 講師：京都工芸繊維大学山川勝史先生	—
2025. 8. 3 2025. 8. 7 2025. 8. 9	親と子の理科工作教室 親と子の理科工作教室 親と子の理科工作教室	ソフィア堺 大津市科学館 バンドー神戸青少 年科学館	シニア会行事に運営協力 シニア会行事に運営協力 シニア会行事に運営協力	派遣学生3名 派遣学生2名 派遣学生4名
2025. 9. 9	JSME年次大会	北海道大学	学生会委員長会，「学生交流会」	学生会委員 長出席 45名
2025. 9. 13	第4回運営委員会	兵庫県立大学 (オ ンライン)	「メカライフの世界」展企画，役員改選準備等	—
2025. 9. 13	第184回講演会	兵庫県立大学 (オ ンライン)	医療分野における機械工学の仕事 講師：兵庫県立大学比嘉昌先生	—
2025. 10. 11	第5回運営委員会	関西大学	役員改選，「メカライフの世界」展準備，卒業 研究発表講演会企画，下半期総会議案確認等	69名
2025. 10. 11	2025年度下半期総会	関西大学	2025年度上半期事業報告，2025年度下半期事業 計画，役員改選，懇親会	—
2025. 10. 11	シニア会と学生会との 交流会	関西大学	シニア会と学生会の討論会	シニア会8名 学生24名
2025. 11. 14	第6回運営委員会	バンドー神戸青少 年科学館	「メカライフの世界」展準備，卒業研究発表講 演会準備	61名
2025. 11. 15～ 16	「メカライフの世界」 展	バンドー神戸青少 年科学館	小中学生に対して，物理現象の実演やロボット をはじめとする先端技術の紹介，工作教室等の 提供	来場者829名
2025. 11. 29	学生のための企業技術 発表会	近畿大学	メカボケーション協賛企業による技術発表会(支 部開催行事に協力)	学校参加者 543名 企業参加者 250名
2025. 12. 13	第7回運営委員会	関西大学	卒業研究発表講演会準備，機関誌「春秋」の編 集準備	44名
2026. 3. 14 2026. 3. 15	第8回運営委員会 2025年度卒業研究発表 講演会	大阪電気通信大学 大阪電気通信大学	卒業研究発表講演会準備 卒業研究発表講演， 特別講演「ガスタービン燃焼技術の研究開発～ 熱流体現象を捉える～」 川崎重工業(株)堀川敦史氏， 懇親会	— 講演申込み 335件
2026. 3. 15	学生会顧問と支部幹事 の意見交換会	大阪電気通信大学		—

8・1・9 中国四国支部第64期（2025年度）事業報告書

中国四国支部長 相田清 [PrimetalsTechnologiesJapan]，商議員47名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 5. 17	第1回幹事会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	行事報告, 行事予定, 支部賞募集について, 来期役員について, 来期事業計画, 学生会の件, その他	15名
2025. 6. 28	第2回幹事会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	行事予定, 来期事業計画, 来期役員について, 商議員会議題について, その他	13名
2025. 8. 30	第3回幹事会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	行事予定, 代表会員・商議員候補者推薦, フェロー候補者推薦, その他	14名
2025. 12. 6	第4回幹事会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	行事報告, 来期事業計画, 支部賞について, シニア会について, その他	14名
2026. 1. 24	第5回幹事会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	行事報告, 研究会報告, 事業計画, 商議員会議題について, その他	17名
2025. 3. 7	第1回商議員会	徳島大学教育教養院 4号館201室	第64期支部長, 副支部長, 幹事の選出, その他	32名
2025. 6. 28	第2回商議員会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	事業計画, 支部賞募集について, 代表会員・商議員候補者推薦と役員の選出方法について, その他	34名
2025. 6. 28	第2回商議員会 懇親会	銀座ライオン		7名
2026. 1. 24	第3回商議員会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	第64期事業報告, 会計報告, 第65期事業計画, 予算案, 代表会員・商議員当選者報告, 支部賞受賞者報告, シニア会について, その他	33名
2025. 12. 6	支部賞選考委員会	ハイブリッド開催 (Zoom, RCC文化センター/エールエールA館6階)	支部賞の選考	6名
2025. 3. 6	第63期総会・講演会 懇親会	第2 食堂 (徳島大学生協クレア)		23名
2025. 3. 7	第63期総会・講演会 学術講演会	徳島大学教養教育院 教養教育4号館, 5号館 (常三島キャンパス)	講演件数137件	281名
2025. 3. 7	第63期総会・講演会 支部賞受賞者講演	徳島大学教養教育院 教養教育4号館, 5号館 (常三島キャンパス)	題数: 2件	53名
2025. 12. 10	特別講演会	ハイブリッド開催 (岡山大学共育共創 コモンズ講義室)	令和7年度岡山地区特別講演会 題数: 1件 1. X線光遺伝学の現在地: ナノシンチレータによる低侵襲神経操作	60名 (現地50名, オンライン10名)
2025. 12. 11	特別講演会	鳥取大学 TottoriUniQ2階スペースC	令和7年度鳥取地区特別講演会 題数: 1件 1. 自動車部品製造におけるプレス技術の動向	29名
2026. 1. 30	特別講演会	ハイブリッド開催 (Teams, マツダ株式会社事務2号館会議室)	令和7年度広島地区特別講演会 題数: 3件 1. 物理吸着法におけるエンジン排気CO2の吸着・脱離特性 2. モバイルCO2回収技術の研究開発. 3. 回収CO2の有効利用 4. マツダミュージアム見学ツアー	55名 (現地14名, オンライン41名)
2025. 12. 2	第140回講習会	ハイブリッド開催 (Zoom, 徳島大学共通講義棟6階K602号室)	燃焼現象の計測技術 題数: 3件 1. 燃焼条件および燃料種により異なる噴霧燃焼過程を観察する燃焼可視化装置 2. 燃焼現象の可視化と定量化に向けたマルチイオンプローブ計測技術の開発 3. レーザー計測・分析技術の産業プロセスへの応用とデジタルツインプロセス制御への適用	11名 (現地4名 (1名欠席), オンライン7名)

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025.12. 4	第141回講習会	BEMAC株式会社「幕進ベース」キール&パナマ	「波浪中船体の構造応答に関する最新の研究とCADによる船舶の設計」 題数：4件 1. 水槽試験による波浪中船体の構造応答の解明に関する研究 2. 船体構造デジタルツインに関する研究 3. 固体酸化燃料電池 (SOFC) 搭載船の研究開発動向 4. 3DCADと船舶設計の基礎 (主査小野勇一) (主査出口祥啓) (主査保田和則)	16名 — — —
	MD&T研究会 LIBS研究会 非ニュートン流体力学研究会			
2025. 3. 5	シニア会懇親会	徳島市内		5名
2025. 3. 6	シニア会第11期総会	徳島大学教養教育院 教養教育4号館201室		7名
2025. 3. 6	シニア会特別講演会	徳島大学教養教育院 教養教育4号館201室	「未来を動かさず：歴史から学ぶ2050年モビリティ社会への挑戦」	37名
2025. 8.12	シニア会見学会	J-POWER竹原火力発電所	JSMEジュニア会友と中国四国支部シニア会の合同見学会	14名
2025.11.13	シニア会令和7年度見学会	大和重工(株)可部 本社工場, 吉田工場		8名
2025. 8.12	シニア会運営会議・懇親会	福吉順竹原店		8名
2025.11.13	シニア会運営会議・懇親会	フジグラン緑井のフードコート		8名

中国四国学生会 (会員校24校)

学生会担当幹事	池田雅弘 (広島工業大学)
委員長校	2025年度広島工業大学
幹事校	岡山理科大学, 山口大学, 鳥取大学, 愛媛大学, 徳島大学
総事校	2025年3月6日 (木) 会場徳島大学教養教育5号館201教室
幹事校会	1回開催
	主要議事事項
	1) 令和6年度事業報告および決算報告
	2) 令和7年度委員長校ならびに幹事校の選出
	3) 令和7年度事業計画および予算案
	4) その他
会員校名	岡山大学, 岡山理科大学, 香川高等専門学校, 津山工業高等専門学校, 近畿大学, 呉工業高等専門学校, 広島工業大学, 広島大学, 宇部工業高等専門学校, 大島商船高等専門学校, 水産大学校, 徳山工業高等専門学校, 山口大学, 島根大学, 鳥取大学, 松江工業高等専門学校, 米子工業高等専門学校, 愛媛大学, 新居浜工業高等専門学校, 弓削商船高等専門学校, 阿南工業高等専門学校, 徳島大学, 高知工科大学, 高知工業高等専門学校

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025. 3. 6	令和7年度幹事校会	徳島大学教養教育5号館201教室	事業および会計報告, 委員長校ならびに幹事校の選出, 事業計画および予算案, その他	6校 (内、委任状1校)
2025. 3. 6	令和7年度定例総会	徳島大学教養教育5号館201教室	事業および会計報告, 委員長校ならびに幹事校の選出, 事業計画および予算案, その他	23校 (内、委任状14校)
2025. 3. 6	第55回学生会卒業研究発表講演会	徳島大学教養教育4号館, 5号館 (常三島キャンパス)	講演件数177件 (内、2件講演中止)	293名
2025. 3. 6	女性エンジニア交流会 -機械系女子会ランチミーティング-in中国四国	徳島大学教養教育院 4号館301教室	ランチミーティング	9名
2025. 5.20	鳥取大学工学部メカ女連絡会	鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ (CDL)	ミーティング 意見交換や情報共有	19名
2025. 7.26	「メカライフの世界」展	ふくやま産業交流館	連射のできるゴム鉄砲を作ろう! ~いろいろな工作機械とレーザー加工体験~	31名
2025. 7.30	「メカライフの世界」展	松江工業高等専門学校	連射のできるゴム鉄砲を作ろう! ~いろいろな工作機械とレーザー加工体験~	39名

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025. 8. 7	鳥取大学工学部メカ女連絡会	鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ(CDL)	ランチミーティング 意見交換や情報共有	15名
2025. 10. 11～12	「メカライフの世界」展	水産大学校	海洋・水産に関わる機械工学	249名
2025. 11. 1～ 2	「メカライフの世界」展	呉工業高等専門学校	呉高専・文化祭におけるロボコン・ロボットの展示と実演	300名
2025. 12. 14	「メカライフの世界」展	呉工業高等専門学校	呉高専・クリスマスサイエンスショーにおけるミニ四駆レースの体験コーナー	100名
2025. 12. 20	「メカライフの世界」展	松江工業高等専門学校	連射のできるゴム鉄砲を作ろう！～いろいろな工作機械とレーザー加工体験～	33名

8・1・10九州支部第78期（2025年度）事業報告書

支部長 志賀栄一 [ひびき発電合同会社], 商議員 55名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 3. 6	第1回幹事会	大分大学理工学部	会務引継, 支部規則各規定確認, 行事予定, 地区事業	20名
2025. 4. 21	第2回幹事会	エイムアテイン博多駅前会議室ハイブリッド会議	フェロー賞, 事業計画, 予算案, 行事予定, 支部フォーラム, 支部賞, シニア会他	13名
2025. 7. 28	第3回幹事会	エイムアテイン博多駅前会議室ハイブリッド会議	支部フォーラム, 「おもしろメカニカルワールド」, フェロー推薦, 次期代表会員・商議員推薦, 支部賞, 第56回卒業研究発表講演会, 第78期総会講演会	13名
2025. 9. 29	第4回幹事会	エイムアテイン博多駅前会議室ハイブリッド会議	代表会員・商議員推薦, フェロー推薦, 第56回卒業研究発表講演会, 第78期総会講演会, 2027年度年次大会開催について	13名
2025. 11. 19	第5回幹事会	エイムアテイン博多駅前会議室ハイブリッド会議	支部フォーラム, 次期代表会員・商議員推薦, 次期幹事候補推薦・事業計画・予算案, 学生会, 支部賞, 部門代議員推薦	13名
2025. 2. 5	第6回幹事会	エイムアテイン博多駅前会議室ハイブリッド会議	第77期事業報告, 支部賞, 第56回卒業研究発表講演会, 第78期総会・商議員会, 行事予定, JSME九州支部Webサイト更新について	13名
2025. 5. 12	第1回地区長会	WEB会議	地区役員, 事業報告, 予算・活動, 行事予定, 「おもしろメカニカルワールド」, 支部講演会, 支部賞,	10名
2025. 10. 27	第2回地区長会	WEB会議	幹事会・支部協議会・幹事校会報告, おもしろメカニカルワールド, 支部フォーラム, 支部賞	10名
2025. 1. 22	第3回地区長会	メール会議	事業・会計報告	10名
2025. 1. 7	宮崎地区第1回役員会 (繰り上げ開催)	WEB会議	第78期役員選出, 事業計画(案), 予算(案)の検討	11名
2025. 5. 2	宮崎地区第2回役員会	メール会議	地区長会報告, 予算確定報告等	9名
2025. 5. 20	沖縄地区第1回役員会	メール会議	第78期(2025年度)沖縄地区役員選出 2025年度予算案および事業案について 2024年度事業報告, 決算報告	8名
2025. 5. 12	大分地区第1回役員会	大分大学旦野原キャンパス理工学部	地区役員選出の決定, 地区事業計画案の検討, 地区会員増強について検討(メール審議)	4名
2025. 5. 19	鹿児島地区第1回役員会	WEB会議	地区事業計画等	9名
2025. 5. 26	福岡東地区第1回役員会	メール会議	副地区長・役員選出, 事業計画案の検討	12名
2025. 5. 26	熊本地区第1回役員会	メール会議	役員選出, 事業計画・予算案について	5名
2025. 6. 4	福岡西地区第1回役員会	メール会議	地区委員, 地区事業計画・予算案について	8名
2025. 6. 9	佐賀地区第1回役員会	佐賀大学理工学部	地区役員選出, 事業計画案の検討	5名
2025. 6. 9	長崎地区第1回役員会	メール会議	役員選出・事業計画案および予算案の検討	6名
2025. 7. 15	佐賀地区第2回役員会	メール会議	機械の日の関連事業・見学会の実施計画について	5名
2025. 7. 28	長崎地区臨時役員会	メール会議	フェロー候補者推薦	6名
2025. 8. 6	熊本地区第2回役員会	メール会議	2026年度支部総会・卒研発表会の運営について	5名
2025. 10. 7	長崎地区第2回役員会	メール会議	予算執行状況, 地区事業中間報告	6名
2025. 10. 26	宮崎地区第3回役員会	メール会議	地区長会報告	9名
2025. 11. 15	佐賀地区第3回役員会	佐賀大学理工学部	九州支部賞「優秀学生賞」推薦候補者選考について	5名
2025. 12. 23	福岡東地区第2回役員会	メール会議	地区事業, 決算 現状報告他	12名
2026. 1月	熊本地区第3回役員会	メール会議	次年度計画の検討	5名
2026. 1. 12	宮崎地区第4回役員会	宮崎大学	事業報告	14名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2026. 1. 13	佐賀地区第4回役員会	メール会議	事業報告・会計報告案、次期地区長について	5名
2026. 1. 16	長崎地区第3回役員会	メール会議	次期役員候補、次期事業、事業報告書案および決算案の検討	6名
2026. 1. 26	沖縄地区第2回役員会	メール会議	第78期(2025年度)沖縄地区事業の経過報告と予算等について	6名
2026. 2. 25	鹿児島地区第2回役員会	メール会議	地区事業・会計報告	7名
2025. 3. 6	第78期商議員会	大分大学理工学部	次期地区事業計画・役員選出、地区役員の引継ぎ 第77期事業報告・会計報告、 第78期商議員当選者発表	30名 委任状 29名
2025. 9. 25	支部フォーラム2025 「機械工学が切り拓くエネルギーとロボット・生成AIの未来」	九州大学西新プラザ ハイブリッド	第78期支部役員互選、行事予定、他 「次世代革新炉開発の取組み」 三菱重工業株式会社 廣孝文 「響灘ウィンドエネジーリサーチパークにおける風車ウェイク研究の最前線」 九州大学 内田孝紀 「生成AI活用ロボット：新しいものづくり産業創出と世界輸出」 東京大学 佐藤知正	31名 WEB 12名
2025. 4. 29	くるめ楽衆国まつり(久留米工業大学)	久留米六角堂広場	コマ大戦を題材に老若男女問わず、モノづくりの楽しさを体験させた。幼少時に楽しい体験をもらい、将来工学への道を考えさせるためのイベント。試合や製作を体験。	50名
2025. 5. 18	長崎総合科学大学	長崎総合科学大学	機械工学コースの紹介・学会紹介	15名
2025. 6. 29	オープンキャンパス			15名
2025. 7. 20				15名
2025. 8. 24				15名
2025. 5. 31	機械工学体験会 ものづくりを体験しよう	第一工科大学	高校生対象 ・三次元CADによる自動車設計体験 ・ロボットのプログラミング体験(迷路走破) ・自動車整備体験	5名
2025. 6. 14	北九州工業高等専門学校 オープンキャンパス	北九州工業高等専門学校	機械創造システムコース・知能ロボットシステムコースの研究・実験紹介及び体験	392名
2025. 7. 5	機械の日行事「デジタル×ロボット×機械工学が創る世界」	大分工業高等専門学校	ジャイロ効果による姿勢制御デモ、LiDARを用いた地図作成ロボット展示、二足歩行ロボットによるロボットバトル体験	320名
2025. 7. 12～13	九州工業大学情報工学部 オープンキャンパス	九州工業大学 飯塚キャンパス(オンライン)	機械系教員研究室紹介	100名
2025. 7. 20～21	北九州市立大学 オープンキャンパス	北九州市立大学 ひびきのキャンパス (国際環境工学部機械システム工学科)	・自走式搬送ロボットの制御とプログラミング体験 ・レーザーカッターを用いたデジタルなものづくり体験 ・学生フォーミュラカーの展示と活動紹介 ・機械工学分野の研究紹介パネルの展示	200名
2025. 7. 19	長崎大学オープンキャンパス	長崎大学工学部	機械工学の紹介・学会紹介	—
2025. 7. 20	琉球大学工学部機械工学コース/エネルギー環境工学コース説明会	琉球大学工学部	琉球大学工学部 機械工学コース、エネルギー環境工学コース	40名
2025. 7. 26	佐世保高専公開講座	佐世保高等専門学校	機械工学科公開講座	18名
2025. 7. 27	機械工学体験会 ものづくりを体験しよう	第一工科大学	高校生対象 ・三次元CADによる自動車設計体験 ・ロボットのプログラミング体験(迷路走破) ・自動車整備体験	19名
2025. 8. 1～2	九州工業大学工学部 オープンキャンパス	九州工業大学 戸畑キャンパス	機械工学コースの紹介および研究室見学ツアーを実施	490名
2025. 8. 1～2	西日本工業大学 オープンキャンパス	西日本工業大学	電気自動車(自作小型EV)の試乗 モノづくり体験(3Dプリンター・レーザー加工機) eスポーツ体験 モーションキャプチャー体験 半導体って何?顕微鏡でのぞいてみよう! 空気の流れを可視化する ロボットの操縦体験 ロボットとサッカーしよう	231名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 8. 2	福岡大学でものづくりを学ぶ	福岡大学	機械工学科研究室見学・体験および模擬講義	200人
2025. 8. 9	機械の日行事「「機械の日」ブリッジコンテストで材料力学を学ぶ！」	大分大学旦野原キャンパス 理工学部	構造物の製作と破壊体験	50名
2025. 8. 9～10	北九州工業高等専門学校オープンキャンパス	北九州工業高等専門学校	機械創造システムコース・知能ロボットシステムコースの研究・実験紹介及び体験	873名
2025. 8. 18	久留米工業高等専門学校「ソーラーカーを作ろう！」	久留米工業高等専門学校	中学生向け公開講座：太陽の光をエネルギーに換えて走るソーラーカーの設計製作	16名
2025. 8. 19～20	久留米工業高等専門学校一日体験入学	久留米工業高等専門学校	中学生に対し機械工学科の紹介や模擬授業	500名
2025. 8. 27～28	久留米工業高等専門学校機械工学科「3D-CAD基礎講座」	久留米工業高等専門学校	3次元CAD実習として3Dモデルの作成方法の講座を開催	6名
2025. 8. 23	長崎大学 移動オープンキャンパス	福岡県立城南高等学校	機械工学の紹介・学会紹介	93名
2025. 8. 23	佐世保高専 オープンキャンパス	佐世保高等専門学校	機械工学の紹介	262名
2025. 9. 20	沖縄工業高等専門学校機械システム工学科説明会	沖縄工業高等専門学校	中学生対象 沖縄工業高等専門学校オープンキャンパス・研究室の紹介	80名
2025. 9. 20	機械モノづくり体験教室	沖縄工業高等専門学校・機械システム工学科	沖縄工業高等専門学校付設夢工場および機械系実験室を利用して体験授業を実施。併せて、日本機械学会の活動について、受講生および保護者向けに紹介	60名
2025. 9. 27	沖縄高専サマースクール	沖縄工業高等専門学校	沖縄高専サマースクール 機械システム工学科にて体験授業を実施	60名
2025. 9. 30	九州大学工学部機械工学科 先端機械工学研究を見て学ぶ	九州大学伊都キャンパス	機械工学科学生に対して先端研究概略説明および先端研究室見学。博士後期課程修了者の先端研究体験講話、機械学会への入会勧誘、参加者意見交換会。	150名
2025. 10. 1	学生と若手技術者との交流会	鹿児島大学工学部	大学生・高専生対象 特別講演および若手技術者によるパネルディスカッション	118名
2025. 10. 11	2025年度全日本製造業コマ大戦久留米工業大学特別場所	久留米工業大学	高校生、大学生、社会人（製造業）がエントリーし、試合とともに交流を深めて情報交換。同時に、子供向けコマ大戦実施。公開講座として、山崎詩郎先生（東京科学大学）の「最強のコマを探せ」を開催。	118名
2025. 10. 18	九州大学大学院工学研究院機械工学科 2025年度公開講座	JR博多シティ会議室	「高温」と「水素」の両方が加えられるとき、金属材料の強度はどうなるか、人為的に液体のように原子がランダム構造をしている液体構造金属、さらには原子拡散と呼ばれる固体中の原子輸送を駆使した新しい原子・ナノスケールの材料づくりなど、材料研究の最前線を解説。	23名
2025. 10. 25	機械の日関連行事 ものづくり体験教室 一ぱ タパタ飛行機をつくって 飛ばしてみよう	鹿児島工業高等専門学校	小・中・高・一般 対象 ・機械工学科による展示・工作	55名
2025. 11. 25～26	機械の日関連行事「日本文理大学 地方発 親子で体験メカワールド2025」	日本文理大学 一木キャンパス	機械操縦体験および工作体験	1,000名
2025. 11. 8	機械工学体験会 ものづくりを体験しよう	第一工科大学	高校生対象 ・三次元CADによる自動車設計体験 ・ロボットのプログラミング体験（迷路走破） ・自動車整備体験	5名
2025. 11. 12	佐賀地区講演会 「機械系技術者の教育・育成について」	佐賀大学理工学部	演題1「佐賀大学理工学部機械工学分野での技術者の教育・育成について」 石田賢治(佐賀大学) 演題2「企業での技術者の教育・育成について」 倉知之(i-Pro(株))、佐々木 勝麻(京セラ(株))	120名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025.11.19	宮崎地区講演会	宮崎大学	「Modeling and Simulation of Transistor Reliability」 「A Study on Enhancing SSD Performance and Reliability」	80名
2025.12.1	久留米工業高等専門学校 機械工学科 「3D-CAD/CAE (材力) 講座」	久留米工業高等専門学校	3D-CADの活用事例として、部材の変形や発生する応力の解析及び機構の運動や振動解析を行うソフトウェアを使って、基本的な理論を解説しながらのシミュレーション実習	4名
2025.12.6~7	第12回 トマトロボット競技会 ジュニア部門 (中高生向け)	ハイブリッド (アクセンチュア福岡会場、及び、オンライン)	オンラインLEGO Mindstorm等を用いたロボット製作	117名
2025.12.6~7	第12回 トマトロボット競技会 シニア部門	予選：九州工業大学大学院生命体工学研究科 決勝：北九州学術研究都市内のビニールハウス、チーム交代制	トマトの収穫を目的とした競技会	115人
2025.8.3	「機械の日」関連行事 機械の日 ものづくりを通して機械の世界を体験しよう	鹿児島工業高等専門学校	中学生対象 (定員：100名程度) 1) レーザーでオリジナルキーホルダー作りを体験してみよう 2) 障害物回避ロボットを作ってみよう 3) 4足歩行ロボットづくりに挑戦 4) 羽ばたき飛行機を作ろう 5) ウインドカーを作って、走らせよう！ 6) 自動運転プログラムを作ってみよう！	110人
2025.8.5	「機械の日」関連行事 機械に親しもう 鹿児島ロケットと市電整備の見学	鹿児島大学工学部 鹿児島市交通局	小・中 対象 ・小型ハイブリッドロケットの見学 ・市電車両整備の見学	22名
2025.8.8	機械の日 機械の日の関連事業	佐賀大学理工学部	佐賀大学理工学部機械工学部門研究室紹介 および模擬講義 (佐賀大学オープンキャンパス)	121名
2025.8.24	機械工学体験会 ものづくりを体験しよう	第一工科大学	高校生対象 ・三次元CADによる自動車設計体験 ・ロボットのプログラミング体験 (迷路走破) ・自動車整備体験	13名
2025.9.20	機械工学体験会 ものづくりを体験しよう	第一工科大学	高校生対象 ・三次元CADによる自動車設計体験 ・ロボットのプログラミング体験 (迷路走破) ・自動車整備体験	3名
2025.8.2	おもしろメカニカルワールド	鹿児島工業高等専門学校	小・中学生対象 ウインドカーを作って走らせよう パタパタ飛行機を作って機械が動く仕組みを見てみよう	51名
2025.8.2	おもしろメカニカルワールド (シニア会事業)	長崎大学工学部	子供と親のものづくり教室 「飛行機を作ってみんなで飛ばそう！」	117名
2025.8.18	おもしろメカニカルワールド	鹿児島工業高等専門学校	中学生対象 中学生のための物理実験5~ヨーヨーの飛行原理~	60名
2025.8.21	おもしろメカニカルワールド	有明工業高等専門学校	オリジナルストラップ製作によるハイテク・ローテクものづくり体験	160名
2025.10.25	おもしろメカニカルワールド	熊本高等専門学校八代キャンパス	3D-CAD と3D プリンターでオリジナルストラップを作ろう！	37名
2025.11.1	おもしろメカニカルワールド	熊本大学工学部	ドローン操作体験	15名
2025.11.2	おもしろメカニカルワールド	熊本大学工学部	夢科学探検「ロケットをとばそう！」	40名
2025.12.6	おもしろメカニカルワールド	鹿児島工業高等専門学校	ウインドカーを作って走らせよう パタパタ飛行機をつくって機械が動く仕組みを見てみよう (小・中学生対象)	60名
2025.9.24	長崎地区第1回工場見学会	長崎総合科学大学	一般工場見学会	18名
2025.9.24	第1回佐賀地区工場見学会	見学先：九州精密工業(株)	工場見学、機械学会の紹介、日本機械学会への入会勧誘	13名
2025.12.3	福岡東地区見学会	日本製鉄株式会社九州製鉄所八幡地区	高炉工場、熱延工場の見学、学生に対する日本機械学会の紹介	14名

開催日	会議・行事名	会場 (見学先)	会議事項 (行事の場合はテーマ・講演件数)	出席数他
2025. 12. 15～16	長崎地区第2回工場見学会	佐世保工業高等専門学校	一般工場見学会	43名
2025. 12. 25	長崎地区第3回工場見学会	三菱重工業株式会社 長崎造船所・長崎研究所	三菱重工長崎造船所の見学	183名
2026. 2. 27	第2回佐賀地区工場見学会	見学先：武井電機工業(株) 宮崎日機装(株)	工場見学、機械学会の紹介と日本機械学会への入会勧誘	17名
2026. 1. 16	会員増強事業	大分大学旦野原キャンパス理工学部	企業見学	19名
2025. 4. 5	大分地区第1回学生員増強のための説明会	大分大学旦野原キャンパス理工学部	学部新入生対象の学会活動および入会案内説明	70名
2025. 4. 5	大分地区第2回学生員増強のための説明会	大分大学旦野原キャンパス理工学部	大学院新入生対象の学会活動および入会案内説明	37名
2025. 4. 7	佐賀地区学生への日本機械学会の説明会	佐賀大学理工学部(大学院棟)	学会活動および入会案内の説明 畠山賞の説明	100名
2025. 4. 8	佐賀地区学生への日本機械学会の説明会	佐賀大学理工学部(大学院棟)	学会活動および入会案内の説明 三浦賞の説明	40名

九州学生会（会員校 26校）

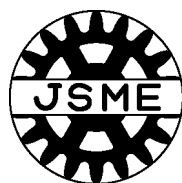
学生会担当幹事	扇谷 保彦（長崎大学）
委員長 校	上期／長崎大学 下期／長崎大学
幹事 校	上期／大分大学 下期／熊本大学
総会	2026年3月10日
会員校名	<p>【福岡東地区】（3校4組織） 九州工業大学工学部、九州工業大学情報工学部、北九州市立大学、北九州工業高等専門学校</p> <p>【福岡西地区】（5校） 九州大学、九州産業大学、福岡大学、久留米工業高等専門学校、福岡工業大学</p> <p>【長崎・佐賀地区】（4校） 長崎大学、長崎総合科学大学、佐賀大学</p> <p>【熊本地区】（4校） 熊本大学、有明工業高等専門学校、崇城大学、佐賀大学、熊本高等専門学校</p> <p>【大分地区】（3校） 大分大学、大分工業高等専門学校、日本文理大学</p> <p>【宮崎・鹿児島地区】（5校） 鹿児島大学、宮崎大学、第一工科大学、鹿児島工業高等専門学校、都城工業高等専門学校</p> <p>【沖縄地区】（2校） 琉球大学、沖縄工業高等専門学校</p>

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025. 3. 5	第56回卒業研究発表講演会	大分工業高等専門学校	講演会、総会、顧問会	243名
2025. 11月	第1回 幹事校会		2025年度九州学生会交流会の実施案について 第57回卒業研究発表講演会の計画・準備等について	—
2025. 9. 9	委員長校会及び学生交流会学生員委員会（教員）	北海道大学	各支部活動報告および活動計画の報告 長崎大学より委員長1名が参加	2名 学生 1名 教員 1名
2025. 9. 24	地区事業	長崎総合科学大学	東部重工業(株) 佐世保工場、(株)大島造船所 大島工場の見学	20名 学生18名 教員 2名
2025. 7. 20～21	「メカライフの世界」展	北九州市立大学ひびきのキャンパス	体験！ロボットプログラミング&レーザーカット加工 &フォーミュラカー	400名
2025. 7. 30	「メカライフの世界」展	九州工業大学 戸畑キャンパス	北九州工学体験工房	32名
2025. 8. 2	「メカライフの世界」展	熊本高等専門学校 八代キャンパス	熊本高等専門学校オープンキャンパス	580名
2025. 8. 2	「メカライフの世界」展	鹿児島大学	2025 メカワールド in Kagoshima University	350名
2025. 8. 8	「メカライフの世界」展	佐賀大学 本庄キャンパス	ようこそメカニカルワールド2025へ	121名
2025. 8. 5～6	「メカライフの世界」展	宮崎大学工学部	流れの不思議を解き明かそう！～空気の流れを用いてボールを回収するロボット～	11名
2025. 9. 21	「メカライフの世界」展	都城工業高等専門学校	「メカライフの世界」展 ようこそメカワールドへ	200名

開催日	行事名称	会場	内容	参加人数
2025.10.25	「メカライフの世界」展	鹿児島工業高等専門学校	メカライフの世界展 「メカワールドを体験しよう」	45名
2025.10.25～26	「メカライフの世界」展	日本文理大学	地方発 親子で体験メカワールド 2025	1000名
2025.11.1～2	「メカライフの世界」展	九州大学伊都キャンパス	サイエンスワールド2025	800名
2025.11.1～2	「メカライフの世界」展	長崎総合科学大学工学部	造大祭2025 メカライフ振興事業	150名
2025.11.1～2	「メカライフの世界」展	熊本大学黒髪南キャンパス	夢科学探検2025	1300名
2025.11.2	「メカライフの世界」展	佐世保工業高等専門学校	作って学ぼう “飛ぶ” 仕組み	140名
2025.11.3	「メカライフの世界」展	久留米工業高等専門学校	メカトピア2025	150名
2025.12.14	「メカライフの世界」展	大分大学旦野原キャンパス	発展するメカ お湯で動く機械 低温度差スターリングエンジン	156名

2025年度（第103期）
会 計 報 告 書

（ 自 2025年3月 1日
至 2026年2月28日 ）



一般社団法人 日本機械学会

1. 2025年度（第103期）財務諸表

1・1 貸借対照表

貸借対照表

2026年2月28日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,024,348,784	1,155,166,541	△ 130,817,757
未収金	55,712,505	40,679,384	15,033,121
前払金	13,567,986	16,120,095	△ 2,552,109
出版物	21,313,644	24,446,519	△ 3,132,875
仕掛品	48,313,336	27,465,079	20,848,257
流動資産合計	1,163,256,255	1,263,877,618	△ 100,621,363
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	90,556,612	102,213,415	△ 11,656,803
機械工学振興事業資金	475,886,565	360,676,217	115,210,348
国庫補助金引当資産	4,200,000	0	4,200,000
職員住宅厚生資金	29,301,538	29,301,538	0
研究協力引当預金	48,967,938	62,289,972	△ 13,322,034
日本機械学会賞基金	132,470,763	135,454,781	△ 2,984,018
特定資産合計	781,383,416	689,935,923	91,447,493
(3) その他固定資産			
建物付属設備	9,247,774	10,181,656	△ 933,882
什器備品	399,065	607,118	△ 208,053
ソフトウェア	6,724,267	4,121,402	2,602,865
差入保証金	39,605,664	39,605,664	0
長期性預金	210,000,000	100,000,000	110,000,000
その他固定資産合計	265,976,770	154,515,840	111,460,930
固定資産合計	1,147,360,186	944,451,763	202,908,423
資産合計	2,310,616,441	2,208,329,381	102,287,060
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	6,223,101	3,273,291	2,949,810
前受金	289,905,959	290,531,172	△ 625,213
預り金	2,228,141	2,206,764	21,377
賞与引当金	11,872,212	10,970,851	901,361
未払法人税等	1,597,300	70,000	1,527,300
未払消費税等	2,908,100	5,179,100	△ 2,271,000
流動負債合計	314,734,813	312,231,178	2,503,635
2. 固定負債			
退職給付引当金	90,556,612	102,213,415	△ 11,656,803
固定負債合計	90,556,612	102,213,415	△ 11,656,803
負債合計	405,291,425	414,444,593	△ 9,153,168

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	294,651,328	296,572,998	△ 1,921,670
投資有価証券受贈額	313,706,000	199,558,000	114,148,000
国庫補助金	4,200,000	0	4,200,000
指定正味財産合計	612,557,328	496,130,998	116,426,330
(うち特定資産への充当額)	(612,557,328)	(496,130,998)	(116,426,330)
2. 一般正味財産	1,292,767,688	1,297,753,790	△ 4,986,102
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(78,269,476)	(91,591,510)	(△13,322,034)
正味財産合計	1,905,325,016	1,793,884,788	111,440,228
負債及び正味財産合計	2,310,616,441	2,208,329,381	102,287,060

(注) 実施事業資産に該当する資産はない。

正味財産増減計算書

2025年3月1日から2026年2月28日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	93,155	93,409	△ 254
基本財産受取利息	93,155	93,409	△ 254
特定資産運用益	292,616	88,059	204,557
特定資産受取利息	292,616	88,059	204,557
受取入会金	853,000	675,500	177,500
個人会員受取入会金	763,000	605,500	157,500
法人会員受取入会金	90,000	70,000	20,000
受取会費	263,695,300	268,846,600	△ 5,151,300
個人会員受取会費	196,830,300	201,541,600	△ 4,711,300
法人会員受取会費	66,865,000	67,305,000	△ 440,000
事業収益	647,825,976	637,062,929	10,763,047
参加費収益	358,559,015	299,841,378	58,717,637
書籍等販売収益	73,068,354	76,922,210	△ 3,853,856
掲載料収益	33,524,000	39,704,000	△ 6,180,000
展示広告料収益	61,884,663	53,710,124	8,174,539
資格試験事業収益	50,190,117	57,485,605	△ 7,295,488
受取研究参加負担金	39,226,742	77,542,896	△ 38,316,154
受取受託事業収益	31,373,085	31,856,716	△ 483,631
受取補助金等	18,182,170	16,622,423	1,559,747
受取地方公共団体補助金	880,000	1,992,000	△ 1,112,000
受取民間補助金	1,261,250	9,710,000	△ 8,448,750
受取国庫助成金	271,958	400,423	△ 128,465
受取民間助成金	15,768,962	4,520,000	11,248,962
受取寄付金	8,842,947	8,731,974	110,973
受取寄付金	2,730,600	2,988,600	△ 258,000
受取寄付金振替額	6,112,347	5,743,374	368,973
雑収益	9,598,861	9,807,991	△ 209,130
受取利息	1,335,811	203,156	1,132,655
雑収益	8,263,050	9,604,835	△ 1,341,785
経常収益計	949,384,025	941,928,885	7,455,140
(2) 経常費用			
事業費	832,297,750	767,483,894	64,813,856
役員報酬	6,280,200	6,097,000	183,200
給料手当	145,212,008	136,019,646	9,192,362
賞与引当金繰入額	8,284,431	7,644,490	639,941
退職給付費用	12,409,182	18,467,422	△ 6,058,240
臨時雇賃金	17,133,733	17,675,750	△ 542,017
人材派遣費	5,159,324	8,491,683	△ 3,332,359
福利厚生費	23,073,585	20,540,753	2,532,832
旅費交通費	50,819,037	41,290,350	9,528,687

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
通信運搬費	25,997,803	24,874,475	1,123,328
減価償却費	2,496,181	2,289,515	206,666
消耗品費	24,554,476	35,604,056	△ 11,049,580
印刷製本費	45,700,710	48,283,966	△ 2,583,256
水道光熱費	2,837,116	2,932,948	△ 95,832
賃借料	27,998,161	27,881,808	116,353
諸謝金	25,408,608	26,419,136	△ 1,010,528
会議費	141,649,373	112,031,307	29,618,066
事務経費	4,232,058	3,995,432	236,626
売上原価	59,443,166	42,866,353	16,576,813
広報宣伝費	728,206	401,858	326,348
出版物処分損	744,404	1,413,019	△ 668,615
電算使用料	21,943,951	17,715,119	4,228,832
保険料	396,308	480,331	△ 84,023
貸倒損失	291,000	498,502	△ 207,502
租税公課	13,652,286	10,613,990	3,038,296
支払助成金	392,000	290,000	102,000
支払手数料	13,276,919	9,905,663	3,371,256
付随行事費用	49,968,392	52,974,344	△ 3,005,952
外注費	98,569,324	82,485,345	16,083,979
雑費	3,645,808	7,299,633	△ 3,653,825
管理費	120,475,077	119,929,519	545,558
役員報酬	2,211,300	2,268,875	△ 57,575
給料手当	43,676,001	43,344,886	331,115
賞与引当金繰入額	2,917,001	2,844,741	72,260
退職給付費用	4,369,354	6,873,287	△ 2,503,933
人材派遣費	307,388	309,002	△ 1,614
福利厚生費	8,028,883	7,643,831	385,052
旅費交通費	4,110,338	3,857,969	252,369
通信運搬費	3,114,601	3,207,684	△ 93,083
減価償却費	651,663	643,104	8,559
消耗品費	622,606	772,202	△ 149,596
印刷製本費	3,493,796	2,816,469	677,327
水道光熱費	783,013	823,850	△ 40,837
賃借料	7,727,263	7,831,758	△ 104,495
諸謝金	651,062	1,062,259	△ 411,197
会議費	2,916,028	2,922,402	△ 6,374
電算使用料	3,722,403	3,306,881	415,522
保険料	100,363	104,079	△ 3,716
租税公課	16,947,291	16,223,929	723,362
支払手数料	6,815,470	6,851,775	△ 36,305
外注費	6,092,498	4,996,392	1,096,106
雑費	1,216,755	1,224,144	△ 7,389
経常費用計	952,772,827	887,413,413	65,359,414
評価損益調整前当期経常増減額	△ 3,388,802	54,515,472	△ 57,904,274
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,388,802	54,515,472	△ 57,904,274

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 3,388,802	54,515,472	△ 57,904,274
法人税、住民税及び事業税	1,597,300	70,000	1,527,300
当期一般正味財産増減額	△ 4,986,102	54,445,472	△ 59,431,574
一般正味財産期首残高	1,297,753,790	1,243,308,318	54,445,472
一般正味財産期末残高	1,292,767,688	1,297,753,790	△ 4,986,102
II 指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	2,694,077	2,202,881	491,196
特定資産受取利息	229,741	34,859	194,882
特定資産受取配当金	2,464,336	2,168,022	296,314
受取補助金等	4,200,000	0	4,200,000
受取国庫補助金	4,200,000	0	4,200,000
受取寄付金	1,496,600	1,269,600	227,000
受取寄付金	1,496,600	1,269,600	227,000
特定資産評価損益等	114,148,000	50,281,000	63,867,000
特定資産評価損益等	114,148,000	50,281,000	63,867,000
一般正味財産への振替額	△ 6,112,347	△ 5,743,374	△ 368,973
当期指定正味財産増減額	116,426,330	48,010,107	68,416,223
指定正味財産期首残高	496,130,998	448,120,891	48,010,107
指定正味財産期末残高	612,557,328	496,130,998	116,426,330
III 正味財産期末残高	1,905,325,016	1,793,884,788	111,440,228

1・3 正味財産増減計算書内訳表

正味財産増減計算書内訳表

2025年3月1日から2026年2月28日まで

(単位：円)

目	実施事業等会計				その他会計					法人会計	内部取引等消去	合計	
	本部特別事業	本部事業	支部事業	部門事業	研究協力事業	受託事業	会誌事業	出版事業	小計				
I 一般正味財産増減の部													
1. 経常収益													
(1) 経常収益													
基本財産運用益													
特定資産運用益													
受取入金													
個人会員受取入金													
法人会員受取入金													
受取入金													
個人会員受取会費													
法人会員受取会費													
事業収益													
参加費収益	66,593,266	1,556,728	56,448,378	307,085,728	23,122,196	4,749,199	44,196,860	89,057,555	603,591,762	616,818	△ 22,975,870	66,865,000	93,155
書籍等販売収益	27,522,585	892,728	56,448,378	273,389,682	0	0	0	0	331,139,424	346,818	△ 449,812	66,865,000	93,155
掲載料収益	125,454	0	0	2,162,689	0	0	20,302,600	65,383,669	95,468,958	0	△ 22,526,058	358,559,015	292,616
展示広告料収益	33,524,000	0	0	0	0	0	23,894,260	0	56,193,436	270,000	0	61,884,663	50,190,117
資格試験事業収益	5,421,227	0	0	31,553,357	0	0	0	0	50,190,117	0	0	39,226,742	31,373,085
受取研究参加費控除	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取受託事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	23,673,886	0	△ 362,053	880,000	8,842,947
受取補助金等	2,000,000	0	0	16,544,223	0	0	0	0	16,544,223	0	△ 362,053	1,261,250	2,730,600
受取地方公共団体補助金	0	0	0	880,000	0	0	0	0	880,000	0	0	0	6,112,347
受取民間補助金	0	0	0	1,623,303	0	0	0	0	1,623,303	0	0	0	9,598,861
受取国庫助成金	0	0	0	271,958	0	0	0	0	271,958	0	0	0	1,335,811
受取民間助成金	2,000,000	0	0	13,768,962	0	0	0	0	13,768,962	0	0	0	8,266,032
受取寄付金	0	0	0	400,000	0	0	0	0	400,000	0	0	0	836,544
受取寄付金振替額	0	0	0	400,000	0	0	0	0	400,000	0	0	0	3,796,095
雑収益	140,190	70,242	492,781	3,074,403	0	0	27,800	978,771	4,826,032	4,632,639	0	8,442,947	15,768,962
受取利息	6,486	0	492,781	3,074,403	0	0	0	0	492,781	0	0	0	8,842,947
雑収益	133,704	70,242	0	0	0	0	27,800	978,771	4,826,032	4,632,639	0	8,442,947	15,768,962
経常収益計	68,733,456	1,626,970	56,941,159	327,104,351	23,122,196	4,749,199	44,224,660	90,036,326	625,362,017	278,626,475	△ 23,337,923	880,000	8,842,947
(2) 経常費用													
事業費													
役員報酬	114,938,648	25,123,500	105,153,380	369,382,580	25,417,028	6,425,487	67,821,846	39,222,714	721,463,573	721,463,573	△ 4,104,471	6,290,200	832,297,750
給料手当	2,025,000	471,600	2,170,044	2,622,600	147,600	80,100	124,200	207,000	4,255,200	4,255,200	0	0	6,290,200
賞与引当金繰入額	39,906,335	9,314,699	21,170,044	51,799,695	2,915,290	1,582,078	2,453,107	4,088,515	105,215,673	105,215,673	0	0	145,212,008
退職給付費用	2,671,248	622,104	0	3,459,563	194,704	106,663	163,837	273,061	5,613,183	5,613,183	0	0	8,284,431
臨時雇賃金	4,001,242	931,840	0	5,182,052	291,645	158,271	245,412	409,016	8,407,940	8,407,940	0	0	12,409,182
人材派遣費	2,968,900	67,800	0	11,278,783	2,193,750	0	0	0	14,164,833	14,164,833	0	0	17,133,733
福利厚生費	280,983	65,360	0	385,555	20,294	10,893	17,458	39,544	4,878,341	4,878,341	0	0	5,159,324
旅費交通費	7,351,907	1,712,085	0	9,545,947	535,667	290,561	451,175	763,712	15,721,678	15,721,678	0	0	23,073,885
通信運搬費	6,117,294	3,094,722	0	30,031,887	5,704,170	3,586,651	215,519	91,251	44,701,743	44,701,743	0	0	50,819,037
減価償却費	1,272,846	54,164	1,861,725	2,508,446	68,778	7,749	18,284,785	391,446	24,724,957	24,724,957	0	0	25,997,803
消耗品費	595,673	138,558	0	622,562	43,093	23,093	78,360	177,483	1,900,508	1,900,508	0	0	2,496,181
印刷製本費	5,609,454	299,197	766,986	10,645,498	6,568,618	9,325	17,953	33,848	18,945,022	18,945,022	0	0	24,554,176
水道光熱費	12,530,129	254,423	21,308,000	9,093,340	11,272	467	612,349	493,718	36,912,999	36,912,999	△ 3,742,418	45,700,710	45,700,710
賃借料	715,741	166,486	0	982,194	51,695	27,748	44,475	100,728	2,121,375	2,121,375	0	0	2,837,116
賃借料	7,063,311	1,642,979	0	9,692,828	510,145	273,832	438,875	994,040	20,934,850	20,934,850	0	0	27,998,161
諸謝金	699,836	358,077	0	12,876,286	179,733	315,294	19,949	96,478	24,708,772	24,708,772	0	0	25,408,608
会議費	7,045,623	2,601,023	3,445,399	125,477,304	1,707,969	125,624	15,640	182	134,603,750	134,603,750	0	0	141,649,373
事務経費	0	0	4,232,058	0	0	0	0	0	4,232,058	4,232,058	0	0	4,232,058
売上原価	0	0	0	0	0	0	38,816,773	20,626,383	59,443,166	59,443,166	0	0	59,443,166
広報宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	728,206
出版物処分損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	744,404
電算処理料	4,797,615	796,571	0	4,377,803	223,435	119,936	592,539	435,377	17,146,336	17,146,336	0	0	21,943,951
保険料	88,708	25,733	0	161,311	6,407	3,440	5,512	12,484	307,600	307,600	0	0	396,308
貸倒損失	291,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	291,000
租税公課	778,273	787,651	2,013,673	8,259,806	3,482,352	△ 360,657	0	116,565	12,874,013	12,874,013	0	0	13,652,296

1・4 財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
出版物・仕掛品：個別法による原価法（貸借対照表上は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
- (3) 固定資産の減価償却の方法
建物付属設備：定額法、什器備品：定率法、ソフトウェア：定額法
なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法によって
いる。
- (4) 引当金の計上基準
退職給付引当金
退職一時金については、職員の退職給付に備えるため、法人負担期末自己都合要支給額から中
小企業退職者共済制度による支給額を控除した金額を計上している。
賞与引当金
職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当期に帰属する額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理
税抜処理によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	100,000,000	0	0	100,000,000
小 計	100,000,000	0	0	100,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	102,213,415	15,340,417	26,997,220	90,556,612
機械工学振興事業資金	360,676,217	118,492,401	3,282,053	475,886,565
国庫補助金引当資産	0	4,200,000	0	4,200,000
職員住宅厚生資金	29,301,538	0	0	29,301,538
研究協力引当預金	62,289,972	48,967,938	62,289,972	48,967,938
日本機械学会賞基金	135,454,781	15,982	3,000,000	132,470,763
小 計	689,935,923	187,016,738	95,569,245	781,383,416
合 計	789,935,923	187,016,738	95,569,245	881,383,416

※機械工学振興事業資金の当期増加額には、特定資産評価損益等114,148,000円が含まれている。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
定期預金	100,000,000	(0)	(100,000,000)	—
小 計	100,000,000	(0)	(100,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当資産	90,556,612	—	—	(90,556,612)
機械工学振興事業資金	475,886,565	(475,886,565)	(0)	—
国庫補助金引当資産	4,200,000	(4,200,000)	(0)	—
職員住宅厚生資金	29,301,538	(0)	(29,301,538)	—
研究協力引当預金	48,967,938	(0)	(48,967,938)	—
日本機械学会賞基金	132,470,763	(132,470,763)	(0)	—
小 計	781,383,416	(612,557,328)	(78,269,476)	(90,556,612)
合 計	881,383,416	(612,557,328)	(178,269,476)	(90,556,612)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	13,683,712	4,435,938	9,247,774
什器備品	6,543,745	6,144,680	399,065
合 計	20,227,457	10,580,618	9,646,839

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
受取地方公共団体補助金						
コンベンション誘致推進 事業補助金	石川県	0	160,000	160,000	0	—
コンベンション誘致推進 事業補助金	金沢市	0	80,000	80,000	0	—
MICE促進事業費補助金	金沢市	0	140,000	140,000	0	—
コンベンション開催等事業 補助金	大津市	0	500,000	500,000	0	—
小 計		0	880,000	880,000	0	
受取民間補助金						
開催補助金	(公社)姫路観光コンベン ションビューロー	0	516,000	516,000	0	—
コンベンション開催支援 補助金	(一社)宇都宮観光コンベン ション協会	0	745,250	745,250	0	—
小 計		0	1,261,250	1,261,250	0	
受取国庫助成金						
子どもゆめ基金助成金	(独法)国立青少年教育振興 機構	0	271,958	271,958	0	—
小 計		0	271,958	271,958	0	

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
受取民間助成金						
開催助成	(公財) 中部電気利用基礎研究振興財団	0	150,000	150,000	0	—
国際交流会議助成	(公財) 三豊科学技術振興協会	0	500,000	500,000	0	—
集会助成	(公財) NSKメカトロニクス技術高度化財団	0	500,000	500,000	0	—
集会助成	(公財) NSKメカトロニクス技術高度化財団	0	500,000	500,000	0	—
国際会議等準備及び開催助成	(公財) 天田財団	0	1,000,000	1,000,000	0	—
助成金	(公財) 精密測定技術新興財団	0	1,000,000	1,000,000	0	—
コンベンション開催助成金	(一社) 宇部観光コンベンション協会	0	370,000	370,000	0	—
コンベンション開催助成金	(一社) 宇部観光コンベンション協会	0	630,000	630,000	0	—
国際会議開催支援助成金	(公財) 工作機械技術振興財団	0	500,000	500,000	0	—
研究成果普及助成金	(公財) スズキ財団	0	400,000	400,000	0	—
研究成果普及助成金	(公財) スズキ財団	0	400,000	400,000	0	—
研究成果普及助成金	(公財) スズキ財団	0	400,000	400,000	0	—
国際会議助成	(公財) マザック財団	0	500,000	500,000	0	—
Engaging Sports Engineering Grant	ISEA (国際スポーツ工学協会)	0	193,930	193,930	0	—
国際交流助成	(公財) 大澤科学技術振興財団	0	500,000	500,000	0	—
コンベンション開催用貸切バス費用支援	(一財) 山形コンベンションビューロー	0	200,000	200,000	0	—
滋賀県コンベンション開催助成金	(公社) びわこビジターズビューロー	0	500,000	500,000	0	—
アトラクション費用支援	(一財) 山形コンベンションビューロー	0	87,032	87,032	0	—
コンベンション開催助成金	(公財) ながの観光コンベンションビューロー	0	358,000	358,000	0	—
コンベンション開催助成金	(一財) 山形コンベンションビューロー	0	1,010,000	1,010,000	0	—
畠山賞助成金	(公財) 荏原畠山記念文化財団	0	2,000,000	2,000,000	0	—
コンベンション貸切バス等運行支援事業支援金	(一財) 沖縄コンベンションビューロー	0	90,000	90,000	0	—
コンベンション貸切バス等運行支援事業支援金	(一財) 沖縄コンベンションビューロー	0	210,000	210,000	0	—
京都らしいMICE開催支援補助制度	(公財) 京都文化交流コンベンションビューロー	0	80,000	80,000	0	—
学会等開催助成	(公財) 大幸財団	0	250,000	250,000	0	—
コンベンション開催助成金	(一財) 熊本国際観光コンベンション協会	0	200,000	200,000	0	—
バス運行助成金	(一財) 熊本国際観光コンベンション協会	0	30,000	30,000	0	—
ユニークビューロー利用促進助成金	(一財) 熊本国際観光コンベンション協会	0	500,000	500,000	0	—
コンベンション開催助成	(公財) ちば国際コンベンションビューロー	0	210,000	210,000	0	—
大規模MICE開催助成金	(公財) 青森県観光国際交流機構	0	500,000	500,000	0	—
学会会議開催支援金	(一財) 沖縄コンベンションビューロー	0	2,000,000	2,000,000	0	—
小計		0	15,768,962	15,768,962	0	
合計		0	18,182,170	18,182,170	0	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
事業実施のための振替額	6,112,347
合 計	6,112,347

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表の注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	10,970,851	11,872,212	10,970,851	0	11,872,212
退職給付引当金	102,213,415	15,340,417	26,997,220	0	90,556,612

2. 公益目的支出計画実施報告書

【別紙2：公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【令和7年度（令和7年3月1日から令和8年2月28日まで）の概要】

1. 公益目的財産額	1,364,191,967円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1) + (2) - (3))	1,066,796,465円
(1) 前事業年度末日の公益目的収支差額	1,020,591,273円
(2) 当該事業年度の公益目的支出の額	114,938,648円
(3) 当該事業年度の実施事業収入の額	68,733,456円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	297,395,502円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	
<p>・機械の日・機械週間では、科学技術館において機械遺産認定式を行った。また、同会場で開催されたモノづくり体感スタジアムに、エンジニア塾出張授業を出展した。機械遺産の認定事業では今年度6件を認定表彰し、今年度認定分のパネルを2025年度年次大会会場にて展示し、広く来場者に公開した。</p> <p>・2025年度年次大会は研究発表1,227題、特別講演2件、基調講演16件、ワークショップ13テーマ等で北海道大学において開催し、参加者2,560名により活発な議論が繰り広げられた。</p> <p>・機械工学振興事業資金助成事業として、53件を開催し、21,812名の参加があった。</p> <p>・国際連携では、本会が幹事団体となり、中国（CNS）・韓国（KSME）と3か国合同セッションを開催した。また、韓国（KSME）主催の年次大会、タイ（TSME）主催の国際会議、米国（ASME）・中国（CNS）との共催の国際会議、フィリピン（PSME）主催の総会に対し、会長及び国際連携委員会関係者等が参加した。</p> <p>・電子版定期行物として日本機械学会学術誌を、国際的にも存在感を有する刊行物として発行している。</p> <p>・経費の圧縮等により公益目的収支差額の累積が計画を下回ったが、上記のとおり一般市民・児童等へ向けた機械工学への理解と啓発活動を継続的に行っており、影響を注視しながら、今後計画変更を行う。</p>	

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の完了予定事業年度の末日	(1) 計画上の完了見込み	令和10年2月29日
	(2) (1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産	1,364,191,967円	1,364,191,967円	1,364,191,967円	1,364,191,967円	1,364,191,967円
公益目的収支差額	1,161,020,000円	1,020,591,273円	1,243,950,000円	1,066,796,465円	1,326,880,000円
公益目的支出の額	161,098,000円	112,007,285円	161,098,000円	114,938,648円	161,098,000円
実施事業収入の額	78,168,000円	69,811,126円	78,168,000円	68,733,456円	78,168,000円
公益目的財産残額	203,171,967円	343,600,694円	120,241,967円	297,395,502円	37,311,967円

3. 監事による監査報告書

3・1 監査報告書

2026年3月26日

監査報告

一般社団法人日本機械学会

監事 松本 敏郎

監事 大曾根靖夫

第103期(2025年度)事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、公益目的支出計画実施事業報告書その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、監事松本敏郎と監事大曾根靖夫は、本会の運営について調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施いたしました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。

(2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。

(4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

(5) 公益目的支出計画実施報告書は法令及び定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施状況を正しく表示しています。

以上

附属明細書（事業報告関係）

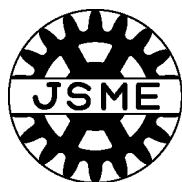
会社役員以外の会社業務執行取締役等との兼務状況の明細

2025年度事業報告書1ページに記載のとおり

附属明細書（計算書類関係）

財務諸表の注記に記載している

外部監査人選任の件



一般社団法人 日本機械学会

2026年4月23日

外部監査人の選任について

一般社団法人日本機械学会

監事 松本 敏郎

監事 大曾根靖夫

外部監査人の選任について、次のとおり提案致します。

1. 背景

一般社団法人において会計監査人の設置は任意であります。本会は外部監査を監事の補助人として使用する目的で、長らく会計監査人(以下、外部監査人で統一)を設置してまいりました。

本会が外部監査人を置くに至ったのは、税務当局により会誌事業と出版事業が税法上の収益事業と解釈されたことによるものです。外部監査人の設置により、監事職務の一部代行のほか、決算書の品質証明、会計指導、事務局の不正防止等のメリットがあります。

2. これまでの経緯

2023年度に前監査法人と契約終了後、2024年度の監事及び財務理事会では外部監査人設置の可否を含めた検討を行いました。その結果、本会において外部監査人の設置は引き続き必要であると判断し、候補の選定を進めてまいりました。

3. 提案内容

2026年度より、外部監査人について、米谷直晃公認会計士事務所を選任することを提案致します。

米谷直晃公認会計士は、有限責任監査法人トーマツにおいて公益法人等の会計監査、アドバイザー業務に約15年従事しており、公益法人の制度、会計、実務に精通しています。

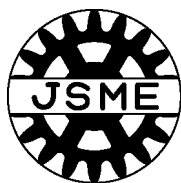
候補の選定にあたっては、複数の監査法人等に対し、それぞれの特長や監査報酬予定額のほか、公益法人の監査実績の有無について、また本会の決算書類等における改善余地について回答頂き、検討を行いました。

その結果、本提案が妥当であるとの判断から、本件は2026年2月開催の理事会にて承認されましたことを申し添えます。

以上

一般社団法人 日本機械学会 名誉員候補者

氏名		所属
今城 昭彦	いまぎ あきひこ	桃山学院大学 工学部機械システム工学科 産学官コーディネーター
宇治橋 貞幸	うじはし さだゆき	日本文理大学 客員教授、日本ケイデンスデザインシステムズ社 顧問
梅原 徳次	うめはら のりつぐ	名古屋大学 名誉教授、名古屋大学 客員教授
河村 庄造	かわむら しょうぞう	豊橋技術科学大学 特任教授
鞍谷 文保	くらたに ふみやす	福井大学 名誉教授
小池 裕二	こいけ ゆうじ	(株) IHIインフラスクエア 防災・水門本部
佐々木 克彦	ささき かつひこ	北海道大学 名誉教授
中田 俊彦	なかた としひこ	工業所有権協力センター
中村 孝	なかむら たかし	九州大学 水素材料先端科学研究センター 特任教授、北海道大学 名誉教授
山本 悟	やまもと さとる	東北大学 名誉教授、八戸工業大学 客員教授
山本 誠	やまもと まこと	早稲田大学 教授



一般社団法人 日本機械学会

名誉員の紹介

(2026年4月23日 2025年度(第103期)定時社員総会において推薦)



今城 昭彦 君 (1958年10月生)
いま ぎ あき ひこ

1984年 3月 九州大学応用力学専攻修了
1984年 4月 三菱電機(株)中央研究所入社
2003年 6月 同社先端技術総合研究所メカトロニクス技術部
2011年 4月 同社同所駆動制御システム技術部次長
2015年 4月 同社同所メカトロニクス技術部門主管技師長

2026年 4月 桃山学院大学工学部産学官連携コーディネーター

専門分野

機械力学, 制御工学

受賞

1990年度 日本機械学会研究奨励賞

1998年度 日本機械学会賞(技術)

2022年度 関西支部技術賞 他

本会関係略歴

(1) 1987年 9月入会, 正員・フェロー

(2) 理事 4回, 代表会員 4回, 関西支部幹事 2回, 関西支部商議員 5回 他



河村 庄造 君 (1960年 8月生)
かわ むら しょう ぞう

1988年 3月 名古屋大学工学研究科博士後期課程修了
1988年 4月 神戸大学工学部機械工学科助手
1992年 4月 同大学工学部機械工学科助教授
2004年 4月 豊橋技術科学大学機械システム工学系(現 機械工学系) 教授
2018年 4月 同大学副学長(～2020年 3月)
2022年 4月 同大学副学長(～2024年 3月)
2026年 4月 同大学特任教授

専門分野

振動工学, 計算力学

受賞

2009年度 計測自動制御学会中部支部 研究賞

2020年度 日本機械学会賞(論文)

2021年度 機械力学・計測制御部門 部門功績賞

2022年度 日本機械学会賞(論文)

2024年度 日本機械学会賞(論文)

2025年度 機械力学・計測制御部門 学術業績賞 他

本会関係略歴

(1) 1984年10月入会, 正員・フェロー

(2) 理事 2回, 代表会員 5回, 東海支部幹事 2回, 東海支部商議員 7回, 部門長 1回, 学生員委員会幹事 2回, JABEE審査長 1回 他



宇治橋 貞幸 君 (1946年 8月生)
う じ はし ざだ ゆき

1971年 3月 東京工業大学理工学研究科修了
1989年 3月 英国ストラスカイド大学客員教授(～1990年)
1993年 8月 東京工業大学教授(～2012年)
2011年 4月 国土交通省自動車アセスメント検討会座長(～2022年)
2012年 4月 日本文理大学特任教授(～2022年)
2012年 4月 (株)トップシーエーイー取締役(～2017年)

2026年 1月 日本ケイデンスデザインシステムズ社顧問(～現在)

専門分野

材料力学, 衝撃力学, バイオメカニクス

受賞

1994年度 機械力学・計測制御部門 部門功労賞

2003年 Asia-Pacific Sports Technology Award

2015年 US Government DOT: Special Award of Appreciation

2022年度 スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門 部門功労賞

2025年度 自動車技術会 技術部門貢献賞 他

本会関係略歴

(1) 1968年10月入会, 正員・永年会員

(2) 分科会主査 1回, 専門会議委員長 3回, フェロー(2000年度認定) 他



鞍谷 文保 君 (1957年 8月生)
くら たに ふみ やす

1982年 3月 福井大学大学院工学研究科修士課程修了
1982年 4月 兵庫県立工業技術センター入所
1997年 4月 兵庫教育大学学校教育学部助教授
2003年10月 和歌山大学教育学部教授
2008年 4月 福井大学大学院工学研究科教授
2019年 4月 同大学教育研究評議会評議員

2023年 4月 同大学名誉教授

専門分野

振動工学, 音響工学

受賞

2013年度 素形材連携経営賞経済産業大臣賞

2022年度 日本機械学会北陸信越支部貢献賞 他

本会関係略歴

(1) 1980年 1月入会, 正員・永年会員

(2) 理事 2回, 代表会員 5回, 北陸信越支部部長 1回, 北陸信越支部幹事 3回, 北陸信越支部商議員 5回, 分科会主査 2回, フェロー(2014年度認定) 他



梅原 徳次 君 (1960年 4月生)
う め はら のり つぐ

1988年 3月 東北大学大学院博士後期課程 3年の課程修了
1988年 4月 東北大学助手
1993年 2月 同大講師
1995年12月 同大助教授
2000年 4月 東京都立科学技術大学助教授
2002年 4月 名古屋工業大学教授
2004年 4月 名古屋大学大学院教授

専門分野

トライボロジー, 機械要素, 機械加工

受賞

1990年度 日本機械学会研究奨励賞

2009年度 日本機械学会賞(論文)

2011年度 機素潤滑設計部門 部門賞(業績賞)

2017年度 日本機械学会功労者(創立120周年記念表彰)

2019年度 日本機械学会賞(論文)

2021年度 日本機械学会賞(論文)

本会関係略歴

(1) 1984年 5月入会, 正員・フェロー

(2) 理事 2回, 代表会員 5回, 東海支部長 1回, 東海支部庶務幹事 1回, 東海支部商議員 8回, 部門長 1回, 常置委員長 2回, 常置幹事 5回, 常置幹事 3回 他



小池 裕二 君 (1961年 1月生)
こ いけ ゆう じ

2001年 3月 千葉大学大学院自然科学研究科人工システム科学専攻博士課程修了
1987年 4月 石川島播磨重工業(株)(現(株)IHI) 入社
2009年 4月 (株)IHI技術開発本部基盤技術研究所主幹研究員
2017年 4月 同社技術開発本部技師長
2018年 4月 同社技術開発本部基盤技術研究所技師長
2019年 4月 同社技術開発本部技術基盤センター技師長

2023年 4月 同社技術開発本部技術基盤センター主幹

専門分野

機械力学, 振動工学, 振動制御

受賞

1993年度 機械振興協会賞

1994年度 日本機械学会技術奨励賞

2003年度 日本機械学会賞(論文)

2011年度 機械力学・計測制御部門 技術功績賞 他

本会関係略歴

(1) 1989年 9月入会, 正員・フェロー

(2) 代表会員 8回 他

名誉員の紹介

(2026年4月23日 2025年度(第103期)定時社員総会において推薦)



佐々木 克彦 君 (1960年5月生)
さ さ き かつ ひこ

1989年3月 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了
1989年4月 北海道大学工学部助手
1992年4月 同大学工学部講師
1995年4月 同大学工学部助教授
2007年4月 同大学大学院工学研究科准教授
2009年4月 同大学大学院工学研究科教授

2024年4月 同大学大学院工学研究院特任教授

専門分野

材料力学

受賞

1995年度 日本機械学会研究奨励賞 他

本会関係略歴

- (1) 1984年5月入会, 正員・フェロー
(2) 代表会員3回, 北海道支部長1回, 北海道支部幹事1回, 北海道支部商議員7回, 部門長1回, 常務幹事1回, 臨時委員長1回, 常臨幹事1回 他



山本 悟 君 (1960年8月生)
やま もと さとる

1989年3月 東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程修了
1989年4月 東北大学助手(工学部機械工学科)
1991年4月 同大学講師(工学部機械航空工学科)
1992年12月 同大学助教授(工学部機械航空工学科)
1995年4月 同大学助教授(工学研究科航空宇宙工学専攻に配置換え)
2004年10月 同大学教授(大学院情報科学研究科)

専門分野

数値流体力学(CFD), 計算数理学, マルチフィジックスCFD, ガスタービン, 蒸気タービン, 非平衡凝縮流れ, 超臨界流体

受賞

1989年度 日本機械学会奨励賞
1996年度 日本ガスタービン学会 奨励賞
2018年度 英国機械学会 最優秀論文賞
2022年度 日本ガスタービン学会 功労賞
2023年度 流体工学部門 部門賞 他

本会関係略歴

- (1) 1984年5月入会, 正員・フェロー
(2) 代表会員3回, 東北支部常務幹事2回, 東北支部幹事2回, 東北支部商議員10回, 部門長1回, 部門幹事1回 他



中田 俊彦 君 (1960年10月生)
なか た とし ひこ

1985年3月 東北大学大学院工学研究科機械工学専攻博士前期課程修了
1985年4月 財団法人電力中央研究所入社
1993年9月 東北大学工学部助教授
1997年7月 フルブライトスカラー(米国ローレンスリバモア国立研究所)(~1998年7月)
2006年4月 東北大学工学研究科教授

専門分野

熱工学, 燃焼工学, エネルギーデザイン

受賞

1993年度 日本燃焼学会 技術賞
2005年度 日本エネルギー学会 論文賞
2017年度 日本エネルギー学会 論文賞
2020年度 日本エネルギー学会 学会賞(学術部門)
2023年度 日本機械学会賞(技術功績) 他

本会関係略歴

- (1) 1981年7月入会, 正員・フェロー
(2) 代表会員5回, 東北支部長1回, 東北支部幹事2回, 東北支部商議員11回, 部門長1回 他



山本 誠 君 (1959年10月生)
やま もと まこと

1987年8月 東京大学大学院工学系研究科単位取得退学
1987年9月 石川島播磨重工業(株)(現IHI) 航空宇宙事業本部入社
1990年5月 東京理科大学工学部第一部(現工学部)機械工学科講師
2004年4月 同大学工学部第一部機械工学科教授(~2025年3月)
2009年6月 同大学工学部長兼工学研究科長(~2010年9月)

2014年1月 同大学副学長(教育・入試担当)

2015年4月 同大学工学部嘱託教授兼産学連携機構長(~2026年3月)

専門分野

数値熱流体工学

受賞

1994年度 日本機械学会研究奨励賞
2007年度 日本機械学会功労者(創立110周年記念表彰)
2010年度 計算力学部門 業績賞
2019年度 東京都功労者表彰 技術振興功労賞
2020年度 流体工学部門 部門賞
2022年度 文部科学省 令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞 他

本会関係略歴

- (1) 1984年2月入会, 正員・フェロー
(2) 会長1回, 副会長1回, 理事2回, 代表会員6回, 関東支部長1回, 関東支部幹事2回, 関東支部商議員6回, 英文専門委員長3回, 常置委員長2回, 部門長2回, 部門幹事1回, 分科会主査1回, 部会幹事1回, 常臨幹事2回, 分研幹事1回, JABEE審査長8回, センター長1回, センター幹事2回, センター・機構委員長3回, センター・機構副委員長7回 他



中村 孝 君 (1960年3月生)
なか むら たかし

1986年3月 東京工業大学大学院理工学研究科生産機械工学専攻修了
1986年4月 日本ムーク㈱入社
1991年1月 東京工業大学工学部助手
1995年5月 北海道大学工学部助教授
2007年4月 同大学大学院工学研究院教授
2025年4月 九州大学水素材料先端科学研究センター 特任教授

専門分野

材料強度学

受賞

1998年度 日本材料学会 学術奨励賞
2011年度 日本材料学会 学術貢献賞
2024年度 材料力学部門 業績賞 他

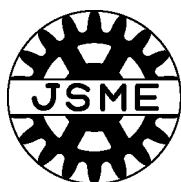
本会関係略歴

- (1) 1985年4月入会, 正員・フェロー
(2) 理事2回, 代表会員4回, 北海道支部常務幹事1回, 北海道支部幹事1回, 北海道支部商議員4回, 臨時委員長1回 他

〔備考〕代表会員には評議員の履歴を含む。

2026年度（第104期）
事業計画書

（ 自 2026年3月 1日
至 2027年2月28日 ）



一般社団法人 日本機械学会

2026年度（第104期）事業計画案（概要）

本年度の主な事業については、定款第4条各項（*）に基づく以下の事業を実施する。

1. 法人運営

- (1) 定時社員総会 2027年4月に創立130周年記念式典と同日開催、(開催日未定、会場は明治記念館を予定)
- (2) 代表委員会 年2回開催(オンライン開催)
- (3) 理事会 原則として隔月開催(対面+オンラインのハイブリッド開催)
- (4) 細則に定められた常置部会、委員会活動を下記の通り実施する。

- ・経営企画委員会：中長期的視点の下に学会運営に関わる課題を整理・検討し、理事会に対して施策を提案することにより経営・企画力の向上を図る。
- ・支部協議会：支部の基本的諸問題および長期的展望に関する検討や情報共有を行う。
- ・部門協議会：各部門の企画運営上の問題点、理事会から要請された事項の検討や情報共有を行う。
- ・広報部会：学会活動に関する情報を社会・会員等に発信する。
- ・情報部会：本会が保有する知的財産や資源を活用し、新たな収益事業の立ち上げ・効果的な運営を図り、書籍発行を統括する。(2026年度に広報・情報部会から再編予定)
- ・会員部会：会員の入退会、諸制度に関わる諸般の事項をつかさどる。必要に応じて諸行事を企画・実施する。また学生員並びに学生会、女性会員、会員シニア、国外会員等の学会活動を奨励し、これを支援する。
- ・表彰部会：各種表彰の受賞候補者選考に関する諸般の事項について審議検討する。
- ・学術誌編修部会：学術誌発行を統括する。
- ・部門評価委員会：部門間の交流を深めるための仕組みづくりを行う。
- ・国際連携委員会：各国の機械系学会及び国際教育機関などとの連携を図る。
- ・技術倫理委員会：倫理規定の周知・啓発・運用等について審議を行う
- ・機械技術・資料保存事業委員会：機械技術史、機械遺産など機械技術・資料保存事業に関連する基本方針や広報、活用方法などの検討を行う。
- ・若手の会：若手会員の増強並びに活性化を推進するため、若手会員自身による本会の魅力度向上に資する施策の立案・実施、若手会員の交流ネットワークの構築を行う。
- ・人材育成・活躍支援委員会：幅広い世代に対する人材育成を図るとともに、技術者としての能力開発、継続教育などの活動により技術者の活躍支援を行う。
- ・技術ロードマップ委員会：学会ロードマップの作成・維持・更新や、技術開発テーマの抽出・提案などを行い、その成果を広く社会に発信する。
- ・ISO・JIS・学会基準委員会：社会生活の向上に貢献するため、日本機械学会基準の制定、JIS（日本産業規格）原案の作成、ISO（国際標準化機構）で作成される国際規格の原案作成並びにそれらの基準の制定・維持や見直しを行い普及を図る
- ・事業委員会（JABEE 事業委員会、機械状態監視資格認証事業委員会、計算力学技術者資格認定事業委員会、産学連携事業委員会、発電用設備規格委員会）：
認証・認定、技術開発、規格制定などにより機械工学分野のイノベーションを牽引し、産官学の連携強化、外部資金の導入促進による学会事業の拡大と学会プレゼンスの向上を図る。
- ・事業アドバイザー委員会：事業委員会の活動に対するアセスメントを行うと共に、運営に関するアドバイスをを行い、事業の健全な発展を支える。
- ・分野連携委員会：部門、専門会議、新分野推進会議の交流・連携推進を図り、各連携活動の実施に際し、分野連携支援金交付の審議検討を行う。
- ・防災・減災委員会：自然災害に対する機械設備類および産業施設、生産ネットワークの被害軽減、機械分野における自然災害に対する防災・減災技術の向上発展に寄与する。
- ・年次大会企画委員会：年次大会の活性化を図り、年次大会に適用すべき施策を具体化すると共に、実行に向けて年次大会実行委員会を支援する。
- ・DEI推進委員会：本会の活動においてDiversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包摂性）を推進し、人種、性、年齢、地位、所属、思想、宗教等を問わず、誰もが公平に参画できる学会を実現する。

- (5) その他各組織に設置された委員会活動を行う。

2. 公益目的支出計画における実施事業

- (1) 年次大会：(2026年度年次大会：2026年9月6日（日）～9日（水）)、東海大学において研究発表講演会、市民フォーラム、ワークショップ等の他、理事会等による各種特別企画実施。
・・・定款第4条(1)項
- (2) 「機械の日、機械週間」活動：記念式典、各支部企画行事実施を含む・・・同条(9)項
- (3) 「機械遺産」認定事業：機械遺産監修委員会、機械遺産委員会・・・同条(9)項
- (4) 学術誌の発行（国際的プレゼンスの向上）・・・同条(3)項
- (5) 国際交流事業〔海外学協会（ASME、IMechE、KSME、CMES等）との協力〕・・・同条(10)項

- (6) 機械工学振興事業〔メカライフ振興事業、若手会員育成事業(新設)〕機械工学の未来を拓く有意義な事業への助成)・・・同条(9)項
- (7) 表彰事業〔日本機械学会賞(論文、技術、技術功績)、日本機械学会奨励賞(研究、技術)、同教育賞、同若手優秀講演フェロー賞、同島山賞、同三浦賞、同女性未来賞、同イノベーション表彰(特別員対象)、同優秀技術者表彰、同標準事業表彰、同貢献表彰等：表彰部会)・・・同条(7)項

3. 本部事業

3. 1 本部特別事業

- (1) 定時社員総会特別企画行事等・・・同条(9)項
- (2) 情報発信継続強化、会員情報管理等・・・同条(9)項
- (3) 共催行事(日本学術会議企画行事等)の実施・・・同条(1)(2)(10)項
- (4) 理工系女子学生のためのキャリアフォーラム・メカジョ未来フォーラム等の実施・・・同条(2)項

3. 2 本部事業

- (1) 事業委員会(JABEE事業委員会、機械状態監視資格認証事業委員会、計算力学技術者資格認定事業委員会、産学連携事業委員会、発電用設備規格委員会)の各種事業の実施・・・同条(4)(6)(8)項
- (2) 事業アドバイザー委員会による事業委員会活動のアセスメントとアドバイス・・・同条(11)項

3. 3 会誌事業；(法人税法上の収益事業)

本会会員等への情報提供のための会誌発行事業：エディター制による広報活動継続強化。

・・・同条(3)項

3. 4 出版事業；(法人税法上の収益事業)：機械工学便覧改訂に向けた準備、その他書籍の企画・発行、既刊書籍の広報・販売促進・・・同条(3)項

4. 部門事業

22の部門、2つの専門会議・新分野推進会議。新部門制本実施や分野連携企画の推進など、部門活動の更なる活性化に向けた取り組みを促進する。

- (1) 講演会の企画・実施(①学術講演会、②シンポジウム、③国際シンポジウム等の開催)・・・同条(1)項
- (2) 講習会等の企画・実施(①講習会、②見学会、③特別講演会等の開催)・・・同条(2)項
- (3) 普及・広報活動(①セミナー、②部門ニュースレター発行、③部門所属分科会、研究会)・・・同条(5)(9)項
- (4) 啓発・表彰(①部門賞、②部門一般表彰)・・・同条(7)項

5. 受託事業

国等からの調査・研究・技術開発等に関する受託事業を実施する。・・・同条(4)項

6. 支部事業

関西、九州、東海、北海道、中国四国、北陸信越、東北、関東の8支部と学生会、シニア会活動を実施する。

- (1) 講演会の企画・実施(①学術講演会、②シンポジウム、③学生員卒業研究発表会)・・・同条(1)項
- (2) 講習会等の企画・実施(①講習会、②見学会、③地域啓発講義会)・・・同条(2)項
- (3) 普及・広報活動(①公開講座、②支部ニュース、③市民フォーラム、④地域交流会、⑤機械の日・機械週間・メカライフ振興事業、若手会員育成事業等)・・・同条(9)項
- (4) 啓発・表彰(①支部賞、②支部表彰)・・・同条(7)項

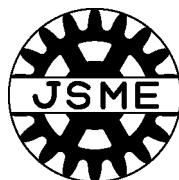
(*) 一般社団法人日本機械学会 定款
(事業)

第4条 本会は、本邦及び海外において前条の目的を達するために次の事業を行う。

- (1) 研究発表会および学術集会の開催
- (2) 講習会、見学会、展示会、研修会、などの開催
- (3) 会誌、論文集、研究報告、資料その他図書の刊行
- (4) 調査研究、資料・情報などの収集ならびに作成
- (5) 研究・技術・システムの開発ならびに、研究・調査の支援
- (6) 技術基準・規格の制定、技術検査・試験の支援、助言、助成など
- (7) 論文、技術などの顕彰、コンテスト
- (8) 技術者人材育成・教育、技術者資格の認定
- (9) 普及・啓蒙・広報ならびに、政策提言
- (10) 国内外の関係組織・団体などとの協力および連携
- (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2026年度(第104期)
事業予算書

〔 自 2026年3月 1日
至 2027年2月28日 〕



一般社団法人 日本機械学会

2026年度(第104期)予算案 正味財産増減計算書内訳表

2026年3月1日から2027年2月28日まで

(単位:円)

勘定科目	その他会計										法人会計	内部取引等 消去	合計	
	実施事業等会計 (※1)	本部特別事業	本部事業	支部事業	部門事業	研究協力事業	受託事業	会誌事業	出版事業	出版事業				
I 一般正味財産増減の部														
1. 経常増減の部														
(1) 経常収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90,000
(基本財産運用月益)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300,000
(特定資産運用月益)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	670,000
(受取入金)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	600,000
個人会員受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70,000
法人会員受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	258,960,000
(受取会費)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194,000,000
個人会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64,960,000
法人会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	580,900,000
(事業収益)	55,000,000	7,230,000	80,050,000	50,440,000	203,130,000	56,050,000	4,610,000	47,800,000	96,460,000	130,000	20,000,000	20,000,000	282,930,000	77,700,000
行事等収益	22,000,000	7,230,000	50,440,000	50,440,000	203,130,000	56,050,000	4,610,000	47,800,000	96,460,000	130,000	20,000,000	20,000,000	282,930,000	77,700,000
書籍等販売収益	33,000,000	0	0	0	0	0	0	22,400,000	75,300,000	0	0	0	33,000,000	33,000,000
掲載料収益	0	0	61,070,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61,070,000	61,070,000
資格試験事業収益	0	0	16,110,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,110,000	16,110,000
受取研究参加負担金	0	0	2,870,000	0	0	0	0	4,610,000	21,160,000	0	0	0	28,640,000	28,640,000
受取委託事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,400,000
広告料	0	0	0	0	0	0	0	25,400,000	0	0	0	0	25,400,000	25,400,000
(受取補助金等)	2,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000,000
受取寄付金	6,000,000	0	0	0	4,200,000	0	0	0	0	0	0	0	3,500,000	13,700,000
受取者付金振替額	6,000,000	0	0	0	4,200,000	0	0	0	0	0	0	0	3,500,000	3,500,000
(雑収益)	100,000	0	0	0	0	0	0	10,000	1,900,000	0	0	0	10,200,000	10,200,000
経常収益計	63,100,000	7,230,000	80,050,000	50,440,000	207,330,000	56,050,000	4,610,000	47,810,000	98,360,000	270,990,000	20,000,000	20,000,000	865,970,000	865,970,000
(2) 経常費用														
(事業費)	39,660,000	11,520,000	59,420,000	108,640,000	181,040,000	46,990,000	3,820,000	68,170,000	28,420,000	67,790,000	20,000,000	20,000,000	595,470,000	595,470,000
新規事業(※2)	770,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	770,000	770,000
国際交流事業	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000
機械の目他	4,280,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,280,000	4,280,000
年次大会	12,450,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12,450,000	12,450,000
学術誌(和文・英文)	8,380,000	460,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,380,000	8,380,000
学芸賞経費	5,180,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,180,000	5,180,000
その他贈賞経費	900,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	900,000	900,000
機械工学振興事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総会	0	1,360,000	0	0	0	0	0	0	0	3,230,000	0	0	4,590,000	4,590,000
委員会等関連支出	0	5,830,000	22,370,000	0	7,400,000	0	0	0	0	6,300,000	0	0	41,900,000	41,900,000
行事・事業関連支出	0	4,060,000	37,500,000	105,640,000	170,640,000	43,990,000	3,920,000	0	0	0	0	0	365,750,000	365,750,000
選挙費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会員管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,090,000	0	0	4,090,000	4,090,000
売上原価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32,170,000	20,000,000	20,000,000	12,170,000	12,170,000
一般管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54,100,000
消費税精算	800,000	△190,000	△450,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	△100,000	25,990,000	16,500,000	0	0	0	42,490,000	42,490,000
予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18,000,000	0	0	4,000,000	4,000,000
(管理費)	68,220,000	15,220,000	31,580,000	3,000,000	88,940,000	4,420,000	3,200,000	42,180,000	11,920,000	0	0	0	27,060,000	27,060,000
人件費他(共通経費1)	52,870,000	11,890,000	15,960,000	0	69,500,000	3,440,000	2,510,000	25,990,000	16,500,000	0	0	0	294,530,000	294,530,000
借入金他(共通経費2)	15,350,000	3,330,000	15,620,000	0	19,440,000	980,000	690,000	68,170,000	28,420,000	18,160,000	0	0	73,570,000	73,570,000
経常費用計	107,880,000	26,740,000	91,000,000	108,640,000	269,980,000	51,410,000	7,020,000	68,170,000	28,420,000	150,740,000	20,000,000	20,000,000	890,000,000	890,000,000
経常増減額	△44,780,000	△19,510,000	△10,950,000	△58,200,000	△62,650,000	△4,640,000	△2,410,000	△20,360,000	69,940,000	120,250,000	0	0	△24,030,000	△24,030,000
2. 他会計振替額														
当期一般正味財産増減額	44,780,000	19,510,000	10,950,000	51,640,000	62,650,000	△6,450,000	△690,000	△3,100,000	0	△182,390,000	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	△6,560,000	0	△1,810,000	△3,100,000	20,360,000	69,940,000	△62,140,000	0	0	△24,030,000	△24,030,000
一般正味財産増減額	0	0	0	△6,560,000	0	△1,810,000	△3,100,000	20,360,000	69,940,000	△62,140,000	0	0	△24,030,000	△24,030,000
II 指定正味財産増減の部														
(特定資産運用月益)	2,500,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000
特定資産受取利息	100,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100,000	100,000
特定資産受取配当金	2,400,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,400,000	2,400,000
(受取補助金等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(受取寄付金)	1,800,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,800,000	1,800,000
(特定資産評価増益)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(指定正味財産への振替額)	△6,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	△4,200,000	0	0	△10,200,000	△10,200,000
当期指定正味財産増減額	△1,700,000	0	0	0	0	0	0	0	0	△4,200,000	0	0	△5,900,000	△5,900,000
III 正味財産増減の部														
当期正味財産増減額	△1,700,000	0	0	△6,560,000	0	△1,810,000	△3,100,000	20,360,000	69,870,000	△66,340,000	0	0	△30,000,000	△30,000,000

(※3) 常勤理事報酬を含む

(※1) 公益目的支出計画に基づく事業

(※2) 新規事業

生成AIを利用した論文執筆に関するオンラインセミナー

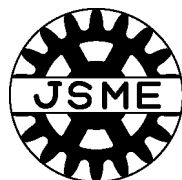
金額(円)

770,000

770,000

2026年度（第104期）
理事、監事候補者

（代表会員当選者リスト）



一般社団法人 日本機械学会

一般社団法人 日本機械学会 2026年度（第104期） 理事・監事 候補者

退任理事・監事（参考）

理事分担	氏名	所属	職名
会長	岩城 智香子 君	栃東芝	首席技監
副会長	井上 裕嗣 君	東京科学大学	教授
"	品川 一成 君	九州大学	教授
"	松本 章吾 君	㈱リコー	ExecutiveExpert
庶務理事	大岩 孝彰 君	静岡大学	名誉教授
"	廣畑 賢治 君	栃東芝	技監
財務理事	尾形 秀樹 君	㈱IHI	部長
"	河本 基一郎 君	コマツ産機㈱	本部長
編修理事	大橋 俊朗 君	北海道大学	教授
企画理事	須藤 雅子 君	フアナック㈱	技監
"	寺地 淳 君	日産自動車㈱	所長
広報情報理事	新藤 貴志 君	三浦工業㈱	部長
"	谷川 民生 君	産業技術総合研究所	研究センター長
監事	大曾根 靖夫 君	㈱日立パワーソリューションズ	CTO
"	松本 敏郎 君	東海職業能力開発大学校	校長

継続理事

理事分担	氏名	所属	職名
会長	高木 周 君	東京大学	教授
理事	小野 英一 君	㈱豊田中央研究所	理事
"	風尾 幸彦 君	日本機械学会	常勤理事
"	金子 暁子 君	筑波大学	教授
"	高野 直樹 君	慶應義塾大学	教授
"	田中 真美 君	東北大学	教授
"	中西 義孝 君	熊本大学	教授
"	藤村 皓太郎 君	三菱重工業㈱	技監・主幹研究員
"	本家 浩一 君	㈱神戸製鋼所	研究首席
"	松原 厚 君	摂南大学	特任教授
"	吉村 卓也 君	東京都立大学	教授

新任理事・監事

理事分担	氏名	所属	職名
筆頭副会長	大曾根 靖夫 君	㈱日立パワーソリューションズ	CTO
理事	荒井 政大 君	名古屋大学	教授
"	梅川 尚嗣 君	関西大学	教授
"	江戸 義博 君	東日本旅客鉄道㈱	所長
"	梶原 逸朗 君	北海道大学	教授
"	菊植 亮 君	広島大学	教授
"	児玉 勇司 君	横浜ゴム㈱	フェロー・研究室長
"	中島 求 君	東京科学大学	教授
"	宮下 幸雄 君	長岡技術科学大学	教授
"	向井 稔 君	㈱東芝	技監
"	森岡 典子 君	㈱IHI	常務執行役員
"	柳原 好孝 君	東急建設㈱	専任部長
"	山崎 美稀 君	㈱日立ハイテク	主管技師
監事	井上 裕嗣 君	東京科学大学	教授
"	大橋 俊朗 君	北海道大学	教授

2026年度（第104期）代表会員・監事選挙当選者

（所属は投票時点のもの） （当選者の配列は無作為抽選）

0区A（学界・官界等）代表会員（関東：東京，神奈川，埼玉，千葉，群馬，茨城，栃木，山梨）【定員21名】

氏名	勤務先・職名
鈴木 孝明	群馬大学 教授
道辻 洋平	茨城大学 教授
中島 求	東京科学大学 教授
今泉 文伸	小山工業高等専門学校 教授
中村 弘毅	(一財)日本自動車研究所 主任研究員
元祐 昌廣	東京理科大学 教授
松崎 亮介	東京理科大学 教授
長谷川 洋介	東京大学 教授
服部 康男	(一財)電力中央研究所 気象・流体科学研究部門長
森下 達哉	東海大学 教授
中山 栄浩	山梨大学 教授
久保田 正広	日本大学 教授
上田 政人	日本大学 教授
田所 千治	埼玉大学 教授
杉浦 壽彦	慶應義塾大学 教授
岩崎 篤	群馬大学 教授
政木 清孝	埼玉工業大学 教授
山田 崇恭	山梨大学 准教授
久森 紀之	上智大学 教授
津江 光洋	東京大学 教授
古川 克子	東京科学大学 教授

0区B（産業界）代表会員（関東：東京，神奈川，埼玉，千葉，群馬，茨城，栃木，山梨）【定員47名】

氏名	勤務先・職名
品川 幹	(株)IHI 部長
大野 恵美	(株)IHI 理事、技術開発本部 副本部長
白川 昌和	東芝エネルギーシステムズ(株) シニアフェロー (技監)
片山 絵里香	(株)日立製作所 主管研究員
大曾根 靖夫	(株)日立パワーソリューションズ 常務執行役員
大島 浩	日本車輛製造(株) 本部長
南部 俊和	日産自動車(株) エキスパートリーダー
鈴木 隆之	(株)日立ハイテク 部員
松本 章吾	(株)リコー Executive Technical Expert
神藤 建太	DMG森精機(株) 統括部長
中谷 祐二郎	東芝エネルギーシステムズ(株) ゼネラルマネジャー
児玉 勇司	横浜ゴム(株) フェロー・研究室長
小村 昭義	(株)日立パワーソリューションズ 主管技師長
梅沢 修一	東京電力ホールディングス(株) 首席研究員
中垣 亮	(株)日立ハイテク 本部長
高野 和雅	(株)牧野フライス製作所 上席主幹技術者
猪狩 精司	(株)東芝 シニアフェロー (技監)
伊藤 裕昌	MHIパワーエンジニアリング(株) 主幹技師
向井 稔	(株)東芝 技監 (シニアフェロー)
辻 英樹	(株)小松製作所 室長
島田 貴弘	(株)IHI 部長
星 暁生	日立建機(株) 部長
近藤 浩一	(株)東芝 技監
島宗 亮平	(株)総合車両製作所 担当部長
竹田 憲生	(株)日立製作所 主管研究員
杉村 和之	(株)日立製作所 Managing Director
成瀬 友博	(株)日立インダストリアルプロダクツ 主管技師
井田 徳昭	三菱重工業(株) 主席研究員
山崎 美稀	(株)日立ハイテク 主管技師
中神 匡人	東日本旅客鉄道(株) マネージャー
宮崎 克雅	(株)日立製作所 主管研究員

氏名	勤務先・職名
芹澤 良洋	日本製鉄(株) 上席主幹研究員
森岡 典子	(株)IHI 常務執行役員
小川 昭人	(株)東芝 シニアマネージャー
石井 英二	(株)日立製作所 主管研究員
江戸 義博	東日本旅客鉄道(株) 所長
泉 和彦	いすゞ自動車(株) VP
石井 恵奈	(株)東芝 上席研究員
塚田 竹美	本田技研工業(株) アシスタントチーフエンジニア
飯島 唯司	日立GEベルフバニュークリアエナジー(株) 主管技師
山下 健一	(株)いすゞ中央研究所 部長
山口 和幸	(株)日立製作所 主管研究員
中川 泰忠	(株)東芝 エキスパート
釘宮 哲也	(株)東芝 エキスパート
古賀 章浩	キャノンメディカルシステムズ(株) 所長
浅野 浩二	(株)総合車両製作所 技術本部長
北村 賢一	東日本旅客鉄道(株) 主幹研究員 (マネージャー)

1区代表会員（東北：宮城，福島，岩手，青森，山形，秋田）

【定員11名】

氏名	勤務先・職名
藤崎 和弘	弘前大学 准教授
杉本 尚哉	秋田県立大学 教授
祖山 均	東北大学 教授
佐々木 誠	岩手大学 教授
服部 裕司	東北大学 教授
芳賀 洋一	東北大学 教授
上原 拓也	山形大学 教授
佐々木 直栄	日本大学 教授
高 偉	東北大学 教授
古川 敦康	東北電力(株) 研究室長
茂田 正哉	東北大学 教授

2区代表会員（北海道）

【定員8名】

氏名	勤務先・職名
吉田 裕	北見工業大学 教授
安富 章忠	日本製鋼所M&E(株) 課長
梶原 逸朗	北海道大学 教授
湯浅 友典	室蘭工業大学 教授
平元 理峰	北海道科学大学 准教授
笹田 直伸	北海道電力(株) 部長
矢野 貴浩	日本製鉄(株) 課長
藤村 信洋	北海道ガス(株) 所長

3区代表会員（東海：三重、愛知、静岡、岐阜）

【定員22名】

氏名	勤務先・職名
前田 剛典	三菱重工業(株) 主席技師
塩崎 弘隆	三菱自動車工業(株) 本部長補佐
山口 雄平	トヨタ自動車(株) 主幹
植松 美彦	岐阜大学 教授
前田 太佳夫	三重大学 教授
西村 和彦	東海旅客鉄道(株) チームマネージャー
鈴木 隆直	(株)アイシン 主査
奥村 大	名古屋大学 教授
高尾 尚史	(株)豊田中央研究所 執行職
鈴木 宏昌	愛知工科大学 准教授
玉野 真司	名古屋工業大学 教授
大川内 栄治	トヨタ自動車(株) 主幹
西村 尚哉	名城大学 教授
荒井 政大	名古屋大学 教授
伊藤 雅敏	ヤマザキマザック(株) サブグループリーダー
石宮 隆幸	(株)デンソー 部長
町屋 修太郎	大同大学 教授
鶴見 康昭	(株)豊田中央研究所 領域リーダー
高木 賢太郎	豊橋技術科学大学 教授
貝吹 和秀	トヨタ紡織(株) プリンシパルエキスパート
藤田 英之	ヤマハ発動機(株) グループリーダー
早川 邦夫	静岡大学 教授

4区代表会員（関西：京都、大阪、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）

【定員31名】

氏名	勤務先・職名
新谷 篤彦	大阪公立大学 教授
山口 昌保	(株)小松製作所 SEE (シニアエキスパートエンジニア)
山中 圭史	ヤンマーホールディングス(株) グループリーダー
友田 俊之	関西電力(株) マネージャー
武内 遼太	ダイキン工業(株) 主任技師
西岡 琢治	東レ(株) 主幹
高谷 裕浩	大阪大学 教授
堀井 克則	パナソニック(株) 総括主幹技師
牛田 俊	大阪工業大学 教授
塩島 史哉	大阪ガス(株) 主任研究員
田中 展	兵庫県立大学 教授
前田 大輔	(株)ジェイテクト プロジェクトマネージャー
光岡 大輔	(株)島津製作所 副グループ長
黒瀬 良一	京都大学 教授
藤本 恵美子	カナデビア(株) 室長
小森 雅晴	京都大学 教授
大本 洋平	三菱電機(株) 次長
川口 寿裕	関西大学 教授
塩澤 大輝	神戸大学 教授
森田 英之	三菱重工業(株) 部長
上野 哲	立命館大学 教授
堀内 章司	(株)神戸製鋼所 主任研究員
宮崎 学	(株)クボタ 部長
坂田 誠一郎	近畿大学 教授
佐藤 寿恭	川崎重工業(株) 特別主席研究員
杉山 和靖	大阪大学 教授
木下 進一	大阪公立大学 教授
森田 有亮	同志社大学 教授
大窪 和也	同志社大学 教授
安藤 克	ダイハツ工業(株) 主担当員
早川 守	日本製鉄(株) 課長

5区代表会員（中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口）

【定員12名】

氏名	勤務先・職名
岡澤 寿史	マツダ(株) マネージャー
楊 家家	岡山大学 教授
菊植 亮	広島大学 教授
關 正憲	岡山理科大学 教授
大田 慎一郎	岡山県立大学 准教授
池田 雅弘	広島工業大学 准教授
寶山 登	三菱重工業(株) 主席技師
早水 庸隆	米子工業高等専門学校 教授
西村 太志	徳山工業高等専門学校 教授
大木 順司	山口大学 教授
尾形 陽一	広島大学 教授
本間 寛己	松江工業高等専門学校 教授

6区代表会員（四国：徳島、香川、愛媛、高知）

【定員7名】

氏名	勤務先・職名
川原村 敏幸	高知工科大学 教授
天野 久徳	徳島文理大学 教授
名田 譲	徳島大学 教授
岩本 幸治	愛媛大学 教授
谷脇 充浩	新居浜工業高等専門学校 准教授
向笠 忍	愛媛大学 教授
安部 元	三浦工業(株) 部長

7区代表会員（北陸信越：新潟、長野、福井、石川、富山）

【定員12名】

氏名	勤務先・職名
党 超鋦	福井大学 教授
田中 茂雄	金沢大学 教授
白鳥 智美	富山大学 教授
笹川 圭右	新潟工科大学 教授
石井 治彦	新潟県工業技術総合研究所 主任研究員
岡田 学	長野工業高等専門学校 教授
土居 隆宏	金沢工業大学 教授
馬場 将亮	長岡技術科学大学 准教授
白井 弘明	シナノケンシ(株) 執行役員・本部長
坂村 芳孝	富山県立大学 教授
松原 雅春	信州大学 教授
佐々木 朋裕	新潟大学 教授

8区代表会員（九州：長崎、福岡、大分、佐賀、

熊本、宮崎、鹿児島、沖縄）【定員15名】

氏名	勤務先・職名
林 良洋	三菱重工業(株) 主任研究員
趙 昌熙	北九州市立大学 教授
佐藤 紘一	鹿児島大学 教授
武村 史朗	沖縄工業高等専門学校 教授
本村 文孝	長崎大学 助教
河村 隆介	宮崎大学 教授
田上 公俊	大分大学 教授
松田 健次	九州工業大学 教授
渡邊 明	三菱重工業(株) 主席技師
小糸 康志	熊本大学 教授
中村 竹弥	九州電力(株) 部長
宮崎 康次	九州大学 教授
伊藤 衡平	九州大学 教授
森山 茂章	福岡大学 教授
木上 洋一	佐賀大学 教授

部門代表会員（54名）

- 備考 1) 部門間の配列は無作為抽選
 2) 当選者の配列は無作為抽選
 3) 部門名の () 内の数字は定員数

部門名	氏名	勤務先・職名
マイクロ (1)	山崎 美稀	㈱日立ハイテク 主管技師
エンジン (2)	三上 真人	山口大学 教授
	伊東 明美	東京都市大学 教授
ロボメカ (4)	藤田 淳	三菱重工業(株) 主席技師
	柳原 好孝	東急建設(株) 専任部長
	吉見 卓	芝浦工業大学 教授
	長谷川 泰久	名古屋大学 教授
流体 (5)	富松 重行	㈱電業社機械製作所 所長 (技術研究所長)
	石神 隆寛	千代田化工建設(株) チームリーダー
	坪倉 誠	神戸大学 教授
	川口 大輔	㈱日立製作所 主任研究員
	石川 仁	東京理科大学 教授
計算 (3)	池田 徹	鹿児島大学 教授
	萩原 世也	佐賀大学 教授
	和田 義孝	近畿大学 教授
交物 (2)	皆川 佳祐	埼玉工業大学 准教授
	中野 公彦	東京大学 教授
スポーツ (1)	瀬尾 和哉	工学院大学 教授
機械材料 (3)	小林 訓史	東京都立大学 教授
	松本 良	大阪大学 准教授
	宮下 幸雄	長岡技術科学大学 教授
設計 (2)	山崎 美稀	㈱日立ハイテク 主管技師
	青山 和浩	東京大学 教授
宇宙 (2)	中村 信子	㈱テクノソルバ 専務取締役
	渡邊 力夫	東京都市大学 准教授
動エネ (2)	梅川 尚嗣	関西大学 教授
	猪亦 麻子	東芝エネルギーシステムズ(株)
環境 (2)	神原 信志	岐阜大学 教授
	井田 民男	近畿大学 所長/教授
生産シス (2)	石橋 広行	オムロン(株)
	館野 寿丈	明治大学 教授
材力 (4)	堤 一也	三菱重工業(株) 主幹研究員
	植松 美彦	岐阜大学 教授
	奥村 大	名古屋大学 教授
	泉 聡志	東京大学 教授
産業化学 (2)	今村 友彦	公立諏訪東京理科大学 教授
	浅井 由尚	㈱f s l a b 代表取締役
機素 (2)	井上 徹夫	㈱シマノ アソシエイトプロフェッサー
	安藤 泰久	東京農工大学 教授
機力 (4)	真田 明	岡山県工業技術センター 専門研究員
	矢部 一明	東洋エンジニアリング(株)
	富岡 隆弘	名城大学 教授
	中川 修一	ヤンマーホールディングス(株) 主席
生産加工 (2)	長谷川 雅信	㈱I H I 主任研究員
	岡田 晃	岡山大学 教授
バイオ (2)	中村 匡徳	名古屋工業大学 教授
	石川 拓司	東北大学 教授
熱工学 (4)	芹澤 良洋	日本製鉄(株) 上席主幹研究員
	久保田 淳	日立グローバルライフソリューションズ(株) 主管技師長
	鹿園 直毅	東京大学 教授
	西村 真	㈱神戸製鋼所 専門部長
情報知能 (2)	橋爪 滋郎	㈱日立製作所 リーダ主任研究員
	張 賀東	名古屋大学 教授
技社 (1)	関根 康史	福山大学 准教授

継続理事（10名）〔配列は継続理事氏名の五十音順〕

氏名	勤務先・職名
小野 英一	㈱豊田中央研究所 理事
金子 暁子	筑波大学 教授
高木 周	東京大学 教授
高野 直樹	慶應義塾大学 教授
田中 真美	東北大学 教授
中西 義孝	熊本大学 教授
藤村 皓太郎	三菱重工業(株) 主幹研究員
本家 浩一	㈱神戸製鋼所 研究首席
松原 厚	京都大学 教授
吉村 卓也	東京都立大学 教授

監事

氏名	勤務先・職名
大橋 俊朗	北海道大学 教授

表彰

1. 名誉員章の贈呈（4号議案の受賞）

2. 日本機械学会賞

日本機械学会奨励賞

日本機械学会教育賞

（2025年度）

日本機械学会賞（技術功績）概要 [受賞者： 4名]

日本機械学会賞（論文）概要 [受賞者： 16件]

日本機械学会賞（技術）概要 [受賞者： 6件]

日本機械学会 奨励賞（研究）概要 [受賞者： 19名]

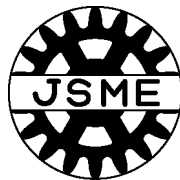
日本機械学会 奨励賞（技術）概要 [受賞者： 8名]

日本機械学会 教育賞 概要 [受賞者： 2件]

3. 日本機械学会標準事業表彰

（2025年度）

[受賞者： 5件]



一般社団法人 日本機械学会

日本機械学会賞（技術功績） 4件

(配列は受賞者の五十音順)

1	ロボットシステムインテグレーションの技術と科学の研究	川村 貞夫(立命館大学)
2	群ロボットとロボットビジョン並びにサービスロボットの研究	倉爪 亮(九州大学)
3	家庭用 CO2 冷媒ヒートポンプ給湯機エコキュートの開発と普及	齋川 路之((一財)電力中央研究所)
4	自動車用ディーゼルエンジンの燃焼技術開発	橋詰 剛(トヨタ自動車(株))

日本機械学会賞（論文） 16件

分野 1: 材料力学, 機械材料, 材料加工, 2: 熱工学, 内燃機関, 動力エネルギーシステム, 3: 流体工学, 流体機械, 4: 機械力学, 計測, 自動制御, ロボティクス, メカトロニクス, 交通・物流, 5: 設計, システム, 製造, 環境工学, 化学機械, システム安全, 6: 計算力学, マイクロ・ナノ工学, 生体工学, 第1部から第5部までの分野に限定されないもの。

(配列は分野別代表者の五十音順)

1	1	Finite element modeling for single-twisted Fi(29) strand that reproduces strand stiffness and wire stress <u>Mechanical Engineering Journal 第11巻6号(2024年12月掲載) 24-00299</u>	緒方 公俊((独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所) 山口 篤志((独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所) 山際 謙太((独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所) 倉橋 直也((株)神戸工業試験場) 泉 聡志(東京大学)
	2	鉄道車輪鋼を対象とした破壊力学的手法による転動疲労条件下のモードIIき裂進展速度評価法 <u>日本機械学会論文集第90巻932号(2024年4月掲載) 24-00010</u>	黒坂 隆太(日本製鉄(株)) 加藤 孝憲(日本製鉄(株)) 牧野 泰三(元 日本製鉄(株)(故人))
	3	Elastic-viscoplastic behavior of filament winding CFRP: experimental investigation and multiscale analysis <u>Mechanical Engineering Journal 第11巻6号(2024年12月掲載) 24-00262</u>	松田 哲也(筑波大学) 田村 晃斗(筑波大学(現 本田技研工業(株))) 高橋 知也(筑波大学(現 川崎車両(株))) 森田 直樹(筑波大学) 上田 政人(日本大学) 岩瀬 航(マザーサンヤチヨ・オートモーティブシステムズ(株)) 横関 智弘(東京大学)
2	4	Multidimensional measurement of air-water two-phase flow in particulate bed using refractive-index-matching method and wire-mesh sensor <u>Mechanical Engineering Journal 第11巻2号(2024年4月掲載) 23-00496</u>	植田 翔多((一財)電力中央研究所) 新井 崇洋((一財)電力中央研究所) 古谷 正裕((一財)電力中央研究所) 大川 理一郎((一財)電力中央研究所)
	5	Application of machine learning to optimized design of layer structured particles <u>Journal of Thermal Science and Technology 第19巻2号(2024年10月掲載) 24-00236</u>	江目 宏樹(山形大学) 佐藤 弘武(山形大学) 平井 達朗(山形大学)
3	6	Phase diagram for the spreading behavior of water drops impacting hot walls observed via high-speed IR imaging <u>Journal of Fluid Science and Technology 第17巻3号(2022年10月掲載) JFST0009</u>	岡部 孝裕(弘前大学) 白井 啓大朗(弘前大学(現 ファナック(株))) 大川 拓巳(弘前大学(現 (株)荏原製作所)) 岡島 淳之介(東北大学) 城田 農(弘前大学)
	7	Bingham fluid simulations using a physically consistent particle method <u>Journal of Fluid Science and Technology 第18巻4号(2023年11月掲載) JFST0035</u>	根岸 秀世(宇宙航空研究開発機構) 近藤 雅裕(産業技術総合研究所) 雨川 洋章(宇宙航空研究開発機構) 小原 新吾(宇宙航空研究開発機構) 黒瀬 良一(京都大学)
4	8	超音波治療のための音響ホログラフィによる水中での力場制御に関する実験的検討 <u>日本機械学会論文集第89巻924号(2023年8月掲載) 23-00052</u>	青木 優介(横浜国立大学(現 (株)日立ハイテック)) 階戸 智也(横浜国立大学(現 (株)デンソー)) 白石 俊彦(横浜国立大学)

	9	通勤車両内の横流ファン送風が乗客の温熱快適性に及ぼす影響の定量的評価 日本機械学会論文集第 88 巻 916 号 (2022 年 12 月掲載) 22-00171	遠藤 広晴 ((公財) 鉄道総合技術研究所) 榎並 祥太 ((公財) 鉄道総合技術研究所) 菊地 史倫 ((公財) 鉄道総合技術研究所) 吉江 幸子 ((公財) 鉄道総合技術研究所) 伊積 康彦 ((公財) 鉄道総合技術研究所 (現 (株) ジェイアール総研サービス)) 野口 純 (東日本旅客鉄道 (株))
	10	Evaluation of a robotic palpation sensor system for prostate cancer screening on silicone elastomers and prostate phantoms <u>Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing</u> 第 17 巻 2 号 (2023 年 1 月掲載) JAMDSM0021	Chikweto Francis (東北大学) 奥山 武志 (東北大学 (現 豊田工業大学)) 田中 真美 (東北大学)
	11	Experimental validation of elliptical contact tire model with friction coefficient deduced from viscoelasticity of tread rubber <u>Mechanical Engineering Journal</u> 第 11 巻 6 号 (2024 年 12 月掲載) 24-00069	中西 亮太 (住友ゴム工業 (株)) 松原 真己 (早稲田大学) 川崎 智史 (住友ゴム工業 (株)) 石橋 隆志 (住友ゴム工業 (株)) 鈴木 晴之 (住友ゴム工業 (株)) 川端 宏志 (住友ゴム工業 (株)) 河村 庄造 (豊橋技術科学大学) 田尻 大樹 (豊橋技術科学大学)
5	12	Voxel-based end milling simulation of machining error induced by elastic deformation of tool and workpiece <u>Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing</u> 第 18 巻 4 号 (2024 年 6 月掲載) JAMDSM0042	金子 和暉 (茨城大学 (現 岡山大学)) 清水 淳 (茨城大学) 白瀬 敬一 (神戸大学)
	13	帯電液滴飛翔解析とベイズ最適化を用いた連続型インクジェットプリンタ向け帯電制御最適化技術の開発 日本機械学会論文集第 88 巻 912 号 (2022 年 8 月掲載) 22-00140	佐藤 孝磨 ((株) 日立製作所) 石井 英二 ((株) 日立製作所) 木佐貫 祥一郎 ((株) 日立製作所 (現 (株) アイシン)) 高岸 毎明 ((株) 日立産機システム) 加藤 学 ((株) 日立産機システム)
	14	Thermal modeling techniques designed for high-speed directed energy deposition coatings <u>Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing</u> 第 19 巻 1 号 (2025 年 3 月掲載) JAMDSM0012	竹村 志帆 (慶應義塾大学) 宮田 雄一朗 (DMG森精機 (株) (現 DMG森精機 Additive (株))) 廣野 陽子 (DMG森精機 (株)) 柿沼 康弘 (慶應義塾大学)
6	15	Mechano-neurophysiological model of fingertip to simulate tactile response during Braille reading under multiple frictional conditions <u>Journal of Biomechanical Science and Engineering</u> 第 19 巻 1 号 (2024 年 1 月掲載) 23-00102	濱崎 透 ((株) 豊田中央研究所) 中平 祐子 ((株) 豊田中央研究所) 山田 大介 ((株) 豊田中央研究所)
	16	Block Newton 法による接線係数を代数的に導出した弾塑性損傷解析 日本機械学会論文集第 90 巻 936 号 (2024 年 8 月掲載) 24-00081	山本 剛大 (広島大学 (現 茨城大学)) 山田 貴博 (横浜国立大学) 松井 和己 (横浜国立大学)

日本機械学会賞 (技術) 6 件

(配列は代表者の五十音順)

1	ロボットハンドに第六感を与える近接覚センサの開発	小山 佳祐 (大阪大学) 藤本 弘道 ((株) Thinker) 中野 基輝 ((株) Thinker) 鶴浜 哲一 ((株) Thinker)
2	ステアバイワイヤシステム	柴田 憲治 (トヨタ自動車 (株)) 上前 肇 (トヨタ自動車 (株) (現 WA-KA TEC アドバイザリー)) 工藤 佳夫 (トヨタ自動車 (株)) 並河 勲 ((株) ジェイテクト) 佐藤 孝文 ((株) デンソー)
3	C N の実現に向けたボイラ向けアンモニア専焼バーナの開発	高山 明正 (三菱重工業 (株)) 嶺 聡彦 (三菱重工業 (株)) 松尾 啓介 (三菱重工業 (株)) 富澤 直季 (三菱重工業 (株)) 山下 登敏 (三菱重工業 (株))

4	印刷型センサを用いたロボットグリッパーの高機能化技術	竹田 泰典 (山形大学) 吉田 綾子 (山形大学) ワン イーフェイ ((元)山形大学) 時任 静士 (山形大学) 熊木 大介 (山形大学)
5	蠕動運動型管内検査ロボットの開発	中村 太郎 (中央大学・(株)ソラリス) 山田 泰之 (法政大学) 伊藤 文臣 (中央大学) 市橋 徹 ((株)ソラリス) 渡部 格生 ((株)ソラリス)
6	土壌挙動解析技術による世界の土壌に対応した農業機械の開発	松下 幸平 ((株)クボタ) 上重 嘉史 ((株)クボタ) 萩原 智恵 ((株)クボタ) 長藤 圭介 (東京大学) 花本 忠幸 (東京大学)

日本機械学会奨励賞 (研究) 19 件

分野 1: 材料力学, 機械材料, 材料加工, 2: 熱工学, 内燃機関, 動力エネルギーシステム, 3: 流体工学, 流体機械, 4: 機械力学, 計測, 自動制御, ロボティクス, メカトロニクス, 交通・物流, 5: 設計, システム, 製造, 環境工学, 化学機械, システム安全, 6: 計算力学, マイクロ・ナノ工学, 生体工学, 第1部から第5部までの分野に限定されないもの。

(配列は分野別受賞者の五十音順)

1	1	β 相含有鍛造 TiAl 合金の高温弾性特性と非弾性特性の研究	足立 寛太(大阪大学)
	2	計算材料科学による半導体材料の強度信頼性に関する研究	榑間 大輝(東京大学)
	3	材料の微視スケールでの塑性変形素過程に関する原子論的研究	佐藤 悠治(東京大学)
2	4	熱交換器の高性能化に資する実験および数値解析的研究	齋藤 慎平(産業技術総合研究所)
	5	高速液体噴流の微粒化モデリングに関する研究	松田 大(九州大学)
3	6	複雑流体のレオロジー計測手法開発と流動予測に関する研究	大家 広平(名古屋大学)
	7	圧縮性流れ中の粒子周り流れに関する研究	永田 貴之(名古屋大学)
	8	高速度偏光計測技術による液体と固体の応力場可視化の研究	武藤 真和(名古屋工業大学)
4	9	点群自己位置推定および環境地図生成の研究	小出 健司(産業技術総合研究所)
	10	平行リンク機構を用いたチルトフレーム型ドローンの研究	坂口 聡範(九州大学)
	11	人体動作特微量解析による身体内部情報推定技術の研究	土谷 圭央(香川大学)
5	12	瓦礫内探査とドローン輸送が可能な小型循環式移動体の研究	渡辺 将広(大阪大学)
	13	材料非線形を積極的に参照する構造最適化手法の研究	韓 霽珂(京都大学)
	14	トライボフィルムの形成機構と摩擦摩耗特性に関する研究	佐藤 魁星(東京理科大学)
6	15	高温真空環境下での炭素硬質薄膜の低摩擦指針の提案の研究	張 銳璽(東京科学大学)
	16	複雑な物理モデルに対する感度解析の一般化に関する研究	小川 竣(東京大学)
	17	細胞活動の力学的な作用から生じる組織形態形成の研究	竹田 宏典(京都大学)
	18	生理病理状態における仙腸関節の力学的機能に関する研究	豊原 涼太(北海道大学)
	19	微細周期構造の造形法の開発とその微小流体応用に関する研究	増井 周造(東京大学)

日本機械学会奨励賞 (技術) 8 件

(配列は受賞者の五十音順)

1	スマート物流を実現するマルチ搬送 AMR 制御技術開発	伊藤 悠介(株)東芝
2	プラズマアクチュエータを利用した脱臭技術の開発	岡 将太郎(株)東芝
3	離散粒子解析手法を工学応用した Na-水反応評価手法の開発	小坂 亘(国研) 日本原子力研究開発機構
4	蓄熱用岩石の粒度分布評価技術開発	神内 拓真(株)東芝
5	水素ステーション向け超高压液体水素昇圧ポンプの開発	原田 基至(三菱重工業(株))
6	AE 法による床版内部の健全度評価に向けた解析技術の開発	文倉 智也(株)東芝
7	高強度中炭素鋼の強度推定法の開発	水野 湧太(THK (株))
8	配管破損に伴う高温高压水漏洩時の噴流拡散予測技術の開発	湯浅 朋久(一財) 電力中央研究所

2025 年度日本機械学会教育賞（配列は受賞者の五十音順）

1	「楽しい流れの実験教室」を通じた流体力学の啓蒙活動	石綿 良三(神奈川工科大学)
2	日本の火力原子力発電技術の世界への発信と国内での技術伝承	動力エネルギーシステム部門 30 周年出版 事業と技術継承活動ワーキンググループ 代表者 小泉 安郎(電気通信大学)

2025 年度日本機械学会イノベーション表彰（配列は受賞社の五十音順）

1	自己ポンピング機能を有した革新的超深穴加工用工具（クリアボーラー）の開発及び拡販	(株) ゴール
2	自律型搬送ロボット「カチャカ」	(株) Preferred Robotics
3	「ugo」の開発・製品化	u g o (株)

2025 年度日本機械学会標準事業表彰（配列は受賞者の五十音順）

貢献賞（2 件）		
1	発電用設備規格 維持規格の策定及び規格の品質向上にかかわる貢献	齋藤 利之〔東芝エネルギーシステムズ（株）〕
2	滑り軸受の規格作成活動及び国際標準化活動への貢献	花橋 実〔大同メタル工業（株）〕
国際功績賞（2 件）		
1	二酸化炭素回収・貯留（CCS）における回収技術の国際標準化	東井 隆行〔(公財) 地球環境産業技術研究機構〕
2	原子力プラントにおける合理的で新しい疲労評価体系の国内外規格構築への貢献	平野 明彦〔日立GEニュークリア・エナジー（株）〕
コードエンジニア賞（1 件）		
1	発電用原子力設備規格の技術的妥当性確認を通じた規格品質向上	桑水流 理〔福井大学〕

2025 年度日本機械学会女性未来賞 受賞者（配列は受賞者の五十音順）

1	空間的配置操作に基づく実質と間質を併せ持った腎臓オルガノイドの作製手法の確立	角谷 綾夏（東京農工大学）
2	高効率ソーラー燃料製造に向けた反応性デバイス構造の新規開発とプラント設計	小山 佳子（新潟大学）
3	人型投球ロボットの弾性・脱力を考慮したエネルギー最小運動生成法	中澤 由理（早稲田大学）
4	半導体製造過程で発生する廃棄物へのレーザー照射によるシリコン/カーボン複合ナノ構造体生成	南 かのん（慶應義塾大学）
5	LPBF 法で製造された As-built 金属構造体の強度信頼性体系構築に関する研究：難燃性 Mg 合金構造体への適用	PARK TAESEUL（九州大学）
6	First-principles Study of Strain-Controlled Band Alignment in Chemiresistive Materials for Gas Sensing Enhancement	Meng Yin（Tohoku University）

技術功績

(1) ロボットシステムインテグレーションの
技術と科学の研究



川村 貞夫*

受賞者は、ロボットの機構（ハード）と制御（ソフト）の両方の特徴を考慮したシステムインテグレーション（SI）技術とその科学について以下の成果を得た。

制御では、対象物、環境、ロボットの情報が正確に計測される理想状態を仮定せず、不明な情報が存在する場合にもシステム全体として高性能性となる以下の2つのSI技術を開発した。

(1) 繰り返し運動に基づくフィードフォワード制御

環境やロボットの特性が未知でもロボットの繰り返し運動から高速で高精度な運動を生み出すフィードフォワード入力形成法を提案した。

(2) キャリブレーション不要のビジュアルフィードバック制御

従来の座標変換を繰り返すビジュアルフィードバック制御では、システム構築の手間が現場の負担であり、位置精度が一定以上に高められない欠点があった。受賞者は絶対（固定）座標系を利用せず、目標位置とロボット位置の相対誤差のみを利用する制御法を開発した。この方式の有用性を数理モデルに基づいて科学的に説明している。さらに、大学発スタートアップ(チトセロボティクス)が本技術の社会実装を進めている。

機構と制御の特徴を統合して高性能なシステムを開発した例は以下の2つに示される。

(1) 柔軟/軽量/高速/省エネロボットシステム構築

柔軟化/軽量化：空気圧駆動の高次非線形ダイナミクスに適したフィードバック制御法を提案し、有用性を数学的に証明した。プラスチックシートによるインフレータブル構造ロボットを開発し、500g自重の4自由度ロボットアームが1kgの対象物を可搬できることを示した。

高速化：パラレルワイヤ駆動によって、60W程度の小型モータによって、ハンド部に40Gを超える加速度を実現した。

(2) 水中でのハンドリングが可能なロボットシステム開発と実用

船底調査：浮心移動機構によりロボットの姿勢を変化させて、任意の姿勢で船底に接触する水中ロボットを開発し、船底の付着生物の分析などを実現した。

泥サンプル回収：完全密封の柱状採泥管を搭載した自律水中ロボットを開発して、琵琶湖の泥のサンプル回収を実現した。

水中考古学調査：琵琶湖葛籠尾崎遺跡に開発した水中ロボットを利用して、湖底水深70m付近から須恵器（奈良時代から平安時代と推定）などを発見した。

ダム点検：堤体への押し付け力増加のために、バルヌーイ効果を利用する負圧効果板を有する水中ロボットを開発した。宮ヶ瀬ダムで有用性を実証した。

* フェロー、立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構（〒525-8577 草津市野路東1-1-1）(株)チトセロボティクス（〒112-0002 東京都文京区小石川2丁目1-1 ユニオン小石川第2ビル7階）

技術功績

(2) 群ロボットとロボットビジョン
並びにサービスロボットの研究



倉爪 亮*

受賞者は、群ロボット、ロボットビジョン、サービスロボット、介護福祉機器、XRシステムなどの幅広い分野で多くの研究実績を有する。

群ロボットに関しては、複数移動ロボットの相互観測を基本とする高精度位置同定手法「協調ポジショニング法」を世界で初めて提案し、その後、本手法をもとに複数ロボットによる位置同定Cooperative Localization分野が創成された。ロボットビジョンに関しては、3次元レーザー計測に基づく文化遺産の保存プロジェクトへの参画に始まり、レーザー計測の高精度化、画像や点群を用いた歩容認証、拡張現実技術を用いた認知症介護支援など、様々なビジョン関連技術の開発と実用化を推進した。特に拡張現実を用いた認知症ケア教育システム HEARTS (HumanitudoE AR Training System) は、多くの介護系教育施設への導入実績があり、優しい認知症ケア技法として知られるユマニチュード®の普及に貢献した。サービスロボットに関しては、ロボット周囲の環境を分散センサシステムで高度化する環境情報構造化の概念を押し進め、ROS/ROS2-TMSやBig Sensor Boxなどのソフトウェア、ハードウェアプラットフォームの開発、公開を通して、情報構造化環境におけるロボットサービスの実現に大きく貢献した。近年では本概念を土木建設分野に拡張し、土工現場における環境情報構造化ソフトウェアプラットフォームROS2-TMS for Constructionを開発、公開するなど、土工の自動化に貢献した。

加えて、ロボットシステムの構築を容易にするロボット開発の世界標準フレームワークROS (Robot Operating System) にいち早く注目し、これまでに複数の解説書を発表した。このうち2015年に発表した「詳説 ROSロボットプログラミング —導入からSLAM・Gazebo・MoveItまで—」はWebで無償公開され、延べ18694回のダウンロード実績があった。また、2018年に発行した「ROSロボットプログラミングバイブル」は、これまでに6000部以上が販売され、我が国でのROSの普及に大きく貢献した。これらの功績により、2019年に日本機械学会教育賞を受賞した。

* フェロー、九州大学大学院システム情報科学研究院情報理工学専攻（〒819-0395 福岡市西区元岡744）

技術功績

(3) 家庭用CO₂冷媒ヒートポンプ給湯機
エコキュートの開発と普及



齋川 路之*

受賞者は、給湯分野の省エネルギーを目指し、ヒートポンプの研究開発に従事してきた。先ず、高効率化を狙える2段圧縮式カスケード加熱給湯ヒートポンプを考案、メーカーなどと共同で機器開発を実施した。しかしながら、家庭用については、効率や価格面の課題から、業務用については、期待された効率は達成できたもののフロン問題から、商品化を断念した。当時、オゾン層を破壊するフロン系の冷媒は使えなくなる状況にあり、ヨーロッパでは、「化学合成品のフロン系ではなく、自然界にもともと存在し以前使われていた冷媒、自然冷媒を今の技術で見直すほうがよい」という考えが主流になっていた。そこで受賞者は、自然冷媒の中でも、毒性、可燃性もなくユニークな特徴をもつCO₂に着目し、基礎実験ループを設置して研究を開始、その結果、CO₂は冷媒として十分使えることが分かった。さらにCO₂を超臨界圧状態で使用することで、温度上昇幅が大きい水の加熱において、熱交換温度差を小さくできるため、他の冷媒に比べて、理論的に最も高い成績係数（COP：熱出力／圧縮動力）が得られることを明らかにした。なお、前述の2段圧縮式は、圧縮を2段とすることで2つの凝縮圧力をつくり、それぞれの凝縮温度で水と熱交換を行うことで温度レベルに応じた加熱を実現できるため、CO₂ほどではないが、COPは高くなる。

CO₂が冷媒として使えそうなこと、給湯には有望であることがほぼ分かった1998年10月、家庭用の省エネ機器開発を探索していた東京電力、CO₂冷媒カーエアコンの開発を進めていたデンソー、受賞者が所属していた電力中央研究所は、家庭用CO₂冷媒ヒートポンプ給湯機の共同開発を開始した。課題であった給湯ヒートポンプの高効率運転制御方法に関しては、受賞者が2段圧縮式の開発過程で得た知見を活かし、3者共同で出願・登録した特許が、2010年7月、恩賜発明賞を受賞した。

2001年5月、家庭用CO₂ヒートポンプ給湯機が商品化された。この商品化が契機となり各メーカーが市場に参入、エコキュートという共通の愛称も生まれた。国の補助金制度もあり、技術も進歩し、普及が進展、2025年3月末で、累積出荷台数1000万台を突破した。わが国の給湯分野の省エネに大きく貢献している。

* フェロー、(一財)電力中央研究所

技術功績

(4) 自動車用ディーゼルエンジンの
燃焼技術開発



橋詰 剛*

カーボンニュートラル社会の実現に向け、内燃機関の熱効率向上は喫緊の課題である。

ディーゼルエンジンは高い熱効率を得られるものの、混合気形成が難しくNO_xやスモークが発生しやすいという課題がある。受賞者はこの混合気形成に着目し、独創的な実験手法、可視化解析、CFDを組み合わせた多角的アプローチにより燃焼現象の理解を深め、新たな燃焼コンセプトを創出してきた。さらに、その成果を量産エンジンに展開することで、環境負荷低減に大きく貢献してきた。ここでは代表的な成果を紹介する。

・排気浄化技術

ディーゼルエンジンでは、予混合燃焼と拡散燃焼という異なる燃焼形態が連続して生じる。しかし従来方式では、1本の噴射弁から燃料が連続的に噴射されるため、各燃焼過程の個別最適化が困難であった。受賞者は、複数の燃料供給装置を搭載した独創的なエンジンを構築し、時間的・空間的に自由度の高い混合気形成を実現した。このアプローチにより、予混合燃焼を希薄化し、拡散燃焼を遅角化する「時間分割燃焼コンセプト」、および希薄混合気と過濃混合気を空間的に最適配置する「空間分割燃焼コンセプト」を提案し、NO_xとスモークの同時低減を実証した。

これらの成果は、早期パイロット噴射や予混合化燃焼として現在の量産ディーゼルエンジンに広く採用されており、産業界に貢献している。また博士論文として体系化され、学術界においても高く評価されている。

・熱効率向上技術

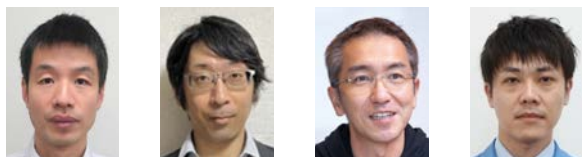
従来、良質な混合気を形成するには強い筒内流動が不可欠とされてきた。しかし燃焼室壁面付近での強い流動は熱効率を低下させる要因となる。受賞者はこの常識に対し、燃料噴射の多段化と燃焼室形状の最適化を組み合わせることで、燃料の空間配置を高度に制御する手法を確立した。その結果、弱い筒内流動環境においても高品質な混合気形成が可能である「低流動燃焼コンセプト」を提案し、熱効率の向上を実現した。

この独創的なコンセプトは高く評価され、欧州国際会議および自動車技術会において論文賞を受賞している。提案した燃焼室形状は小型乗用車から大型商用車に至る量産ディーゼルエンジンに採用され、産業界に貢献している。

近年はディーゼル燃焼にとどまらず、内燃機関全般の燃焼技術へと研究領域を拡張している。現在も学会活動や産学連携の場でリーダーシップを発揮し、若手研究者の育成にも積極的に取り組むなど、幅広い面での貢献が続いている。

* フェロー、トヨタ自動車(株)CIエンジン開発推進室(〒410-1193 裾野市御宿1200)

(1) Finite element modeling for single-twisted Fi(29) strand that reproduces strand stiffness and wire stress



緒方 公俊*1 山口 篤志*1 山際 謙太*1 倉橋 直也*2



泉 聡志*3

複数の素線（細い鋼線）の撚り合わせからなるワイヤロープは、高い引張強度と柔軟性を合わせ持ち、クレーンやエレベータなどの産業機械で広く使用されている。ワイヤロープがシープ（滑車）の上を繰り返し通過するとき、つり荷による引張荷重に加えてシープによる曲げ荷重も作用することで、素線が徐々に断線（疲労破壊）していく。そのため、ワイヤロープ全体の疲労寿命を評価するためには、各素線の応力状態や接触状態を把握する必要がある。しかしながら、ワイヤロープは素線が複雑に撚り合わさった構造を持つため、実験的にこれらを詳細に測定することには限界があった。

そこで本研究では、ワイヤロープを構成するファイラ（Fi）型のストランドを対象として、動的陽解法による接触摩擦を考慮した有限要素解析手法を開発した。ストランド内の29本の素線すべてをソリッド要素でモデル化し、素線間のすべての接触をペナルティ法で表現した。モデルの妥当性を確認するために、引張試験・3点曲げ試験・シープ上での曲げ試験を実施し、実験結果と解析結果を比較した。その結果、引張及び曲げ剛性に加えて、素線に生じるひずみも20%以内の誤差で再現できることを確認した。これにより、素線の応力を定量的に求められる有限要素モデルを構築できた。

さらに本モデルを用いてシープ上での曲げ疲労試験における素線の疲労を評価した。各素線に生じる応力を算出したところ、中心素線、内層素線、外層素線の順に応力が高いことが明らかになった。得られた応力をもとに疲労寿命を推定した結果、疲労破壊による断線は中心→内層→外層の素線の順で発生するという実験結果を再現でき、実測寿命とも良く一致した。

以上より、本研究で構築した有限要素モデルは、シープによる繰り返し曲げで生じる素線の疲労寿命を定量的に推定できることが示された。また、本手法はストランドをさらに撚り合わせたワイヤロープにも応用できると考えられ、今後、より複雑なワイヤロープ構造の疲労寿命評価への展開が期待される。

* 掲載：Mechanical Engineering Journal, 11-6, (2024-12), 24-00299

*1 正員, (独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

*2 正員, (株)神戸工業試験場

*3 フェロー, 東京大学大学院 工学系研究科

(2) 鉄道車輪鋼を対象とした破壊力学的手法による 転動疲労条件下のモードⅡき裂進展速度評価法



黒坂 隆太*1 加藤 孝憲*2 牧野 泰三*3

鉄道車輪はレールとの転がり接触の繰返しによって、転動面に転動疲労損傷が発生することがある。転動疲労き裂は、材料内部を進展する際に、せん断型（モードⅡ）または開口型（モードⅠ）とモードⅡの混合モードで進展することが知られており、過去には鉄道車輪鋼の転動疲労寿命の大部分は、き裂進展による寿命が占めることが報告されている。鉄道車輪の安全性の観点から、転動疲労寿命を予測することは有用と考えられるが、そのためには材料のモードⅡき裂進展特性、特にき裂進展速度とその駆動力である応力拡大係数範囲の関係を正確に把握することが重要といえる。従来、高強度鋼を対象としたモードⅡき裂進展に関する研究は多くなされているが、少なくとも鉄道車輪鋼を対象とした転動疲労条件下におけるモードⅡき裂進展評価曲線の取得方法は提案されていない。

そこで本論文では、鉄道車輪鋼を対象に、転動疲労条件下のモードⅡき裂進展速度とモードⅡ応力拡大係数範囲の評価法を構築し、両者の関係を定量化することを目的とした。まず、人工欠陥を有する車輪鋼を対象とした転動疲労試験でき裂進展速度を測定した。加えて、同試験を対象としたFEM解析で計算したモードⅡの応力拡大係数範囲を用いて、き裂進展評価曲線を取得し、転動疲労条件下のモードⅡき裂進展速度評価法を確立した。転動疲労試験で観察されたき裂進展挙動は、試験で得られたき裂形状をパラメータ化したモデルを用いたFEM解析結果から説明することができ、本手法の妥当性を確認した。従来、実使用条件下のき裂進展速度と応力拡大係数範囲の関係を定量的に評価している事例はなかったが、本論文では鉄道車輪が使用される代表的な二水準のヘルツ応力で試験を行い、確立した手法によりき裂進展速度と応力拡大係数の関係をそれぞれ評価することで、いずれの結果も一つのき裂進展評価曲線で整理できることを見出した。

この評価手法自体は鉄道車輪のみならず、転動を受けて損傷する様々な部品（レール、ローラー、歯車、軸受け等）にも適用可能であるとともに、破壊力学に基づいて転動疲労寿命を評価、予測するためのツールとして、これら技術の高度化に大いに役立つといえる。

* 掲載：日本機械学会論文集, 90-932, (2024-4), 24-00010

*1 正員, 日本製鉄(株) 技術開発本部 (〒293-8511 富津市新富20-1)

*2 正員, 日本製鉄(株) 交通産機品技術部 (〒554-0024 大阪市此花区島屋5-1-109)

*3 フェロー, 日本製鉄(株) 技術開発本部 (故人) (〒660-0891 尼崎市扶桑町1-8)

(3) Elastic-viscoplastic behavior of filament winding CFRP: experimental investigation and multiscale analysis



松田 哲也*¹ 田村 晃斗*² 高橋 知也*³ 森田 直樹*⁴



上田 政人*⁵ 岩瀬 航*⁶ 横関 智弘*⁷

燃料電池自動車 (Fuel cell vehicle: FCV) は、水素と酸素の化学反応によって得られる電力でモーターを駆動して走る電気自動車の一種であり、水素社会実現のためのコア技術の一つとして注目されている。FCVの燃料である水素は、常温常圧下での体積エネルギー密度が非常に低いため、長距離航続を実現するためには高圧水素タンクの搭載が不可欠となる。高圧水素タンクは、安全性の観点から優れた耐圧性が求められるとともに、エネルギー効率向上の観点から軽量であることが求められるため、その主要構造材料として軽量・高強度な炭素繊維強化プラスチック (Carbon fiber-reinforced plastic: CFRP) が採用されている。CFRP製水素タンクは、一般に、水素ガスを封入するための容器 (ライナー) にトップレグ (炭素繊維と樹脂からなるブリブレグテープ) を様々な配向角で巻き付けるフィラメントワインディング (Filament winding: FW) 法により製造される。したがって、CFRP製水素タンクの機械的挙動を把握するためには、FW法で成形されたCFRP (以下、FW-CFRP) の力学特性に対する十分な理解が必須となる。

そこで本論文では、まず、5種類の積層構成 ($[0]_4, [90]_8, [0/90]_{28}, [45/-45]_{28}, [63/-63]_{28}$) を有するFW-CFRPを作製した上で引張試験を行い、弾性剛性、材料非線形性、強度等の力学特性を精査するとともに、それらが積層構成に依存して大きく変化することを明らかにした。つづいて、FW-CFRPのメゾおよびミクロスケールにおけるユニットセルモデルを作成するとともに、著者らの構築した3スケール弾-粘塑性均質化法に基づくマルチスケール解析を実施することで、実験的に観測されたFW-CFRPの力学特性およびその積層構成依存性を定量的に再現することに成功した。さらに、繊維束のクリンプ (湾曲部) を考慮した場合のユニットセルモデルも作成し、上記と同様に解析することで、クリンプの存在が特に $[0/90]$ のFW-CFRPの粘塑性変形を促進させることを見出した。以上のように本論文は、FW-CFRPの力学特性ならびに積層構成依存性を実験・解析の両面から詳細に調査・検証したものであり、CFRP製水素タンク的设计開発に資する有用な成果を得ていると言える。

* 掲載: Mechanical Engineering Journal, 11-6, (2024-12), 24-00262.

*¹ フェロー, 筑波大学システム情報系

*² 筑波大学 (現) 本田技研工業(株)

*³ 筑波大学 (現) 川崎車両(株)

*⁴ 正員, 筑波大学システム情報系

*⁵ 正員, 日本大学理工学部

*⁶ マザーサンヤチヨ・オートモーティブシステムズ(株)

*⁷ 東京大学大学院工学系研究科

(4) Multidimensional measurement of air-water two-phase flow in particulate bed using refractive-index-matching method and wire-mesh sensor



植田 翔多*¹ 新井 崇洋*¹ 古谷 正裕*¹ 大川 理一郎*²

軽水炉の過酷事故時に生じる炉心溶融物が凝固したものを燃料デブリ (以後、デブリ) と呼ぶ。炉心溶融物は燃料を含み、デブリになっても放射性物質の崩壊によって発生する熱エネルギーを出し続けるため、継続的に冷却する必要がある。デブリ堆積層の冷却特性は、現行の軽水炉に限らず、安全機能をより高めた次世代の原子炉である革新軽水炉の設計においても重要である。なかでも、炉心溶融物の一部は、水中で燃料冷却材相互作用を伴って破碎し、粒子状のデブリを形成する。粒子状デブリ堆積層は、周囲の水が堆積層空隙へ流入し、主として沸騰を伴う二相流の対流熱伝達により冷却される。粒子状デブリ堆積層内部と堆積層内部や周囲に存在する未溶融落下構造物等の壁近傍における気液二相流は冷却特性に影響するが、既往の実験データが表面観察や点計測に限定されており、モデル開発のボトルネックとなっていた。そのため、充填層内二相流を計測する革新的な実験が必要だった。

本論文では、沸騰流を空気-水二相流で模擬し、粒子状デブリ堆積層を粒子充填層で模擬することで充填層内の複雑な多次元二相流動を検討した。充填層内を流れる気泡のダイナミクスを理解するため、水とほぼ同じ屈折率とガラス以上の高い透過率を有する非晶性フッ素樹脂を用いた屈折率マッチング法 (RIM) を新たに開発し、水に添加物を加えることなく光の屈折を回避し、充填層内を流れる気泡の明瞭な光学的可視化を世界で初めて実現した。さらに、気液の導電率差から気相の体積割合であるボイド率を高速多点計測するワイヤメッシュセンサ (WMS) を、基準電位が不安定となる絶縁体で構成された充填層内の二相流計測に適用可能とし、充填層内ボイド率分布の時間変化を定量的に捉えることに成功した。壁面の存在に起因する局所充填率の低下により、壁近傍でボイド率が充填層内部より高くなる現象が卓越する流動条件を、異なる粒子径条件に対するWMS計測により定量的に示した。さらに、RIM法による気泡挙動の直接可視化を通じて、そのメカニズムが気泡の横流れであることを突き止めた。

本研究の知見は、軽水炉過酷事故解析コードの妥当性確認や機構論的モデルの高度化に活用できる。さらに、粒子充填層内二相流が重要となる環境・化学工学分野の流動制御など、異分野への展開も期待される。

* 掲載: Mechanical Engineering Journal, 11-2, (2024-4), 23-00496

*¹ 正員, (一財)電力中央研究所

*² (一財)電力中央研究所

(5) Application of machine learning to optimized design of layer structured particles



江目 宏樹*1 佐藤 弘武*2 平井 達朗*2

太陽エネルギーを熱として利用する技術は、化石燃料に依存しない持続可能な社会を実現するうえで重要である。特に日本では、家庭で消費されるエネルギーの多くが暖房や給湯に用いられており、太陽熱を直接利用する技術への期待が高まっている。その中でも本研究は、太陽光を直接吸収して熱に変える「直接吸収型太陽熱集熱器」に用いられる微小粒子（ナノ粒子）の設計に着目したものである。この集熱器では、粒子が太陽光をどれだけ効率よく吸収できるかが性能を左右するため、粒子設計は極めて重要である。本研究で扱う粒子は、金属・絶縁体・磁性体を層状に組み合わせた構造を持ち、比較的簡単かつ低コストで作製できるという特徴を有する。しかし、使用する材料の種類、粒子の大きさ、薄膜の厚さなど、設計に関わる要素が多く、その組み合わせは膨大となるため、従来の数値計算のみで最適条件を探索することは現実的ではなかった。

そこで本研究では、この複雑な設計問題を効率的に解決する手段として機械学習を導入した。まず、電磁場解析を用いて多数の粒子設計条件に対する光吸収特性を計算し、その結果を学習用データとして用いた。これにより、「どのような粒子構造が、どの程度太陽光を吸収するか」という関係を機械学習に学習させることを試みた。具体的には、ニューラルネットワーク、サポートベクターマシン、決定木を基にした三種類の学習手法を用い、それぞれの予測精度を比較した。その結果、粒子の材料や寸法を入力するだけで、太陽光吸収性能を高い精度で予測できることが確認され、特にニューラルネットワークが有効であることが示された。さらに、学習済みモデルを用いて、太陽光を最も効率よく吸収すると予測される粒子設計を探索した。その結果として得られた最適設計は、詳細な電磁場解析による結果ともよく一致しており、機械学習による設計予測が実用的であることが示された。

本研究は、計算に時間と労力を要する複雑な材料設計問題に対し、機械学習を活用することで設計探索を大幅に効率化できる可能性を示したものである。太陽熱利用に限らず、多数の設計パラメータを有する工学材料の開発においても、同様の手法が有効であることを示唆する結果である。

* 掲載：Journal of Thermal Science and Technology, 19-2, (2024-10), 24-00236

*1 正員, 山形大学大学院機械システム工学専攻

*2 山形大学大学院機械システム工学専攻

(6) Phase diagram for the spreading behavior of water drops impacting hot walls observed via high-speed IR imaging



岡部 孝裕*1 白井 啓大朗*2 大川 拓巳*3 岡島 淳之介*4



城田 農*1

本論文は、加熱固体表面に衝突する単一水滴の動的濡れ広がり挙動を、高速度赤外線カメラおよび高速度可視カメラを用いて時空間的に観測し、加熱面温度とウェーバー数（慣性力と表面張力の比）からなるパラメータ空間において流体力学的不安定性のフェーズダイアグラムを構築した研究である。

単一水滴の加熱面衝突現象は、鋼材急冷のための噴霧冷却技術など、多くの熱流体工学の応用の基礎的現象として広く研究されてきた。とりわけ、衝突後の沸騰挙動と加熱面温度の関係については活発な議論が行われている。一方で、沸騰を伴わない単相冷却領域における蒸発の寄与や、流体力学的不安定性との相互作用については、体系的整理が十分とは言えなかった。

本研究では、加熱面温度を60-150℃、ウェーバー数を30-443の広範な条件下で液滴衝突実験を実施し、衝突後数ミリ秒における固液界面温度分布と濡れ広がり形状を同時計測した。その結果、広がり挙動は、①液滴が衝突後も円形を維持するGentle spreading領域、②広がる液滴の外縁にフィンガー状擾乱が生じるRim instability領域、③固気液三相接触線に沿ってフィンガー状擾乱が生じるContact-line instability領域の三領域に分類できることを明らかにした。特に、低ウェーバー数かつ高加熱面温度（水の飽和温度以上）条件において出現するContact-line instabilityを世界で初めて観測し、接触線近傍の激しい蒸発に起因する新たな不安定性現象として位置づけた点に本研究の独創性がある。さらに、最大広がり径、無次元周長およびフィンガー数の温度依存性を定量評価することにより、接触線近傍の蒸発が不安定性の早期発達および成長挙動に本質的役割を果たすことを示した。また、高ウェーバー数条件で観測されたRim instability領域においても、液膜外縁に生じる擾乱の発達に蒸発が影響を及ぼす可能性を実験的に示した。

以上より、本研究は、加熱面温度とウェーバー数に基づく広がり挙動の体系化を達成するとともに、蒸発を介した界面熱流動と流体力学的不安定性の結合機構に新たな知見を与えるものであり、加熱面上液滴衝突の基礎理解を一段深化させる成果である。

* 掲載：Journal of Fluid Science and Technology, 17-3, (2022-10), JFST0009

*1 正員, 弘前大学大学院理工学研究科

*2 弘前大学大学院理工学研究科 (現) ファナック(株)

*3 正員, 弘前大学大学院理工学研究科 (現) ㈱桂原製作所

*4 正員, 東北大学流体科学研究所

(7) Bingham fluid simulations using a physically consistent particle method



根岸 秀世*1 近藤 雅裕*2 三川 洋章*3 小原 新吾*3



黒瀬 良一*4

ビンガム流体は降伏応力を有し、せん断応力が降伏応力以下だと固体のように流動せず、降伏応力を越えると粘性流動を示すという固体と流体の性質を合わせ持つ非ニュートン流体である。ビンガム流体は、潤滑グリース、コンクリート、塗料、泥流、雪崩など産業や環境の広範な場面で現れるため、その特性を把握し制御することは工学上重要である。ビンガム流体の挙動把握には数値解析が有効と期待されているが、固体的挙動と流体的挙動が同一体系で現れるため、格子法での取り扱いが難しく、また固体と流体で統一的な計算原理が適用できる粒子法でも角運動量非保存や高粘性に起因する数値不安定が問題となっていた。

本論文では、粒子法の一つであるMoving Particle Hydrodynamics (MPH) 法に、ビンガム流体のひずみ速度依存粘性モデルを導入することでビンガム流体の解析手法を新たに構築した。具体的には、低ひずみ速度において固体を高粘性流体としてモデル化し、粘性項に陰的時間積分を導入することで、拡散数制約に起因する時間刻みの過度な微小化を回避し、実用的な計算効率を実現した。MPH法は、物理的健全性、即ち質量保存、並進・角運動量保存および熱力学的第二法則等を本質的に満足する粒子法であり、特に従来の粒子法では苦手であった角運動量保存の性質は、固体の性質を有するビンガム流体の計算に有効である。また、物理法則を本質的に満たすため、従来の粒子法で必要であった経験的もしくは複雑な計算処理を伴う計算安定化処理も不要となるのが特長である。

提案手法は、ビンガム塑性流体の2次元ポアズイユ流れ問題とビンガム擬塑性流体(潤滑グリース)の3次元ダム崩壊問題に適用し、理論解および実験結果との比較を通じてその妥当性を検証した。2次元ポアズイユ流れ問題では、提案手法による計算で理論解の速度分布を良好に再現できることを明らかにした。また、3次元ダム崩壊問題では、グリースが自重により崩壊し、その後徐々に減速して数秒後にはブーツ形状となり停止するという実験で観察された挙動を良好に再現した。また、定量的にも崩壊するグリースの先端位置履歴を良好に再現し、グリースの停止挙動を再現できることを明らかにした。

* 掲載: Journal of Fluid Science and Technology, 18-4, (2023-11) JFST0035

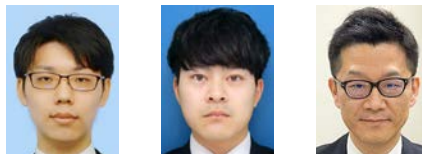
*1 正員, 宇宙航空研究開発機構 研究開発部門, 京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻

*2 正員, 産業技術総合研究所 機能材料コンピューショナルデザイン研究センター

*3 正員, 宇宙航空研究開発機構 研究開発部門

*4 正員, 京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻

(8) 超音波治療のための音響ホログラフィによる水中での力場制御に関する実験的検討



青木 優介*1 階戸 智也*2 白石 俊彦*3

本研究は、骨折治療などに用いられる超音波治療技術の高度化・再生医療への発展を目指し、音響ホログラフィという音波制御技術を用い、生体への適用を考慮して水中にて、超音波による音響強度を空間的に操作する力場制御の装置と手法の実現性を実験的に検証したものである。

従来の低出力超音波パルス(Low-intensity pulsed ultrasound, LIPUS)治療は、患部だけでなく周囲の正常組織にも超音波が照射され、刺激領域を選択的に制御することが困難であった。本研究では、複数の超音波振動子を配列した超音波振動子アレイを用い、超音波の重ね合わせによって空間内に所望の力場を形成する音響ホログラフィに着目した。

まず、水中で使用可能な力場制御装置を設計・試作し、骨折治療に必要とされる十分な音響強度を持つ集束力場を形成できることを実験的に確認した。これにより、本装置が治療応用に必要な基本性能を有することを示した。

次に、音響ホログラフィを物理レンズ1個で実現する際の設計で用いられるIterative angular spectrum approach (IASA)を超音波振動子アレイに拡張して位相分布の初期値を計算し、さらに最適化手法の一つであるAdaptive moment (Adam)を用いて各超音波振動子の位相分布と強度分布を得るという著者が開発した制御手法を適用した。深部骨の骨折線を想定し、1MHzの超音波を発する振動子面から深さ35mmの水中に、10mm×3mmの長方形の所望の音響強度分布を形成し、対象領域外の音響強度は十分に小さいことを実験的に示した。

従来、超音波振動子アレイの制御による音響ホログラフィでは、空中以外での応用例が少なく、また生体に適用できるような多点での制御は困難であった。超音波治療を目指して、超音波振動子アレイを用いた音響ホログラフィにより、生体への適用を考慮して水中で、きめ細かく制御できるように多点の接近した制御点で、所望の形状の音響強度分布を実証した研究については、著者が調査した限りでは、本研究が世界で初めての報告である。本研究は、治療応用を目指した水中環境で音響ホログラフィによる選択的力場制御を実証した先駆的研究であり、将来的には骨折治療のみならず、再生医療や神経疾患治療などへの応用展開が期待される基盤技術を提示するものである。

* 掲載: 日本機械学会論文集, 89-924, (2023-8), 23-00052

*1 横浜国立大学 大学院環境情報学府 (現) ㈱日立ハイテク

*2 横浜国立大学 大学院環境情報学府 (現) ㈱デンソー

*3 フェロー, 横浜国立大学 大学院環境情報研究院

論文

(9) 通勤車両内の横流ファン送風が
乗客の温熱快適性に及ぼす影響の定量的評価



遠藤 広晴*¹ 榎並 祥太*¹ 菊地 史倫*¹ 吉江 幸子*²



伊積 康彦*³ 野口 純*⁴

現在、都市部の鉄道における多くの通勤車両には、天井部に横流ファンが設置されており、車両内の空気循環に加えて乗客へ清涼感を与える重要な役割を担っている。特に、梅雨期から夏季の蒸し暑い季節では、横流ファンは冷房の補助として乗客の暑熱感の低減に貢献していると考えられる。一方で、車内気温によっては横流ファンからの風は寒冷感を引き起こす場合もあり、より快適な車内温熱環境を実現するためには、横流ファン送風が乗客の快適性に及ぼす影響を定量的かつ的確に評価し、送風制御に活かすことが重要である。しかしながら、通勤車両内の温熱環境、特に横流ファン送風環境下での温熱快適性に関する研究報告例は極めて少なく、当該環境下での乗客の快適性を定量的に評価する手法は未だ確立されていない。

本論文では、梅雨期～夏季の通勤車両内を対象に、横流ファン送風環境に適用可能な温熱快適性評価手法を提案した。本手法は、温湿度や風速が変動する非定常温熱環境下での生理状態（皮膚温、発汗など）を予測する数値人体熱モデルと、過去に通勤車両内で実施した被験者実験に基づく統計モデル（多項ロジスティック回帰モデル）から構成される。横流ファンからの風のような変動風に対し、従来の多くは平均風速で快適性が評価されてきたのに対し、本研究では数値人体熱モデルを用いて、体熱放散量が等価な一定風速へ変換する手法を導入することで、人の生理特性をより反映した快適性評価を実現した。また、温熱環境や服装が同一でも、季節により温熱的な快/不快の程度が異なることが既往の実験研究で報告されている点を踏まえ、夏季の被験者実験データを用いることで季節特性も考慮した。梅雨期と夏季に通勤車両内で実施した被験者実験（混雑率100%未満～180%相当の環境）に本手法を適用した結果、人同士が接触しない程度の混雑環境までに関して、横流ファン停止時・稼働時共に、平均絶対誤差10pt程度で熱的不満足者率（暑くて/寒くて不満と感じる人の割合）を予測可能であることを確認した。

本論文で提案した温熱快適性評価手法により、梅雨期～夏季における通勤車両内の温熱環境を対象に、横流ファン送風による暑さ感の緩和効果や快適性の改善/悪化効果を定量的に予測・評価することが可能となり、快適性の観点からの送風調節の検討等に活用できると期待される。

* 掲載：日本機械学会論文集、88-916、(2022-12)、22-00171

*¹ 正員、(公財)鉄道総合技術研究所

*² (公財)鉄道総合技術研究所

*³ (公財)鉄道総合技術研究所 (現) (株)ジェイアール総研サービス

*⁴ 東日本旅客鉄道(株)

論文

(10) Evaluation of a Robotic Palpation Sensor System
for Prostate Cancer Screening on Silicone
Elastomers and Prostate Phantoms



Francis CHIKWETO*¹ 奥山 武志*² 田中 真美*³

前立腺がんは男性にとって大きな健康リスクであり、高齢化に伴い患者数が増加している。このがんは、罹患した部位が周囲の正常な組織よりも硬くなる特性を持っているため、診断では医師が肛門から指を挿入して直腸を介して前立腺を触り、しこりを探す直腸診が行われている。この手法は医師の指の感覚に頼る主観的なものであり、結果が経験やスキルに左右され、再現性が低い課題がある。そこで、本論文では、医師による直腸診を模倣し、組織の硬さを客観的かつ定量的に評価できるロボット触診センサシステムを開発した。このシステムは、直径15mm、長さ135mmのプロブを体内に挿入し、プロブ先端に取り付けられた直径9.5mmの金属球を組織に押し込む構造である。プロブはワイヤ駆動の2関節を有し、上下左右にプロブ先端を動かすことで、標準的な前立腺のサイズを触診可能である。先端の鋼球をプロブに磁力で保持する構造とすることで、触診時の組織との摩擦を軽減し滑らかな触診を可能としている。この鋼球を片持ち梁構造で支持し、この梁のひずみを計測し、プロブ先端にかかる力を算出する仕組みである。

このシステムの有効性を検証するため、前立腺の硬さを模したシリコンゴムと前立腺がんの進行度を模したポリウレタン樹脂製ファントムを使用して触診実験を行った。シリコンゴムにはしこりとして金属球が中央に埋め込まれ、ポリウレタンファントムには硬質シリコン球が複数埋め込まれている。実験では臨床における生検プロトコルに基づいた7箇所に対して計測した。計測した押し込み力と押し込み量を基にヤング率を算出した結果、しこり部において周囲の柔らかい部位と比較して顕著に高いヤング率が算出され、市販の押し込み試験装置による測定値ともよく一致する結果が得られた。以上のように、開発したロボット触診センサシステムは、組織の硬さを指標として正常組織の中のしこり部位を検出できることが示された。この研究の成果は、主観的な医師の触診を補完するツールとして客観的な診断に貢献することで、がんの早期発見を促進することが期待される。

* 掲載：Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing, 17-2, (2023-1) JAMDSM0021

*¹ 正員、東北大学加齢医学研究所

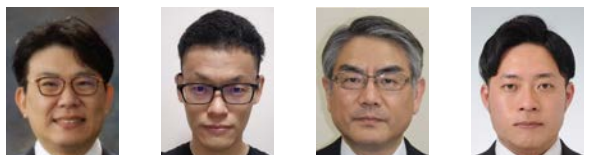
*² フェロー、東北大学大学院工学研究科 (現) 豊田工業大学

*³ フェロー、東北大学大学院医工学研究科

(11) Experimental validation of elliptical contact tire model with friction coefficient deduced from viscoelasticity of tread rubber



中西 亮太*¹ 松原 真己*² 川崎 智史*¹ 石橋 隆志*³



鈴木 晴之*³ 川端 宏志*³ 河村 庄造*⁴ 田尻 大樹*⁵

本研究は、タイヤ接地面内で発生する前後応力の再現性と理論的整合性を高めるため、粘弾性に基づいて摩擦係数を導出する摩擦理論を、楕円接地形状を有するタイヤ力学モデル (elliptical contact tire model) に組み込んだ新たなモデルを提案し、その妥当性を実験的に検証したものである。矩形的接地形状を持つ従来の力学モデルは、実測接地形状との不一致や摩擦係数の経験的調整が必要であり、タイヤ設計への適用精度に課題があった。本研究では、接地形状を楕円として実測再現性を向上させつつ、ゴム粘弾性・路面粗さ・滑り速度を統合的に扱う摩擦理論を適用することで、力学的に整合した前後応力計算を可能とした。

摩擦係数の計算理論として、Xuらが提案したマルチスケールな摩擦理論を採用した。これにより、ヒステリシス摩擦だけでなく粘着摩擦を考慮し、接地圧および滑り速度を入力として摩擦係数を解析的に算出可能とした。摩擦係数の理論値の妥当性を確認するため、タイヤと同一配合のゴム片を用い、乾燥路・湿潤条件下で摩擦試験を実施した。その結果、摩擦理論パラメータの適切な設定により、両条件における速度依存性が実験値と良好に一致することを確認した。

提案モデルの接地面内の前後応力分布の再現性は、インナードラム型のタイヤ試験機による実測値との比較により検証した。ドラム路面に組み込まれた三分力センサにより、接地面内の前後応力分布を取得し、スリップ率0%、-2%、-4%の条件で比較を行った。提案モデルは、スリップ率に応じて接地面内で前後応力が正負に転じる特徴や、幅方向に対する非線形的な応力分布を含め、実測で確認される傾向を従来モデルよりも高精度に再現した。

さらに、本研究では摩擦係数自体の絶対値調整を行わず、ゴム片摩擦試験で得られた摩擦理論パラメータのみを用いてタイヤ実験結果を再現できることを示した。これは、従来必要であったタイヤ実験による摩擦係数の同定を不要とし、材料物性とタイヤの制駆動特性を直接的に結びつける設計アプローチを可能とする点で意義深い。

以上より、提案モデルは、粘弾性に基づく摩擦係数導出とタイヤ実現象に即した接地形状表現を組み合わせることで、従来モデルの課題を克服し、接地面前後応力の高精度な再現を実現した。本手法は、タイヤ設計におけるゴム粘弾性検討や性能予測において有効であり、目標とする制駆動特性の設計を支援するものである。

* 掲載：Mechanical Engineering Journal, 11-6, (2024-12), 24-00069

*¹ 正員, 住友ゴム工業㈱

*² 正員, 早稲田大学

*³ 住友ゴム工業㈱

*⁴ フェロー, 豊橋技術科学大学

*⁵ 正員, 豊橋技術科学大学

(12) Voxel-based end milling simulation of machining error induced by elastic deformation of tool and workpiece



金子 和暉*¹ 清水 淳*² 白瀬 敬一*³

切削加工では、加工中の切削力の発生は避けられない。ゆえに切削力に誘発される工具・被削材の弾性変形により、加工誤差の発生が懸念される。そこで本論文では、切削加工の中でもエンドミル加工を対象として、工具および被削材の両方の弾性変形に起因する加工誤差を高精度・高効率に解析する新たな手法を提案した。一般的に被削材の変形解析は有限要素法で行われるが、形状変化のたびにリメッシュが要求されるため、計算コストが膨大であることが問題である。一方で本論文では、ボクセルモデルに基づく独自の解析手法を提案し、リメッシュ不要で高効率な解析を実現した。工具の弾性変形は、従来方法に倣ってカンチレバーとばねを組み合わせたモデルによって解析している。提案手法では切削力解析から工具・被削材の弾性変形解析まで、一貫してボクセルベースで連携的に行う。ゆえに、切削力と弾性変形の相互作用までも考慮した厳密な解析が可能であり、これも本手法の利点である。検証実験では、工具・被削材の弾性変形による切削力波形の変動を正確に再現できていることが確認された。加工誤差の解析結果も実測値とよく一致しており、切削中の工具・被削材の複雑な変形挙動を高精度にモデル化できていることが検証された。

* 掲載：Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing, 18-4, (2024-6), JAMDSM0042

*¹ 正員, 茨城大学 (現) 岡山大学

*² 正員, 茨城大学

*³ フェロー, 神戸大学

(13) 帯電液滴飛翔解析とベイズ最適化を用いた連続型インクジェットプリンタ向け帯電制御最適化技術の開発



佐藤 孝磨*1 石井 英二*2 木佐貫 祥一郎*3 高岸 毎明*4



加藤 学*4

連続型インクジェットプリンタは、毎秒数万個～十数万個のインク液滴を生成・帯電させ、電場制御によって軌道进行操作することで、非接触かつ高速な印字を実現する装置である。この特徴を生かし、食品パッケージや電子基板、段ボール等に、賞味期限やロット番号、2次元コード等を高速描画する用途で広く用いられている。しかし、飛翔中のインク液滴は、空気抗力や液滴間のクーロン力、偏向電場といった複数の物理的影響を同時に受ける。さらに、先行液滴が形成する後流の影響も加わるため、狙い通りの着滴位置を得るための帯電制御（帯電波形）の調整は、多大な試行錯誤を要するという課題があった。本研究では、帯電液滴の飛翔軌道を数値解析で予測し、印字品質の定量評価に基づき最適な帯電制御を自動決定する技術を開発した。

具体的には、OpenFOAMを基盤として、液滴を粒子として追跡し、空気抗力（後流補正を含む）、液滴間クーロン力、静電場による偏向力を組み込んだ液滴飛翔解析技術を開発した。設計変数として、帯電液滴の投入順序と、帯電液滴の間に挿入する無帯電液滴（ガード液滴）の個数を設定し、軌道乱れを緩和しつつ文字形状を整える探索空間を定義した。印字品質の評価指標として、(1) 縦ラインの直線性誤差、(2) 縦ライン間の間隔均一性誤差を用い、これらを最小化する多目的最適化問題として定式化した。対象は5×5ドットマトリクスの数字「9」（文字高さ：約1.5mm）とした。

最適化手法には、Kriging（ガウス過程回帰）で目的関数の応答曲面を逐次更新するベイズ最適化を採用した。獲得関数（期待改善量：Expected Improvement）の最大化には多目的遺伝的アルゴリズムを用いた。本研究では、初期36点に加え、更新10回（各6点）の計96ケースの解析で探索を進め、一般的な多目的遺伝的アルゴリズムを用いた場合（720ケース）と比較して、解析回数を約1/7に抑えつつ、従来と同等以上の高い印字品質を有する解の探索に成功した。さらに、導出した解を実機にて検証し、十分な印字品質が得られることを確認した。以上の結果から、液滴飛翔解析とベイズ最適化を組み合わせた本手法の有効性を実証した。

* 掲載：日本機械学会論文集、88-912、(2022-8)、22-00140

*1 正員、(株)日立製作所 研究開発グループ (〒319-1292 日立市大みか町7-1-1)

*2 フェロー、(株)日立製作所 研究開発グループ

*3 正員、(株)日立製作所 研究開発グループ (現) (株)アイシン

*4 (株)日立産機システム 省力システム事業部 (〒316-8502 日立市東多賀町1-1-1)

(14) Thermal modeling techniques designed for high-speed directed energy deposition coatings



竹村 志帆*1 宮田 雄一郎*2 廣野 陽子*3 柿沼 康弘*4

3Dプリンタとも呼ばれるAdditive Manufacturingの中で、指向性エネルギー堆積法（Directed Energy Deposition: DED）は金属を造形可能な方式の一つである。DEDでは粉末やワイヤ等の金属材料を母材に対して供給すると同時に、レーザー等の熱源を照射することで材料を溶融付加するため、既存部品の補修やコーティングに適している。さらに、DEDを用いた高速コーティングは、高い生産性、薄いコーティング、および熱影響部の低減等の利点を有している。一方でDEDプロセスにはレーザー出力、走査速度や粉末供給量等の多様な造形パラメータが含まれ、それらによって熱履歴が変わり、さらに熱履歴は金属組織を変化させ、最終的には造形物の機械的特性・品質に大きく影響する。そのため造形の分析・安定化には温度の把握が重要だが、多くのパラメータに対する実験は時間やコストがかかるだけでなく、造形物内温度のように実験的測定が困難な場合も多いため、造形時の熱シミュレーションの需要が高まっている。一方で、DEDでの材料の逐次供給を再現する必要があり、さらに高速コーティングでは1回のトラックの厚さが薄く重なりが大きいため、それらを高精細に再現しようとする計算コストが増大する。

本研究では、高速DEDによる回転コーティングを対象に、「現実合う温度」を保ちながら計算を簡略化できる熱解析手法を検討した。まず、二色温度計により溶融池温度を計測し、シミュレーション検証用の基準データを取得した。次に、シミュレーション用有限要素モデル形状を簡略化したうえで、材料を追加する（要素を有効化する）範囲・高さ、および入熱方法（熱流束、体積発熱等）を変えた5種類の方法を提案し、コーティング表面と母材境界の温度を実験と比較した。その結果、熱流束付加範囲をレーザースポット相当、要素付加範囲はレーザースポット未満にした場合に、表面および境界温度の再現性が最も高く、高精細なメッシュでなくても実験値に近づくことを示した。これらの入熱・要素付加は、高速コーティングでは入熱が一瞬であるため、レーザースポット範囲に対してトラックの幅が小さいことに基づいて設計されている。本成果は、高速DEDコーティングの熱解析を簡略化する具体的な指針を与え、プロセス条件の事前検討やパラメータ検証を効率化する基盤になると期待される。

* 掲載：Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing, 19-1, (2025-3), JAMDSM0012.

*1 正員、慶應義塾大学大学院理工学研究所総合デザイン工学専攻

*2 正員、DMG森精機(株) (現) DMG森精機Additive(株)

*3 正員、DMG森精機(株)

*4 正員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科

(15) Mechano-neurophysiological model of fingertip to simulate tactile response during Braille reading under multiple frictional conditions



濱崎 透*¹ 中平 祐子*¹ 山田 大介*¹

本論文は、点字触読における触覚の神経伝達過程に着目し、摩擦が点字識別に及ぼす影響を力学—神経生理学統合モデルにより解明した研究である。

触感や操作感といった人の感覚特性を評価することは、製品のユーザビリティ向上において重要である。その際、触知覚に至るまでの神経伝達過程を考慮することで、従来は十分に解明されていなかった触知覚メカニズムをより詳細に理解することが可能となる。しかし、摩擦を含む触知覚過程を神経応答レベルで定量的に扱うことは実験的な制約が大きくなり、未だ明らかにされていない点が多い。

本研究では、三次元有限要素法による指先皮膚の力学モデルと、点字識別に重要な役割を果たすSlowly adapting type 1 (SA1) 触覚求心性神経の発火応答を再現する神経生理学モデルを統合したモデルを用いて、複数の摩擦条件下での点字触読を再現した。過去の心理物理実験で報告されている「高摩擦条件下で点字の誤読率が有意に増加する」という現象を対象とし、その発生メカニズムを神経応答レベルで検証した。

解析の結果、低摩擦条件では点字配置が指内のひずみエネルギー分布およびSA1神経応答に明確に反映される一方、高摩擦条件では摩擦に起因する大きな皮膚変形により、ノイズとなる神経発火が生じ、点字情報の神経符号化が阻害されることが確認された。さらに、神経発火分布と点字配置との相関解析により、神経発火ノイズによる識別能力の低下傾向が、心理物理実験データにおける誤読率の増加傾向と一致することが示された。すなわち、高摩擦条件下では点字そのものに由来する神経情報よりも摩擦に起因する神経ノイズが優勢となり、点字識別に必要な神経情報のコントラストが低下することで誤読率が増加する可能性が示唆された。

本論文は、重要でありながらこれまで十分に検討されてこなかった摩擦という要因が、触知覚情報の神経符号化に及ぼす影響を計算モデルにより初めて示した点に意義がある。本手法は点字素材の選定にとどまらず、操作ボタンや表面テクスチャなどの工業製品がもたらす触覚体験を、デジタル空間上で評価するための基盤技術として展開することも期待される。さらに、皮膚の力学応答、神経発火パターン、および心理物理学的知見を結び付ける枠組みを提供することで、機械工学、神経科学、心理物理学を横断する学際的な橋渡しに寄与すると考えられる。

* 掲載: Journal of Biomechanical Science and Engineering, 19-1, (2024-1), 23-00102

*¹ 正員, (株)豊田中央研究所 (〒480-1192 長久手市横道41-1)

(16) Block Newton法による接線係数を代数的に導出した弾塑性損傷解析



山本 剛大*¹ 山田 貴博*² 松井 和己*³

金属材料など塑性変形や損傷を伴う挙動が釣りあい方程式から求まる変位と降伏条件式や損傷発展式に基づいた塑性変形や損傷の進展を表す内部変数で記述されることから、損傷が進展する弾塑性問題は釣りあい方程式・降伏条件式・損傷発展式の連成問題と捉えられる。本論文では損傷が進展する弾塑性問題に対して、有限要素解析を見据えた仮想仕事式・降伏条件式・損傷発展式の連成問題を定義し、それらを同時に線形化することで、Block Newton法に基づく数値計算手法を開発した。

定式化において、内部変数を陽に含む形で連成問題を線形化し、線形化された連成問題から内部変数を代数的に消去することにより、各変数に関する微分を用いて変位に関する接線係数が代数的に構築できる。本手法では接線係数の導出過程で内部変数を代数的に消去するため、積分点での内部反復を用いずに内部変数も代数的に更新される。さらに、降伏条件式と損傷発展式を物質点で満たされるべき制約条件式と定義することにより、制約条件に対する残差が偽応力（応力の次元を持つ2階テンソル）として表現できる。線形化された仮想仕事式に偽応力を組み込むことによって、変位を自由度とする非線形有限要素解析の残差項に制約条件式の残差が組み込まれ、全体反復によって連成問題の残差が同時に減少する。また、本研究では連成問題に仮想仕事式を採用することによって、通常の有限要素解析に本論文で提案する数値計算アルゴリズムを実装することが容易となる。具体的には、代数的に得られる材料接線係数を非線形有限要素解析の材料接線係数で使用するため、従来手法と同様に構成則サブルーチンで処理でき、連成問題としてプログラムを実装する必要がない。

繰り返し載荷や損傷が局所化する数値計算モデルに対して、本論文で提案する数値計算アルゴリズムは増分解析で設定する時間増分の大きさに関係なく、終局状態付近までの損傷進展を安定して予測でき、そのロバスト性が確認された。また、Armstrong-Frederick移動硬化則を採用する場合も解くべき連成問題は変わらず、未知数の数も増加しないことから、採用する硬化則の種類が計算時間に影響せず、本手法の有用性が示された。

* 掲載: 日本機械学会論文集, 90-936, (2024-8), 24-00081

*¹ 正員, 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 (現) 茨城大学 学術研究院応用理工学野

*² フェロー, 横浜国立大学 大学院環境情報研究院

*³ 正員, 横浜国立大学 大学院環境情報研究院

(1) ロボットハンドに第六感を与える近接覚センサの開発



小山 佳祐*1 藤本 弘道*2 中野 基輝*2 鶴浜 哲一*2

1. 概 要

近接覚センサは、ロボットハンド指部分に搭載するタイプの光学式センサである。赤外光の反射強度から、把持直前のラストワンインチ内において非接触での位置調整や接触検知を行う（図1上）。

非接触での位置調整では、ハンド指先表面に近接覚センサを搭載することで、物体に触れる前から物体表面を計測し、触らずに位置決めを行う。ハンド指先と物体面との位置関係を直接計測するため、対象物がデリケートな物体であっても、力を加えることなく正確に把持することが可能となる。

一方、接触検知では、バネで構成された柔軟構造を持つハンド指内部に近接覚センサを配置し、一種の接触・力センサ系を構成する。指内部の変形を近接覚センサで計測することで、物体と指先が接触した瞬間の検知や、把持力の調整を行うことが可能になる。

近接覚センサやセンシングベースド制御は、電気通信大学、東京大学、大阪大学で研究開発が進められてきたほか、2022年8月には、大学で培った近接覚センサの技術シーズを基に株式会社Thinkerを設立し、近接覚センサの製品化を実現した。

2. 技術の内容

近接覚センサは、距離20ミリメートル以内に存在する物体との距離や傾き角度を高速に計測する近赤外反射型センサである。計測周期は5ミリ秒以下と高速であり、従来の測距センサでは計測が困難であった距離10ミリメートル以下の領域を計測できる点が大きな特徴である。

センサのハードウェア構成は非常にシンプルであり、基板上に赤外線モジュール、すなわち投光素子と受光素子のペアを四つ配置した構造である（図1下）。これら四つの投光素子を順次発光させ、物体表面からの反射光強度を各受光部で計測する。

反射光強度の生データは、物体表面の材質や反射特性に依存して非線形に変化するため、このハードウェア構成のみでは、距離や位置情報を高精度に計測することは困難な問題がある。この問題を解決するために、近接覚センサ専用の軽量かつ高精度なAIモデルであるThinker AIを大学において研究開発してきた。研究の過程で、反射光情報に対して独自の前処理を施すことで、距離および位置情報を高精度に推定できることが明らかになった。この前処理により、学習モデルの汎化性能が大きく向上し、計測のロバスト性を高めること

が可能となった。

近接覚センサは、紙のような拡散反射物体との距離・位置計測を得意とするだけでなく、従来の光反射型センサでは計測が難しかった透明物体や鏡面物体にも対応している。

1) 非接触センシング応用：ハンド指先に近接覚センサを搭載し、物体との位置誤差を非接触で調整することは、最も基本的な応用例である。カメラによって物体位置を認識する際には、必ず一定の誤差が生じるが、近接覚センサを用いることで、つかむ直前にその誤差を確実に計測し、修正することが可能となる。これにより、把持の確実性を大きく高めることができる。また、非接触で位置決めを行うため、デリケートな対象物を潰すことなく、素早く把持できる点も利点である。

2) 接触センシング応用：従来は対象物を計測面としていたが、この方式では、指内部の変形を計測することで接触力を調整する。従来の力覚センサと比較して許容される変形量が十倍以上と大きく、接触時にインパルス応答的な衝撃力が発生しにくいという特徴がある。また、柔軟機構が複数のメカニカルなバネで構成されているため、耐久性にも優れている。さらに、近接覚センサに基づく非接触計測を用いることで、高い分解能を持つ手先位置制御が可能である。



図1：(上) 近接覚センサの概観と (下) 計測・処理イメージ

*1 正員、大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻（〒560-8531 豊中市待兼山町1-3）

*2 株式会社Thinker（〒631-0801 奈良市左京6丁目5-2）

(2) ステアバイワイヤシステム



柴田 憲治*1 上前 肇*2 工藤 佳夫*1 並河 勲*3 佐藤 孝文*4

1. 概要

近年、先進運転支援システム（ADAS）の普及と自動運転実用化に向けた動きの加速により、ステアリングシステムは、ADAS・自動運転への親和性及び手動運転時における快適利便性の両立が求められている。加えて、自動運転時における車室空間のレイアウト自由度向上のため、操舵と転舵が分離した構造を持つステアリングシステムが望まれている。これらのニーズの解決手段として、リンクレスステアバイワイヤシステム（SbW）を日本で初めて製品化。全ての構成要素を2系統化した冗長構成により安全性を確保した上で、手動運転時には次世代の操舵感覚（操舵角中心から左右200度の操作範囲、持ち替え不要）を実現し、異形ステアリングホイールの採用、革新的なコックピットの設計（図1、図2）を可能とした。



図1 LEXUS RZ



図2 TOYOTA e-Palett

2. 技術の内容

SbWは、図3に示す通り主にドライバーの操舵意図を検出し、操舵反力を与えるHand Wheel Actuator（HWA）、操舵意図に応じてタイヤを転舵するRoad Wheel Actuator（RWA）、それらをつなぐ電気通信と車両電源失陥時のためのSbW専用の補助電源（Backup power supply）で構成される。両ユニットとも一体型モータ・ECUを採用し、マイコン・モータ駆動部・各種センサや電源など全ての構成要素を2系統化した冗長構成を持ち、かつ各系統を独立に配置することで、部品故障時でも正常な系統で動作継続を可能とした。

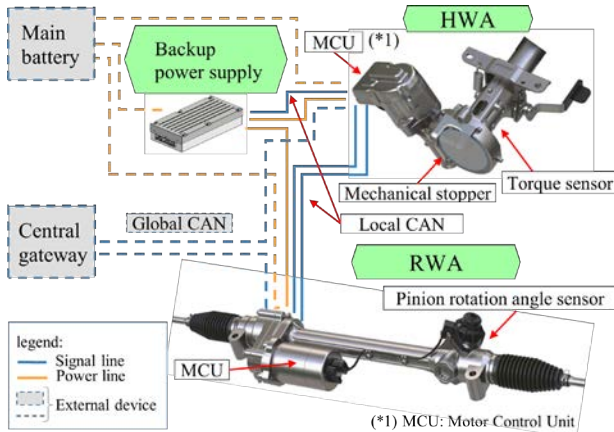


図3 System configuration

ドライバーの操舵意図と走行シーンに応じてステアリングギヤ比をシームレスに変化させることで、駐車操作や交差点走行時でもステアリングホイールの持ち替え操作を不要とし、高速走行時には従来の車両同等に安定した走行を可能とした。具体的には、ドライバーの操舵角と車両の走行速度に応じてステアリングギヤ比を可変する制御（図4）により、直進付近の領域（Ⅰ）では、ギヤ比が低速ほどクイック、高速ほどスローな特性とし、低速はノーマルステアリングよりもヨーレイトゲインを大幅に増大（図5）させることで操作量を低減。最大タイヤ切れ角を確保する目的で、操舵域の中央付近以降（Ⅱ/Ⅲ）では舵角の増加につれてギヤ比がクイックになる特性にした。一方、ステアリングギヤ比をクイックにした場合、低速域ではタイヤ緩和長の影響によりヨーレイトの共振現象が顕著になるため、特に20km/h以下にて速い操舵をした場合に乗員の体や頭が横方向へ揺すられる現象が発生し、乗り心地が悪化する傾向が見られた。横方向へ揺すられる特徴を鑑みて、横加速度とロールに着目しその動特性を改善するようなフィルタを施すことでそれらの共振を抑制し、小舵角でありながら穏やかな車両応答を実現した（図6）。

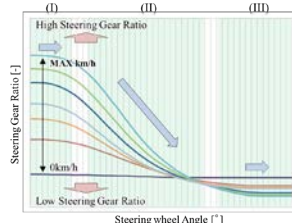


図4 Steering Gear Ratio

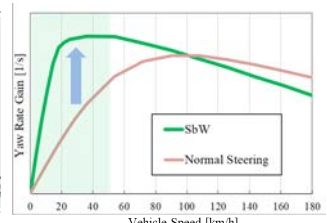


図5 Yaw Rate Gain

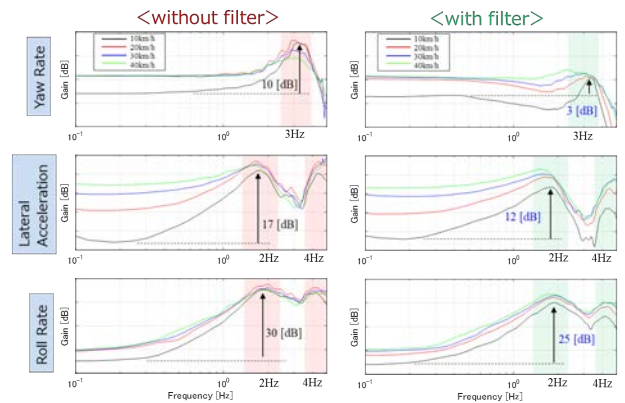


図6 Frequency Response

*1 正員、トヨタ自動車(株) (〒471-0826 豊田市トヨタ町1)
 *2 正員、トヨタ自動車(株) (現) WA-KA TECアドバイザリー
 *3 正員、(株)ジェイテクト (〒448-8652 刈谷市朝日町1-1)
 *4 (株)デンソー (〒448-8661 刈谷市昭和町1-1)

(3) CNの実現に向けたボイラ向けアンモニア専焼バーナの開発



高山 明正*1 嶺 聡彦*1 松尾 啓介*2 富澤 直季*2 山下 登敏*3

1. 概要

石炭火力発電所からのCO₂削減の一環として、アンモニア燃料転換技術の開発が進められている。燃料アンモニアを用いる技術課題として、窒素酸化物 (NO_x) の増加やアンモニアの不完全燃焼 (未燃アンモニアや温暖化係数の高い重酸化窒素 (N₂O) の排出) が挙げられる。それら課題に対し、基礎試験でNO_x排出のメカニズムを明らかにし、ボイラでのNO_x抑制方法を提案した。石炭とアンモニアを同時に燃焼するとNO_xが発生しやすくなるのに対し、アンモニア専焼バーナを用いて、石炭とアンモニアをそれぞれのバーナで燃焼させ炉内で混合することで、NO_x抑制を可能とした。

アンモニア専焼バーナは、発電事業者のニーズに鑑み、対向・旋回燃焼ボイラそれぞれの方式において、アンモニアをバーナへと液体で供給する液焚、気体で供給する気焚に対して、それぞれ実規模のアンモニア燃焼試験でアンモニアの安定着火と完全燃焼を達成し、NO_xの抑制に成功した。

2. 技術の内容

燃料アンモニアを石炭焚きボイラに適用するにあたって、基礎試験で石炭とアンモニア燃焼時のNO_x特性を調査し、石炭とアンモニアを予混合させた体系では、NO_xが増大し、燃焼割合50%にて極大となることを明らかにした(図1)。一方、各々の専焼時は燃焼条件を適正化することでNO_xの低減が可能であることから、ボイラでのNO_x抑制方法として、石炭とアンモニア各々の専焼バーナを用いて、炉内で燃焼させる方式を採用し、小規模のバーナ燃焼試験によりアンモニア燃焼割合を増加させてもNO_xの抑制が可能であることを見出した。

本コンセプトをもとに、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)のグリーンイノベーション基金事業において、実機ボイラへと適用可能なアンモニア専焼バーナを開発した。既設の石炭焚きボイラの脱炭素化を想定し、石炭専焼バーナをアンモニア専焼バーナに換装するのではなく、既設の石炭専焼バーナもしくは油バーナを改造して、石炭専焼とアンモニア専焼が両立可能なバーナとした。ボイラ火炉へのバーナ設置方式としては、旋回燃焼と対向燃焼の2つの主要な方式があり、両方式にそれぞれ適したバーナを開発した。また、バーナへのアンモニアの供給方式として、液体で供給する液焚、気体で供給する気焚の両方式について、それぞれ専焼バーナを開発した。バーナの燃焼性は、入熱: 3.7MWth相当及び23MWth相当(単一バーナとしては実規模

模)の燃焼試験設備で確認した。石炭とのアンモニア燃焼割合 55cal.%, ならびにアンモニア専焼における安定した着火保炎とアンモニアの完全燃焼を達成し、石炭専焼よりもNO_xや灰中未燃分を同等以下に抑制できることを示した(図2, 3)。

3. まとめ

本技術により、アンモニア高比率燃料転換とNO_x抑制の両立が可能となる。今後、石炭焚きボイラのカーボンニュートラル (CN) 化に向けた燃料アンモニア利用拡大に向け、事業用・産業用ボイラにおける幅広いニーズに対応した取り組みを進めていく。

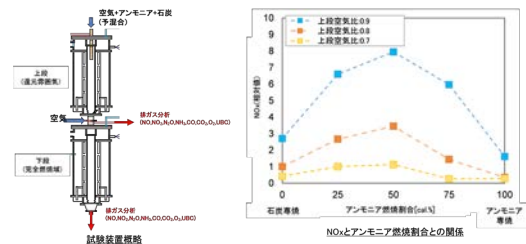


図1 二段電気炉試験での石炭-アンモニア燃焼時NO_x特性

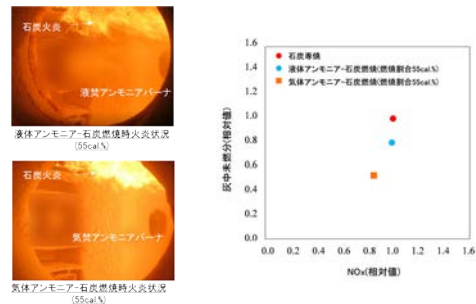


図2 石炭-アンモニア燃焼割合 55cal.% 試験結果 (3.7MWth, 旋回燃焼炉向けバーナ)

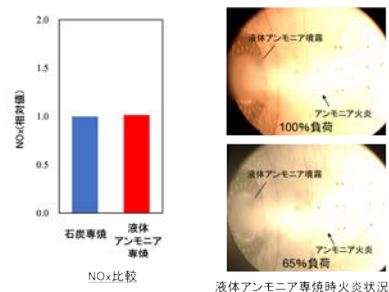


図3 液体アンモニア専焼試験結果 (23MWth, 対向燃焼炉向けバーナ)

*1 正員、三菱重工業(株) 総合研究所 エナジー研究推進部 (〒851-0392 長崎市深堀町5-717-1)
 *2 正員、三菱重工業(株) 総合研究所 燃焼研究部 (〒851-0392 長崎市深堀町5-717-1)
 *3 正員、三菱重工業(株) エナジードメイン スチームパワー事業部 技術部 (〒850-8610 長崎市飽の浦町1-1)

(4) 印刷型センサを用いたロボットグリッパーの高機能化技術



竹田 泰典*1 吉田 綾子*2 ワン イーフェイ*3 時任 静士*2 熊木 大介*2

1. 概要

近年、少子高齢化や労働人口の減少を背景に、製造・物流・医療・農業分野でロボット導入が進んでいる。人と協働するロボットには、安全かつ繊細な把持を可能とする触覚機能の実装が求められるが、従来のグリッパーはモータ電流値や単一の力センサに依存しており、圧力分布や物体の柔らかさを定量評価することは困難であった。

本技術は、低温・常圧の印刷プロセスにより作製したフレキシブル薄膜触覚センサをロボットグリッパーへ実装し、圧力・振動・温度の三基底触覚情報を取得するとともに、把持変位との統合解析により対象物の柔らかさをリアルタイム推定可能としたものである。印刷法により大面積形成および低コスト化を実現し、環境負荷低減にも寄与する。

圧力センサには多孔質カーボン複合材料による抵抗変化型構造を採用し、高感度かつ再現性の高い特性を得た。取得データは独自開発ソフトウェアで解析され、圧力分布の可視化、安全な把持制御、把持角度認識を実現した。さらに、把持変位と圧力変化の関係から柔らかさ指標を算出し、既存の硬度計と高い相関を確認している。

本技術は、印刷エレクトロニクスとロボティクスを融合した触覚統合システムであり、協働ロボットの知能化に資する基盤技術である。

2. 技術の内容

(1) 印刷型触覚センサの製造技術

本技術では、低温・常圧で形成可能な印刷プロセスを用い、フレキシブル基板上に電極および感圧層を直接形成した。図1に製造プロセスを示す。銀ペースト電極形成後、低温焼

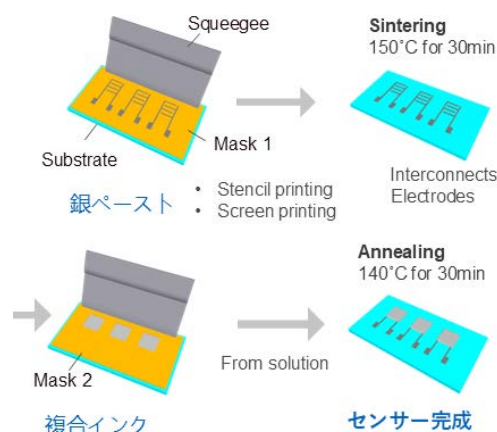


図1 印刷型触覚センサの製造プロセス

成により導電層を形成し、多孔質カーボン複合インクを印刷、アニールして感圧層を形成する。貼り合わせを不要とする単純構造により、工程短縮と材料利用効率の向上を実現した。

(2) 三基底触覚センサ構造

図2に三基底触覚センサの構造および外観を示す。圧力・振動・温度センサを積層した薄膜構造であり、厚さ約100 μ m以下で柔軟性を有する。圧力センサは多孔質カーボン複合材料による抵抗変化型構造とし、安定した抵抗変化特性を示す。柔軟基板によりグリッパーへの直接実装が可能である。

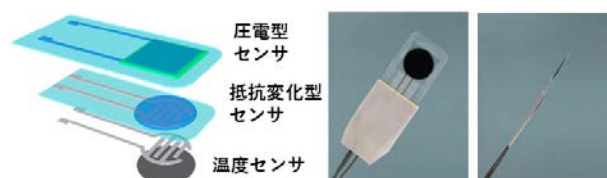


図2 三基底触覚センサの構造および外観

(3) 統合制御および実証

図3にロボットグリッパーへの実装および統合制御の構成を示す。センサ信号はマイクロコントローラで取得し、無線通信により制御PCへ送信する。ロボット動作情報と統合処理することで、安全な把持制御を実現した。

2次元圧力分布のリアルタイム表示、壊れやすい対象物の破損防止把持、把持角度認識を確認した。さらに、把持変位 Δx と圧力変化 ΔP から柔らかさ指標を算出し、異なる弾性材料の識別が可能であることを実証した。

本技術は、材料設計から制御統合までを一体化した触覚システムであり、ロボットの高機能化に資する実用技術である。

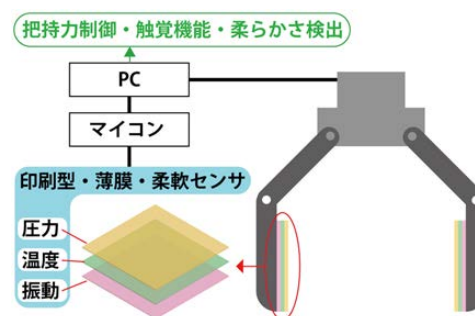


図3 ロボットグリッパーへの実装および統合制御の構成

*1 正員、山形大学大学院有機材料システム研究科（〒992-8510 米沢市城南4丁目3-16）

*2 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター（〒992-0119 米沢市アルカディア1丁目808番48）

*3 (元) 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター（〒992-0119 米沢市アルカディア1丁目808番48）

(5) 蠕動運動型管内検査ロボットの開発



中村 太郎*1 山田 泰之*2 伊藤 文臣*3 市橋 徹*4 渡部 格生*4

1. 概要

本技術は、産業プラント、半導体製造設備、上下水道、ガス管、空調ダクトなど、社会インフラおよび各種生産設備に広く存在する小径・長距離・多曲がり配管の内部を安全かつ確実に検査・清掃することを目的として開発された、ミミズの蠕動運動を規範とする管内検査ロボットに関するものである。これらの配管は流体や気体、薬液、粉体などを搬送する設備の基幹インフラであり、工場や都市機能の安定稼働を支える血管とも言える重要な役割を担っている。しかしその多くは内径が小さく、長距離にわたり3次的に複雑に屈曲した閉鎖空間で構成されるため、人手による点検や従来装置による検査が極めて困難であるという課題を抱えている。

近年、社会インフラの老朽化や設備の高度化・高密度化の進展に伴い、配管内部の腐食、閉塞、異物堆積、スケール付着、細菌繁殖などが深刻な事故や品質不良、さらには換気効率の低下や操業停止の直接的要因となっている。これらの問題を未然に防止するため、定期的かつ高精度な保守点検の重要性が一層高まっている。特に半導体や食品・医薬分野では微小な汚染が重大な損失につながるため、配管内部の可視化と清浄は喫緊の課題である。しかしながら、従来の押し込み式内視鏡やワイヤ牽引式装置では、配線やチューブと管壁との摩擦抵抗が検査・清掃距離に比例して増大するため、複数の急曲管や長距離配管の奥深くまで到達できず、入口付近のみの限定的な検査に留まるという制約があった。このため、多くの現場では配管の分解清掃や熟練作業者による人手点検に依存せざるを得ず、安全性の低下、作業時間の増大、保守コストの増加といった深刻な負担が生じていた。

本技術はこれらの課題を抜本的に解決するため、狭隘空間において高い推進力と柔軟性を同時に発揮できるミミズの蠕動運動に着目し、独自開発の軸方向繊維強化型空気圧人工筋肉を用いたソフトロボット型移動機構を採用した。波動的な伸縮運動によって管壁との広い接触面から安定した摩擦推進力を生成し、複雑な曲管や段差に対して受動的に追従しながら確実に移動できる点が最大の特徴である。内径25～100mm程度の細径配管に対応し、検査用カメラと清掃ブラシを搭載し、点検と清掃を一体化した効率的な保全作業を実現した。本技術は既に製品化され、半導体工場や化学プラント、各種インフラ現場において導入・実証が進んでおり、安全性向上、作業時間短縮、保守コスト削減、さらには保全品質の高度化に大きく貢献している。

2. 技術の内容

本技術は、図1に示すように、空気圧人工筋肉ユニット、関節機構、カメラ頭部、ブラシ機構、および配線・配管系から構成される多節直列構造を有する柔軟索状ロボットに関するものである。本ロボットは、管路の曲率変化や段差に対して受動的に適応できる高いコンプライアンスと追従性を備えている。中核となる軸方向繊維強化型人工筋肉は、流体圧印加によ

り径方向に膨張しつつ軸方向に収縮する特性を利用して大きな収縮力を発生する空気圧アクチュエータであり、ゴム材料の柔軟性と繊維補強構造を組み合わせることで、高出力と高柔軟性という従来は両立が困難であった性能を同時に実現している。このソフトアクチュエータ技術により、配管内壁へ均一に接触しながら安定した推進力を発揮できる点が本機構の核心である。

本ユニットを複数直列に連結し、各ユニットの収縮・伸長の位相を時間的にずらして順次駆動することで、頭部から尾部へ波が伝播する蠕動運動を生成する。これにより管壁との摩擦差を能動的に制御し、自律的な前進・後退を実現するとともに、複数の曲管やS字・U字配管を含む経路においても高い走破性を確保している。

実用化にあたっては、ゴム人工筋肉の耐久性向上が重要な技術課題であった。ゴムは大変形を繰り返すと疲労破壊を生じやすく、長期使用に耐える寿命の確保が難しい。そこで、材料配合の最適化や形状設計の改良に加え、マイクロレベルの材料特性変化まで解明・活用した構造改善を行い、耐摩耗性および強度を大幅に向上させた。その結果、実用化に耐えうる80万回以上の繰返し駆動寿命を達成した。さらに、低摩擦樹脂ベアリングを備えたユニバーサルジョイントの採用により可動域を拡大するとともに摺動抵抗を低減し、急曲管やショートエルボの安定通過を可能とした。加えて、短尺化設計と高強度フレーム構造により屈曲追従性と耐荷重性を同時に高め、最大1300N以上の牽引力を発揮しながら、長距離配管の確実な走破性を確保している。

これらの人工筋肉技術、関節設計、耐久化技術および清掃機構を統合した結果、本ロボットは従来方式では到達不能であった細径・複雑・長距離配管内部に自律的に進入し、内部映像の取得と清掃を同時に実施できる世界初の実用的蠕動運動型管内検査システムとして完成した。これにより、配管保全の自動化・高度化と安全性向上を実現し、機械工学、ソフトロボティクス、インフラ維持管理分野に新たな技術的基盤を提供している。

*1 正員、中央大学理工学部（〒112-8551 東京都文京区春日1-13-27）・（株）ソラリス（〒174-0073 東京都板橋区東山町14-13）

*2 正員、法政大学デザイン工学部（〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1）

*3 正員、中央大学

*4 （株）ソラリス（〒174-0073 東京都板橋区東山町14-13）



図1 受賞技術：蠕動運動型管内検査ロボット

(6) 土壌挙動解析技術による世界の土壌に対応した農業機械の開発



松下 幸平*1 上重 嘉史*2 萩原 智恵*2 長藤 圭介*3 花本 忠幸*3

1. 概要

図1に示すトラクタ・コンバインをはじめとした農業機械が水田や畑で走行しながら土の耕耘や、作物の植付け、作物の収穫を効率よく行えるかは機械と土の力学的な関係で決まり、世界中で活躍する農業機械は世界の多様な土に対応する必要があります。例えば、図2(a)のように欧州では日本に比べ粘土質の畑が多く、図2(b)のような東南アジアの深い湿田など、世界の土壌は多岐にわたり、気候、地域、シーズンによって常に土の状態は変化します。

気候、地域、シーズンに制限される実機による開発環境において、これらの制限を受けずに開発を行う技術を開発することで農業の機械化率を上げることができれば、結果的に食料生産性の向上を実現できる。本技術は、世界の多様な土を解析で表現する技術であり農業機械の土との相互作用に関する性能を予測可能とし、試行錯誤が必要な機械の性能向上を可能とする。そして実際にこの技術を適用することで世界の多様な土に対応した高性能な農業機械を開発することができた。

トラクタ ロータリ ブラウ コンバイン



図1 トラクタ・コンバインをはじめとした農業機械



(a) 粘土質の畑 (b) 深い湿田

図2 世界の土壌と農業機械

2. 技術の内容

2.1 本技術における開発の流れ

世界の多様な土壌に対応した農業機械の最適化・高性能化を数値解析によって可能とすることを本技術における目的としている。図3のように、まず、世界各地の畑や水田の耕耘結果から、土の塊具合（土塊）や機械性能には粒度分布が重要であると明らかにした。その後、土壌基礎試験（粒度分布や含水比など）と開発した耕耘台上装置から静的かつ動的な土壌特性を解明した。そして土塊を形成しつつ土壌挙動の表現が可能な数値解析技術を開発した。また、解析技術の適用により、様々な農業機械の高性能化を行うことができた。



図3 本技術における開発の流れ

本技術は、土と機械の力学（テラメカニクス）に関わる技術者から多くの関心を集め、多くの分野の学会において論文として認められた。

2.2 世界の多様な土を解析で表現する技術

図4に示す耕耘台上試験により動的な土壌特性を、土壌基礎試験により静的な土壌特性を計測できるようにした。土壌の物理的噛み合いを表現できるように土の粒度分布のモデル化手法を確立して、数多く存在するDEM（Discrete Element Method；個別要素法）解析パラメータの同定手法を開発した。この手法によって世界の多様な土を表現できるようになった。



図4 耕耘台上試験

2.3 解析技術適用によって高性能化した農業機械

図5に、解析技術の適用により高性能化した農業機械を示す。図5(a)に示したとおり、作物にとって生育環境が安定した土壌にするロータリ、図5(b)に示した業界内でも軽量かつ高速で牽引可能なトラクタ、図5(c)に示すような東南アジアの深い湿田においてもスタックしないコンバイン、図5(d)に示すような欧州の粘土質な土においても燃費を大幅に改善したブラウを開発することができた。

これらの画期的な農業機械の開発は、農業機械の品質または性能の向上あるいは農業の生産性向上に寄与し、経済および社会的貢献の大きいものであり、本技術は、食糧問題・気候変動・カーボンニュートラルなどの社会課題の解決に貢献する。

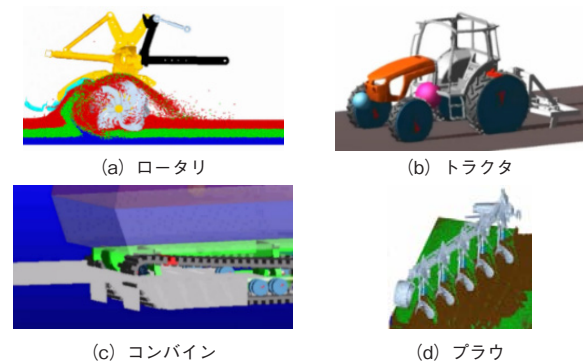


図5 農業機械への解析技術適用

*1 正員、(株)コバタ（〒590-0908 堺市堺区匠町1番地11）

*2 (株)コバタ

*3 正員、東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻（〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1）

研究奨励

(1) β 相含有鍛造TiAl合金の高温弾性特性と非弾性特性の研究



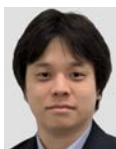
足立 寛太*

本研究では、40~760℃の温度範囲に対応した超音波共鳴法計測装置を独自に構築し、 β 相含有鍛造TiAl合金の各弾性定数および内部摩擦の温度依存性を詳細に評価した。その結果、熱間加工や熱処理の過程で β 相中に形成される ω 相が、弾性・非弾性特性に顕著な影響を与えることを明らかにした。特に、 ω 相の形成により剛性が向上し、鍛造材が鋳造材と同等の弾性定数を示すこと、さらに ω 相に起因する内部摩擦が異方性を示し、せん断振動モードで顕著なエネルギー損失を引き起こすことを示した。また、200℃付近に新たな内部摩擦ピークを発見し、これも ω 相に起因する可能性が高いことを示した。

* 正員、大阪大学大学院工学系研究科機械工学専攻

研究奨励

(2) 計算材料科学による半導体材料の強度信頼性に関する研究



榎間 大輝*

本研究では、SiCを中心とするパワー半導体材料の強度信頼性を対象に、計算材料科学に基づき、原子スケール解析と材料強度指標・デバイス内応力場を接続するマルチスケール解析を進めた。第一原理計算により、多形安定性、積層欠陥エネルギー、理想強度を定量化し、温度依存性や分散力補正の影響も整理した。また、有限要素法とラマン分光を併用して残留応力分布を推定し、応力がバイポーラ劣化における積層欠陥拡張に及ぼす影響をモデル化した。さらに、過剰キャリアが欠陥エネルギーや強度指標に及ぼす影響を理論的に検討した。これらの成果は、プロセス条件や動作条件を考慮した信頼性評価に向けた基礎的知見として位置付けられる。

* 正員、東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻

研究奨励

(3) 材料の微視スケールでの塑性変形素過程に関する原子論的研究



佐藤 悠治*

本業績は、転位や双晶の活動といった材料の微視スケールでの塑性変形素過程に対し、原子論的解析を基軸としてその本質解明のため取り組んだものである。まずナノインデンテーション試験中の転位核生成に対し、その発生荷重の温度・荷重速度依存性の非経験的予測手法を構築した。また鉄や銅に対し同試験中の圧子変位バースト現象の発生規模の統計解析を実施し、分布におけるべき乗則のメカニズムを分子動力学解析により明らかにした。さらにマグネシウムの変形双晶の境界移動過程に対し、非調和熱振動を考慮した自由エネルギー計算手法により活性化自由エネルギーの温度依存性を計算し、同過程にて顕著な非調和熱振動の影響が表れることを示した。

* 正員、東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻

研究奨励

(4) 熱交換器の高性能化に資する実験および数値解析的研究



齋藤 慎平*

本研究は、金属3Dプリンタを用いて微細な流路を持つコンパクトな熱交換器を製作し、その性能を実験的に評価するとともに、気液が共存する複雑な流れを解析できる数値計算手法を開発したものである。アルミ合金を用いて最小約300 μ mの流路を有する手のひらサイズの熱交換器を造形し、流路寸法や表面の粗さが伝熱や圧力損失に与える影響を定量的に明らかにした。さらに、固体表面での濡れ挙動を含む混相流を熱力学的法則と整合的に再現できる解析基盤を構築し、小型で高効率な冷却・熱回収機器の設計に資する知見を示した。

* 正員、産業技術総合研究所

研究奨励

(5) 高速液体噴流の微粒化モデリングに関する研究



松田 大*

エンジン燃焼において、燃料を微細な液滴へ分裂させる微粒化過程の理解とその予測は重要である。本研究は、ディーゼル機関に代表される高速液体噴流を対象に、ノズル内部流れと噴流内部の乱流特性を数理的に記述し、気液界面の不安定性解析と統合した新たな微粒化モデルを構築した。本モデルは、実測噴射率と連成した解析に基づき、可視化データに依存せず微粒化特性を予測でき、多様な燃料・噴射条件に適用可能な汎用性を有する。さらに、合成燃料や液体アンモニアなど次世代燃料への展開により、カーボンニュートラル社会に向けた燃焼技術の高度化に資することが期待される。

* 正員、九州大学大学院工学研究院

研究奨励

(6) 複雑流体のレオロジー計測手法開発と流動予測に関する研究



大家 広平*

流体力学分野では、水や油など粘度が一定のニュートン流体の流れを知る段階から、その先に広がる複雑流体へと研究の重点が移行している。しかし、高齢者向けの流動食品や流体機械の動力削減で注目される機能性流体、バイオマス材料として期待されるセルロース溶液など、流動物性が未知ゆえに流体力学の枠組みが適用できない事例が多発している。本研究では、流動逆解析に基づくレオメトリの開発によって、これまで対象外となっていた多くの複雑流体の流動物性情報の獲得を可能にした。さらに、摂食嚥下プロセスにおける流動食品の振る舞い、化学工業における高分子溶液の管内輸送、土木工学や地球惑星科学における混相流の斜面流予測を実現した。

* 正員、名古屋大学 大学院工学研究科 機械システム工学専攻 (〒464-8603 名古屋市千種区不老町)

研究奨励

(7) 圧縮性流れ中の粒子周り流れに関する研究



永田 貴之*

ロケットエンジンの排気ジェットなど微粒子を含む高速流れにおいて、微粒子周りの流れは圧縮性低レイノルズ数条件となる。流体の圧縮性と粘性の両者の効果が顕著であり特有の流体现象を生じるが、実験計測が困難であり一部の条件で計測された抵抗係数以外の特性はほぼ未知であった。故に、圧縮性固気混相流解析では強い仮定や経験的修正を含むモデルが用いられてきた。本研究では、数値解析と実験を駆使して球周りの圧縮性低レイノルズ数流れを丹念に調べ、その流れ場や抵抗係数などの流体力学的特性および圧縮性低レイノルズ数流れの基礎特性を明らかにした。また、得られた知見を統合することで圧縮性流れにおける粒子抵抗モデルの構築に貢献した。

* 正員、名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻

研究奨励

(8) 高速度偏光計測技術による
液体と固体の応力場可視化の研究



武藤 真和*

本業績は、高速度偏光カメラを援用した光学計測技術（高速度偏光計測技術）を開発し、液体および固体内部に生じる応力の空間強度分布を、非接触かつ非定常に可視化したものである。従来は固体に限定されていた光弾性法を流体へ拡張し、模擬血液と模擬血管からなる実験モデル系において、脈動流下で生じる流体応力および固体応力の空間強度分布を、複屈折情報として同期計測する固-液複屈折場計測法を世界で初めて実現した。さらに、固体および流体の応力光学係数の計測手法を整備することで応力の定量評価を可能とし、脳動脈瘤破裂など医療課題の理解に不可欠な応力集中評価や、流体-構造連成問題に対する実験的検証手段を提供した。

* 正員、名古屋工業大学大学院工学研究科（〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町）

研究奨励

(9) 点群自己位置推定および
環境地図生成の研究



小出 健司*

本研究ではLiDARやデブスカメラから得られる三次元点群を用いた自己位置推定および環境地図生成に取り組んだ。グラフ最適化、変分推論アルゴリズム、GPU並列処理を組み合わせることで、頑健・高精度な大規模地図生成手法や、従来対処が困難だった大域位置推定・誘拐問題（センサ目隠し）に対処できる自己位置推定を実現している。研究成果は国際会議・論文誌で発表すると同時に、一部はオープンソースソフトウェアとして一般公開しており、国内外の様々な産学機関において移動ロボットや自動運転システムの開発に使用されている。

* 正員、産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 インテリジェントシステム研究部門

研究奨励

(10) 平行リンク機構を用いた
チルトフレーム型ドローンの研究



坂口 聡範*

従来のドローンは固定フレームゆえ、飛行環境や対応タスクが限定的である。本研究では、フレームに平行リンク機構を導入したチルトフレーム型ドローンを提案した。全ロータの平行性を構造的に保証し、飛行効率を維持しながら多様なフレーム変形が可能である。ピッチ方向にチルトできる1軸チルトフレームを出発点として、これをモジュール化して平行六面体を構成することで、ロール・ピッチ方向の2軸チルトフレームへと発展させた。さらに、アクチュエータを追加することで、ヨー軸周りに収縮・拡大できる3軸変形フレームを実現した。これらの変形能力により、従来比50%の狭小空間での飛行や把持機能による物資運搬などの高い汎用性を獲得した。

* 正員、九州大学 大学院システム情報科学研究所（〒819-0395 福岡市西区元岡744）

研究奨励

(11) 人体動作特徴量解析による
身体内部情報推定技術の研究



土谷 圭央*

バイオメカニクス、生体計測、ロボティクスを専門とし、身体負荷の定量評価と人間支援技術の開発を進めてきた。腰部負担や筋疲労の非侵襲推定モデルの構築に取り組み、動作時の腰部姿勢、筋活動、生理指標など多角的な生体情報をセンサフュージョンによるウェアラブルデバイスで計測・解析する手法を確立した。これにより、主観的な「負担」や「疲労」を客観的データから高精度に推定し、建設作業員や介護従事者を対象とした研究で、作業中の腰部負担と体力テスト結果の関連を明らかにし、労働安全衛生の向上に貢献している。

* 正員、香川大学創造工学部機械システム工学領域

研究奨励

(12) 瓦礫内探査とドローン輸送が可能な
小型循環式移動体の研究



渡辺 将広*

地震などの大規模災害では、発生後72時間以内に瓦礫内に閉じ込められた人の位置を特定し、救助することが重要である。本研究では、レスキュー活動の安全性向上と効率化、搜索範囲の拡大を目的として、遠隔操作が可能な小型移動ロボットSMURFを開発した。従来の比較的大きなロボットでは探査が困難であった瓦礫内部に対し、ドローンで複数台を瓦礫上部へ分散投下することで、災害現場を網羅的に搜索できる。小型軽量な車輪型・クローラ型移動体により、狭い穴や隙間への進入や段差の乗り越えが可能である。さらに、サーマルカメラ、赤外カメラ、マイク・スピーカ、ガスセンサなどを搭載し、要救助者の手がかりとなる情報を収集する。

* 正員、大阪大学大学院基礎工学研究科

研究奨励

(13) 材料非線形を積極的に参照する
構造最適化手法の研究



韓 霽珂*

本研究は、応力とひずみの関係が比例せず、かつ履歴依存性や不可逆変形を伴う「材料非線形性」を、構造設計の段階から積極的に考慮する新しい構造最適化手法の確立を目的とする。従来の構造最適化では、材料を単純な線形弾性体として扱うことが多く、塑性変形や損傷、さらには生体軟組織の成長や萎縮といった現象を十分に反映できないという課題があった。本研究では、材料内部の状態変化を表す内部変数を用いて、工学材料から生体組織までを統一的に記述し、それらを直接反映した構造最適化の枠組みを構築した。本手法により、安全性と軽量性を両立した構造設計に加え、医療・バイオ分野への応用も期待される。

* 正員、京都大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻

研究奨励

(14) トライボフィルムの形成機構と
摩擦摩耗特性に関する研究



佐藤 魁星*

摩擦場で生成される反応被膜（トライボフィルム）は、その摩擦・摩耗特性を通じて、機械部品の省エネルギー化に大きく貢献している。しかし、トライボフィルムはナノスケールの薄膜であるため、その成長過程に着目し、摩擦・摩耗特性との関係を詳細に検討した研究は限られている。本研究では、原子間力顕微鏡を用いて、高温潤滑油中の摩擦面をその顕微鏡で観察し、トライボフィルムが表面の応力が集中する真実接触部で成長すること、潤滑油添加剤の種類や組み合わせによって、膜の成長速度や摩擦特性が変化することを直接観察し、従来経験則に頼っていたトライボフィルム摩擦・摩耗特性を直接観察し、その評価手法を確立したものである。

* 正員、東京理科大学 工学部 機械工学科

研究奨励

(15) 高温真空環境下での炭素硬質薄膜の
低摩擦指針の提案の研究



張 銳璽*

グラファイト由来のsp²構造とダイヤモンド由来のsp³構造を併せ持つ炭素硬質薄膜は、低摩擦・耐摩耗性・化学安定性に優れ、自動車や半導体分野で広く注目されている。しかし、高温・真空などの過酷環境下では酸化や剥離が生じやすく、産業利用拡大には課題が残されている。本研究では、耐熱性および耐酸化性の向上を目的に添加元素を導入した炭素硬質薄膜を設計・改質し、大気中および真空中の高温環境下において超低摩擦 ($\mu < 0.06$) を安定的に実現した。さらに、電子顕微鏡観察およびラマン分光分析により、超低摩擦をもたらす移着膜の形成量と構造特性を明らかにし、その発現メカニズムの理解に基づく最適な成膜指針を確立した。

* 正員、東京科学大学総合研究院未来産業技術研究所 (〒226-8501 横浜市緑区長津田町4259)

研究奨励

(16) 複雑な物理モデルに対する感度解析の
一般化に関する研究



小川 竣*

本研究は、構造最適化手法の1つであるトポロジー最適化の最適解探索に必要な感度解析を一般化したものである。従来、非定常や材料非線形等の複雑な物理現象を扱うには、感度解析の定式化が極めて困難であり、トポロジー最適化の社会実装を阻む根本的課題であった。これに対し、随伴変数法を用いて非定常熱構造連成等の時間依存現象の設計感度式を体系化し、革新的な構造創生を実現した。さらに、自動微分の適用により、目的関数、制約条件、物理モデルに依存せず煩雑な定式化を排した汎用的手法を確立した。本業績は、高度な設計最適化の範囲を飛躍的に拡大させるものであり、機械工業をはじめとする産業基盤の発展に大きく貢献できる。

* 正員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻

研究奨励

(17) 細胞活動の力学的な作用から生じる
組織形態形成の研究



竹田 宏典*

生体が形づくられる形態形成の過程では、細胞の活動から生じる力が駆動力となり、立体的な組織が形成される。本研究は、細胞活動の力学的な作用により生じる形態形成が、時空間的なゆらぎに対して安定的に再現性良く進行する仕組みの理解を目的とした。そこで、細胞の増殖と移動、収縮の連続体力学モデルを構築し、有限要素法による組織変形のシミュレーションを行った。脳組織のシワ形成では、力学場に応じた細胞移動がシワの伸長と維持に寄与して形態形成を安定化させることを示した。さらに、シート状組織のエネルギー地形を可視化し、細胞の増殖と収縮を通じて安定形状へ至るまでの力学状態の遷移過程を理解するためのアプローチを提案した。

* 正員、京都大学医生物学研究所

研究奨励

(18) 生理病理状態における
仙腸関節の力学的機能に関する研究



豊原 涼太*

仙腸関節は約3割の腰痛患者の疼痛要因であり、骨盤内の重要な荷重関節であるものの、1mm未満のわずかな可動性しか許されており、動かない関節であるとみなされていた。そのため、仙腸関節の生理・病理における機能や疾患発症メカニズムの解明、治療法の客観的な効果検証は十分に組み込まれていないのが現状であった。そこで、本研究ではコンピュータシミュレーションと物理実験により仙腸関節の力学的機能を説明してきた。歩行時における仙腸関節の運動を可視化し、本関節の重要な衝撃緩衝機構を示すなど、仙腸関節のバイオメカニクスの基礎的な知見を提供するとともに、治療法の評価やメカニズムの裏付けを行い実臨床への還元も行ってきた。

* 正員、北海道大学大学院工学研究院 機械・宇宙航空工学部門

研究奨励

(19) 微細周期構造の造形法の開発とその微小流体応用に関する研究



増井 周造*

微細な周期構造は、最も基本的な形状の1つとして光学・流体分野での応用が研究されている。そのため、本研究では干渉リソグラフィと呼ばれる手法を用いた微細周期構造の造形・計測・応用を展開してきた。造形に関しては、光の全反射時に生じるエバネッセント光の干渉を利用した新規造形法を開発し、ナノマイクロ微細周期構造の一括造形を実証した。計測の観点では、造形されたナノマイクロ周期構造は、従来の格子周期計測の適用が困難であるため、光共振を用いた計測手法を実証した。さらに、微小流体分野への応用として、微細周期構造を用いたマイクロ液滴生成法の原理的な解明を行っている。

* 正員、東京大学大学院工学系研究科（〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1）

技術奨励

(1) スマート物流を実現するマルチ搬送AMR制御技術開発



伊藤 悠介*

物流現場では、多様な台車を扱う搬送作業の自動化が求められている。しかし従来の自律移動ロボット（AMR）は、搬送可能な台車の形態が限られることや、複数台が同じ通路ですれ違う際に円滑に動作できないなど、人間と同等の搬送作業を実現する上で制約があった。これらの課題に対し、台車の種類に応じてAMRの動作特性を切り替える技術と、AMR同士が互いの進行範囲を共有することで無理なくすれ違える制御技術を開発し、多様な台車搬送と複数AMRが同一空間で安全に共存することを可能とした。また、既存の台車や設備をそのまま活用しながら搬送作業の自動化を進められる点も特徴となり、現場の省人化を継続的に後押しする技術的な仕組みを整えた。

* 正員、(株)東芝 総合研究所 生産技術センター（〒235-0017 横浜市磯子区新磯子町33）

技術奨励

(2) プラズマアクチュエータを利用した脱臭技術の開発



岡 将太郎*

近年、家庭やオフィスに蓄積される臭いや、工場における揮発性有機化合物が社会課題となっている。本開発では、プラズマ中のOHラジカルが持つ強力な酸化分解作用に着目し、プラズマ中に空気を引き込む電極構造（プラズマアクチュエータ）を用いた脱臭技術を開発した。本技術により、従来手法では脱臭が難しいエチレンを始めとして、多様な臭い成分に対して汎用的に機能する高速脱臭が実現できた。また、本技術で利用するストリーマ放電は湿度等の変化で不安定になりやすいが、電圧・電流を最適化することでストリーマの安定制御にも成功した。これらの技術は脱臭だけでなく集塵や除菌技術にも応用可能であり、関連する製品開発にも貢献した。

* 正員、(株)東芝 総合研究所（〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1）

技術奨励

(3) 離散粒子解析手法を工学応用したNa-水反応評価手法の開発



小坂 亘*

ナトリウム冷却高速炉蒸気発生器の安全性評価の一環として、万が一伝熱管から水が漏れ、ナトリウムと激しい化学反応を起こしても、安全に事象終息に至ることを確認する必要がある。本事象は、多相流と化学反応の複合現象であり、まずはそれぞれを忠実に表現するモデルを組み合わせた解析手法が開発された。本研究では、この既往手法の運用で得た知見を活用して、工学応用という観点からモデルを合理化し、低計算負荷の解析手法を開発した。試解析を通して、本手法と既往手法との誤差は目標範囲内に収まることを確認した。低計算負荷の本手法を、工業分野で生じる様々な複合現象へ応用していくことで、産業界の技術開発に広く貢献できる。

* 正員、(国研)日本原子力研究開発機構（〒311-1393 茨城県東茨城郡大洗町成田町4002番地）

技術奨励

(4) 蓄熱用岩石の粒度分布評価技術開発



神内 拓真*

再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、余剰電力を熱として蓄える技術が注目されている。特に岩石を蓄熱材とする方式は環境性や経済性に優れる点から実用化が進められている。このような設備では、充填層内の流動・伝熱特性評価のために岩石の粒度分布を把握することが重要である。従来の充填層の圧損や空隙体積から平均径を間接推定する手法は計測コストが課題であった。本技術は、市販のRGB-Dカメラでバラ積みされた岩石を撮影し、AIを含む画像処理により個々の岩石を検出する。さらに個々の岩石の全体形状を推定し、表面積や体積を算出することで粒度分布を求める。本技術により、簡易な構成で非接触かつ効率的な粒度分布評価が可能となった。

* 正員、(株)東芝 総合研究所 生産技術センター（〒235-0017 横浜市磯子区新磯子町33）

技術奨励

(5) 水素ステーション向け超高压液体水素昇圧ポンプの開発



原田 基至*

カーボンニュートラル実現に向けた動きの中で、燃料電池商用車（トラック、バスなど）を対象とする大規模水素ステーションの需要増加が予想されており、今後、大量の水素を短時間で車両に充填する技術が不可欠となる。従来の水素ガス圧縮機を使用する方式は、圧縮機の吐出流量に制約があり、充填時間短縮のために大量の蓄圧器を併用する必要があった。これに対して、コンパクトな機器でありながら、大流量の吐出能力を持つ液体水素昇圧ポンプを開発した。液体水素昇圧ポンプは超高压かつ極低温という過酷な環境で動作するが、安定した吐出能力や高い信頼性・耐久性を実証し、高速水素充填の実現に向けた基本技術を確立した。

* 正員、三菱重工業(株) 総合研究所（〒851-0392 長崎市深堀町5-717-1）

技術奨励

(6) AE法による床版内部の健全度評価に向けた解析技術の開発



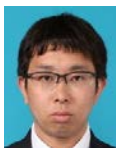
文倉 智也*

橋梁床版内部の健全性を非破壊で評価するため、車両走行時に路面で発生する弾性波を床版下面に設置したAEセンサで検出する手法が用いられてきた。しかしながら、車両の走行位置による弾性波の波源位置の変動や温度に伴う弾性波の伝搬特性の変化により、常に同一の基準で健全性評価を行うことは困難であった。本技術では、車両走行に伴う弾性波源の分布を予測する技術を開発することで、妥当な計測領域の理論的な設定を可能とした。加えて、床版内の弾性波の伝搬挙動を解析することで、温度による影響を評価する技術を確立した。本技術は実際の橋梁床版内部の非破壊評価の高精度化に深く貢献するものである。

* 正員、(株)東芝 総合研究所 先端デバイスR&Dセンター (〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1)

技術奨励

(7) 高強度中炭素鋼の強度推定法の開発



水野 湧太*

転がり機構を用いた直動案内装置は工作機械や半導体製造装置などに広く使用されており、動作中は転動体と軌道面間に圧縮応力が作用する。簡便に圧縮応力下での機械的特性を求めるとして硬さ試験が挙げられる。しかし、高硬度鋼では表面切り欠き係数の影響により硬さと機械的特性が比例関係にならず、正確に算出することが困難である。一般的な引張試験では塑性不安定から早期破断するため圧縮試験から機械的特性を求めた。硬さと圧縮強さは比例関係とならなかったが加工硬化指数を考慮することで硬さから圧縮強さを推定する方法を考案した。本手法によって、硬さを測定するだけで圧縮強さが算出でき、より正確な安全設計や解析が可能となる。

* 正員、THK(株) (〒108-8506 東京都港区芝浦2-12-10)

技術奨励

(8) 配管破損に伴う高温高压水漏洩時の噴流拡散予測技術の開発



湯浅 朋久*

原子力発電所における高压配管破損により発生する熱水噴流は、衝突や被水等により作業員に重大な影響を及ぼし得るため、高压配管から流出する噴流挙動の高精度な予測技術が重要となる。本研究では、高速度ビデオカメラを用いた噴流挙動の詳細な可視化実験により、減圧沸騰に伴って熱水の噴流幅が急激に拡大する現象を明らかにした。さらに、実験結果を検証データとするCFD解析を行い、原子炉実圧条件までを含む高压配管からの噴流挙動の予測手法を構築した。加えて、実験と解析結果から得られた噴流の拡がり角と到達距離に関する相関式を用いることで、現行の簡易式と比べ噴流挙動の予測精度が向上し、作業員の熱傷リスク評価が可能となった。

* 正員、(一財)電力中央研究所 (〒240-0196 横須賀市長坂2-6-1)

教育

(1) 「楽しい流れの実験教室」を通じた流体力学の啓蒙活動



石綿 良三*

受賞者は、永年にわたって流体力学に関連する実験動画の制作を行い、本会流体力学部門ホームページにおいて「楽しい流れの実験教室」として公開を続けている。これは、広く小中学生から一般社会人までを対象に楽しみながら流体力学に触れ、科学への興味と理解を深めることをねらいとしているものである。動画サイトでは累計70万再生を超えている。

「楽しい流れの実験教室」の公開は2009年から始まり、題材提供は現在も継続され、350件を超えている。身近にあるものを利用した、比較的簡単な実験も多く、個人での利用のほか、中学高校の授業・部活動、高専、大学の授業、オープンキャンパスなどで利用されている。自然現象を理解するためには話を聞くだけではなく、実際に体験することが重要であり、効果的である。

さらに、学校や市民行事での理科教室、流れのふしぎ展(流体力学部門主催)等の科学イベントで体験実験を行い、子供たちや一般市民から楽しかった、翼の原理がわかったなどの声を多く受けている。参加者の反応を見ることによって、どのように関心を持ち、どのように理解しているのかがわかり、その後の実験開発に役立っている。

(楽しい流れの実験教室 <https://www.jsme-fed.org/experiment/index.html>)

* フェロー、神奈川工科大学 (〒243-0292 厚木市下荻野1030)

教育

(2) 日本の火力原子力発電技術の世界への発信と国内での技術伝承



動力エネルギーシステム部門30周年出版事業と技術継承活動ワーキンググループ

[代表者] 小泉 安郎*

全地球的課題であるCO₂排出削減において、我が国での努力は当然であるが、開発途上国で今後増えてくる排出量は莫大な量でありこれへの対応がまさに求められる。日本の優れた火力原子力発電技術を用いての開発途上国への協力は是非為されなければならない。しかしながら、我が国でこの領域の技術者研究者の退職が続き、国内での技術継承と後継者育成がそれ以前に喫緊の課題となっている。本件はこれら問題に対応すべく動力エネルギーシステム部門が行っている活動に関わるものである。

本部門では、技術継承と後継者育成に関し、定常的に研究発表講演会やシンポジウム、また、原子力工学国際会議で学生プログラムを継続的に行ってきている。これに加え本件では、全8巻からなる火力原子力発電の技術書「JSME Series in Thermal and Nuclear Power Generation」をエルセビア社から出版し、それを生かし、若手技術者、学生を対象として講演会及び技術セミナーを行ってきている。技術書は我が国のみならず発展途上国をも意識し英文で書かれている。この出版物は、新たな研究開発を行う際には大切な基礎参考情報になる。

* フェロー、電気通信大学情報理工学研究所機械知能システム学専攻

標準事業表彰貢献賞

- (1) 発電用設備規格 維持規格の策定及び
規格の品質向上にかかわる貢献



齋藤 利之*

* 正員、東芝エネルギーシステムズ(株)磯子エンジニアリングセンター

標準事業表彰コードエンジニア賞

- (1) 発電用原子力設備規格の
技術的妥当性確認を通じた規格品質向上



桑水流 理*

* 正員、福井大学 学術研究院工学系部門

標準事業表彰貢献賞

- (2) 滑り軸受の規格作成活動及び
国際標準化活動への貢献



花橋 実*

* 正員、大同メタル工業(株)新製品開発ユニット

標準事業表彰国際功績賞

- (1) 二酸化炭素回収・貯留 (CCS) における
回収技術の国際標準化



東井 隆行*

* (公財) 地球環境産業技術研究機構 企画調査グループ

標準事業表彰国際功績賞

- (2) 原子力プラントにおける合理的で新しい
疲労評価体系の国内外規格構築への貢献



平野 明彦*

* 正員、日立GEベルノバニュークリアエナジー(株)原子力生産本部

2025年度フェロー選考経過報告

一般社団法人日本機械学会
フェロー選考委員会
委員長 高木 周

会員のフェロー制度は海外の学協会では早くから確立されており、イギリス機械学会やアメリカ機械学会では会員の経歴に応じて学生会員、正会員、フェロー、名誉会員と種別 (grade) が変わって行きます。なかでもフェローとなる会員は、学会を代表するにふさわしい技術者として認定され、その自覚を持って社会的に活躍されております。

本会では、1999年12月14日開催の評議員会でフェロー制度導入が決定されており、2000年度 (第1回) より、これまでに1,978名のフェローが認定されております。

これにより、海外の姉妹学会との連携を深め、会員が国際社会で一層活躍するための基盤づくりの一助になり得たかと考えられます。一方、日本技術者教育認定機構 (JABEE) が設立され、国際的に通用する日本の技術者の認定と育成が当面焦眉の課題となっており、機械技術者の一層の地位向上が望まれております。

このような情勢の中で、2025年度のフェロー選考委員会では、本会の各組織に候補者の推薦を依頼し、最終的に下記記載のように53名の方をフェロー候補者として2025年度 (第103期) 理事会に上申し、異議なく承認を得られましたので、ここに全会員の皆様にご報告申し上げます。

荒尾 与史彦	早稲田大学	立矢 宏	金沢大学
石原 大輔	九州工業大学	垂水 竜一	大阪大学
井田 民男	近畿大学	党 超鋌	福井大学
井上 健司	山形大学	寺地 淳	日産自動車 (株)
今井 陽介	神戸大学	戸谷 剛	北海道大学
岩井 裕	京都大学	長野 方星	名古屋大学
大窪 和也	同志社大学	中村 太郎	中央大学
大島 成通	名城大学	長山 和亮	茨城大学
甲斐 義弘	東海大学	野田 善之	山梨大学
河合 俊岳	元 (株) 本田技術研究所	橋爪 滋郎	(株) 日立製作所
川崎 健	(株) 日立製作所	林 慈朗	千代田化工建設 (株)
寒野 善博	東京大学	比嘉 吉一	沖縄工業高等専門学校
木倉 宏成	東京科学大学	樋野 励	名古屋大学
木藤 和明	日立GEニュークリア・エナジー (株)	平方 寛之	京都大学
桑名 健太	東京電機大学	平田 泰久	東北大学
小池上 一	(株) I H I	平野 俊夫	東芝エネルギーシステムズ (株)
上坂 裕之	岐阜大学	保浦 知也	名古屋工業大学
才本 明秀	長崎大学	細井 厚志	早稲田大学
坂本 重彦	金沢工業大学	松村 恵理子	同志社大学
芝原 正彦	大阪大学	道辻 洋平	茨城大学
新谷 篤彦	大阪公立大学	茂木 俊夫	東京大学
新藤 貴志	三浦工業 (株)	矢部 一明	東洋エンジニアリング (株)
菅原 雄介	東京科学大学	山本 寿英	マツダ (株)
瀬川 武彦	産業技術総合研究所	渡邊 聡	九州大学
高橋 正樹	慶應義塾大学	渡邊 裕章	九州大学
高橋 芳弘	千葉工業大学	渡邊 力夫	東京都市大学
武田 宗久	(一財) マイクロマシンセンター		

(敬称略 五十音順)

機械遺産認定一覧（2007～2025）

認定年	認定No.	認定対象	遺産名称	所在地
2007	1	Site	小菅修船場跡の曳揚げ装置	長崎県
	2	Landmark	熊本大学の旧機械実験工場と文化財工作機械群	熊本県
	3	Collection	足踏旋盤《明治8（1875）年伊藤嘉平治作》	愛知県
	4	Collection	陸用蒸気タービン	長崎県
	5	Collection	10A型ロータリエンジン	広島県
	6	Collection	ホンダCVCCエンジン	栃木県
	7	Collection	民間航空機用FJR710ジェットエンジン	東京都
	8	Collection	ヤンマー小形横形水冷ディーゼルエンジンHB形	滋賀県
	9	Collection	みのくち式渦巻きポンプ	愛知県
	10	Collection	高周波発電機	愛知県
	11	Collection	東海道新幹線0系電動客車	京都府
	12	Collection	230形233号タンク式蒸気機関車	京都府
	13	Collection	旅客機YS11	千葉県
	14	Collection	カブ号F型（ホンダ自転車用補助エンジン）	栃木県
	15	Collection	麦わら帽子製造用環縫ミシン	愛知県
	16	Collection	無停止杼換式豊田自動織機（G型）第1号機	愛知県
	17	Collection	活版印刷機	東京都
	18	Collection	コマツブルドーザーG40（小松1型均土機）	静岡県
	19	Collection	オリンパスガストロカメラGT-I	東京都
	20	Collection	バックトン万能試験機	兵庫県
	21	Collection	万能製図機械MUTOH『ドラフターMH-I』	東京都
	22	Collection	万年自鳴鐘	東京都
	23	Collection	「旧筑後川橋梁」（筑後川昇開橋）	福岡県/佐賀県
	24	Documents	機械学会黎明期の学術図書（機械学会誌創刊号，機械工学会術語集及び機械工学便覧）	東京都
	25	Documents	東京帝国大学水力学及び水力機講義ノート（真野文二/井口在屋教授）	東京都
2008	26	Site	三居沢発電所関係機器・資料群	宮城県
	27	Site	三池港水圧式開門と蒸気式浮クレーン	福岡県
	28	Collection	円太郎バス（フォードTT型）	東京都
	29	Collection	機械式通信機器群（谷村株式会社新興製作所製）	岩手県
	30	Collection	自働算盤（機械式卓上計算機）パテント・ヤズ・アリスモメツール	福岡県
	31	Collection	電機事業創業期の国産誘導電動機および設計図面	茨城県
2009	32	Site	札幌市時計台の時計装置	北海道
	33	Landmark	旧峯岸水車場	東京都
	34	Collection	親歯車ホブ盤HRS-500のマスターウォームホイール	静岡県
	35	Collection	ロコモビル（国内最古の自家用乗用自動車）	北海道
	36	Collection	アロー号（現存最古の国産乗用自動車）	福岡県
	37	Collection	英国製50フィート転車台	静岡県
2010	38	Landmark	としまえん「カルーセル エルドラド」	東京都
	39	Landmark	旧金毘羅大芝居（金丸座）の廻り舞台と旋回機構	香川県
	40	Collection	たま電気自動車（E4S-47 I）	神奈川県
	41	Collection	内燃機関式フォークリフト	滋賀県
	42	Collection	高砂荏原式ターボ冷凍機	神奈川県
	43	Collection	自動改札機	京都府
2011	44	Landmark	青函連絡船及び可動橋	青森県/北海道
	45	Collection	幹線用電気機関車ED15形	茨城県
	46	Collection	岡谷蚕糸博物館の繰糸機群	長野県
	47	Collection	豊田式汽力織機	愛知県
	48	Collection	油圧ショベルUH03	茨城県
	49	Collection	ファスナーチェーンマシン（YKK-CM6）	富山県
	50	Collection	多能式自動券売機	長野県
2012	51	Landmark	ステンレス鋼製車両群（東急5200系と7000系）	神奈川県
	52	Landmark	吉野山ロープウェイ	奈良県
	53	Collection	池貝工場製第1号旋盤（現存最古の動力旋盤）	東京都
	54	Collection	卓上複写機リコピー101	神奈川県
	55	Collection	ウォッシュレットG（温水洗浄便座）	福岡県
2013	56	Landmark	機械式立体駐車装置 ロートパーク	東京都
	57	Collection	国産化黎明期の家庭用電化機器	神奈川県
	58	Collection	旧横須賀製鉄所 スチームハンマー	神奈川県
	59	Collection	大隈式非真円平軸受とGPB形円筒研削盤	愛知県
	60	Collection	国産初の16ミリ映写機（エルモA型）	愛知県
	61	Collection	からくり人形 弓曳き童子	福岡県
2014	62	Landmark	「土の館」―北海道の土作りとトラクターの博物館―	北海道
	63	Landmark	農機具「資料館」―農業機械黎明期の機械と史料の博物館―	埼玉県
	64	Landmark	「清水港デルファー」―日本の貨物輸送を支えた港湾機械―	静岡県

認定年	認定No.	認定対象	遺産名称	所在地
	65	Collection	南極点到達雪上車 (KD604, KD605)	東京都/秋田県
	66	Collection	時代を画した国産腕時計	東京都
	67	Collection	国産機械「門形平削り盤」—工部省赤羽工作分局製—	愛知県
	68	Collection	フジ自動マッサージ機 —世界初の量産型マッサージチェア—	大阪府
	69	Documents	国産機械製造の礎『国産機械図集』	東京都
2015	70	Landmark	鉄道跳開橋「末広橋梁」	三重県
	71	Collection	自動包餡機「105型」—世界の食文化を陰で支える—	栃木県
	72	Collection	「ミカサ」のオートマチック・トランスミッション—日本のAT車ここにはじまる—	東京都
	73	Collection	国産初の硬貨計数機	兵庫県
	74	Collection	小林式定置木炭ガス機関—燃料不足を支えた元祖バイオマスエンジン—	広島県
	75	Collection	小型貫流式ボイラー「ZP型」	愛媛県
	76	Collection	全電気式産業用ロボット「モートマン-L10」	福岡県
2016	77	Landmark	松川地熱発電所	岩手県
	78	Collection	スバル360-K111型	群馬県
	79	Collection	二段膨張式船舶用蒸気エンジン	埼玉県
	80	Collection	金銭記録用納器「ゼニアイキ」	東京都
	81	Collection	特許タノ式ガソリン計量機 型式25号	神奈川県
	82	Collection	移動式ブラシ付門型自動洗車機	愛知県
	83	Collection	檜野埼灯台の光学系機械装置	和歌山県
2017	84	Site	勝鬨橋（跳開部の機械設備）	東京都
	85	Site	奥田トンネルのジェットファン縦流換気システム	福岡県
	86	Collection	国産初の地下鉄車両「モハ1000形1001号」	東京都
	87	Collection	有人潜水調査船「しんかい2000」	神奈川県
	88	Collection	鑄造用砂型の造型機械「C-11型生型造型機」	愛知県
	89	Collection	組合せ計量機 (ACW-M-1)	滋賀県
	90	Collection	全自動手袋編機 (角型)	和歌山県
2018	91	Collection	日本工業大学の所蔵する歴史的な工作機械群	埼玉県
	92	Collection	エアレス塗装機	愛知県
	93	Collection	ブラウン管ガラス製造装置	滋賀県
	94	Collection	新聞博物館の活字鑄造機	熊本県
2019	95	Landmark	田瀬ダムの高圧放流設備	岩手県
	96	Landmark	新津油田金津鉱場—採油と製油技術の証—	新潟県
	97	Landmark	京都鉄道博物館の蒸気機関車と検修施設群	京都府
	98	Collection	国産化黎明期の乗用エレベーター	福井県
	99	Collection	急傾斜地軌条運搬機「モノラックM-1」	岡山県
2020	100	Collection & Documents	工部大学校の「機械学」教育機器およびC. D. ウェスト関係資料群	東京都
	101	Collection	日本の一眼レフカメラを世界水準へと進展させたアサヒフレックス I・II B、ミランダT、ズノー、ニコンF	東京都
	102	Collection	自由粉碎機 第1号機 (奈良式高速衝撃粉砕機)	東京都
	103	Collection	日本の溶射技術を工業化したアーク溶射ガン	滋賀県
	104	Collection	機械式無段変速機/リングユーンRC型	京都府
2021	105	Collection	現存する国産初の電気搾乳機 パケットミルカー DK-5 II型	長野県
	106	Collection	平歯車研削盤 ASG-2形	埼玉県
	107	Collection	江戸前寿司自動にぎり機 ST-77 寿司ロボット1号機	埼玉県
	108	Collection	新幹線開発に貢献した車両試験装置	東京都
	109	Collection	日本現存最古のピッチングマシン カタパルト式：型式KS-P型/型式AR型	東京都
	110	Collection	携帯用電気カンナ モデル1000	愛知県
	111	Collection	造幣局創業期の硬貨圧印機—ウールホルン硬貨圧印機とトネリエ硬貨圧印機—	大阪府
	112	Collection	回転ずしコンベア機—新しい食文化の創造—	大阪府
	113	Collection	静荷重杭圧入引抜機 サイレントパイラー K GK-100A	高知県
2022	114	Collection	平面研削盤PSG-6B	群馬県
	115	Collection	木材プレカットシステム MPS-1	愛知県
	116	Collection	手回しガラ紡機	大阪府
2023	117	Collection	プラネタリウム投射機 M-1型	東京都
	118	Collection	小田急電鉄3000形(特急ロマンスカーSE)	神奈川県
	119	Collection	旧和中散本舗の人車製菓機	滋賀県
	120	Collection	三共工作機械資料館の歴史的な工作機械群	静岡県
2024	121	Collection	新井式回転抽籤器	青森県
	122	Collection	三連プランジャ式高圧水発生ポンプ「スギノポンプ1号機」	富山県
	123	Collection	マカダムローラ サカイ R1	埼玉県
	124	Collection	ひずみゲージ K-1 型	東京都
	125	Collection	石川式マリノニ型輪転機—折式新聞印刷機—	神奈川県
	126	Collection	米国輸出を果たしたNC旋盤 MTC-2500R	岐阜県
2025	127	Collection	国産初の加圧式石油ストーブS B型	新潟県
	128	Collection	円弧状車体で軽量化を実現した東急5000系電車	神奈川県

認定年	認定No.	認定対象	遺産名称	所在地
	129	Collection	リレー式計算機FACOM128B	静岡県
	130	Collection	信州大学繊維学部の絹糸紡績機械群	長野県
	131	Collection	電子式卓上計算機用ミニプリンター EP-101	長野県
	132	Collection	スズライトSS	静岡県

詳細は機械遺産ホームページをご参照ください
<https://www.jsme.or.jp/kikaiisan/>